

第2期中期目標期間
(平成22～27年度)
自己点検・評価報告書

平成28年3月
教育推進室
(入試室)

目 次

- I 中期目標期間の実績概要
- II 特記事項
- III 次期中期目標期間に向けた課題等
- IV 中期計画の実施状況（主担当分）

I 中期目標期間の実績概要

1. 組織の特徴

（1）目的

教育推進室は平成 15 年 5 月 15 日に設置され、「本学の教育に関する理念及び将来構想を提言するとともに、教育に関する改革・改善の施策の策定及び推進，教育環境の整備，教育交流・連携の推進並びに教育に係る諸問題への対処等の教育支援業務を統括することにより，本学における教育の効果的かつ円滑な推進に資する」ことを設置目的としている。

（2）特徴

全部局からの教育担当教員（教育企画員）及び学生窓口を担当している部署の事務職員とで構成している融合組織である。

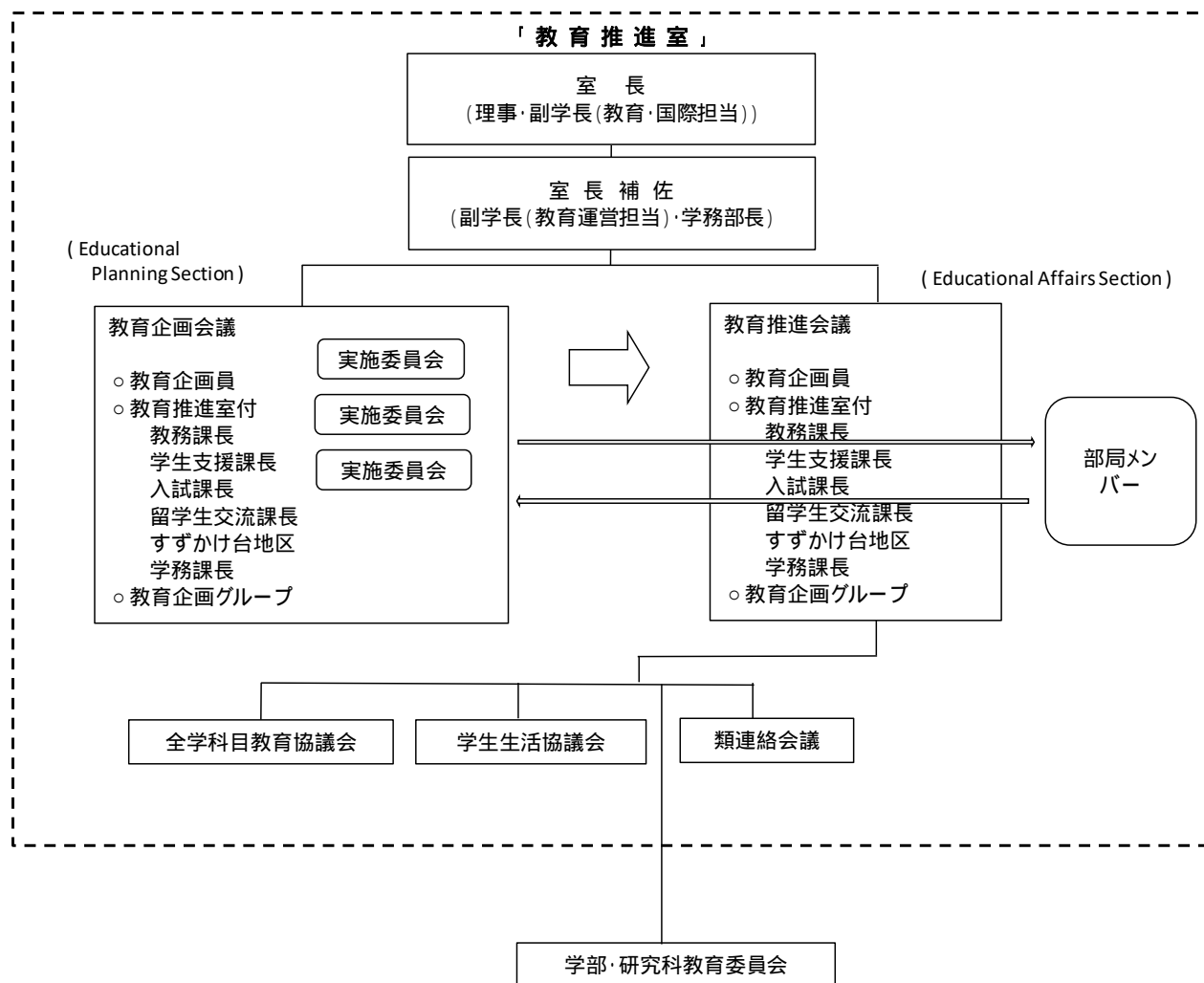
（3）体制

教育推進室は教育担当理事・副学長を室長とし，本学専任教員からなる教育企画員のうち 1 名及び学務部長を室長補佐としている。また，教育推進室には，教育理念及び将来構想に関する事項，教育に係る全学的指針に関する事項並びに厚生補導に関する事項の企画・立案に関することを業務とする「教育企画班」と教育に関する具体的事項の策定及び推進並びに各学部・研究科教育関係委員等との連携・協力に関する業務を行う「教育推進班」の 2 班が置かれ，各班は教育企画員と室付の事務職員（教務課長，学生支援課長，入試課長，国際部留学生交流課長，すずかけ台地区学務課長）により構成している。「教育企画班」においては教育企画会議を，「教育推進班」においては教育推進会議を，それぞれ遂行している。また，教育企画会議の下に特定業務を遂行するための各種専門委員会，教育推進会議の下に全学科目教育協議会，学生生活協議会等を設置し全学で統一された教育体制や学生の支援体制を整備している。

なお，平成 18 年度には，教育担当理事・副学長をセンター長とする学生支援センターを設置し，本学学生への，修学面，健康面，生活及び進路選択等，学生のニーズに応じた様々なサービスや支援を行うための体制を整備した。教育推進室と学生支援センターは，ともに教育担当理事・副学長を責任者として組織され，学生支援センター運営委員会委員のうち数名の委員を教育推進室長が指名するなど緊密な連携のもと運営している。

また，教育の質向上を図るため，平成 27 年度には，「教育の質保証体制の構築」「教育能力開発」「教育学習環境開発」を 3 つの柱とする教育革新センターを設置し，これまで教育推進室で実施していた FD 研修のさらなる充実，オンライン教育環境の企画・整備等の活動を行っている。

東京工業大学「教育推進室」の組織図
(Educational Planning Office)



2. 実績の概要

(1) アドミッション・ポリシー

本学の「入学者に求める資質と能力（アドミッション・ポリシー）」を基に，平成23年度より学部・学科，研究科・専攻ごとに「入学者選抜方針」及び「入学者に求める能力と適性」等を策定するとともに，平成25年度以降の入試募集要項等に「入学者に求める能力と適性」を掲載し，これに即した人材を受け入れてきた。平成28年度以降の新組織においても，学院及び新教育単位となる系における必要なアドミッション・ポリシーを策定し，平成28年度入学者についてこれに即した人材の受け入れを行っている。

(2) 創造性育成科目

学生が能動的・発見的に学修する機会を設け，新しいものや技術，アイディアを生み出すための創造力を育むことを目的として創造性育成科目を選定し実施している。

毎年課題の抽出を行い、創造性育成科目の改善（スタートアップ資金、新入生向けパンフレット作成等）へと結びつける PDCA サイクルを確立するとともに、本学の特徴であるハンズオン教育の発展に努めている。創造性育成科目事例発表会は、平成 24 年度から毎年度開催し、創造性育成科目間の連携を図ることで、講義の質向上を実現している。

（3）国際フロンティア理工学教育プログラム

平成 26 年度より、学士課程の初年時教育を強化する国際フロンティア理工学教育プログラムを新たに開始し、教育改革の一環として、科学技術の面白さを体感できる講義を試行開講した。

（4）教養と専門の連携強化

平成 28 年度から実施する教育改革に合わせて、カリキュラム改革の具体策を策定するとともに、専門教育と教養教育の連携を一層強化し、豊かな教養と高い専門性の習得が可能な教育を行うために、横断科目群を設置し、この実施体制を整えた。

（5）英語カリキュラム・英語による授業の拡充

学士課程の基礎専門科目等において、外国人教員の配置等を行うことにより、授業を日本語と英語で実施する体制を整備して、英語カリキュラムを充実させた。大学院課程においては、英語による授業を拡充し、学内外での英語学修機会を充実させた。

（6）学生が海外で活動する機会の増加

東工大留学フェアの毎年開催など海外留学に関する情報の提供、英語による意見交換の場 Think Aloud の開催など、キャンパス内外で英語に接する場を充実させた。また 3 ヶ月以上の海外留学を博士後期課程科目として認定するようにしたほか、修士学生の海外留学期間を延長するようにする等、海外派遣・交流事業を多数推進した。

（7）多様な学習が可能な教育システムの整備

各学習課程に学習目標・学習内容を明記し、科目と学習内容との相関を定めるなどの改善を行い、学生に自主性を促す体系的な履修計画を策定している。また、全学的に修士課程教育の見直しを行い、学生にカリキュラム内容等の説明を行った。平成 28 年度以降の入学者全員に教員をアカデミック・アドバイザーとして配置することとし、学生が自主的・体系的に学習に取り組む環境を整備した。

（8）論文研究における多面的な教育の実施

大学院教育課程において、副指導教員や複数教員による論文指導など、全ての専攻において複数教員による論文研究の組織的指導が定着した。また、平成 28 年度の学院体制移行に伴い、指導体制を、学士課程・大学院課程を問わずアカデミック・アドバイザー制度に移行し、全学的な組織的指導体制を構築することを決定した。

（９）多様な教育の提供

専攻の枠を越えて、延べ 29 の特別教育研究コースを開設した。平成 28 年度以降は、複数の系又はコースが共同して教育を実施する特別専門学修プログラムや、学生が選択した分野以外の広範な知識・技能を修得させる副専門学修プログラムの設置を修士課程の各コースに義務付けるなど、新しい広域学修制度を実施することを決定し、実施要項等を整備した。また、四大学連合教育の継続実施のほか、国内他大学と教育連携を進めた。さらに、国外大学等と学生交流協定を結ぶとともに、計 4 大学との間でダブルディグリープログラムによる学位取得を可能とした。

（10）イノベーション人材養成機構

専門分野ごととなっている本学大学院の教育体系を修了者のアウトカムズに沿った形に組み直し、学生のキャリアパスに合致したキャリア教育、能力養成を実施する全学的仕組みとしてイノベーション人材養成機構を平成 25 年 4 月に設置し、キャリア教育の仕組みを整備した。

（11）PDCA サイクルに基づいた教育改善を行うシステムの充実

学部科目のみで行っていた授業評価について、平成 23 年度後期から大学院科目でも Web にて開始し、平成 27 年度には、授業評価結果をより効果的に教育の改善に結びつけることができるよう、集計時間を Web ベース並みに保った上で回答率の向上を図るため、後期からマークシートを使用するなど、授業評価の方法を常に改善した。

また、教育推進室と各学部等が教育改善方法を論議した結果、「教育の質保証体制の構築」「教育能力開発」「教育学習環境開発」を 3 つの柱とする教育革新センターを平成 27 年 4 月に設置した。

（12）FD 研修の実施体制の改善

平成 22 年度から、一泊二日の合宿型 FD 研修「学部・大学院 FD 研修」を開始した。その後、見直しを行い、平成 26 年度からは、授業設計やアクティブ・ラーニングの手法、英語による教授法等の実践的な内容の FD 研修を実施している。さらに、平成 27 年 4 月に設置された教育革新センターにおいて、年度内に計 31 回の FD 研修を実施した。

（13）教育コンテンツの配信

新たに edX コンソーシアムに加盟し、世界に向けて本学の教育コンテンツの配信を開始する等、TOKYO TECH OCW/OCW-i の整備とともに本学学生にとっても講義前後の学習に有効な ICT を活用したオンライン教育環境を整備している。

（14）教務 Web システムの整備

平成 28 年度から始まる教育改革を着実に実行するため、必要な改修を行った他、

シラバスの入力機能を教務 Web システムに追加し、実装した。この入力機能を用いて日本語版・英語版のシラバスを作成し、平成 28 年度開講予定全科目の約 96% のシラバスを平成 27 年度中に TOKYO TECH OCW にて公開した。

(15) アクティブ・ラーニング講義室の整備

多様な授業形態に対応できるように、可動式の机・椅子を配置したアクティブ・ラーニング対応の講義室，劇場型教室等を新たに整備するとともに、既存の講義室についても設備改善を行って、授業環境の改善を図り、学生の学習環境の整備を行った。また、アクティブ・ラーニング対応型講義室の使用方法等についての研修を、教員へ実施した。

(16) 学生支援センターの運営

学生支援センターをさらに学生支援の中核として機能させ、キャリア支援について特化した別の組織を設置するなど、学内の変化に順応した機能の見直しを行うことで、運営体制を強化した。また、学生相談部門と自律支援部門間の連携の強化については、複数名の教員が両部門下の委員会のどちらにも携わることで実施されている。なお、平成 28 年度からの教育改革に向けて、自主的に学修する学生をサポートするため、修学支援部門を設置することが決定し、また、障害学生を支援するため、同じく平成 28 年度にバリアフリー支援部門を設置することが決定した。

(17) 学生への経済的支援

日本学生支援機構の奨学金受給者は、平成 27 年度末で全学生の約 24% となっているほか、民間奨学団体や地方公共団体の奨学金については、学生支援課が情報提供や出願手続き等に関して積極的に支援を行っている。入学料・授業料免除に関しては、入学料の免除及び徴収猶予基準・授業料免除基準を定めており、文部科学省が定める免除可能額基準を満たす最大限の免除額としているほか、本学独自の複数の奨学金を現状で 7 件設置し学生からのニーズに対応している。

(18) 学勢調査

学生支援センター自律支援部門の学勢調査ワーキンググループの指導下で、学生スタッフにより平成 22，24，26 年度において学勢調査を実施した。調査・分析・提言を学生スタッフが行っており、キャンパスライフの充実のため、学生の意見を大学運営に反映させる実施体制が充実している。

(19) 学生によるサポーター活動

キャンパスガイド，広報サポート，ピアサポート等，広い視野を養う機会となる場を積極的に提供するために、学生サポーターを支援する仕組みを整備・強化する必要があるとの認識の下、サポーター制度の支援体制に関する検討を行い、従来の一律に支援するあり方を改め、学生支援センター運営委員会において、支援体制の改善策を

策定し実施している。

（20）高大連携教育システム

附属科学技術高等学校と大学が連携して高大連携教育の内容を検証・改善しながら、高校における訪問授業，合宿形式による高大連携サマーチャレンジ，サマーレクチャー，課題研究，さがし教育を平成 22～27 年度に亘って実施した。

高大連携教育に沿った入学者選抜については，本学附属高校に加えて，平成 24 年度からはお茶の水女子大学附属高等学校を，平成 27 年度からは東京学芸大学附属高等学校を対象校に加え，発展を図った。

（21）博士課程教育リーディングプログラム

平成 23 年度に，既存の研究科を横断した修士課程・博士課程一貫型の全学的教育プログラムを実施する「グローバルリーダー教育院」を立ち上げたほか，「環境エネルギー協創教育院」，「情報生命博士教育院」及び「グローバル原子力安全・セキュリティ・エージェント教育院」を設置し，本学リーディング大学院として博士課程教育の改革を牽引した。

（22）グローバル人材育成事業の実施

経済社会の発展を牽引するグローバル人材育成支援（旧：グローバル人材育成推進事業）により「グローバル理工人育成コース」を平成 25 年度から開設し，学士課程においてグローバル人材育成の教育を進めた。春・夏の長期休業期間中に，10 プログラム以上の学部生向けの超短期派遣プログラムを実施するなど，学部生の短期留学を行う機会を前年度から引き続き提供し，平成 27 年度は，31 名がコースを修了した。

（23）寮・宿舎

寮整備検討部会を設置し，すずかけ台地区における留学生寄宿舍等の整備について検討を行ったほか，学生の住居環境を把握し今後の学生・外国人研究者のための寮・宿舎の充実・改善及び学生サービスの向上のためアンケートを実施し，その結果に基づき，寮整備検討部会が今後の寮整備の基本的方針を策定した。平成 25 年度に川崎市高津区に設置を決定した民間等との提携寮『梶ヶ谷国際寮』の入居者公募を平成 26 年度より開始した。平成 27 年度には，教職員用の大岡山宿舎 CC 棟を学生寮として改修工事を実施し，平成 28 年度から入居できるよう整備を行った。また，平成 27 年 9 月に本学が賃貸借契約をしている洗足池国際交流ハウス（学生寮）の契約期間が満了することに伴い，当該建物所有者と覚書を締結し，今後，新しく建て直した新築物件を本学学生寮として，賃貸借契約を交わすよう交渉を進めた。

（24）学士課程入学者選抜の改革

本学で学ぶための十分な学力と高い資質を備えた学生を受け入れるため，学部入試制度の見直しを行い，平成 24 年度入学者より，推薦入試（1 類），AO 入試（2～7

類）を取り入れる大幅な入試改革を実施した。また，平成 28 年度入学者より，海外にいる優秀な外国人を選抜する国費外国人留学生優先配置入試を実施した。

(25) アドミッションセンターの設置

平成 23 年度に広報活動と入学者選抜等に関する調査・分析，研究及び企画立案を行う組織として，アドミッションセンターを設置した。同センターは，学内外において高校生・受験生のための説明会や講演会などを開催するとともに，各教員が出身校を中心として，全国各地の高校へ出向き，出張講義や相談会をコーディネートするなど，入試に係る広報活動の強化を図っている。

Ⅱ 特記事項

1. 優れた点

（1）国際フロンティア教育プログラム

平成 26 年度より，学士課程の初年時教育を強化する国際フロンティア理工学教育プログラムを新たに開始し，教育改革の一環として，国内外に類を見ない先端機器を用いた授業を可能とする講義室である東工大レクチャーシアターで，科学・技術の面白さを体感できる「科学・技術の最前線」，ハンズオン教育を主とする「科学・技術の創造プロセス」を各類において開講し試行した。また，国際性の涵養という観点から，第 25 回英国科学実験講座クリスマス・レクチャー日本公演 2015 を東工大レクチャーシアターにおいて開催し，本学の学生及び一般の方から参加者を募り，先進技術を交えながら，科学技術を体感させるイベントを行った。

（2）創造性育成科目

創造性育成科目の学内への周知や科目の促進・拡大を図るため，教育推進室 HP やメールニュースを使った広報を行うとともに，パンフレットを作成し配布した。平成 24 年度からは，毎年度「創造性育成科目事例発表会」を開催し，講義事例の紹介・教員同士の意見交換会・パネルディスカッションを実施し，事例発表会での議論を元に，産学連携の強化や留学生 TA を活用した国際化の取り組みなど，創造性育成科目の見直しと改善を行った。創造性育成科目の選定科目である「バイオクリエイティブデザインⅡ」では，受講生によって構成された学生チームが，iGEM 世界大会で最優秀部門賞を，大会史上初となる 3 年連続獲得した。

（3）イノベーション人材養成機構

専攻の枠を越えた学内連携をさらに推進するため，平成 25 年度にイノベーション人材養成機構を設置し，大学院修了者のアウトカムズに沿ったキャリア教育の仕組みを整備した。Career Talk やドクターズキャリアフォーラム等のイベントを毎年開催し，平成 26 年度から博士後期課程学生に対してキャリア科目単位取得を学位取得要件とすることを専攻ごとに定め，学生のキャリアパスに応じたキャリア能力を養成する教育を実施している。また，平成 28 年度から修士課程及び博士後期課程の修了要件として全ての学生にキャリア科目を必修として課すことを決定し，開講科目の準備を行い，キャリア教育の強化を図った。

（4）教育革新センター

教育の質向上を図るため，平成 27 年 4 月に「教育の質保証体制の構築」「教育能力開発」「教育学習環境開発」を 3 つの柱とする教育革新センターを設置した。教育革新センターでは，平成 28 年度から実施する教育改革を推進するため，これまで教育推進室で実施していた FD 研修をさらに充実させ，平成 27 年度中に 30 回超の FD 研修を実施し，延べ 400 名超の教職員が受講した。また，「教育革新シンポジウム」を開

催し、本学の FD 活動情報の発信を行った。

（５）TOKYO TECH OCW/OCW-i

携帯電話からアクセスできる携帯版 OCW-i の開設、音声・動画配信機能、クリッカー機能、前年度以前に公開されたシラバスを参照できるシラバスアーカイブ機能等の追加を行い、OCW/OCW-i 利用促進のため機能充実を図った。

TOKYO TECH OCW の月平均アクセスページビュー(PV)は、平成 27 年度には 121 万 PV/月となっており、TOKYO TECH OCW は受験生、大学生、社会人等さまざまなユーザーから幅広く利用されているとともに、本学の教育ブランドの向上に寄与している。

（６）教務 Web システム

教務 Web システム利用者の利便性の向上等を目的として、システムの利用について学生に対する調査や教員からの意見聴取を行い、対処できるものについては改善を実施するとともに、日本語・英語の 2 ヶ国語対応の実現等、新たな機能を順次追加した。平成 28 年度より全ての開講科目においてシラバスを作成することに伴い、利用者の利便性の向上等を目的としてシラバス入力機能を追加した。

（７）MOOC s

オンライン学習環境を充実させるため、MOOCs (Massive Open Online Courses) の一つである edX コンソーシアムに加盟し、教育革新センターのオンライン教育開発室において、このプラットフォームで提供するコンテンツの制作に着手し、平成 27 年度に 2 件コンテンツの作成に着手した。着手したコンテンツのうち、完成して公開した 1 コンテンツにおいて、世界 155 カ国の学生合計 5,400 名以上の登録があった。

（８）アクティブ・ラーニング講義室

アクティブ・ラーニング等の学生の主体的・協同的な授業形態へ対応するため、可動式の机・椅子、電子黒板及び学生グループ用にタブレット等を備えたアクティブ・ラーニング対応型講義室を平成 26 年度に 7 室設置した。

また、平成 26 年度に既存の階段教室を、国内外に類を見ない先端機器を用いた授業を可能とする劇場型教室（レクチャーシアター）に改修し、世界的に著名な発見・発明者を招き、実験や観察などを含めた創造的経験を学生へ提供することを可能とした。

（９）学生支援

学生支援の中核として学生支援センターが有効に機能し、その運営体制を強化するために、学内の状況の変化に順応した部門の改編を行っている。

相談体制の充実、啓発活動の実施のいずれについても、学生支援センターに設置されたカウンセリング・ハラスメント対策検討委員会において、全学での相談体制及び啓発活動現状の把握・分析を行い、検討結果を各相談窓口での実践と連携、体制整備

に活かしている。

また、サポーター制度の内容は多岐に渡り、それぞれの内容を精査しながらサポーター学生への適切な支援体制を構築している。さらに、サポーター学生の活動成果は、それぞれの担当部署を通して、大学の運営に活用されている。

なお、TRA 意識調査や学勢調査の結果を分析しながら、学生のニーズに基づき、本学独自の複数の奨学金を設置するなどして、罹災学生や留学生に対する高額医療費や寮費の支援も含めた、幅広い経済支援を実施している。

(10) 博士課程教育リーディングプログラム

既存の研究科を横断した修士課程・博士課程一貫型の全学的教育プログラムを実施する「グローバルリーダー教育院」及び「環境エネルギー協創教育院」、「情報生命博士教育院」、「グローバル原子力安全・セキュリティ・エージェント教育院」を設置し、本学リーディング大学院として博士課程教育の改革を牽引してきた。平成 26 年度には、平成 23 年度に採択された 3 プログラム（環境エネルギー協創教育院

（ACEEES）、情報生命博士教育院（ACLS）、グローバル原子力安全・セキュリティ・エージェント養成（U-ATOM））が、博士課程教育リーディングプログラム委員会による中間評価を受けた結果、ACEEES が最上位の「S」（計画を超えた取組）、ACLS と U-ATOM が「A」（計画どおりの取組）と、全国的にみて極めて高い評価を受けた。また、平成 27 年度までに、3 教育院から 25 名の修了生を輩出した。

(11) 学士課程入学者選抜の改革

本学で学ぶための十分な学力と高い資質を備えた学生を受け入れるため、学部入試制度の見直しを行い、平成 24 年度入学者より、第 1 類は特別入学資格試験から推薦入試に、第 2～6 類は後期日程から A0 入試に、平成 27 年度入学者より、第 7 類でも A0 入試を実施した。第 7 類は後期日程の第 1 段階選抜の大学入試センター試験科目を増やすなど、アドミッション・ポリシーの求める学生像により近い新しい入試制度を実施した。また、全ての類において前期日程の第 1 段階選抜をせずに基準点「600 点」を設定し、大学入試センター試験 5 教科 7 科目の成績が基準点に満たない場合は、出願出来ないこととした。なお、アドミッションセンターにより、この入試により入学した学生の 3 年次、4 年次の成績分布を解析し、各類にフィードバックするなど、改革の検証を実施している。

また、海外からも広く優秀な留学生を受け入れるため、文部科学省の学部を対象とした国費優先配置プログラム（28 年度入学者から 3 年間）を有効に利用し、海外にいる優秀な外国人留学生を選抜する国費外国人留学生優先配置入試を実施した。

(12) グローバル人材育成事業の実施

経済社会の発展を牽引するグローバル人材育成支援（旧：グローバル人材育成推進事業）により「グローバル理工人育成コース」を平成 25 年度から開設し、学士課程においてグローバル人材育成の教育を進めた。コースは「国際意識醸成」、「英語力・コミュ

ニケーション力強化」，「科学技術を用いた国際協力実践」，「実践型海外派遣」の4プログラムからなり，留学生をTAとしたグループワーク，「使える英語」修得のための特別講義，学内外の専門家による講義やワークショップ，海外の大学・国際機関・企業訪問等を実施し，国際的な視点から多面的に考えられる能力，グローバルな活躍への意欲等といったグローバル理工人に必要な素養を育成した。

（13）オープンキャンパス

アドミッションセンターでは，広報活動の重要な柱であるオープンキャンパスについて，大幅な見直しを行い，平成26年度からそれまで大学祭（工大祭）と同時開催であったものを，夏休み期間中に単独で開催することとし，内容についても，各県の説明会のほか，模擬講義，実験体験，本学学生によるキャンパスライフ相談会，女子学生のための説明会等の多様な企画を用意した結果，来場者が1万人を超えるなど，大きな効果が得られた。

2. 特色ある点

（1）国際フロンティア理工学教育プログラム

平成27年度に完成したレクチャーシアターにより，国内外に類を見ない元素分析可能な電子顕微鏡等の先端機器を用いた授業を可能とした。1年生向けの授業「科学・技術の最前線（プレ実施）」，高校生向け公開授業，クリスマス・レクチャー等を実施した。

（2）キャリア教育

平成26年度から博士後期課程学生に対してキャリア科目単位取得を学位取得要件とすることを専攻ごとに定め，学生のキャリアパスに応じたキャリア能力を養成する教育を実施している。また，平成28年度から修士課程及び博士後期課程の修了要件として全ての学生にキャリア科目を必修として課すことを決定し，キャリア教育の強化を図った。

（3）オンライン教育

MOOCs（Massive Open Online Courses）の一つであるedXコンソーシアムに加盟し，このプラットフォームで提供するコンテンツの制作に着手して，平成27年度に2件コンテンツの作成に着手した。うち完成して公開した1コンテンツにおいて，世界155カ国の学生合計5,400名以上の登録があった。

（4）学勢調査

修学及びキャンパスライフ全般に係わる学生のニーズを，積極的にかつ正確に把握するために「学勢調査」を継続して実施し，学生ニーズに対応した措置をとるなど大

学運営に反映した。

（５）高大連携教育システム

高大連携教育については、高大連携教育 WG を設置して、附属科学技術高等学校と大学が連携して実施する高大連携教育の内容を検討するとともに、入学者の追跡調査を行ってその効果を検証してフィードバックするなど将来の望ましい高大連携教育の内容・方法について、より広い視点での検討・改善を行っている。文科省の高大接続改革の議論が高まる中、本学のサマーチャレンジを中核とした入学者選抜等の先駆的な取り組みが注目されている。

Ⅲ 次期中期目標期間に向けた課題等

（１）教養教育と専門教育の連携

教養教育と専門教育については、これまで連携が強化できていない状況が見受けられたが、平成 28 年度からの教育改革では、教養教育と専門教育の連携を一層強化し、豊かな教養と高い専門性の習得が可能な教育を行うために、横断科目群を設置する等行っていく。また、教養教育においては、特に文系教養科目を体系的に提供することで、専門科目を社会的側面から理解できるようにするなど専門教育をサポートするような仕組みを整備していく。

（２）学生が海外で活動する機会の充実

スーパーグローバル大学創成支援事業による海外派遣プログラム等、学生が海外で活動する機会を充実させてきたが、その機会に対して学生があまり留学できていない状況である。平成 28 年度からの教育改革において、クォーター制の導入、異文化の理解・海外派遣を通じて実践的能力を育成する国際意識醸成・広域科目の開講、留学に対する相談窓口・体制の充実等を図り、学生が海外で活動する機会をより充実させる。

（３）高大接続システム改革を見据えた入学者選抜方法の策定

文科省が進める高大接続システム改革においては、各大学の個別入試においても、多面的・総合的に生徒の学力を評価する仕組みを取り入れることが求められているが、これを受けて、本学においても、類別入試のあり方を含めて新しい入試制度について検討し、実施する。

《第 1 期中期目標期間において抽出した課題の改善状況》

（１）各種ポリシーの策定

現時点で、教育ポリシーと学部のアドミッション・ポリシーは策定されているが、ディプロマ・ポリシーは策定されていない。教育ポリシーに基づき、各学部・研究科

でディプロマ・ポリシーを策定し、卒業・修了要件の見直し並びに評価方法の改善を行っていく。また、アドミッション・ポリシーも各学部・研究科で策定し、学生の受入方針を明示するとともに入学者選抜試験の改善を図り、さらに各学部・研究科でカリキュラム・ポリシーを策定し、教育体系を整備する。

（改善状況）

アドミッション・ポリシーについては、平成 23 年度に学部・大学院ともに策定を行い、HP で公開するとともに、平成 25 年度以降の募集要項にも掲載した。ディプロマ・ポリシーについては、各学科・専攻で定めることとして、平成 23 年度に修得する能力と卒業・修了要件を定めた。カリキュラム・ポリシーについては、平成 23 年度に各学科・専攻で策定し、平成 25 年度よりオリエンテーション時にカリキュラムの説明と学習指導を行った。

（2）学生の自主性と多様性を重んじた教育の推進

学生の自主性を促す体系的な履修計画を策定し、それに基づく教育指導を行っていく。学生の多様性に応じた教育環境を整えるため、現在実施している四大学連合複合領域コースや清華大学との合同プログラムの他にも、国内外の有力大学及び研究機関との連携を推進する。また、今後も学生のニーズや社会の変化に柔軟に対応し、質の高い教育を行っていくためには、教育推進室と各学部・研究科が連携し、PDCA サイクルに基づいた継続的な教育改善を行うシステムを充実させていく必要がある。

（改善状況）

各学習課程に学習目標・学習内容を明記し、科目と学習内容との相関を定めるなどの改善を行い、学生に自主性を促す体系的な履修計画を策定した。それに基づき、入学時・学科所属時のオリエンテーションなどにおいて、学生に説明・指導した。

平成 25 年 4 月にイノベーション人材養成機構を設置し、博士後期課程学生向けにキャリア科目を開講し、学生のアウトカムズに沿ったキャリア教育を実施した。また、既存の四大学連合複合領域コースの教育プログラムに加えて、東京外語大との教育連携を推進するため、遠隔講義システムを新たに設置し、互いの大学で開講している講義を配信し、学生の受講を得た。さらに、「大学の世界展開力強化事業」において、将来の中長期派遣を促すための学部学生を対象とした短期派遣を実施した。

また、教育推進会議においては、各部局の代表者から各部局の中期計画年度計画の取組状況を報告し、情報共有を図り、問題意識の共有や取組意欲の向上につなげるようにした。

（3）学生への支援の更なる充実

現在、学生からの相談窓口として電話相談デスクを設置し、学生のみならずその家族からの相談にも応じる支援体制を整えているが、ハラスメント・メンタルヘルス対策を強化するために更に相談体制を充実させていく。同時に、学生・教職員の問題意識を高めるための啓蒙活動を継続的に実施していく必要がある。また、学勢調査は順調に行われ、学生の意見のフィードバックも行われているところではあるが、今後、

調査内容及び実施体制の更なる充実を図る必要がある。さらに、キャンパスガイド、広報サポート、ピアサポート等、広い視野を養う機会となる場を積極的に提供し、学生による活動を大学運営に活用する。

（改善状況）

学生支援センターにカウンセリング・ハラスメント対策企画委員会を設置し、各相談窓口の活動実績や課題を検討し、総合的な対策や支援体制のあり方等について提言した。このことにより、各相談窓口が協力して広報や啓発に務めるとともに、相互に紹介・連携を展開してきた結果、学内において、相談体制が認識され、中でも相対的に比重の大きいカウンセリング、メンタルヘルス、キャリア相談、電話相談デスクについて、相談件数の増加が見受けられる。

また、学勢調査を継続して実施するために、学生支援センターの下にWGを置いて運営する体制を構築し、実施体制の更なる充実を図った。

さらに、学生による活動を大学運営に活用するため、学生支援センター運営委員会において、従来の一律に支援するあり方について改善策を策定するなど、各種サポーター制度の推進と活動支援体制の充実を図った。

IV 中期計画の実施状況（主担当分）

中期計画【1】「大学のアドミッション・ポリシーに基づいて、各学部・研究科においてもこれを策定する。」に係る状況

本学のアドミッション・ポリシーとして、求める学生像及び入学者に求める資質と能力を定めている。それを基に、学部ごとに入学者選抜方針及び入学者に求める能力と適性を、学科ごとに入学者に求める能力と適性を策定した。大学院については、研究科ごとに入学者に求める能力と適性を、専攻ごとに入学者選抜方針及び入学者に求める能力と適性を策定した（資料1-1～5）。

策定した入学者に求める能力と適性については、各学部・研究科のアドミッション・ポリシーとして、東京工業大学が求める学生像とともに25年度以降の入試募集要項等に掲載し、例えばA0入試では、各類に対応する分野における素養や適性を評価するため、各類に対応する分野に即した総合問題による学力検査のほか面接等を実施することで、これに即した人材を受け入れている（資料1-6，7）。

さらに、学部・専攻ごとの入学者選抜方針等は、教育推進室HPで公表して周知を図っている。27年9月時点の在学生を対象に実施した在学生アンケートでは、自身が履修する課程におけるアドミッション・ポリシー等の教育ポリシーの内容を知っていると思うまたはややそう思うと回答した学生の割合は、学士課程、修士・専門職学位課程、博士後期課程と進学するにつれて上昇しており、博士後期課程の学生では約60%であった（資料1-8）。

これまでの学部・大学院が一体となる28年度以降の新組織である学院及び新教育単位となる系においては、大学のアドミッション・ポリシーに基づき、学士課程では、学院ごとに入学者選抜方針及び入学者に求める能力と適性を、系ごとに入学者に求める能力と適性を、修士課程・博士後期課程では、学院ごとに入学者に求める能力と適性、系ごとに入学者選抜方針及び入学者に求める能力と適性を策定した（資料1-9）。

策定した学院・系ごとの入学者に求める能力と適性は、アドミッション・ポリシーとして東京工業大学が求める学生像とともに、28年度入学者向けの入試募集要項等に掲載し、これに即した人材を受け入れることとした（資料1-10，11）。

(資料1-1) アドミッション・ポリシー (全学)

アドミッションポリシー 東京工業大学が求める学生像 創り拓く理系人たれ — 入学希望者へ — 遠く宇宙の果てへの探究から微細なナノスケールでの探知まで、あるいは抽象思考の確立を促す純粋数学の探求から、プラズマにひそやかに息づく生命の探知まで、およそ「自然」なるもののすべてを相手とする理系分野の学問は、とてつもない面白さがあります。かつ、その卓越した知見や技術は今や文系分野の学問にも浸透し、新たな地平を切り拓きつつあります。 そうした無限の広がり可能性へのためめ、我が国を牽引する理工系総合大学としての使命を胸に、1924年創設という長い伝統から新たな創造を積み上げ、世界の国々の大学や研究機関と緊密な連携を積みながら、本学は日々、前人未踏の革新へと挑んでいます。 目標は高い人類の幸福を見え、地球環境との調和を考えつつ、しかし、半はつねに動いて、ネジ一つの工夫で今日より明日を快適にする道をまわっています。 その本学が入学者に期待する資質は、た次の二つです。 1. 「理系」であることば「自信」を持っていること。 2. 「理系」であることば「誇り」を持っていること。 得意な分野は数学でも物理でも化学でも、あるいはこれらに活用して、さまざまな創造を促す工学的な諸分野のどれかでも構いません。ことと好みで、これなら興がないと自信を失って足場を揺るがし自らの内に眠っている能力、というのの一つの希望です。その足場から、すくすくと胸を膨らませ、文系・理系問わず幅広い専門性や横断性へと開かれれば、本学の教育がキャンパスの中心にたくさん開かれていきます。 そして、理系科目が好きであるのと同時に、理系である自分自身を好きでいていいた方が、というのが二つの希望です。東でいなくはがりを得た自然科学という学問を基に自分の専門に誇りを誇り、携わらざる目標を見つけて出して数々と奮闘して下さい。本学には、専門性への没入するあまり自らの位置を見失ってしまわないよう、社会的な観点や文化的な感性を磨くための諸講座の機会も、ふんだんに設けられています。 抱力地に種を蒔く開拓者たる貴族を。東京工業大学は、たくましく挑戦的な理系精神を強く求めます。	入学者に求める資質と能力 科学・技術への知的好奇心と探究心を有し、 基本的な概念や考え方、応用力を身に付けた人材を求めます 東京工業大学は、学士、修士、博士、及び専門職学位の取得を目指す各課程の教育目標に基づいて、充実した基礎教育、教養教育と専門教育を有機的に関連させる複合教育、「ものづくり」を基とする実学教育、創造性育成と実習教育、最先端の研究を担う高度な技術者・研究者を養成する専門教育、国際連携を適用した教育など、世界に冠たる理工系総合大学に相応しい教育を行います。そこで、本学の各課程では、次のような資質と能力を身につけた人材を求めます。 学部(学士課程) - 自然科学の基本的な概念や考え方を身に付け、応用できる力を有している - 論理的に思考し、果敢してものごとに取り組むことができる - 専門教育で必要となる基礎的な語学力を有している - 自然科学を探究し、科学・技術の発展に貢献する意欲を有している 修士課程 - 理工系基礎学力を有し、それに基づいて論理的に思考し、表現できる - 豊かで幅広い知識を有し、様々な視点から多面的なものを捉えることができる - 国際的な視野から研究・技術開発を進めるために必要な語学力を有している - 未知の世界に果敢に挑む意欲を有している 修士後期課程 - 各職の多面的な理解に必要な幅広い専門学力、およびそれに基づく高度的な問題解決力を有している - 専門分野の知識に新たな知見を加えて、自用に活用できる - 国際的に通用するコミュニケーション能力を有している - 高い志で知的プロフェッショナルを自ら開拓する強い意欲を有している 専門職学位課程 - 自らの経験から得た知識や富集した知識を基に、横断的・体系的かつ徹底的に思考し、表現できる - 豊かで幅広い知識を有し、様々な視点から多面的なものを捉えることができる - 国際的に活動できる語学力を有している - 向上心にあふれ、社会を主導する意欲を有している
--	--

出典：本学ホームページ

<http://www.titech.ac.jp/about/policies/education/admissions.html>

（資料１－２）「入学者選抜方針」（学部）

入学者選抜方針（各学部）
理学部 求める能力と適性を有する人材を選抜するために、高等学校の段階の学力確認を行うとともに、本学で学ぶために必要となる、数学、物理、化学および英語に関わる基礎学力ならびにこれを応用する力、論理的な思考力を評価する試験を行います。
工学部 【前期日程】 求める能力と適性を有する人材を選抜するために、高等学校の段階の学力確認を行うとともに、本学で学ぶために必要となる、数学、物理、化学及び英語に関わる基礎学力並びにこれを応用する力、論理的な思考力を評価する試験を行います。 【特別入試】 工学部AO入試では、枠にとらわれない柔軟な発想力と、その発想を他者と共有するための表現力を評価する試験を行います。
生命理工学部 生命理工学部では、求める能力と適正をもつ人材を選抜するために、以下のような試験を行います。 【前期日程】 求める能力と適性を有する人材を選抜するために、高等学校の段階の学力確認を行うとともに、本学で学ぶために必要となる、数学、物理、化学及び英語に関わる基礎学力並びにこれを応用する力、論理的な思考力を評価する試験を行います。 【後期日程】 理料系科目および英語を組み合わせた総合問題により、論理性、記述性及び考える力を検査します

出典：教育推進室ホームページ

http://www.eduplan.titech.ac.jp/w/edu_info/selection_course/

（資料１－３）「入学者に求める能力と適性」（学部・学科）抜粋

入学者に求める能力と適性（各学部学科）	
▶ 理学部 ・数学科 ・物理学科 ・化学科 ・情報科学科 ・地球惑星科学科 ▶ 工学部 ・金属工学科 ・有機材料工学科 ・無機材料工学科 ・化学工学科 ・高分子工学科 ・機械科学科 ・機械知能システム学科 ・機械宇宙学科 ・制御システム工学科 ・経営システム工学科 ・電気電子工学科 ・情報工学科 ・土木・環境工学科 ・建築学科 ・社会工学科 ・国際開発工学科 ▶ 生命理工学部 ・生命科学科 ・生命工学科	
理学部 理学部は幅広い教育と自由な発想に基づいた研究を通じて、社会や文化の発展に広く貢献することを目指しています。そのために次のような学生を求めます。 ・自然界の仕組みについて深く知りたいという強い好奇心を持つ者 ・教わるだけでなく、自ら主体的に学ぶことができる者 ・自分の意見を持ち、他者と議論することができる者 ・十分な学力と表現力を持つ者	
数学科 数学科では、次のような資質と能力をもつ人材を求めます。 ・数学への好奇心と探究心を持っていること ・物事を論理的に思考し、根拠強く考える能力を持っていること ・数学的能力を活かして社会に貢献する志を有すること	

出典：教育推進室ホームページ

http://www.eduplan.titech.ac.jp/w/edu_info/aptitude_course/

(資料1－4)「入学者に求める能力と適性」(研究科・専攻)抜粋

入学者に求める能力と適性（各研究科専攻）

~~~~~（略）~~~~~

**大学院理工学研究科（理学系）****修士課程**

理系大学院では、自然科学への知的好奇心と探究心を有し、基本的な概念や考え方、応用力を身に付けた人材を求めます。具体的には次のような項目に該当する人材です。

- ・自然科学の根本への探究心を有している
- ・自然科学の基本的な概念や考え方を身に付け、応用できる力を有している
- ・論理的に思考し、集中してものごとに取り組むことができる
- ・専門教育で必要となる基礎的な語学力を有している

**博士後期課程**

理系大学院の高度な専門的研究を遂行するに足る基礎学力と知的好奇心と創造性をもつ人材を求めます。具体的には次のような項目に該当する人材です。

- ・理系専門分野の研究を推進するために必要な学力を備えている
- ・理系専門分野の研究を推進するために必要な、実践的な問題解決力、創造力を備えている
- ・国際的な活躍に必要となる語学力を有している

**数学専攻****修士課程**

数学専攻では、数学への知的好奇心と探究心を有し、基本的な概念や考え方、応用力を身に付けた人材を求めます。具体的には次のような項目に該当する人材です。

- ・数学の根本への探究心を有している
- ・数学の基本的な概念や考え方を身に付け、応用できる力を有している
- ・論理的に思考し、集中してものごとに取り組むことができる
- ・数学課程で必要となる基礎的な語学力を有している

**博士後期課程**

数学専攻では、数学の専門的研究を遂行するに足る数学に関する基礎学力と知的好奇心と創造性をもつ人材を求めます。

具体的には次のような項目に該当する人材です。

- ・数学の研究を推進するために必要な学力を備えている
- ・数学の研究を推進するために必要な、実践的な問題解決力、創造力を備えている
- ・国際的な活躍に必要となる語学力を有している

(以下省略)

出典：教育推進室ホームページ

[http://www.eduplan.titech.ac.jp/w/edu\\_info/aptitude\\_research/](http://www.eduplan.titech.ac.jp/w/edu_info/aptitude_research/)

(資料 1－5)「入学者選抜方針」(専攻)

| 入学者選抜方針（各専攻）   |                                                                                                                                            |
|----------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| ~~~~~（略）~~~~~  |                                                                                                                                            |
| 大学院理工学研究科（理学系） |                                                                                                                                            |
| 数学専攻           |                                                                                                                                            |
| 大学院修士課程        | 数学専攻が考えている資質と適性を持つ人材を選抜するために、英語による語学力評価に加えて、数学の専門に関する筆答試験及び研究能力ならびに適性に関する口頭試問を実施します。                                                       |
| 大学院博士後期課程      | 数学専攻が考えている資質と適性を持つ人材を選抜するために、数学に関する基礎学力を評価することおよび数学に関する研究能力と適性を評価することを目的として、学位論文（または、これに代わる研究業績）に関する口頭試問を実施します。                            |
| 基礎物理学専攻        |                                                                                                                                            |
| 大学院修士課程        | 基礎物理学専攻が考えている資質と適性を持つ人材を選抜するために、物理、数学からなる筆答試験、英語外部テストのスコアによる語学力評価、研究能力ならびに適性に関する口頭試問を実施します。                                                |
| 大学院博士後期課程      | 基礎物理学専攻が考えている資質と適性を持つ人材を選抜するために、基礎学力を評価するための物理、及び数学に関する筆答試験、語学力を評価するための英語による口頭発表を含む語学試験、研究能力と適性を評価するための学位論文（または、これに代わる研究業績）に関する口頭試問を実施します。 |
| （以下省略）         |                                                                                                                                            |

出典：教育推進室ホームページ

[http://www.eduplan.titech.ac.jp/w/edu\\_info/selection\\_research/](http://www.eduplan.titech.ac.jp/w/edu_info/selection_research/)

（資料１－６）学部募集要項抜粋（「東京工業大学が求める学生像」「入学者に求める能力と適性」）

【アドミッションポリシー】

東京工業大学が求める学生像

創(つくり)り拓(ひろ)く理系人(りけいびと)たれ

入学希望者へ

遠く宇宙の果てへの探究から微細なナノ・スケールでの造形まで。あるいは抽象思考の極北を旅する純粋数学の奥とした美しさから、フラスコにひそやかに息づく生命の温もりまで。およそ「自然」なるもののすべてを相手どる理系分野の学問は、とてつもない広がりを持っています。かつ、その卓越した発想や技法は今や文系分野の学問にも浸透し、新たな地平を切り拓きつつあります。

そうした無限の広がり可能性へのたゆまぬ挑戦。我が国を牽引する理工系総合大学としての使命感を胸に、1881年創立という長い伝統からゆたかな教養を汲み上げ、世界各国の大学や研究機関と緊密な連携を組みながら、本学は日々、前人未踏の革新へと挑んでいます。

目標は高く人類の未来を見すえ、地球環境との調和を考えつつ、しかし、手はつねに動いて、ネジ一つの工夫で今日よりも明日を快適にする道をさがっています。

その本学が入学者に期待する資質は、ただの二つです。

1. 「理系」であることに「自信」を持っていること。
2. 「理系」であることに「誇り」を持っていること。

得意な分野は数学でも物理でも化学でも、あるいはこれらを活用して、さまざまな創造を試みる工学的な諸分野のどれかでも構いません。とことん好きで、これなら負けないと自信を持てる足場をしっかりと自らの内に築いておいていただきたい、というのが一つの希望です。その足場から、すくすくと関心を広げ、文系理系を問わない奥深い専門性や独創性へと導かれゆく扉は、本学の教育カリキュラムの中にたくさん開かれています。

そして、理系科目が好きであると同様に、理系である自分自身をも好きでいていただきたい、というのが二つめの希望です。果てしない広がりを持つ自然科学という学問を選んだ自分の選択に誇りを持ち、掲げるに足る目標を見つけ出して敢然と登攀して下さい。本学には、専門性へと没入するあまり自らの位置を見失ってしまわないよう、社会的な視点や文化的な感性を培うための研鑽の機会も、ふんだんに設けられています。

荒れ地に種を蒔く開拓者たる勇気を。東京工業大学は、たくましく挑戦的な理系精神を強く求めます。

入学者に求める能力と適性

【理学部】

理学部は幅広い教育と自由な発想に基づいた研究を通じて、社会や文化の発展に広く貢献することを目指しています。そのために次のような学生を求めます。

- ・自然界の仕組みについて深く知りたいという強い好奇心を持つ者
- ・教わるだけでなく、自ら主体的に学ぶことができる者
- ・自分の意見を持ち、他者と議論することができる者
- ・十分な学力と表現力を持つ者

【工学部】

工学部では、社会で先導的な役割を担い、人類と社会の持続的発展に貢献できる人材を育成するために、理工学分野の基礎的知識、専門的知識と技術などを体系的に修得する教育を行うとともに、創造性を育むことを目的とした教育を行い、科学技術を実社会に活用することのできる力を養います。

そこで、本学部では特に次の能力と適性を持つ人材を求めます。

- ・理数系科目を中心とする確実な基礎学力
- ・自らの能力向上のために積極的に学ぶ意欲
- ・人類と社会の発展に貢献しようという高い志

【生命理工学部】

生命理工学部では、学士取得を目指す教育目標に基づき、理工系の基礎分野やバイオ系の基礎専門分野を体系的に修得できる充実した楔形教育や、創造性・表現力などを育むことを目的とした教養教育、そして最先端の研究を核としたバイオ系専門教育など、バイオサイエンスとバイオテクノロジーの科学技術分野を先導・牽引する学部に対応した教育を行います。

そこで、本学部では、次のような能力と適性をもつ人材を求めます。

- ・自然科学の基本的な概念や考え方を身に付け、応用できる力を有している
- ・論理的に思考し、集中してものごとに取り組むことができる
- ・生命理工学の専門教育で必要となる基礎的な語学力を有している
- ・挑戦的な理系精神をもって生命現象を探究し、科学・技術の発展に貢献する意欲を有している

出典：平成27年4月入学学部募集要項

(資料 1－7)「AO 入試概要」

# AO入試

大学入試  
情報センター  
2019年度

平成30年度  
入試日程

12月15~17日 400点出願期間  
1月15~17日 400点センター試験  
2月7日 400点  
2月9日 推薦発表  
2月17日 入学式

2学期に通知できる学校へ送

| 推薦校                       | 推薦校                              | 推薦校                              | 推薦校                              | 推薦校                              |
|---------------------------|----------------------------------|----------------------------------|----------------------------------|----------------------------------|
| ・中央理工学部<br>・経済工学部<br>・工学部 | ・工学部<br>・電気工学部<br>・情報工学部<br>・工学部 | ・工学部<br>・電気工学部<br>・情報工学部<br>・工学部 | ・工学部<br>・電気工学部<br>・情報工学部<br>・工学部 | ・工学部<br>・電気工学部<br>・情報工学部<br>・工学部 |

推薦校

・中央理工学部  
・経済工学部  
・工学部

2019年度 AO入試結果発表

| 部     | 推薦人数 | 推薦人数 | 推薦人数 | 推薦人数 |
|-------|------|------|------|------|
| 工学部   | 10   | 10   | 10   | 10   |
| 経済工学部 | 10   | 10   | 10   | 10   |
| 工学部   | 10   | 10   | 10   | 10   |
| 経済工学部 | 10   | 10   | 10   | 10   |
| 工学部   | 10   | 10   | 10   | 10   |
| 経済工学部 | 10   | 10   | 10   | 10   |
| 工学部   | 10   | 10   | 10   | 10   |
| 経済工学部 | 10   | 10   | 10   | 10   |

試験内容

大学入試センター試験（5教科7科目）を履修  
推薦校：第1期（10校） 第2期（10校） 第3期（10校） 第4期（10校） 第5期（10校）  
第6期（10校） 第7期（10校）  
推薦校：第1期（10校） 第2期（10校） 第3期（10校） 第4期（10校） 第5期（10校）  
大学入試センター試験（5教科7科目）の成績（合格点以上）  
第2期以降は、推薦校の推薦書（推薦書）を提出する  
推薦校：第1期（10校） 第2期（10校） 第3期（10校） 第4期（10校） 第5期（10校）  
大学入試センター試験（5教科7科目）の成績（合格点以上）  
第2期以降は、推薦校の推薦書（推薦書）を提出する

| 部     | 推薦人数 | 推薦人数 | 推薦人数 | 推薦人数 |
|-------|------|------|------|------|
| 工学部   | 10   | 10   | 10   | 10   |
| 経済工学部 | 10   | 10   | 10   | 10   |
| 工学部   | 10   | 10   | 10   | 10   |
| 経済工学部 | 10   | 10   | 10   | 10   |
| 工学部   | 10   | 10   | 10   | 10   |
| 経済工学部 | 10   | 10   | 10   | 10   |
| 工学部   | 10   | 10   | 10   | 10   |
| 経済工学部 | 10   | 10   | 10   | 10   |
| 工学部   | 10   | 10   | 10   | 10   |
| 経済工学部 | 10   | 10   | 10   | 10   |

11

12

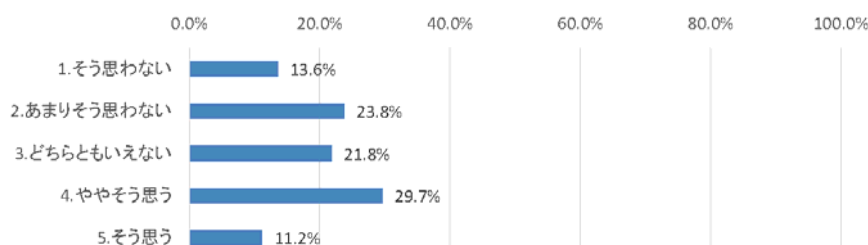
(一部拔粹)

出典：平成28年度東京工業大学入試ガイド

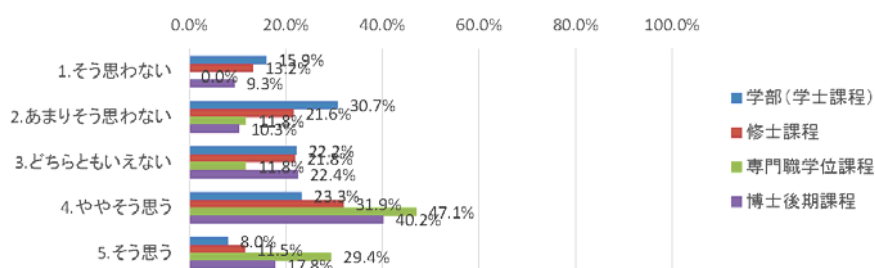
（資料１－８）在学生アンケート結果（アドミッション・ポリシー）

問3. 現在履修している課程における教育ポリシー（アドミッション・ポリシー（入学者受入方針）、カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施方針）、ディプロマ・ポリシー（学位授与方針））の内容を知っている。

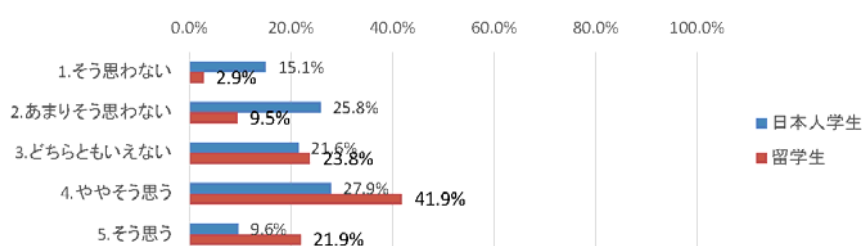
Q3: 現在履修している課程における教育ポリシー（アドミッション・ポリシー（入学者受入方針）、カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施方針）、ディプロマ・ポリシー（学位授与方針））の内容を知っている。



Q3: 現在履修している課程における教育ポリシー（アドミッション・ポリシー（入学者受入方針）、カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施方針）、ディプロマ・ポリシー（学位授与方針））の内容を知っている。（課程別）



Q3: 現在履修している課程における教育ポリシー（アドミッション・ポリシー（入学者受入方針）、カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施方針）、ディプロマ・ポリシー（学位授与方針））の内容を知っている。（日本人学生・留学生別）



（一部抜粋）

出典：教育推進室ホームページ

## (資料1－9)「入学者選抜方針」(学院)

| 課程   | 学院  | 系・コース   | アドミッション・ポリシー(入学者に求める能力と適性)                                                                                                                                                                                                              | アドミッション・ポリシー(入学者選抜方針)                                                                                                                                                                                           |
|------|-----|---------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 学士課程 | 理学院 |         | 理学院学士課程では、幅広い教養と自由な発想に基づいた研究を通じて、社会や文化の発展に広く貢献することを目指しています。そのため次のような学生を求めます。<br>～自然界の仕組みについて深く知りたいという強い好奇心を持つ人<br>～数々の分野で、自ら主体的に学ぶことができる人<br>～自分の意見をもち、他者と議論することができる人<br>～十分な学力と基礎力を持つ人                                                 | 【一般入試(前期)】(全課程共通)<br>求める能力と適性を有する人材を選抜するために、高等学校の前期の学力確認を行うとともに、本学で学ぶために必要となる、数学、物理、化学および英語に關わる基礎学力ならびにこれらを用いる力、論理的な思考力を評価する試験を行います。<br><br>【推薦入試】(1種)<br>前期学力検査を実施し、大学入試センター試験の成績、推薦書類及び調査書を総合的に評価して合格者を決定します。 |
|      |     | 数学科     | 数学科では、次のような資質と能力をもつ人材を求めます。<br>～数学への好奇心と探究心を持っていること<br>～物事を論理的に思考し、根拠強く考える能力を持っていること<br>～数学的能力を活かして社会に貢献する意を有すること                                                                                                                       |                                                                                                                                                                                                                 |
|      |     | 物理学科    | 物理学科は幅広い教養と自由な発想に基づいた研究を通じて、人類の未知と文明の発展に広く貢献することを目指しています。そのため次のような学生を求めます。<br>～自然界の仕組みについて深く知りたいという強い好奇心を持つ者<br>～数々の分野で、自ら主体的に学ぶことができる者<br>～十分な学力と基礎力を持つ者                                                                               |                                                                                                                                                                                                                 |
|      |     | 化学系     | 化学系は幅広い教養と自由な発想に基づいた研究を通じて、社会や文化の発展に広く貢献することを目指しています。そのため次のような学生を求めます。<br>～広く物質の関わるさまざまな現象について深く知りたいという強い好奇心を有している<br>～一方向的に数えられるだけでなく、自ら学び教員や友人らと議論することができる<br>～大学で学ぶに十分な学力を有している                                                      |                                                                                                                                                                                                                 |
|      |     | 地球惑星科学系 | 地球惑星科学系では、次のような学生を求めます。<br>～自然界の仕組みについて深く知りたいという強い好奇心を有している<br>～自然現象を科学的に理解しようとする姿勢と意欲を有している<br>～大学で学ぶために十分な学力とコミュニケーション能力を有している                                                                                                        |                                                                                                                                                                                                                 |
| 修士課程 | 理学院 |         | 理学院修士課程では、自然科学への知的好奇心と探究心を有し、基本的な概念や考え、応用力を身に付けた人材を求めます。具体的には次のような項目に該当する人材です。<br>～自然科学の根本への探究心を有している<br>～自然科学の基本的な概念や考え方を身に付け、応用できる力を有している<br>～論理的に思考し、集中してものごとに取り組むことができる<br>～専門教育で必要となる基礎的な語学力を有している                                 |                                                                                                                                                                                                                 |
|      |     | 数学科     | 数学科では、数学への知的好奇心と探究心を有し、基本的な概念や考え、応用力を身に付けた人材を求めます。具体的には次のような項目に該当する人材です。<br>～数学の根本への探究心を有している<br>～数学の基本的な概念や考え方を身に付け、応用できる力を有している<br>～論理的に思考し、集中してものごとに取り組むことができる<br>～数学課程で必要となる基礎的な語学力を有している                                           | 数学科の専門に關する学力、英語による語学力、適性などについて、面接形式の試験、筆記試験などにより、数学科が求める能力と適性を有する人材を選抜します。                                                                                                                                      |
|      |     | 物理学科    | 物理学科では、自然現象への知的好奇心を有し、基本的な物理学の概念や考え、応用力を身に付けた人材を求めます。具体的には次のような項目に該当する人材です。<br>～物理学の根本原理への探究心を有している<br>～物理学の基本的な概念や考え方を身に付け、応用できる力を有している<br>～論理的に思考し、集中してものごとに取り組むことができる<br>～専門教育で必要となる基礎的な語学力を有している<br>～自然科学を探究し、科学・技術の発展に貢献する意欲を有している | 物理学科の専門に關する学力、英語による語学力、適性などについて、面接形式の試験、筆記試験などにより、物理学科が求める能力と適性を有する人材を選抜します。                                                                                                                                    |

(一部抜粋)

出典：教育推進室作成資料

（資料 1－10）平成 28 年 4 月一般選抜学生募集要項（「東京工業大学が求める学生像」  
「入学者に求める能力と適性」）

【アドミッションポリシー】

東京工業大学が求める学生像

創(つく)り拓(ひら)く理系人(りけいびと)たれ

—入学希望者へ—

遠く宇宙の果てへの探究から微細なナノ・スケールでの造形まで。あるいは抽象思考の極北を旅する純粋数学の潔とした美しさから、フラスコにひそやかに息づく生命の温もりまで。およそ「自然」なるもののすべてを相手どる理系分野の学問は、とてつもない広がりを持っています。かつ、その卓越した発想や技法は今や文系分野の学問にも浸透し、新たな地平を切り拓きつつあります。

そうした無限の広がり可能性へのたゆまぬ挑戦。我が国を牽引する理工系総合大学としての使命感を胸に、1881 年創立という長い伝統からゆたかな教養を汲み上げ、世界各国の大学や研究機関と緊密な連携を組みながら、本学は日々、前人未踏の革新へと挑んでいます。

目標は高く人類の未来を見すえ、地球環境との調和を考えつつ、しかし、手はつねに動いて、ネジ一つの工夫で今日よりも明日を快適にする道をさぐっています。

その本学が入学者に期待する資質は、ただの二つです。

1. 「理系」であることに「自信」を持っていること。
2. 「理系」であることに「誇り」を持っていること。

得意な分野は数学でも物理でも化学でも、あるいはこれらを活用して、さまざまな創造を試みる工学的な諸分野のどれかでも構いません。とことん好きで、これなら負けないと自信を持てる足場をしっかりと自らの内に築いておいていただきたい、というのが一つめの希望です。その足場から、すすくと関心を広げ、文系理系を問わない奥深い専門性や独創性へと導かれゆく扉は、本学の教育カリキュラムの中にたくさん開かれています。

そして、理系科目が好きであると同様に、理系である自分自身をも好きでいていただきたい、というのが二つめの希望です。果てしない広がりを持つ自然科学という学問を選んだ自分の選択に誇りを持ち、掲げるに足る目標を見つけ出して敢然と登攀して下さい。本学には、専門性へと没入するあまり自らの位置を見失ってしまわないよう、社会的な観点や文化的な感性を培うための研鑽の機会も、ふんだんに設けられています。

荒れ地に種を蒔く開拓者たる勇気を。東京工業大学は、たくましく挑戦的な理系精神を強く求めます。

入学者に求める能力と適性

【理学院】

理学院学士課程では、幅広い教育と自由な発想に基づいた研究を通じて、社会や文化の発展に広く貢献することを目指しています。そのために次のような学生を求めます。

- ・自然界の仕組みについて深く知りたいという強い好奇心を持つ人
- ・教わるだけでなく、自ら主体的に学ぶことができる人
- ・自分の意見を持ち、他者と議論することができる人
- ・十分な学力と表現力を持つ人

【工学院】

工学院学士課程では、人の生活を豊かで快適なものとするための工学的知識・技術を習得し、さらにそれらを進化させるための研究活動の基本を身につけます。そのために、次のような人材を求めます。

- ・工学的知識・技術を活かして人類と社会の発展に貢献しようという高い志を有する人
- ・自らの能力向上のために積極的に学ぶ意欲をもつ人
- ・工学を学ぶために、理数系科目を中心とする確実な基礎学力を身につけた人
- ・論理的思考力を有し、他者と意思疎通できる基本的なコミュニケーション力を備えた人

【物質理工学院】

物質理工学院学士課程では、材料学および応用化学に関する確かな基礎学力と明快な論理的思考力を持ち、環境調和型社会の発展に貢献できる人材を養成します。そこで、次のような学生を求めます。

- ・自然科学の幅広い分野について基礎学力を有し、柔軟な発想ができる人
- ・材料や応用化学に係る諸現象について積極的に学習する意欲がある人

【情報理工学院】

情報理工学院学士課程では、よりよい情報化社会を築くために必要となる情報理工学に関する幅広い知識と柔軟で広い視野を持った人材の育成を目指します。そのために、次のような資質と能力を持つ人材を求めます。

- ・数学や理科に関する十分な基礎学力を有する人
- ・数理学に興味を持ち、コンピュータの仕組みや活用法に興味を持つ人
- ・情報理工学の知見を活かし情報化社会の発展に貢献したいという志を有する人

【生命理工学院】

生命理工学院学士課程では、理工系の基礎知識や生命理工学分野の基礎的専門知識を修得させ、生命理工学に関連した科学・技術の発展に資する課題解決力と倫理観を養います。そこで、本学院では次のような能力と適性をもつ人材を求めます。

- ・自然科学の基本的な概念や考え方を身に付け、応用できる力を有している人
- ・論理的に思考し、集中してものごとに取り組むことができる人
- ・生命理工学の専門教育で必要となる基礎的な語学力を有している人
- ・生命現象を探究し、科学・技術の発展に貢献する意欲を有している人

【環境・社会理工学院】

環境・社会理工学院学士課程では、人類と社会の持続的発展に貢献するために理工学的教養に加えて人文社会科学の教養を広く環境や社会に応用・展開して卓越した学術・技術を創生するとともに、高い知性と豊かな教養、国際的な広い視野と深い思考能力を備え、科学・技術の専門家として社会で活躍できる人材を養成する。そこで、本学院では特に次の能力と適性を持つ人材を求めます。

- ・理数系科目を中心とする確実な基礎学力を持つ人
- ・学士課程の勉学をするために必要となる基礎的な語学力を持つ人
- ・自らの能力向上のために主体的に理工学分野ならびに人文社会科学分野について学ぶ意欲を持つ人
- ・人類と社会の持続的発展に貢献しようという高い志を持つ人

（一部抜粋）

出典：平成 28 年 4 月一般選抜学生募集要項

中期計画【2】「本学で学ぶための十分な学力と高い資質を備えた学生を受け入れるという視点に加え、海外からも広く優秀な留学生を受け入れる観点から、入学者選抜方法の更なる改善を行う。」に係る状況

本学で学ぶための十分な学力と高い資質を備えた学生を受け入れるため、学部入試制度の見直しを行い、24年度入学者より、第1類は特別入学資格試験から推薦入試に、第2～6類は後期日程からA0入試に、第7類は後期日程の第1段階選抜の大学入試センター試験科目を増やすなど、アドミッション・ポリシーの求める学生像により近い新しい入試制度を実施した。また、全ての類において前期日程の第1段階選抜をせずに基準点「600点」を設定し、大学入試センター試験5教科7科目の成績が基準点に満たない場合は、出願出来ないこととした。実施後は前期日程の志願者が増え、志願者倍率が4倍程度の高い数値を維持している（資料2-1, 2）。

さらに教育改革として28年4月から導入する学院・系に対応し、グローバル化に向けた入試改革について検討を行い、修士課程の29年度入学入試の概要について、変更点等を27年度中に公表した（資料2-3）。

海外からも広く優秀な留学生を受け入れる観点から、文部科学省の学部を対象とした国費優先配置プログラム（28年度入学者から3年間）を有効に利用し、数か国に教員が広報活動を行うほか同時にHPやFacebook等により、募集を行った。その結果、33名の出願があり、書類審査及び口述試験により、優秀な外国人留学生を選抜した（資料2-4, 5）。

大学院では、国際大学院プログラムにおいて、対象となる英語外部テストの拡大、出願対象者の拡大（日本国籍者の出願を認める）など、より出願しやすいよう改正を行った。

また、23年度に、広報活動と入学者選抜等に関する調査・分析、研究及び企画立案を行う組織として、アドミッションセンターを設置した（資料2-6）。本学を目指す高校生・受験生等に、教育・研究を体験しながら紹介することを目的としたオープンキャンパスの開催時期を、26年度からは、高校生、受験生や保護者が参加し易いように10月から8月に見直すなど改善を重ねた結果26年度は約12,000人、27年度は約15,000人と来場者が増加し本学への関心度の高まりが感じられた。来場者にはアンケートを実施し、本学への関心度、期待度、受験希望について検証を行った（資料2-7, 8）。

また、全国の各種説明会へ積極的に参加し、進学校からの要望に応じた模擬講義、大学説明会に教員を派遣し、教育改革を踏まえて、次年度以降の模擬講義、大学説明会を戦略的且つ効果的に行うための情報を収集した（資料2-9～11）。

(資料 2 - 1) 学部入学者選抜方法等の変更（平成 22～27 年度）

| 1. 大学入試センター試験関係の変更 |      |     | 第 1：第 1 段階選抜 第 2：第 2 段階選抜 |           |           |           |           |           |
|--------------------|------|-----|---------------------------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|
| 類                  | 日程   | 選抜  | 平成 22 年度                  | 平成 23 年度  | 平成 24 年度  | 平成 25 年度  | 平成 26 年度  | 平成 27 年度  |
| 第 1 類              | 前期   | 第 1 | 5 教科 7 科目                 | 5 教科 7 科目 | 5 教科 7 科目 | 5 教科 7 科目 | 5 教科 7 科目 | 5 教科 7 科目 |
|                    |      | 第 2 | 5 教科 7 科目                 | 5 教科 7 科目 | 5 教科 7 科目 | 5 教科 7 科目 | 5 教科 7 科目 | 5 教科 7 科目 |
|                    | 後期   | 第 1 | 実施しない                     | 実施しない     | 実施しない     | 実施しない     | 実施しない     | 実施しない     |
|                    |      | 第 2 |                           |           |           |           |           |           |
|                    | 特別推薦 |     | 利用しない                     | 利用しない     |           |           |           |           |
| 第 2 類              | 前期   | 第 1 | 5 教科 7 科目                 | 5 教科 7 科目 | 5 教科 7 科目 | 5 教科 7 科目 | 5 教科 7 科目 | 5 教科 7 科目 |
|                    |      | 第 2 | 5 教科 7 科目                 | 5 教科 7 科目 | 5 教科 7 科目 | 5 教科 7 科目 | 5 教科 7 科目 | 5 教科 7 科目 |
|                    | 後期   | 第 1 | 5 教科 7 科目                 | 5 教科 7 科目 | 5 教科 7 科目 | 5 教科 7 科目 | 5 教科 7 科目 | 5 教科 7 科目 |
|                    |      | 第 2 | 3 教科 5 科目                 | 3 教科 5 科目 | 実施しない     | 実施しない     | 実施しない     | 実施しない     |
|                    | AO   | 第 1 |                           |           | 5 教科 7 科目 | 5 教科 7 科目 | 5 教科 7 科目 | 5 教科 7 科目 |
| 第 3 類              | 前期   | 第 1 | 5 教科 7 科目                 | 5 教科 7 科目 | 5 教科 7 科目 | 5 教科 7 科目 | 5 教科 7 科目 | 5 教科 7 科目 |
|                    |      | 第 2 | 5 教科 7 科目                 | 5 教科 7 科目 | 5 教科 7 科目 | 5 教科 7 科目 | 5 教科 7 科目 | 5 教科 7 科目 |
|                    | 後期   | 第 1 | 5 教科 7 科目                 | 5 教科 7 科目 | 5 教科 7 科目 | 5 教科 7 科目 | 5 教科 7 科目 | 5 教科 7 科目 |
|                    |      | 第 2 | 5 教科 7 科目                 | 5 教科 7 科目 | 実施しない     | 実施しない     | 実施しない     | 実施しない     |
|                    | AO   | 第 1 |                           |           | 5 教科 7 科目 | 5 教科 7 科目 | 5 教科 7 科目 | 5 教科 7 科目 |
| 第 4 類              | 前期   | 第 1 | 5 教科 7 科目                 | 5 教科 7 科目 | 5 教科 7 科目 | 5 教科 7 科目 | 5 教科 7 科目 | 5 教科 7 科目 |
|                    |      | 第 2 | 5 教科 7 科目                 | 5 教科 7 科目 | 5 教科 7 科目 | 5 教科 7 科目 | 5 教科 7 科目 | 5 教科 7 科目 |
|                    | 後期   | 第 1 | 3 教科 5 科目                 | 3 教科 5 科目 | 5 教科 7 科目 | 5 教科 7 科目 | 5 教科 7 科目 | 5 教科 7 科目 |
|                    |      | 第 2 | 3 教科 5 科目                 | 3 教科 5 科目 | 実施しない     | 実施しない     | 実施しない     | 実施しない     |
|                    | AO   | 第 1 |                           |           | 5 教科 7 科目 | 5 教科 7 科目 | 5 教科 7 科目 | 5 教科 7 科目 |
| 第 5 類              | 前期   | 第 1 | 5 教科 7 科目                 | 5 教科 7 科目 | 5 教科 7 科目 | 5 教科 7 科目 | 5 教科 7 科目 | 5 教科 7 科目 |
|                    |      | 第 2 | 5 教科 7 科目                 | 5 教科 7 科目 | 5 教科 7 科目 | 5 教科 7 科目 | 5 教科 7 科目 | 5 教科 7 科目 |
|                    | 後期   | 第 1 | 5 教科 7 科目                 | 5 教科 7 科目 | 5 教科 7 科目 | 5 教科 7 科目 | 5 教科 7 科目 | 5 教科 7 科目 |
|                    |      | 第 2 | 総点に加えない                   | 総点に加えない   | 実施しない     | 実施しない     | 実施しない     | 実施しない     |
|                    | AO   | 第 1 |                           |           | 5 教科 7 科目 | 5 教科 7 科目 | 5 教科 7 科目 | 5 教科 7 科目 |
| 第 6 類              | 前期   | 第 1 | 5 教科 7 科目                 | 5 教科 7 科目 | 5 教科 7 科目 | 5 教科 7 科目 | 5 教科 7 科目 | 5 教科 7 科目 |
|                    |      | 第 2 | 5 教科 7 科目                 | 5 教科 7 科目 | 5 教科 7 科目 | 5 教科 7 科目 | 5 教科 7 科目 | 5 教科 7 科目 |
|                    | 後期   | 第 1 | 5 教科 7 科目                 | 5 教科 7 科目 | 5 教科 7 科目 | 5 教科 7 科目 | 5 教科 7 科目 | 5 教科 7 科目 |
|                    |      | 第 2 | 4 教科 6 科目                 | 4 教科 6 科目 | 実施しない     | 実施しない     | 実施しない     | 実施しない     |
|                    | AO   | 第 1 |                           |           | 5 教科 7 科目 | 5 教科 7 科目 | 5 教科 7 科目 | 5 教科 7 科目 |
| 第 7 類              | 前期   | 第 1 | 5 教科 7 科目                 | 5 教科 7 科目 | 5 教科 7 科目 | 5 教科 7 科目 | 5 教科 7 科目 | 5 教科 7 科目 |
|                    |      | 第 2 | 5 教科 7 科目                 | 5 教科 7 科目 | 5 教科 7 科目 | 5 教科 7 科目 | 5 教科 7 科目 | 5 教科 7 科目 |
|                    | 後期   | 第 1 | 3 教科 5 科目                 | 3 教科 5 科目 | 5 教科 7 科目 | 5 教科 7 科目 | 5 教科 7 科目 | 5 教科 7 科目 |
|                    |      | 第 2 | 3 教科 5 科目                 | 3 教科 5 科目 | 3 教科 5 科目 | 3 教科 5 科目 | 3 教科 5 科目 | 3 教科 5 科目 |
|                    | AO   | 第 1 |                           |           |           |           |           |           |

## 2. 特別入学資格試験

平成 24 年度から第 1 類は、特別入学資格試験を実施しないこととした。

|      | 平成 22 年度 | 平成 23 年度 |
|------|----------|----------|
| 募集人員 | 20       | 20       |
| 志願者  | 620      | 649      |
| 合格者  | 18       | 21       |

## 3. 推薦入試

平成 24 年度から第 1 類は大学入試センター試験 5 教科 7 科目を課す「推薦入試」を実施した。

|      | 平成 24 年度 | 平成 25 年度 | 平成 26 年度 | 平成 27 年度 |
|------|----------|----------|----------|----------|
| 募集人員 | 10       | 10       | 10       | 10       |
| 志願者  | 22       | 17       | 23       | 22       |
| 合格者  | 11       | 10       | 9        | 9        |

## 4. AO 入試

平成 24 年度から第 2 類、第 3 類、第 4 類、第 5 類、第 6 類は、大学入試センター試験 5 教科 7 科目を課す「AO 入試」を実施した。

## 5. 基準点の設定

平成 24 年度から前期日程の第 1 段階選抜をせずに基準点を設定し、大学入試センター試験 5 教科 7 科目の成績が基準点「600 点」に満たない場合は、出願出来ないこととした。

(資料 2 - 2) 前期日程志願者数, 志願者倍率 (平成 22~27 年度)

| 前期日程志願者数, 志願者倍率 |    |          |          |          |          |          |          |
|-----------------|----|----------|----------|----------|----------|----------|----------|
| 類               | 日程 | 平成 22 年度 | 平成 23 年度 | 平成 24 年度 | 平成 25 年度 | 平成 26 年度 | 平成 27 年度 |
| 第 1 類           | 前期 | 4.0      | 5.1      | 5.2      | 4.8      | 4.4      | 4.1      |
| 第 2 類           | 前期 | 3.3      | 3.2      | 3.3      | 3.6      | 3.2      | 3.4      |
| 第 3 類           | 前期 | 3.9      | 3.9      | 3.8      | 4.2      | 4.2      | 4.2      |
| 第 4 類           | 前期 | 4.2      | 4.5      | 4.8      | 5.6      | 5.0      | 5.0      |
| 第 5 類           | 前期 | 3.8      | 4.1      | 4.7      | 4.7      | 4.5      | 4.4      |
| 第 6 類           | 前期 | 4.2      | 4.4      | 4.8      | 4.7      | 4.9      | 5.4      |
| 第 7 類           | 前期 | 3.0      | 3.1      | 2.7      | 2.6      | 2.6      | 2.5      |
| 志願者倍率           |    | 3.8      | 4.2      | 4.3      | 4.4      | 4.2      | 4.2      |
| 志願者数            |    | 3,286    | 3,613    | 3,999    | 4,101    | 3,857    | 3,803    |

出典：入試室作成資料

（資料 2－3）修士課程の平成 29 年度入学入試の概要

## 平成29年4月入学及び平成28年9月入学大学院修士課程・専門職学位課程入学試験の試験概要について






2016.01.29

平成29年4月入学及び平成28年9月入学大学院修士課程・専門職学位課程入学試験の試験概要について、下記のとおり公表します。

なお、本試験概要は現段階の予定であり、変更することがあります。

詳細につきましては、4月に公表予定の募集要項で必ず再度確認してください。

- 理学院 数学科
- 理学院 物理学系
- 理学院 化学系
- 理学院 地球惑星科学系
- 工学院 機械系及びシステム制御系
- 工学院 電気電子系
- 工学院 情報通信系
- 工学院 経営工学系
- 物質理工学院 材料系
- 物質理工学院 応用化学系
- 情報理工学院 数理・計算科学系
- 情報理工学院 情報工学系
- 生命理工学院 生命工学系
- 環境・社会理工学院 建築学系
- 環境・社会理工学院 土木・環境工学系
- 環境・社会理工学院 融合理工学系
- 環境・社会理工学院 社会・人間科学系
- 環境・社会理工学院 技術経営専門職学位課程

出典：入試室公表資料

（資料 2－4）Global Scientists and Engineers Program (GSEP)（抜粋）

## Global Scientists and Engineers Program (GSEP)

GSEP is a new undergraduate scholarship program for four-year Bachelor of Engineering Degree.  
GSEP official Facebook <https://www.facebook.com/gsep@itech>

### Tokyo Institute of Technology Global Scientists and Engineers Program (GSEP) 2016 Application

**Admission Date:** April 1, 2016 (Fri.)

**Number of Admitted Students:** 10 students with four years of financial support by a Ministry of Education, Culture, Sports, Science and Technology (MEXT) scholarship and a few students without MEXT scholarships

**Type of Degree:** Bachelor of Engineering

**Department:** Transdisciplinary Science and Engineering, School of Environment and Society

**Application Period:** July 21, 2015-September 30, 2015

[GSEP 2016 Application Form](#)

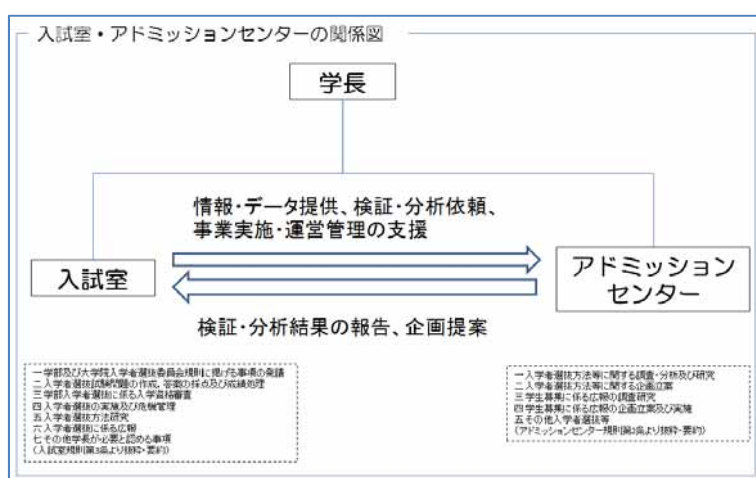
出典：入試室公表資料

（資料２－５）GSE P選抜結果（募集人員・志願者・合格者）

| 平成28年度学士課程入学選抜実施結果                  |       |        |        |        |
|-------------------------------------|-------|--------|--------|--------|
| ※（ ）内の数字は女子の数で内数                    |       |        |        |        |
| （国費外国人留学生優先配置入試（融合理工学系国際人材育成プログラム）） |       |        |        |        |
| 学院                                  | 系     | 志願者数   | 合格者数   | 入学手続き数 |
| 社会理工学                               | 融合理工学 | 33 (4) | 17 (3) | 14 (3) |
| 合 計                                 |       | 33 (4) | 17 (3) | 14 (3) |

出典：入試室公表資料

（資料２－６）入試室・アドミッションセンターの関係図



出典：入試室公表資料

（資料２－７）オープンキャンパス 2015 開催報告（ホームページ）（抜粋）



出典：本学ホームページ <http://www.titech.ac.jp/news/2015/032784.html>

（資料２－８）オープンキャンパス 2015 来場者アンケート結果（抜粋）

平成 27 年 8 月 17 日

オープンキャンパス 2015 アンケート結果 (55013,000 人)

男子：黒文字 女子：赤文字

Ⅰ あなたご自身について

a) 性別 (男性 340人 女性 208人 未記入 2人)

b) 学年等

○高校生 457人

○大学生 11人 (東京18人、神奈川7人、埼玉4人、千葉3人、茨城1人、静岡1人、愛知1人、北海道1人、熊本・鹿児島各1人、広島4人、新潟・山梨・長野・京都・大阪各2人、富山・和歌・山口・福岡・沖縄各2人、岩手・山形・岐阜・三重・滋賀・鳥取・岡山・徳島・愛媛・高松・大分・鹿児島・シンガポール・イギリス各1人、未記入4人)

○中学生 20人 高1生14人 高2生9人 未記入1人

○小学生 9人

○中学生 5人

○高校生 5人

○その他 1人 (中学生1人、小学生・未記入各1人)

Ⅱ オープンキャンパスに参加した主な目的は何ですか

1. 東京工業大学の教育・研究の内容を知りたいため 262人

2. 東京工業大学のキャンパス、施設等を見るため 229人

3. 志望大学の参考とするため 229人

4. その他 10人

→モチベーションを上げるため 2人

→東工大に入りたいため 1人

→学部 (院) 決め

→第二志望の校を決めるため

→受験に向けて意気込みを高めるため

→家族のつきそい

→学費を減らすため

→暇だったから

→特になし

- 1 -

出典：入試室公表資料

(資料2-9) 模擬講義等派遣一覧 (抜粋)

## 平成27年度 高校等への出張講義、説明・相談会

|    | 高等学校名                | 実施日       | 時間                         | 対象者           | 依頼・派遣の内容                                              |
|----|----------------------|-----------|----------------------------|---------------|-------------------------------------------------------|
| 1  | 横浜国立 横浜サイエンスフロンティア高校 | 4/23 (木)  | 9:40-12:15                 | 2年生           | ○分野別学習会<br>化学 伊東 章教授<br>電気電子 岡田健一准教授<br>分子生命科学 梶原 将教授 |
| 2  | 開智高校 (埼玉)            | 5/23 (土)  | 9:00-12:00                 | 1年生           | ○模擬授業<br>生体分子機能 田口英樹教授                                |
| 3  | 茨城県立 水戸第一高校          | 9/24 (木)  | 13:40-15:40                | 2年生           | ○模擬講義<br>機械物理 岡田昌史准教授                                 |
| 4  | 神奈川県立 希望が丘高校         | 7/14 (火)  | 10:00-12:10                | 2年生           | ○出張講義<br>化学工学 伊原 学教授                                  |
| 5  | 都立 国立高校              | 6/1 (月)   |                            |               | ○模擬授業<br>生体分子機能 田口英樹教授                                |
| 6  | 都立 立川高校              | 10/30 (金) | 13:20-14:50                | 2年生           | ○模擬講義<br>材料工学 安田公一准教授                                 |
| 7  | 群馬県立 前橋女子高校          | 10/16 (金) | 13:10-15:55                | 2年生           | ○模擬授業<br>生物プロセス 和地正明教授                                |
| 8  | 神奈川県立 川和高校           | 11/6 (金)  | 13:30-14:40                | 2年生           | ○模擬講義<br>情報環境学 中島 求教授                                 |
| 9  | 都立 立川国際中等教育学校        | 10/8 (木)  | 13:50-15:00                | 5年生           | ○模擬講義<br>材料物理科学 木村好里准教授                               |
| 10 | 千葉県立 船橋高校            | 10/29 (木) | 13:20-14:30<br>14:45-15:55 | 1・2年生         | ○「船高カレッジ2015」<br>機械宇宙 中島洋喜助教<br>建築学 藤井晴行教授            |
| 11 | 都立 三鷹中等教育学校          | 11/12 (木) | 15:40-17:10                | 4・5年生         | ○模擬講義<br>機械宇宙 佐藤 進准教授                                 |
| 12 | 水城高校 (茨城)            | 9/10 (木)  |                            |               | ○模擬授業<br>生物プロセス 小林雄一教授                                |
| 13 | 茨城県立 竹園高校            | 11/4 (水)  | 15:40-17:15                | 1年生、<br>2・3年生 | ○大学紹介・授業<br>化学工学 小玉 聡助教                               |
| 14 | 栃木県立 栃木高校            | 3/18 (金)  | 15:00-16:00                | 1・2年生         | ○模擬講義<br>機械物理工学専攻 岡田昌史教授                              |
| 1  | 千葉県立 船橋高校            | 6/10 (水)  | 15:45-16:45                |               | ○大学説明会<br>アドミセンタール長 井上教授                              |
| 2  | 神奈川大学付属中・高校          | 6/10 (水)  | 15:40-17:30                | 3年生           | ○大学説明会<br>応セラ研 真島 豊教授                                 |
| 3  | 神奈川県立 川和高校           | 6/30 (火)  | 15:25-16:15                | 3年生           | ○大学説明会<br>アドミセンタール長 井上教授                              |
| 4  | 横浜女学院 (神奈川)          | 9/8 (火)   | 16:30-17:30                |               | ○大学説明会<br>アドミセンタール長 井上教授                              |
| 5  | 都立 小石川中等教育学校         | 7/14 (火)  |                            |               | ○大学説明会<br>人間行動システム 西原明法教授                             |
| 6  | 大宮開成高校 (埼玉)          | 10/17 (土) | 9:00-11:50                 | 1・2年生         | ○進路ガイダンス<br>アドミセンタール長 井上教授                            |
| 7  | 都立 駒場高校              | 10/17 (土) | 13:30-14:15                | 1年生・父母        | ○大学説明会<br>アドミ副センタール長 山中教授                             |
| 8  | 埼玉県立 大宮高校            | 11/26 (木) | 13:30-14:20                | 2年生           | ○大学説明会<br>アドミセンタール長 井上教授                              |
| 9  | 神奈川県立 柏陽高校           | 12/4 (土)  | 14:00-16:00                | 1・2年生         | ○大学説明会<br>アドミ副センタール長 山中教授                             |
| 10 | 鹿児島県立 鶴丸高校           | 1/19 (火)  | 16:30-17:30                | 1・2年生         | ○大学説明会<br>アドミコーディネータ 水流<br>修士1年生 丸田                   |
| 1  | 北海道立 帯広柏陽高校          | 7/24 (金)  | 10:40-15:20                |               | ○進学相談会<br>資料参加                                        |
| 2  | 福井県立 金津高校            | 7/3 (金)   | 14:55-15:40                | 1・2年生         | ○高校生のためのセミナー<br>資料参加                                  |
| 3  | 北海道立 函館中部高校          | 10/22 (木) | 13:15-16:30                |               | ○進学相談会<br>資料参加                                        |

出典：入試室公表資料

(資料2-10) 大学説明会等参加一覧（抜粋）

| 平成27年度 学外団体主催の説明・相談会への参加状況 |                   |                |                 |          |         |              |     |    |      |
|----------------------------|-------------------|----------------|-----------------|----------|---------|--------------|-----|----|------|
| 日 程                        | 開催名               | 開催場所           | 主催者             | 経 費      | ブース参加者数 |              |     | 備考 |      |
|                            |                   |                |                 |          | H27     | H26          | H25 |    |      |
| 27年6月14日(日)                | 大学進学相談会2015       | 千葉 京葉銀行文化プラザ   | 千葉学習協同組合        | 無料       | 19      | 13           |     |    | —    |
| 27年7月11日(土)                | 夢ナビライブ            | 東京 東京ビッグサイト    | フロムページ          | 54,000円  | 169     | 157          | 134 |    | —    |
| 27年7月12日(日)                | 全国国公立・有名私大相談会2015 | 愛知 名古屋国際会議場    | 朝日新聞            | 無料       |         | 26           | 39  |    | —    |
| 27年7月12日(日)                | 外国人学生のための進学説明会    | 東京 池袋サンシャインシティ | 日本学生支援機構(JASSO) | 約48,000円 | —       | 131          | 118 |    | —    |
| 27年7月18日(土)                | 外国人学生のための進学説明会    | 大阪 梅田スカイビル     | 日本学生支援機構(JASSO) | 約61,000円 | —       | 51           | 22  |    | —    |
| 27年7月18日(土)                | 全国国公立・有名私大相談会2015 | 大阪 大阪国際会議場     | 朝日新聞            | 無料       | 24      | 18           | 22  |    | —    |
| 27年7月20日(月)                | 全国国公立・有名私大相談会2015 | 東京 池袋サンシャインシティ | 朝日新聞            | 無料       | 100     | 117          | 118 |    | —    |
| 27年7月20日(月)                | 東日本難関大学合同説明会・相談会  | 広島 NTT基町クレドホール | Z会              | 無料       | 9       | 10<br>(57)   |     |    | —    |
| 27年7月26日(日)                | 全国国公立・有名私大相談会2015 | 神奈川 パシフィコ横浜    | 朝日新聞            | 無料       | 103     | 93           | 97  |    | —    |
| 27年7月26日(日)                | 東日本難関大学合同説明会・相談会  | 福岡 JR博多シティ     | Z会              | 無料       | 15      | 15<br>(43)   |     |    | —    |
| 27年8月2日(日)                 | 東日本難関大学合同説明会・相談会  | 新潟 朱鷺メッセ       | Z会              | 無料       | 7       | 15<br>(68)   |     |    | —    |
| 27年8月9日(日)                 | 主要大学説明会           | 愛知 名古屋国際会議場    | 東京大学            | 160,000円 | 28      | 40<br>(83)   | 29  |    | —    |
| 27年8月11日(火)                | 主要大学説明会           | 東京 東京ビッグサイト    | 東京大学            | 160,000円 | 204     | 138<br>(240) | 121 |    | —    |
| 27年8月16日(日)                | 主要大学説明会           | 福岡 福岡国際会議場     | 東京大学            | 160,000円 | 44      | 38<br>(46)   | 45  |    | —    |
| 27年8月20日(木)                | 主要大学説明会           | 金沢 金沢市文化ホール    | 東京大学            | 160,000円 | 17      | 25<br>(70)   |     |    | —    |
| 27年8月23日(日)                | 主要大学説明会           | 大阪 大阪国際会議場     | 東京大学            | 160,000円 | 35      | 42<br>(64)   | 25  |    | —    |
| 27年8月30日(日)                | 主要大学説明会           | 広島 広島国際会議場     | 東京大学            | 160,000円 | 44      | 55<br>(75)   | 35  |    | —    |
| 27年9月6日(日)                 | 主要大学説明会           | 札幌 大学共同利用施設ACU | 東京大学            | 160,000円 | 23      | 28<br>(47)   | 27  |    | —    |
| 27年10月4日(日)                | 大学進学フェスタ2015      | 神奈川 パシフィコ横浜    | 中蔵学院            | 無料       | —       | —            | —   |    | 資料参加 |
| 27年10月4日(日)                | 難関大学フェア           | 東京 駿台お茶の水校2号館  | 駿台予備校           | 無料       | 13      | 15           |     |    | —    |
| 27年10月31日(土)               | 秋期大学入試相談会         | 東京 河合塾新宿校      | 河合塾             | 無料       | 5       | —            | —   |    | —    |
| 27年11月3日(火祝)               | 首都圏国公立大学合同説明会     | 埼玉 駿台大宮校       | 横浜国立大学          | 無料       | 12      | —            | 19  |    | —    |
| 27年11月15日(日)               | 首都圏国公立大学合同説明会     | 宮城 駿台仙台校       | 横浜国立大学          | 無料       | —       | —            | —   |    | 資料参加 |
| 27年11月22日(日)               | 首都圏国公立大学合同説明会     | 千葉 駿台千葉校       | 横浜国立大学          | 無料       | 5       | —            | 13  |    | —    |
| 27年11月23日(月祝)              | 首都圏国公立大学合同説明会     | 長野 長野予備学校      | 横浜国立大学          | 無料       | 2       | —            | 5   |    | —    |
| 27年11月28日(土)               | 首都圏国公立大学合同説明会     | 神奈川 駿台横浜校      | 横浜国立大学          | 無料       | —       | —            | 18  |    | —    |
| 27年11月29日(日)               | 首都圏国公立大学合同説明会     | 東京 駿台立川校       | 横浜国立大学          | 無料       | —       | —            | 13  |    | —    |
| 27年12月6日(日)                | 一橋・東工大合同進学相談会     | 仙台 メトロポリタン仙台   | 一橋大学<br>東京工業大学  | —        | —       | —            | —   |    | —    |

出典：入試室公表資料

（資料 2-11）模擬講義等による高校等への派遣に関する実態調査結果（抜粋）

## H27 年度 高校等での出張講義・大学説明会の実施状況

### 1. 高校等からの依頼による出張講義・大学説明会

平成 27 年度に高校等から依頼があった出張講義（模擬講義）および大学説明会を別表（資料 No.4-2）にまとめた。

依頼は 32 件（鶴丸高校については別に説明）あり、15 校で 17 名の講師による模擬講義を行い、9 校で大学説明会・相談会を行った。また、3 校については高校で開催された説明会に資料のみを送付し資料による参加とした。一方、1 校からの模擬講義の依頼と 5 校からの大学説明会については、日程の都合等の理由で参加を辞退した。

なお、派遣依頼に対する対応については、実態調査の項で検討する。

### 2. 派遣教員の選出

今年度の出張講義への講師に派遣については、講義の分野を細かく指定された場合を除いて可能な限り派遣される高校の卒業生である本学教員にお願いすることとした。多くの場合、高校側からの日時の指定があり日程の都合がつけられない場合もあったが、講師をお願いした教員にも、また受け入れた高校からもおおむね好評であった。

分野を指定されたり、卒業生である教員にお願いできない場合については、主に類主任に講師の選出をお願いした。

高校での大学説明会・相談会の多くについては、センター長および副センター長が対応した。

### 3. 業者等を介しての依頼について

高校における大学説明会について、高校からの直接の依頼ではなく、専門の業者を介しての依頼が数多く見られた。これらの多くは高校教員の負担軽減のためにとられている方法であろうが、本学への入学実績も低いケースも多く、そのほとんどはお断りした。ただ、このような方法が今後広がっていくことも考えられ、ケースバイケースで判断していく必要がある。

### 4. 高校等での出張講義・説明会の実態調査

アドミッションセンターを介さず、高校等から直接教員個人あるいは学科等に出張講義・説明会の依頼があり、実施されているケースがあると思われたことから、全学的な十対調査を行った。部局長・専攻長から各教員宛にアンケート調査を実施した。

| 本学教員等の派遣による高校での模擬講義・大学説明会 |           |         |          |          |   |         |    |          |  |  |
|---------------------------|-----------|---------|----------|----------|---|---------|----|----------|--|--|
| 開催年度                      | 講義／説明会    | 開催の形式   | 派遣の依頼元   |          |   |         |    | アドミの把握状況 |  |  |
| H26年度                     | 21 講義・講演  | 34 本学のみ | 18 アドミ経由 | 37 業者経由  | 0 | 把握・連絡あり | 41 |          |  |  |
| H27年度                     | 34 説明・相談会 | 16 並列進行 | 11 類経由   | 2 類から高校へ | 5 | 把握せず    | 14 |          |  |  |
| 合計                        | 55 講義／説明  | 5 不明    | 26 個人的   | 10 その他   | 1 |         |    |          |  |  |

平成 26、27 年度に 55 件の出張講義・説明会が実施され、アドミッションセンターが把

出典：入試室公表資料

中期計画【3】「国際性を涵養するなど広い視野に立ち、理工学の最先端科学技術を体感させる革新的な教育方法の導入等、創造性育成教育を発展させる。」に係る状況

本学では、学生が能動的・発見的に学修する機会を設け、新しいものや技術、アイデアを生み出すための創造力を育むことを目的として創造性育成科目を選定し実施しており、さらに国際性を涵養するなど広い視野に立ち、創造性育成教育を発展させるための取組を行った（資料3-1）。

創造性育成科目については、教育推進室の下に委員会を設置し検討を行っており、毎年度「創造性育成科目事例発表会」を開催するなど、常に創造性育成科目の改善並びに発展に努めている。

24年度から開催しているこの発表会では、講義事例の紹介や教員同士の意見交換会やパネルディスカッションを実施している（資料3-2, 3）。発表会での議論が元になり、新規講義へのスタートアップ資金の支援を開始し、また、産学連携の強化や留学生TAを活用した国際化の取組など、常に創造性育成科目の見直しと改善を行っている。

創造性育成科目の募集は、東工大メールニュース等の活用を図った結果、申請件数の向上が見られ、27年度は、選定科目が51件、登録科目が85件となった（資料3-4, 5）。

また、創造性育成科目の学内への周知や登録科目の促進・拡大を図るため、教育推進室のHPを使った広報、パンフレットの作成・配布を行った（資料3-6）。

さらに、グローバルに活躍できる人材の育成を目指すグローバル人材育成事業とものづくり教育研究支援センターが協働し、課題発見・解決力を養う夏季集中講義「ものづくり」を実施した（資料3-7）。また、創造性育成科目の選定科目である「バイオクリエティブデザインⅡ」では、受講生により構成した学生チームが、iGEM世界大会で最優秀部門賞を、大会史上初となる3年連続獲得した（資料3-8）。

また、初年次教育を強化する新たな取組として、26年度より国際フロンティア理工学教育プログラムを新たに開始し、教育改革の一環として科学・技術の面白さを東工大レクチャーシアターで体感できる「科学・技術の最前線」、ハンズオン教育を主とする「科学・技術の創造プロセス」を各類において開講し試行した（資料3-9）。「科学・技術の最前線」では、講義の中で実施した学生アンケートの結果を基に、28年度の実施内容改善策を検討した（資料3-10）。また、国際性の涵養という観点から第25回英国科学実験講座クリスマス・レクチャー日本公演2015を東工大レクチャーシアターにおいて開催し、本学の学生等に、先進技術を交えながら科学技術を体感させるイベントを行った（資料3-11）。

## （資料 3－1）創造性育成科目概要

## 創造性育成科目概要

## 東京工業大学における創造性教育について

本学は明治14年の建学以来実学を重視した教育を行ってきています。さらに戦後まもなく「くさび型教育」と呼ぶ全人教育のプログラム、すなわち低学年から最先端の専門分野に触れつつ、高学年にも人文社会科学を履修する独自の教育体制を実践してきました。この教養教育システムは高く評価されていますが、時代の変遷とともに学生の多様化が進み、ものづくりの楽しさを体験することなく入学する学生が多く見られるようになってきました。そこで、学習の動機付けの観点から昭和56年にものづくりの楽しさを体験させるための科目として「制御工学設計製図」（元祖ロボコン）が設置されました。この新しいスタイルの授業は学生が能動的・発見的に学習する方法として優れた効果が認められましたことから、それ以降、学内の各学科においてさまざまな創造性育成科目が実施されることとなりました。今では、本学だけでなく日本の多くの大学でこのスタイルの授業科目が実施されています。

本学では、創造性教育を以下の3段階で進めることを考えており、このように連続的に創造性を高めていく教育を本学では「スパイラルアップ教育」と呼んでいます。

- (1) ものづくりや問題の解決のために工夫することが面白いと感じ、自らに潜在的創造能力が備わっていることに気づき、自信をつける
- (2) コンテストなどを通じて具体的な課題に対する自らのアイデアや工夫をブラッシュアップし、科学技術者としての資質を高める
- (3) 卒業研究のような抽象的な課題について、そこにおける問題点を発見し、解決のためのアプローチ方法を考案し、問題解決に取り組む

これを本学の特徴である「くさび型教育」に組み込むことにより、「創造性育成科目、専門科目、文系科目の3本柱に加えて、実験・実習をバランスよく組み合わせることでスパイラルアップを回り、より人間力、創造力の豊かな研究者、技術者を育成する」ことを目指しています。さらにこれに学生の自主的な課外活動を奨励することにより、より創造力の豊かな技術者と育つことを期待しています。

教育推進室では、平成16年度より、学部・大学院の創造性育成科目の認定及び選定を行ってきましたが、平成20年度からはこれを少し修正し、各学科や専攻等が創造性育成科目を登録し、それらを教育推進室のホームページ上で公表することとしました。

本学はこれからも、創造性教育の更なる発展に努めます。

出典：教育推進室ホームページ

[http://www.eduplan.titech.ac.jp/w/creative\\_subject/cs\\_outline/](http://www.eduplan.titech.ac.jp/w/creative_subject/cs_outline/)

（資料 3－2）平成 27 年度創造性育成科目事例発表会

平成 27 年度創造性育成科目事例発表会

1. 概要

教育推進室では「国際性を涵養するなど広い視野に立ち、創造性育成教育を発展させる。」という中期計画を達成すべく、毎年、本学の創造性育成科目の登録・選定を行い、創造性育成教育を積極的に推進している。

平成 27 年度も昨年度と同様、本学の創造性育成教育を発展させるため、（1）創造性育成科目の講義実施状況の把握（2）創造性育成科目の学内への広報（3）発表会を通じた教員相互の情報共有（4）平成 28 年度以降の創造性育成科目のあり方検討という主旨に基づき、創造性育成科目事例発表会を以下のとおり開催する。

2. 開催日時、開催場所

日時：平成 28 年 1 月 7 日（木）（事例発表会）15 時 30 分～18 時（懇親会）18 時 15 分～19 時 30 分

場所：（1）事例発表会：大岡山キャンパス W531 レクチャーシアター（西 5 号館 3 階）

（2）懇親会：大岡山キャンパス ものづくり教育研究支援センター内（南 2 号館 1 階）

3. プログラム

・創造性育成科目事例発表会

（1）事例発表会 [W531 レクチャーシアター（大岡山キャンパス西 5 号館 3 階）15 時 30 分～18 時]

15：30～15：35 趣旨説明 山田明教授（創造性育成科目実施委員会委員長）

15：35～15：40 挨拶 教育推進室長 丸山俊夫理事・副学長（教育・国際担当）

15：40～16：00 「機械知能システム創造」吉岡勇人准教授，

発表者 4 年 田中 仁

16：00～16：20 「サイエンスカフェー組織と運営」西條美紀教授，

発表者 修士 2 年 木村 一輝

16：20～16：40 「コンクリート実験」千々和伸浩助教，

発表者 4 年 蒲田 幸穂

16：40～17：00 「バイオクリエイティブデザインⅡ」太田啓之教授，

発表者 3 年 篠原 陸

3 年 布施 瑛水

3 年 増山 愛理

3 年 峯岸 美紗

17：00～17：15 休憩

17：15～18：00 パネルディスカッション

教員：水本副学長（教育運営担当），山田明教授，

学生：田中 仁，木村 一輝，蒲田 幸穂，篠原 陸

（2）懇親会 [ものづくり教育研究支援センター（大岡山キャンパス南 2 号館 1 階）18 時 15 分～19 時 30 分]

18：15～19：30 懇親会

出典：教育推進室ホームページ

（資料 3－3）創造性育成科目事例発表会（文教ニュース・文教速報原稿）



講演する水谷名誉教授



創造性教育の成果を語る学生達

【文教ニュース・文教速報 原稿】

東工大 創造性育成科目事例発表会を実施

東京工業大学では、学生が能動的・発見的に学習する機会を設け、新しいものや技術、アイデアを生み出すための創造力を育むことを目的とし、毎年、創造性育成科目として登録・選定し、創造性教育を推進している。

本学教育推進室では、講義実施状況を把握し、発表会を通じた教員相互の情報共有及び平成25年度以降の創造性育成科目のあり方検討という主旨に基づき、平成24年12月26日に本学大岡山キャンパスにおいて創造性育成科目事例発表会を開催し、本学の教員・学生70名が参加した。

本発表会は二部構成とし、第一部は、創造性育成科目を積極的に推進しているものづくり教育研究支援センター初代特任教授である水谷名誉教授の特別講演「不確定な時代で活躍する技術者資質、自分に気付き、強みを伸ばす習慣を」として、創造性育成の必要性や他校の取組み等について講演を行った。また、創造性育科目に選定されている科目の担当教員及び実際に受講している学生から講義内容や学修の成果について発表を行い、創造性教育について活発な質疑応答が行われた。

引き続き、第二部として、創造性育成科目のポスター及び授業で作成された製作物の見学会を兼ねて懇親会を行い、教員、学生の垣根を越え本学の教育について、活発な議論がかわされた。

発表会後に行われた教員及び学生へのアンケートでは、「他の分野での取り組みがわかり刺激になり良かった。」また、学生が実際に発表を行ったため、創造性育成科目の実際の効果が伝わった。」、「ポスターセッションでは多くの取り組みがあつて大変参考になった。」、「来年度以降もこのような機会を提供していただけると、非常に参考になります。」等々の結果が記載されており、大変好評を得ていた。

出典：教育推進室作成資料

（資料 3－4）平成 27 年度創造性育成科目登録・選定要領

## 平成 27 年度「創造性育成科目」登録・選定要領

### 「創造性育成科目」について

創造性育成科目とは、科学技術立国として我が国が発展して行くために、学生が能動的・発見的に学習する機会を設け、新しいものや技術、アイデアを生み出すための創造力を育むことを目的とした講義科目をいう。

### 「登録・選定」について

**登録**：各類・学科・専攻等が創造性育成科目に相応しいと考える科目を本学の創造性育成科目に登録します。登録は原則として、各学科・専攻等の責任において行っていただきます。

**選定**：登録科目のうち、費用支援が必要とされる科目を教育推進室で選定します。

### 登録可能な科目

学部、大学院を問いません。Fゼミも対象になります。論文研究（学士、修士、博士）は、そもそも創造性育成科目の性質を持っておりますので、原則として登録の対象外とします。但し、特にユニークな取り組みを実施している場合には申請対象と致しますので、学科/専攻のご判断で登録をご検討下さい。登録は年度毎に行いますので、これまで実施している継続科目も登録をお願いいたします。

### 選定の要件

- ・ 登録された各科目に対して、経費申請の有無、授業内容、受講生数等を教育推進室で検討し、経費支援が適切か否かを審査し、ふさわしいと判断された科目を選定科目とします。
- ・ 選定された科目には授業に対する費用支援を致しますが、原則として年度中に授業の成果を何らかの形で公表・展示することが義務付けられます。公表・展示の具体例としましては、(1) ものづくりセンターにおけるパネルや模型の展示、(2) 学外の学生コンテストやコンペティションへの参加等が考えられます。また、授業の実施状況や創造性育成科目のあり方について、年度中に調査や事例発表会を行う予定です。なお、このような対応が難しい科目に対しては、原則として費用支援を行うことはできません。
- ・ 支援額及び選定数については、Aコース上限30万円7件程度、Bコース上限10万円25件程度、とし審査により支援額を決定致します。

※ 平成 28 年度以降選定の要件については、大幅に変更する場合があります。

### 選定の基本方針

- ・ 学生の創造性が育成されている授業科目であるか。
- ・ アクティブラーニングやPBL等の要素が含まれているか。
- ・ プレゼンテーションまたは英語を用いた発表等の国際性涵養の機会があるか。
- ・ 昨年度の実施内容から、改善を図っているか。
- ・ 平成 26 年度創造性育成科目事例発表会に参加またはポスター等を提出しているか。

（以下省略）

出典：教育推進室作成資料

(資料3-5) 平成27年度創造性育成科目学科・専攻別申請件数

| 学部            | H27 |        |     | H26 |        |     |
|---------------|-----|--------|-----|-----|--------|-----|
|               | 登録数 | 内選定申請数 | 選定数 | 登録数 | 内選定申請数 | 選定数 |
| 全学科目(学部)      | 18  | 15     | 9   | 14  | 12     | 10  |
| 4類            | 1   | 1      | 1   | 1   | 1      | 1   |
| 7類            | 1   | 1      | 1   | 1   | 1      | 1   |
| 数学科           |     |        |     |     |        |     |
| 物理学科          |     |        |     |     |        |     |
| 化学科           | 1   |        |     | 1   |        |     |
| 情報科学科         |     |        |     | 1   |        |     |
| 地球惑星科学科       | 1   | 1      | 1   | 1   | 1      | 1   |
| 金属工学科         | 3   | 3      | 3   | 4   | 4      | 4   |
| 有機材料工学科       |     |        |     | 1   |        |     |
| 無機材料工学科       | 2   | 1      | 1   | 2   | 1      | 1   |
| 化学工学科・化学工学コース | 2   | 2      | 1   | 1   | 1      | 1   |
| 化学工学科・応用化学コース | 1   | 1      | 1   | 1   | 1      | 1   |
| 高分子工学科        | 1   | 1      | 1   | 1   | 1      | 1   |
| 機械科学科         | 1   | 1      | 1   | 1   | 1      | 1   |
| 機械知能システム学科    | 3   | 1      | 1   | 3   | 1      | 1   |
| 機械宇宙学科        | 5   | 3      | 3   | 5   | 3      | 3   |
| 制御システム工学科     | 3   | 3      | 2   | 3   | 3      | 3   |
| 経営システム工学科     |     |        |     |     |        |     |
| 電気電子工学科       | 1   | 1      | 1   | 2   | 1      | 1   |
| 情報工学科         | 2   | 2      | 1   | 3   | 3      | 3   |
| 土木・環境工学科      | 7   | 5      | 5   | 7   | 5      | 5   |
| 建築学科          | 4   | 4      | 4   | 4   | 4      | 4   |
| 社会工学科         | 1   | 1      | 1   | 1   | 1      | 1   |
| 国際開発工学科       | 1   | 1      | 0   | 1   | 1      | 1   |
| 生命理工学部        | 1   | 1      | 1   | 1   | 1      | 1   |
| 学部科目合計        | 80  | 49     | 39  | 80  | 47     | 45  |

| 大学院                    | H27 |        |     | H26 |        |     |
|------------------------|-----|--------|-----|-----|--------|-----|
|                        | 登録数 | 内選定申請数 | 選定数 | 登録数 | 内選定申請数 | 選定数 |
| 大学院総合科目<br>(工学系広域科目含む) | 3   | 2      | 2   | 1   | 1      | 1   |
| 数学                     |     |        |     |     |        |     |
| 基礎物理学専攻                | 1   |        |     | 1   |        |     |
| 基礎物理学/物性物理学            | 2   |        |     | 2   | 1      | 0   |
| 化学/物質科学                |     |        |     |     |        |     |
| 地球惑星科学                 |     |        |     |     |        |     |
| 物質科学                   | 1   |        |     | 2   |        |     |
| 材料工学                   |     |        |     |     |        |     |
| 有機・高分子物質               |     |        |     |     |        |     |
| 応用化学                   |     |        |     |     |        |     |
| 化学工学                   |     |        |     |     |        |     |
| 機械物理工学                 |     |        |     |     |        |     |
| 機械制御システム               |     |        |     |     |        |     |
| 機械宇宙システム               |     |        |     |     |        |     |
| 機械3専攻                  |     |        |     | 1   | 1      | 1   |
| 電気電子工学                 |     |        |     |     |        |     |
| 電子物理工学                 |     |        |     |     |        |     |
| 集積システム                 |     |        |     |     |        |     |
| 土木工学                   |     |        |     |     |        |     |
| 建築学                    | 5   | 5      | 4   | 3   | 3      | 3   |
| 国際開発工学                 |     |        |     |     |        |     |
| 原子核工学                  |     |        |     |     |        |     |
| 分子生命科学                 |     |        |     |     |        |     |
| 生体システム                 |     |        |     |     |        |     |
| 生命情報                   |     |        |     |     |        |     |
| 生物プロセス                 | 1   |        |     | 1   |        |     |
| 生体分子機能工学               | 1   |        |     | 1   |        |     |
| 物質科学創造                 |     |        |     |     |        |     |
| 物質電子化学                 |     |        |     |     |        |     |
| 材料物理科学                 |     |        |     |     |        |     |
| 環境理工学創造                | 1   | 1      | 0   | 1   | 1      | 1   |
| 人間環境システム               | 1   | 1      | 1   | 1   | 1      | 1   |
| 創造エネルギー                |     |        |     | 1   |        |     |
| 化学環境学                  | 1   | 1      | 0   |     |        |     |
| 物理情報システム               | 1   | 1      | 1   | 1   | 1      | 0   |
| メカノマイクロ工学              |     |        |     |     |        |     |
| 知能システム科学               | 1   |        |     | 1   |        |     |
| 物理電子システム創造             | 1   | 1      | 1   |     |        |     |
| 数理・計算科学                |     |        |     |     |        |     |
| 計算工学                   | 2   |        |     |     |        |     |
| 情報環境学                  | 1   | 1      | 1   | 1   | 1      | 1   |
| 人間行動システム               | 1   | 1      | 1   | 3   |        |     |
| 価値システム                 |     |        |     |     |        |     |
| 経営工学                   | 1   | 1      | 1   | 3   | 1      | 1   |
| 社会工学                   |     |        |     |     |        |     |
| 技術経営                   |     |        |     |     |        |     |
| イノベーション                |     |        |     |     |        |     |
| 大学院科目合計                | 25  | 15     | 12  | 24  | 11     | 9   |

|    | H27 |        |     | H26 |        |     |
|----|-----|--------|-----|-----|--------|-----|
|    | 登録数 | 内選定申請数 | 選定数 | 登録数 | 内選定申請数 | 選定数 |
| 総計 | 85  | 64     | 51  | 84  | 58     | 54  |

出典：教育推進室作成資料

（資料 3－6）創造性育成科目パンフレット

# ヒラメキ!

創造性育成科目 2016

学生自らつくる授業!? 創造性育成科目とは?

東京工業大学

## 創造性育成科目とは

主体的な学修ってなに?

創造性育成科目とは、学生が主体的・発見的に学修する機会を設け、新しいものや技術、アイデアを生み出すための創造力を育むことを目的とした講義科目です。

### 伝統のくさび型教育 vs 創造性教育

従来の「くさび型教育」は、教員が一方的に知識を伝授する形式で、学生は受け身の学習をする。一方、創造性教育は、学生が主体的に学び、自ら考え、創造力を発揮する学習形式である。

### 主体的な学修って??

シラバスで詳しく解説!!

| 科目名      | 担当教員  | 科目概要                      |
|----------|-------|---------------------------|
| 創造性育成科目Ⅰ | 山田 太郎 | 創造性育成科目Ⅰの概要と学習方法について解説する。 |
| 創造性育成科目Ⅱ | 山田 太郎 | 創造性育成科目Ⅱの概要と学習方法について解説する。 |
| 創造性育成科目Ⅲ | 山田 太郎 | 創造性育成科目Ⅲの概要と学習方法について解説する。 |
| 創造性育成科目Ⅳ | 山田 太郎 | 創造性育成科目Ⅳの概要と学習方法について解説する。 |
| 創造性育成科目Ⅴ | 山田 太郎 | 創造性育成科目Ⅴの概要と学習方法について解説する。 |

創造性育成科目Ⅰ～Ⅴの概要と学習方法について詳しく解説する。

### ホスター展示

ホスター展示とは、学生が自らつくる授業の成果を展示する場である。展示内容は、学生が自らつくる授業の成果、アイデア、技術などである。

### 過去の発表事例

| 発表者   | 発表題目                      | 発表内容                      | 発表場所          |
|-------|---------------------------|---------------------------|---------------|
| 山田 太郎 | 創造性育成科目Ⅰの概要と学習方法について解説する。 | 創造性育成科目Ⅰの概要と学習方法について解説する。 | 創造性育成科目Ⅰの発表会場 |
| 山田 太郎 | 創造性育成科目Ⅱの概要と学習方法について解説する。 | 創造性育成科目Ⅱの概要と学習方法について解説する。 | 創造性育成科目Ⅱの発表会場 |
| 山田 太郎 | 創造性育成科目Ⅲの概要と学習方法について解説する。 | 創造性育成科目Ⅲの概要と学習方法について解説する。 | 創造性育成科目Ⅲの発表会場 |
| 山田 太郎 | 創造性育成科目Ⅳの概要と学習方法について解説する。 | 創造性育成科目Ⅳの概要と学習方法について解説する。 | 創造性育成科目Ⅳの発表会場 |
| 山田 太郎 | 創造性育成科目Ⅴの概要と学習方法について解説する。 | 創造性育成科目Ⅴの概要と学習方法について解説する。 | 創造性育成科目Ⅴの発表会場 |

### サイエンスカフェー組織と運営ー

サイエンスカフェーとは、学生が自らつくる授業の成果を展示する場である。展示内容は、学生が自らつくる授業の成果、アイデア、技術などである。

### バイオクリエイティブデザインⅡ

バイオクリエイティブデザインⅡとは、学生が自らつくる授業の成果を展示する場である。展示内容は、学生が自らつくる授業の成果、アイデア、技術などである。

### パネルディスカッション

パネルディスカッションとは、学生が自らつくる授業の成果を展示する場である。展示内容は、学生が自らつくる授業の成果、アイデア、技術などである。

出典：教育推進室作成資料

(資料3-7) 夏季集中講義「ものづくり」シラバス

|                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                     |  |
|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--|
| <p><b>ものつくり</b><br/>Crafts<br/>( 山田 朗 専任 専攻 )</p> <p>更新日：2014年9月18日</p> <p>後期 / 履修学期：2</p> <p><b>講義概要</b></p> <p>この講義は、ものつくり教育研究センターが開講する創造性育成科目です。毎年、夏休み期間中に集中講義形式（9月中旬から下旬）で実施します。具体的な対象として「スターリングエンジン」を取り上げ、設計作業や材料加工、あるいはエンジンの調整・運転までの一連の作業について少人数のグループで取り組み、実際に動くエンジンを製作します。</p> <p><b>講義の目的</b></p> <p>本学には、ものつくりに興味を持つ学生がたくさんいると思われます。しかし、全ての学部・学科において設計作業や材料加工を学ぶ機会が提供されているわけではありません。本講義では、理論、設計（CADを含む）、製作、評価という一連のプロセスを体験し、「ものつくり」の楽しさや創意工夫の重要性を実感すること、創造性の基礎を育むことを目標としています。</p> <p><b>講義計画</b></p> <p>夏休み中の9月中旬下旬に2週間程度の集中講義。題材として「スターリングエンジン」を取り上げる。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. スターリングエンジンに関する座学</li> <li>2. 工作機械の安全講義と技術指導</li> <li>3. 3次元CADによる構造検討と機械加工のための2次元図面作成</li> <li>4. 機械加工および3Dプリンタによる部品製作</li> <li>5. 組立および試運転の後に図面数コンテスト</li> </ol> <p><b>教科書・参考書等</b></p> <p>必要に応じて配布する。</p> <p><b>関連科目・履修の条件等</b></p> <p>主に一年次学生を対象とするが、それ以外の学生も希望者数の状況に応じて可。</p> <p><b>成績評価</b></p> <p>製作物ならびに平常点の総合評価</p> <p><b>担当教員の一覧</b></p> <p>最近では、「勉強すると面白いことは教わるということ」と誤解している受身の新入生が多く見受けられるが、理論、シミュレーションと設計、製作、評価という一連のプロセスを体験することを通して「ものつくり」の楽しさや創意工夫の重要性を実感するせとにより、2年次以降の教育において積極性、創造性を発揮することを期待します。</p> |  |
|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--|

出典：TOKYO TECH OCW ホームページ

(資料3-8) 東工大ニュース記事 (バイオクリエティブデザインⅡ)

## 生物学部がIGEM世界大会で最優秀部門賞を3年連続獲得

学生発表
学生講演

10/25

10/25
 

サイト

生物学部チームが、IGEM世界大会で最優秀部門賞を、大会史上初となる3年連続獲得しました。

IGEM(The International Genetically Engineered Machine Competition)は国際的な合成生物学の大会です。学部生主体のチームが、BioBricksと呼ばれる規格化された遺伝子パーツを組み合わせて、新しい生命システムの設計・構築を行い、その成果をプレゼンテーションして審査されます。本年度は、10月31日～11月3日にボストンで大会が開催されました。マサチューセッツ工科大学(CMIT)、インペリアルカレッジ・ロンドン(英国)、清華大学(中国)など世界各国から約40チームが参加し、10の部門に2つの新部門がつけられ競い合いました。

本年度の東工大チームは、バイオエネルギーデザイン法の構築を受講する生命理工学部の学生11名、理学部の学生2名、工学部の学生1名で構成されました。消費電力・企業・銀行の相互作用を題材とした遺伝子ネットワークの構築と、シミュレーションでの検証を行いました。合成生物学の重要性を社会に発信すると同時に、経済システムを理解するための理学・工学間合作研究を目的としています。この結果、本学チームは10の部門うちのひとつであるInformation Processing部門において最優秀賞を勝ちました。

東工大チームがInformation Processing部門の最優秀賞を勝ちましたのは3年連続であり、この記録は10年5回におよぶ大会の歴史上初となる快挙です。これは本学学生の総合力の高さが世界に評価された結果であると考えられます。また、東工大は生質連続受賞の世界初です。出資制度の創設以来の8年間で連続しています。この連続記録を持つチームは全参加チーム中、東工大、スタンフォード大学、MIT、MITの4チームにのみ認められています。

(以下省略)

出典：本学ホームページ

## （資料３－９）「科学・技術の最前線」試行状況一覧

表 4.1 平成 27 年度国際フロンティア理工学教育プログラム試行実績

| 類  | 開催日<br>開催場所              | 講 師<br>所 属                                | 題 名                                                        |
|----|--------------------------|-------------------------------------------|------------------------------------------------------------|
| 1類 | 2015年12月9日<br>レクチャーシアター  | 谷本俊郎<br>カリフォルニア大学サンタバーバラ校                 | 地球観測の歴史と展望                                                 |
|    | 2016年1月27日<br>レクチャーシアター  | 長谷川祐司<br>ウイーン工科大学                         | 量子力学の基礎問題への挑戦-それって本当に正しいの？-                                |
| 2類 | 2015年12月22日<br>W631講義室   | 山本幸則<br>オークリッジ国立研究所                       | 東工大(2類)から世界へー20年後の君たちー                                     |
|    | 2015年10月19日<br>レクチャーシアター | J.Schoonman<br>デルフト工科大学                   | 化学第二                                                       |
| 3類 | 2015年10月23日<br>W541講義室   | J.Schoonman<br>デルフト工科大学                   | 有機化学第一                                                     |
|    | 2015年7月23日<br>レクチャーシアター  | 呉 允鋒, 修 正<br>ファナック(株)                     | 最先端マニファクチャリングシステムーファナック株式会社の取り組みー                          |
| 5類 | 2015年6月29日<br>レクチャーシアター  | 千葉明, 坂口知明<br>東工大, 東海旅客鉄道(株)               | 磁気浮上と磁気支持ーリニア新幹線にむけてー                                      |
|    | 2016年1月27日<br>レクチャーシアター  | ナダレンジャー<br>防災科学技術研究所                      | Drナダレンジャーの感性でとらえる自然災害科学実験教室                                |
| 7類 | 2015年12月9日<br>レクチャーシアター  | David V. Vactor<br>Harvard Medical School | How did I get there? Navigating Developmental Neurobiology |

(以下省略)

出典：国際フロンティア理工学教育プログラム作成資料

(資料3-10) 学生アンケート (科学・技術の最前線)

## 5類特別講義アンケート結果

テーマ:「磁気浮上と磁気支持 -リニア新幹線に向けて-

配布人数:205人 有効回答数:171人 回収率:83%

日時:2015年6月29日 15時05分~16時35分

場所:東工大レクチャーシアター

● 質問Ⅰ あなたの学年を教えてください

| 学年       | 人数   |
|----------|------|
| 5類1年生    | 171人 |
| 他類1年生    | 0人   |
| 2年以上の学部生 | 0人   |
| その他      | 0人   |

● 質問Ⅱ 講義内容は分かりやすかったですか？

| 回答   | 人数  |
|------|-----|
| 大変明瞭 | 54人 |
| 明瞭   | 84人 |
| 普通   | 26人 |
| やや難解 | 5人  |
| 難解   | 2人  |

● 質問Ⅲ 講義について全般的な評価をすればどれでしょうか？

| 評価   | 人数  |
|------|-----|
| 大変よい | 92人 |
| よい   | 60人 |
| 普通   | 12人 |
| 今ひとつ | 5人  |
| よくない | 1人  |

● 質問Ⅳ 本日の講義は実験を行うことを重点項目にしました。実験を伴う講義はいかがでしたか？

| 回答   | 人数  |
|------|-----|
| 大変よい | 67人 |
| よい   | 80人 |
| 普通   | 21人 |
| 今ひとつ | 1人  |
| よくない | 1人  |

● 質問Ⅴ 上の質問とも関連しますが、実験内容はいかがでしたか？

| 回答   | 人数  |
|------|-----|
| 大変よい | 67人 |
| よい   | 80人 |
| 普通   | 21人 |
| 今ひとつ | 1人  |
| よくない | 1人  |

● 質問Ⅵ 本日は外部講師に講義をしていただきました。外部の方に講義をしていただくことをどう思いますか？

| 回答   | 人数  |
|------|-----|
| 大変よい | 64人 |
| よい   | 75人 |
| 普通   | 25人 |
| 今ひとつ | 3人  |
| よくない | 1人  |

● 質問Ⅶ 今日の講義で学習意欲が高まりましたか？

| 回答         | 人数  |
|------------|-----|
| 大いに高まった    | 33人 |
| 高まった       | 56人 |
| 高まりそうな気がする | 69人 |
| 変わらない      | 11人 |
| 低下した       | 1人  |

● 質問Ⅷ 今日の講義で将来自分が目指す人物像についてヒントが得られましたか？

| 回答                           | 人数  |
|------------------------------|-----|
| 明確なヒントが得られた                  | 15人 |
| 明確なヒントが得られながらヒントが得られそうな予感がある | 43人 |
| ヒントが得られそうな予感がある              | 54人 |
| まだそこまで至っていない                 | 45人 |
| 全くない                         | 11人 |

● 質問Ⅸ レクチャーシアターの施設・設備はどうでしょうか？

| 回答      | 人数  |
|---------|-----|
| 大変素晴らしい | 59人 |
| 素晴らしい   | 68人 |
| 普通      | 33人 |
| 今ひとつ    | 4人  |
| よくない    | 3人  |

(一部抜粋)

出典：国際フロンティア理工学教育プログラム作成資料

45

（資料3-11）東工大ニュース記事（クリスマス・レクチャー）

## 英国科学実験講座2015クリスマス・レクチャー ー日本公演 開催報告

5151821 70

ツイート 5

RSS

社会連携 開催報告

2015.10.15

英国王立科学研究所(Royal Institution, 以下 RI)で毎年クリスマスの季節に開かれるクリスマス・レクチャーが、読売新聞社主催、東京工業大学共催により、この春竣工したばかりの東工大レクチャーシアター(TLT)で開催されました。



ジョージ教授と公演の様子

クリスマス・レクチャーは英国で190年前に始まり、日本でも1990年から毎年夏に開催されており、25回目となる本年、東工大で開かれることになりました。

内容は、昨年RIで開催された本場のクリスマス・レクチャーのうちのひとつである「電話」を、日本風、東工大風にアレンジされました。「『すごい』を伝えよう」と改題し、歴史的装置・技術、原理的実験、先進技術等を交えながら、五感の伝達を目標とするものです。

（以下省略）

出典：本学ホームページ

中期計画【4】「豊かな教養と高い専門性を習得する観点から、教養と専門の連携を強化した教育を実施する。」に係る状況

本学は「一般的教養と専門的知識とを学生に修得させる」と使命を掲げ、全学科目として人文社会科学系科目，理工系基礎科目，総合科目など各カテゴリーの科目を定めている。

全学科目の科目間の連携や専門教育との連携強化のため，全学科目教育協議会規程等に関する規程を一部改正及び制定し，全学科目教育協議会の審議事項に，新たに「全学科目と専門科目との連携に関する事項」を追加する等して環境を整備した（資料4－1，2）。また，学部から大学院までのカリキュラム全体における本学の教養・共通教育の在り方を検討するため，WGを設置し，教養・共通教育における教育目標や本学の各課程の教育目標における位置づけも含めて明確にし，その教育目標に基づき学部・大学院授業科目の内容，構成を見直すという考え方のもと，早急に取り組むべき事項をまとめた（資料4－3）。

人文社会科学系教育については，検討部会を設置し，履修体系等に関する今後の在り方及び専門科目との連携強化等に関する改革方針を明示するとともに，文系教養科目（文系科目，総合科目，文明科目）間の連携強化に向けた改革方針案をまとめた（資料4－4）。

理工系基礎科目の在り方については，理学部・生命理工学部における問題点を抽出し，その改善に向けた報告書をもとに，専門教育との連携を強化するなどの方策をさらに検討した（資料4－5）。

また，専門科目の担当教員と理工系基礎科目の担当教員間の連絡会を設置し，理工系基礎科目の一つである数学に係る類別の教授内容調整を行うなど，理工系基礎科目と専門教育との連携を強化した。さらに，東工大生に相応しい基礎学力と教養の涵養を徹底する方策として，理工系基礎科目履修案内及び1年次のガイダンスなどの機会において，理工系基礎科目の履修モデル，専門科目との関連性について学生に十分な説明を行っている（資料4－6）。

さらに国際性を涵養する観点から，自ら学んだ科学技術に関する深い専門知識に加えて，それを他分野の科学技術の発展に波及させられる素養と，我が国と世界の文化の理解，技術経営に関する知識，コミュニケーションスキルなどの人間力をもつ人材を養成することを目的とした「グローバルリーダー教育院」を23年4月に設置し，豊かな教養と高い専門性の習得が可能な教育を行う体制を整えた（資料4－7）。

28年度から実施する教育改革に合わせ，教育改革推進本部に置く部会において学士課程から博士後期課程まで，教養教育と専門教育を有機的に関連させていく，教育カリキュラムを策定した（資料4－8）。科目にナンバリングを行い200番台以降（入学後2年目以降）の専門科目の基礎となる知識を身に付けることを可能とするため，理工系教養科目（数学・物理学・化学・生命科学）にて科目区分毎に必修単位数を設けること等の100番台の教養科目のカリキュラム改革の具体策を策定するとともに，これを基に200番台以降の専門科目のカリキュラムを策定した（資料4－9，10）。専門教育と教養教育の連携を一層強化し，豊かな教養と高い専門性の習得が可能な教育を行うために文系の教員と理工系の教員が共同で開講する横断科目群を設置し，28年度から始まる本学の新たな教養教育を主導するた

め設置されるリベラルアーツ研究教育院と全ての学院が連携して横断科目を実施する体制を整え、講義を開始することとした（資料4－11）。

（資料4－1）全学科目教育協議会規程 新旧対照表(23.2.21)

| 東京工業大学全学科目教育協議会規程の一部改正理由                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                    |
|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 本改正は、全学科目の科目間の連携や専門教育との連携強化のため、所要の改正を行うものである。なお、文言の整理及び、教育推進室規則の制定等に伴う字句修正を併せて行う。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                 |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                    |
| 東京工業大学全学科目教育協議会規程一部改正案新旧対照表                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                       |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                    |
| アンダーラインの部分が改正点である。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                    |
| 改正案                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                               | 現 行                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                |
| <p>（国立大学法人東京工業大学教育推進室全学科目教育協議会規程）</p> <p>（設置）</p> <p>第1条 <u>国立大学法人東京工業大学教育推進室規則（平成22年規則第26条）</u>第6条の規定に基づき、<u>教育推進室に全学科目教育協議会</u>（以下「協議会」という。）を置く。</p> <p>（審議事項）</p> <p>第2条 協議会は、全学科目（学部においては文系科目、国際コミュニケーション科目、理工系基礎科目、総合科目、健康・スポーツ科目、情報ネットワーク科目、環境教育科目、創造性育成科目及び文明科目並びに教職に関する科目をいい、大学院においては国際コミュニケーション科目、総合科目、創造性育成科目、文明科目及び留学生科目をいう。）に係る次に掲げる事項について審議する。</p> <p>一 <u>全学科目教育の企画、運営及び実施に関する事項</u></p> <p>二 <u>全学科目と専門科目との連携に関する事項</u></p> <p>三 <u>授業科目の新設改廃、担当教員（非常勤講師を含む。）及び授業時間割等に関する事項</u></p> <p>四 <u>学生経費の配分に関する事項</u></p> <p>五 <u>非常勤講師等の配分に関する事項</u></p> <p>六 <u>既修得単位の認定に関する事項</u></p> <p>七 <u>その他協議会が必要と認める事項</u></p> <p>（組織）</p> <p>第3条 協議会は、次に掲げる者をもって組織する。</p> <p>一 第8条の規定に基づき置かれる各実施委員会の委員長</p> <p>二 <u>各担当</u></p> | <p>（東京工業大学全学科目教育協議会規程）</p> <p>（設置）</p> <p>第1条 東京工業大学教育推進室設置要綱第6条の規定に基づき、全学科目教育協議会（以下「協議会」という。）を置く。</p> <p>（審議事項）</p> <p>第2条 協議会は、全学科目（学部においては文系科目、国際コミュニケーション科目、理工系基礎科目、総合科目、健康・スポーツ科目、情報ネットワーク科目、環境教育科目、創造性育成科目及び文明科目並びに教職に関する科目をいい、大学院においては国際コミュニケーション科目、総合科目、創造性育成科目、文明科目及び留学生科目をいう。）に係る次に掲げる事項について審議する。</p> <p>一 教育の実施に関する連絡調整</p> <p>二 授業科目の新設改廃、担当教員（非常勤講師を含む。）及び授業時間割等に関する事項</p> <p>三 学生経費の配分に関する事項</p> <p>四 非常勤講師等の配分に関する事項</p> <p>五 既修得単位の認定に関する事項</p> <p>六 その他協議会が必要と認める事項</p> <p>（組織）</p> <p>第3条 協議会は、次に掲げる者をもって組織する。</p> <p>一 第8条の規定に基づき設置された各実施委員会委員長</p> <p>二 <u>理学部教授会構成員の中から教授会が選出した者（所定により選出された者を除く。）1人</u></p> <p>三 <u>工学部教授会構成員の中から教授会が選出した者（第1号により選出され</u></p> |
| -1-                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                               | （以下省略）                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                             |

出典：教育推進室作成資料

（資料４－２）全学科目 部会規程(23.2.21)

国立大学法人東京工業大学教育推進室全学科目教育協議会部会規程制定理由

本規程は、全学科目の科目間の連携や専門教育との連携強化のため、必要な事項を定めるものである。

○国立大学法人東京工業大学教育推進室全学科目教育協議会部会規程（案）

（趣旨）

第1条 この規程は、国立大学法人東京工業大学教育推進室全学科目教育協議会規程（平成〇年規程第〇号）第9条の規定に基づき、全学科目教育協議会に置かれる部会の組織及び運営等に関し必要な事項を定めるものとする。

（部会）

第2条 部会は、次に掲げる実施委員会等で構成するものとする。ただし、必要に応じ、異なる部会の構成員が当該部会に参加できるものとする。

- 一 文系・総合科目部会：文系科目実施委員会、総合科目実施委員会
- 二 理工系科目部会：理工系基礎科目（数学、物理学、化学、生命科学、宇宙地球科学、図学）実施委員会、国際コミュニケーション科目実施委員会
- 三 共通科目部会：健康・スポーツ科目実施委員会、情報科目実施委員会、環境教育科目実施委員会、教職科目実施委員会、創造性育成科目実施委員会
- 四 文明科目部会：文明科目実施委員会
- 五 大学院部会：大学院国際コミュニケーション科目実施委員会、大学院総合科目実施委員会、大学院留学生科目実施委員会

六 類部会：各類主任

2 部会は、必要に応じ、他の部会と合同して開催できるものとする。

（審議事項）

第3条 各部会（類部会を除く。）は、次に掲げる事項について審議する。

- 一 当該部会における実施委員会間の教育の企画及び内容等に関する事項
- 二 当該部会における実施委員会間の連携及び連絡に関する事項
- 三 当該部会における全学科目と専門科目との連携に関する事項
- 四 その他当該部会又は全学科目教育協議会が必要と認めた事項

2 類部会は、全学科目の教育に関する事項について審議するものとする。

（組織）

第4条 各部会（類部会を除く。）は、次に掲げる者をもって組織する。

- 一 当該部会を構成する実施委員会の委員長
- 二 当該部会を構成する実施委員会の構成員 若干人
- 三 その他当該部会又は全学科目教育協議会が必要と認めた者

（部会構成員の報告）

第5条 各部会（類部会を除く。）は、その構成員について、全学科目教育協議会に報告す

出典：教育推進室作成資料

（資料４－３）教養・共通教育検討WG報告

2011.10.18

教養・共通教育検討WG報告

WG主査 岸本喜久雄

1. WGの目的、経緯

本WGは、中期計画「豊かな教養と高い専門性を習得する観点から、教養と専門の連携を強化した教育を実施する」を踏まえ、本学の教育プログラムのさらなる充実を目指して、全学科目のみならず、学部から大学院まで含めたカリキュラム全体の中での本学の教養・共通教育のあり方について検討することを目的に設置されたもので、WGを2回開催し、集中的に審議を行った。その検討内容を踏まえて、今後早急に取り組むべき事項について、以下のように取り纏めを行った。

※ 平成23年度年度計画

- 1)ラーニングアウトカム及びカリキュラムポリシーに基づいた全学科目教育のあり方について検討する。
- 2)全学科目の科目間の連携や専門教育との連携強化を目指した教育のあり方について検討する。

2. 総括

- (1) 教養・共通教育における教育目標を、本学の教育目標（学士課程、修士課程、専門職学位課程、博士後期課程の教育目標）における位置づけも含めて、明確にし、本学ならではの教養・共通教育プログラムを構築する必要がある。
- (2) 教養・共通教育における教育目標に基づき、学部・大学院授業科目の内容、構成について見直す必要がある。
- (3) 学部1年次教育について、学科所属に必要な単位を規定するだけでなく、学習意欲の向上や自ら学ぶ力の涵養を図ることも含めて、学習達成目標を明確にする必要がある。
- (4) 理工系基礎科目について、その位置づけ（専門への橋渡しとしての基礎か理工系分野の教養なのか、あるいは双方かなど）について検討を行い、教育内容等について必要な見直しを行う必要がある。
- (5) 文系科目、総合科目、文明科目について、教養教育の必要性を学生に強く認識させる方策も含めて、内容、構成について検討する必要がある。

出典：教養・共通教育検討WG作成資料

## （資料４－４）全学科目改革検討部会報告書

## 全学科目改革検討部会報告書

## 1. はじめに

大学教育に対する社会からの基本的な要請は、「高度な専門学力と生涯使える知的基盤を教育する」ことであり、この要請に応える教育を実施することが求められる。全学科目は、学生の専門分野に関わる学習の基礎を築く科目として位置づけられるとともに、生涯必要な高い知的体力及び人間力を備えるための教養科目として重要な意味がある。

しかしながら、近年、本学の全学科目教育を行う上で、いくつかの問題点が指摘されるようになった。文系教養科目は文系科目、総合科目、文明科目など多岐に渡る一方、学生の自由選択によって履修されているため、有意義かつバランスのとれた教養が身につけていない可能性があり、履修のさせ方について再検討の必要が生じている。また、時代の変化と社会の要請に合わせて、教養教育の内容見直しの必要性も生じてきた。

さらに、理工系基礎科目は専門教育の準備としての基礎をなす科目であることはもちろんのこと、数学、物理学、化学、生物学等を理工系の基礎としてバランスよく身に付けておくことは俯瞰的視点を涵養する上で重要である。しかし、学生の学力低下や学習意欲の低下が見られるとともに、一部の理工系基礎科目の履修率の著しい低下が顕在化しており、本学の学生として必要な基礎学力を身に付けていない学生の増加が懸念されるようになった。

このような背景のもと、本学における全学科目の在り方（全学科目の名称、科目区分、授業科目及び担当教員数等を含む）を見直し、全学科目改革の方向性を平成 25 年 3 月まで作成するため、21 世紀の個性輝く東京工業大学検討委員会のもとに全学科目改革検討部会が平成 24 年 11 月に設置された。全学科目改革検討部会では、6 回にわたる委員会開催に加えて電子メールによる審議を経て、全学科目改革の方向性をまとめた。

本報告書では、全学科目改革検討部会の検討の結果をまとめて全学科目改革の方向性を答申として記す。また、検討の参考として用いた資料等を整理して添付する。

## 2. 現状及び課題整理

全学科目改革検討部会では、全学科目の現状及び課題を様々な視点から分析し、次のように整理してこれをもとに改革の方向性を検討した。

## 2-1. 全体事項

- 1) 東工大生が身に付けるべき教養教育を示し、これを責任もって教育する必要がある。
- 2) 文理融合の教育が東工大としてふさわしいと考えられる。
- 3) 教員の教授能力改善のための仕組み（例：ハーバード大学ボックスセンター）が無い。
- 4) 全学科目のポータルサイトを設け、ワンストップサービスによって学生、教職員にわかりやすい仕組みを作る必要がある。
- 5) 文系教養教育の充実には、図書館及び書店の充実も効果的ではないか。

出典：教養・共通教育検討 WG 作成資料

## （資料４－５）理工系基礎科目の改善に向けての提言

理工系基礎科目の改善に向けての提言

2013 年 3 月 1 日

理工系基礎科目検討ワーキンググループ

主査 中村隆司

理工系基礎科目は、東工大生が主として一年次に学ぶ**理工系の基礎・教養科目**である。東工大が標榜する「**時代を創るグローバル理工人**（注１）」にとっては、まさに、人生の“土台”を形成するための科目群であると言える。高学年の専門教育の準備段階として**関連する理工系基礎科目の修得が必須**であることは言うまでもないが、進む専門分野にかかわらず、“**バランスよく**”数学・物理・化学・生物等を理工人の教養として身に付けておくことも俯瞰的視点を涵養する上で重要である。

しかしながら、近年、受講する学生の学力低下や学習意欲の低下が見られ（注２）、東工大生に求められる基礎学力を身に付けていない学生の増加が懸念されるようになった。数字上からも一部の理工系基礎科目の履修率の低下が顕在化しており、類によっては履修人数が 10 年前の 100 名以上から、一桁の人数に落ち込んだ科目もある。まさに、学生の**モチベーションを高めるための改革**が喫緊の課題となっている。

この状況を受け、理学部では、2010 年度より、その実態を調査するとともに、改善に向けて議論を重ねてきた。その結果、まずは担当教員・部局による実践が第一である、との観点から、担当教員間の連携、演習と講義の連携強化、小テストの実施、相談室の増強、教員による相互の授業参観等を実施し、改善に向けて取り組んできた。しかし、これだけでは、多くの学生がバランスよく十分な数の理工系基礎科目を修得し、望まれるレベルに達して専門に進むという本来あるべき本科目の機能を回復するには至っていないのが現状である。生命理工学部でも、理工系基礎科目について実態調査が行われ、同学部にとって一番重要な生物学でさえ履修・修得が十分行われていないこと、専門との連携が十分でないこと等が明らかとなった。工学部においても基礎学力不足の問題点が認識され、数学科目の改革などに取り組んでいる。

このような状況のもと、教育推進会議が主導して、全学レベルで理工系基礎科目改善に取り組むためのワーキンググループ（本WG）が 2012 年度に立ち上げられ、議論を進めてきた。その結果、以下を**全学に向けて提言することとした**。すなわち、

- 1) **理工系基礎科目の意義・重要性を多様なルート・手段を通じて学生に伝える、**
  - 2) **専門科目と理工系基礎科目の連携を強める、**
  - 3) **学生に履修・修得を促すべく理工系基礎科目に関する制度の一部を改正する、**
- の 3 点である。具体的には平成 26 年度に向けて以下の施策を実施することを、本WGは求めるものである。

1) **理工系基礎科目の意義・重要性を多様なルート・手段を通じて学生に伝えること**

- i) 各学部・学科のオリエンテーションにおいて、理工系基礎科目の意義・重要性

（以下省略）

出典：理工系基礎科目検討 WG



（資料４－７）「グローバルリーダー教育院」概要

グローバルリーダー教育院 | グローバルリーダー教育院とは



Academy for Global Leadership  
グローバルリーダー教育院



東京工業大学  
Tokyo Institute of Technology

TOP | お問い合わせ | ENGLISH | 所属者専用ページ

グローバルリーダー教育院とは | 教育システム | 所属までの流れ | メッセージ | Q&A

## グローバルリーダー教育院とは

グローバルリーダー教育院とは

東京工業大学  
グローバルリーダー教育院規則

### グローバルリーダー教育院とは

科学技術や世界経済が国境を越え、ますますグローバル化が進む21世紀にあって、我が国においても、解決すべき政治課題の国際化や企業における事業の海外展開が一層進み、それにともないさまざまな分野でグローバルに活躍できるリーダー人材が必要とされています。

東京工業大学グローバルリーダー教育院（AGL）は、科学技術分野に強みを有する本学ならではの持ち味を活かし、全学を挙げて設置した国際的リーダー人材を養成する学位プログラムを有する教育院として平成23年4月に設置され、平成24年度には文部科学省「博士課程教育リーディングプログラム」に採択されました。全研究科より士気あふれる学生を募り、個々の専攻分野における深い専門知識をベースに、そのスキルを他分野の科学技術の発展に活かすことのできる素養、日本や世界における文化の理解と国際性、技術経営に関する知識、コミュニケーション能力、俯瞰力や行動力を備えた、“真のグローバルリーダー”を育成することを最大の目的としています。



▲パンフレット

▶教育システムについて

（一部抜粋）

出典：グローバルリーダー教育院ホームページ

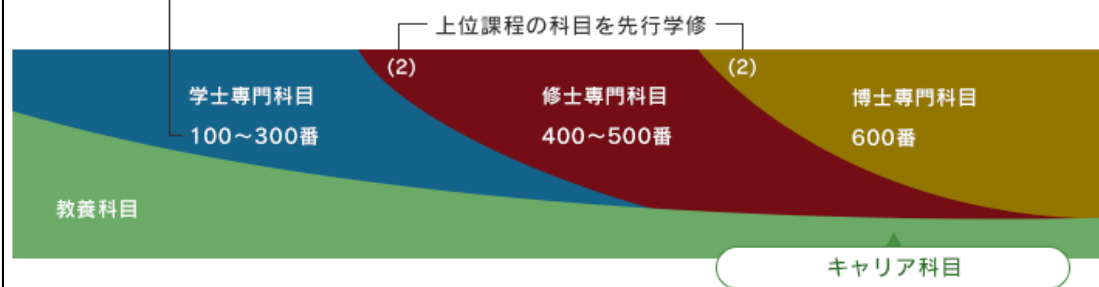
(資料 4－8) 平成 28 年度からの教育カリキュラム

## 東工大教育の特徴

東工大では、科学・技術の面白さや奥深さ、あるいは、科学・技術には社会を変える力があるのだ、ということを感じ取りながら、自ら学び考える力、創造力や表現力等、将来の夢に向かって必要な力を育むカリキュラムを用意しています。このカリキュラムにより、専門分野を究めることに加え、関連する分野やその社会的な背景や関連性も学修できます。そして、周囲と協調あるいは切磋琢磨しながら、リーダーとなる素養を持った大人に成長し、自信を持って社会・世界に羽ばたくことができます。

### 「一貫教育」と「くさび型教育」

(1) 科目を履修順序にナンバリングするため、学士から博士後期課程までの教育体系が明確で、課程をととして履修計画が立てやすいことも、特徴のひとつです。



出典：東工大ホームページ

(資料 4－9) 教育改革後の 100 番台科目一覧（一部抜粋）

| 科目細分   | 科目名 漢字           | 科目コード    | 単位    |
|--------|------------------|----------|-------|
| 文系教養科目 | 東工大立志プロジェクト      | LAH.C101 | 1-1-0 |
| 文系教養科目 | 哲学 A             | LAH.H101 | 1-0-0 |
| 文系教養科目 | 芸術 A             | LAH.H102 | 1-0-0 |
| 文系教養科目 | 文化人類学 A          | LAH.H103 | 1-0-0 |
| 文系教養科目 | 文学 A             | LAH.H104 | 1-0-0 |
| 文系教養科目 | 歴史学 A            | LAH.H105 | 1-0-0 |
| 文系教養科目 | 宗教学 A            | LAH.H106 | 1-0-0 |
| 文系教養科目 | コミュニケーション論 A     | LAH.H107 | 1-0-0 |
| 文系教養科目 | 教養特論：多文化共生論      | LAH.H108 | 1-0-0 |
| 文系教養科目 | 教養特論：言語と文化       | LAH.H109 | 1-0-0 |
| 文系教養科目 | 外国語への招待 1        | LAH.H110 | 1-0-0 |
| 文系教養科目 | 外国語への招待 2        | LAH.H111 | 1-0-0 |
| 文系教養科目 | 法学（憲法）A          | LAH.S101 | 1-0-0 |
| 文系教養科目 | 法学（民事法）A         | LAH.S102 | 1-0-0 |
| 文系教養科目 | 政治学 A            | LAH.S103 | 1-0-0 |
| 文系教養科目 | 国際関係論 A          | LAH.S104 | 1-0-0 |
| 文系教養科目 | 心理学 A            | LAH.S105 | 1-0-0 |
| 文系教養科目 | 教育学 A            | LAH.S106 | 1-0-0 |
| 文系教養科目 | 社会学 A            | LAH.S107 | 1-0-0 |
| 文系教養科目 | 現代社会論 A          | LAH.S108 | 1-0-0 |
| 文系教養科目 | 経済学 A            | LAH.S109 | 1-0-0 |
| 文系教養科目 | 現代ジャーナリズム A      | LAH.S110 | 1-0-0 |
| 文系教養科目 | 統計学 A            | LAH.T101 | 1-0-0 |
| 文系教養科目 | 科学史 A            | LAH.T102 | 1-0-0 |
| 文系教養科目 | 技術史 A            | LAH.T103 | 1-0-0 |
| 文系教養科目 | 科学技術社会論・科学技術政策 A | LAH.T104 | 1-0-0 |
| 文系教養科目 | 科学技術倫理 A         | LAH.T105 | 1-0-0 |
| 文系教養科目 | 科学哲学 A           | LAH.T106 | 1-0-0 |
| 文系教養科目 | 社会モデリング A        | LAH.T107 | 1-0-0 |
| 文系教養科目 | 意思決定論 A          | LAH.T108 | 1-0-0 |
| 文系教養科目 | 言語学 A            | LAH.T109 | 1-0-0 |
| 英語科目   | 英語第一             | LAH.E111 | 0-1-0 |
| 英語科目   | 英語第二             | LAH.E112 | 0-1-0 |
| 英語科目   | 英語第三             | LAH.E113 | 0-1-0 |
| 英語科目   | 英語第四             | LAH.E114 | 0-1-0 |

出典：教務課作成資料

(資料4-10) 200番台以降の系・コース科目の例（電気電子系・電気電子コース）

| 科目所属  | 科目名_漢字              | 科目コード    | 単位    |
|-------|---------------------|----------|-------|
| 電気電子系 | 解析学（電気電子）           | EEE.M201 | 2-0-0 |
| 電気電子系 | フーリエ変換とラプラス変換       | EEE.M211 | 2-0-0 |
| 電気電子系 | 計算アルゴリズムとプログラミング    | EEE.M221 | 2-0-0 |
| 電気電子系 | 応用確率統計              | EEE.M231 | 2-0-0 |
| 電気電子系 | 離散時間システム            | EEE.M241 | 1-0-0 |
| 電気電子系 | 電気回路第一              | EEE.C201 | 2-0-0 |
| 電気電子系 | 電気回路第二              | EEE.C202 | 2-0-0 |
| 電気電子系 | 電気電子工学実験第一A         | EEE.L211 | 0-0-1 |
| 電気電子系 | 電気電子工学実験第一B         | EEE.L212 | 0-0-1 |
| 電気電子系 | 電気電子工学実験第二A         | EEE.L221 | 0-0-1 |
| 電気電子系 | 電気電子工学実験第二B         | EEE.L222 | 0-0-1 |
| 電気電子系 | 電気電子工学実験第三A         | EEE.L231 | 0-0-1 |
| 電気電子系 | 電気電子工学実験第三B         | EEE.L232 | 0-0-1 |
| 電気電子系 | デジタル回路              | EEE.C321 | 2-0-0 |
| 電気電子系 | 信号システム              | EEE.S351 | 2-0-0 |
| 電気電子系 | 応用電子回路              | EEE.C311 | 2-0-0 |
| 電気電子系 | 半導体物性               | EEE.D211 | 2-0-0 |
| 電気電子系 | 電気電子材料              | EEE.D301 | 2-0-0 |
| 電気電子系 | 電子材料科学              | EEE.D311 | 1-0-0 |
| 電気電子系 | 電子デバイス第一            | EEE.D351 | 2-0-0 |
| 電気電子系 | 電子デバイス第二            | EEE.D352 | 1-0-0 |
| 電気電子系 | 半導体の光・電磁物性          | EEE.D331 | 1-0-0 |
| 電気電子系 | 記憶デバイス              | EEE.D371 | 1-0-0 |
| 電気電子系 | 光デバイス               | EEE.D361 | 1-0-0 |
| 電気電子系 | 半導体加工プロセス           | EEE.D391 | 1-0-0 |
| 電気電子系 | 集積回路工学              | EEE.C341 | 2-0-0 |
| 電気電子系 | コンピュータアーキテクチャ（電気電子） | EEE.C331 | 1-0-0 |
| 電気電子系 | 光エレクトロニクス           | EEE.S361 | 2-0-0 |
| 電気電子系 | 導波路工学および電波法         | EEE.S301 | 1-0-0 |
| 電気電子系 | 電力エネルギー変換工学         | EEE.P341 | 2-0-0 |
| 電気電子系 | 電力デバイス              | EEE.D381 | 1-0-0 |
| 電気電子系 | 電力工学実験A             | EEE.L341 | 0-0-1 |
| 電気電子系 | 電気機器設計および製図         | EEE.P351 | 1-0-1 |
| 電気電子系 | 電気法規および施設管理         | EEE.P361 | 1-0-0 |
| 電気電子系 | 電気鉄道                | EEE.P381 | 1-0-0 |

（一部抜粋）

出典：教務課作成資料

## (資料4-11) 横断科目群開講予定科目一覧

|     |        |          |        |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                    |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          |
|-----|--------|----------|--------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 400 | 文系教養科目 | LAH.T404 | 横断科目4  | 「我が国最高の理工系総合大学」である東工大の学生が、理工系の分野の広がりを知り、その分野の社会的位置づけを考え、分野を超えた俯瞰的な視点を獲得し、自らの専門について多角的に捉えるようにする。横断科目の各科目は、各学院とリベラルアーツ研究教育院とが協働して、科目を企画・運営する。                                                                                                                                                                                        | 本講義を履修することによって、以下の能力を取得する。<br>1) 特定の分野について、他の理工系の分野とのつながりの上で説明できるようにする。<br>2) 特定の分野の応用について説明できるようにする。<br>3) 特定の分野について、その社会的な背景と踏まえた具体的な説明ができるようにする。                                                                                                                                                                                      |
| 400 | 文系教養科目 | LAH.T405 | 横断科目5  | 本講義では、ビジネスゲームを扱います。これは、体験学習のひとつの方法で、複数のメンバーがチームとして協力し、状況に依存した知識の収集と利用法を体験するとともに、動机的かつ多様な制約下における意思決定を体験することができます。本講義では、ビジネスゲームの設計・開発・実施にあたっての技術的問題や、実装に必要な最新のコンピュータ技術、ケースメソッドの原理や、体験学習の評価手法についても紹介します。                                                                                                                              | 複雑な意思決定状況のもとでの競合と協調が必然となる企業ビジネスにおいて、ビジネスモデルをデザインし、動的な状況のもとでモデルを操作することが重要であることを体験学習によって知り、そのために必要な情報技術を学ぶ。                                                                                                                                                                                                                                |
| 400 | 文系教養科目 | LAH.T401 | 横断科目1  | 古典的なユークリッド幾何学から19世紀の非ユークリッド幾何学を経て現代幾何学に至る幾何学の発展史を通して、数学の歴史における人間と数学との関わり、およびその哲学・思想的発展の足跡を概観する。同時に、古典的な幾何学から現代的な幾何学まで幅広い範囲の幾何学について、その理論としての内容を概説する。<br>現在では様々な数理論理学において遺漏している現代的な数学や幾何学の理論がどのような歴史的背景と過程の中で構築され、どのような意義を持っているかについて概略的なヴィジョンを提示し、数理論理学一般およびその思想的背景について、より深い見識を養うことをねらいとする。                                          | ユークリッド幾何学の内容、特にその公理的な形式と論理構成について学び、演繹的な証明による理論の展開がすでに古代ギリシャの時代から受け継がれていることを理解する。それと同時に、平行線公理についての長い洞察から非ユークリッド幾何学や、さらには現代幾何学へと繋がったという思潮の流れを理解し、幾何学に限らない一般の数理論理学の基本的な精神が培われた過程について深い洞察を得る。                                                                                                                                                |
| 400 | 文系教養科目 | LAH.T403 | 横断科目3  | 本講義の主題は「医に展開する工学」である。医療に貢献する工学の技術開発に関する話題と知識を講義する。具体的には「手術ロボット」、「人工心臓」、「脳・神経を利用したインタフェース」、「生体計測と動作解析」を取り扱う。本講義のねらいは、教員と学生または学生同士の議論を通して、機械工学分野の広がりや社会的な位置づけを理解することである。                                                                                                                                                             | 本授業科目を履修することにより、授業計画に示す各回のトピックスに関する全体像と最近の動向を理解する。                                                                                                                                                                                                                                                                                       |
| 400 | 文系教養科目 | LAH.T406 | 横断科目6  | 生命科学分野の技術革新により、30年前には空想にすぎなかった様々なことが実験室レベルでは可能になってきた。しかし、それらが引き起こしかねない法的、倫理的、社会的な問題に関する議論は不十分である。本講義では、以下のような様々な問題について学生自身が自ら学び、考え、ディベートする機会を提供する。<br>・ゲノム編集技術を用いてヒトの生殖細胞を改変することを認めるべきか。<br>・安楽死を合法化すべきか。<br>・生物兵器に転用可能な研究を規制すべきか。<br>・ヒトのクローニングに関する研究をどう取り扱うべきか。<br>・本人の同意があっても臓器売買は認めるべきでないのか。<br>・個々人のゲノム情報の保護と利用をどのように両立させたいか。 | 本講義を履修することによって次の能力を修得する。<br>1) 本講義で取り上げる倫理的諸問題について理解を深め、論点を整理することができる。<br>2) 本講義で取り上げる倫理的諸問題について、賛否それぞれの立場から論理的かつ説得力のある立論と反駁を行うことができる。                                                                                                                                                                                                   |
| 400 | 文系教養科目 | LAH.T407 | 横断科目7  | 本講義では生命科学・生命工学における研究分野として微生物工学、生物有機化学、バイオ計測・イメージング、医用工学、生体材料工学、タンパク質工学、スポーツ科学を取りあげ、それらの概念や方法論、応用、現状について紹介し、その成果の社会への還元、問題点、将来的な発展について議論する。生命科学・生命工学の先進的な知識を修得し、それを他者に伝える能力を涵養することをねらいとする。                                                                                                                                          | 本講義を履修することによって次の能力を修得する。<br>1) 微生物工学の手法・応用・現状とその社会での役割を理解し、その社会還元を説明できる。<br>2) 生物有機化学のカバーする領域とその応用・利用を理解し、その成果の社会還元を説明できる。<br>3) バイオ計測とバイオイメージングを理解し、その社会還元を説明できる。<br>4) 医用工学における現状や問題点を理解し、どのように発展することが社会にとって望ましいかを考察できる。<br>5) 生体材料工学の役割を理解し、その社会還元を説明できる。<br>6) タンパク質工学の現状、問題点、将来展望を理解し、その社会還元を説明できる。<br>7) スポーツ科学の研究により集積されてきた知識が人間の |
| 400 | 文系教養科目 | LAH.T408 | 横断科目8  | 本講義の主題は「合意形成学」である。合意形成についてのさまざまな話題と知識を、講義を通して取り扱う。具体的には、「自然再生事業における合意形成」、「市民参加と合意形成」、「合意形成と法的拘束力」、「市民参画に向けた人材育成」、「討議型意識調査手法「Deliberative Poll」の実践」、「社会的合意形成のプロジェクト・マネジメント」を検討する。<br><br>合意形成についての知識体系を理解し、それを他者に伝える能力を涵養することが本講義のねらいである。                                                                                           | 講義を履修することによって次の能力を修得する。<br>1) 合意とは何か、合意形成とは何かを述べることができる。<br>2) 合意形成学の知識体系について、合意形成、社会的合意形成、自然再生事業、市民参加・市民参画、法的拘束力、社会環境整備、人材育成、討議型意識調査手法「Deliberative Poll」、プロジェクト・マネジメントなどの用語を用いながら、他者に説明することができる。                                                                                                                                       |
| 400 | 文系教養科目 | LAH.T409 | 横断科目9  | 本講義では、科学・技術・社会の間に生じる問題とそれへの対処の事例を学び、こういう問題にどのように取り組むべきかを考える。                                                                                                                                                                                                                                                                       | 科学・技術・社会の間に生じる問題について多面的にとらえることを学び、新しい問題が生じたときに対処できるようにする。                                                                                                                                                                                                                                                                                |
| 400 | 文系教養科目 | LAH.T410 | 横断科目10 | デジタルヒューマニティーズは、従来文系の手法で行われてきた人文学に対して、近年発達してきたデジタル化技術を活用し、文系的知見と理系的技術の融合を図る新しい学問領域である。文化資産をいかにアーカイブ化するかという問題から始まり、多言語・多分野に及ぶデータ記述に適切なフォーマット、大規模データと計算機資源を活用した計量的な意味分析の試みなどを扱っていく。講義では文学、音楽、思想・宗教などの領域に焦点を当て、デジタルヒューマニティーズの活用による新たな人文学の地平を提示する。                                                                                      | 様々なデジタル技術を用いて人文的な領域をどのように分析できるのかを学ぶ。また人文学についての理解を深めるとともに科学的な方法論の可能性、将来的な学問の姿についても考えていく。                                                                                                                                                                                                                                                  |
| 400 | 文系教養科目 | LAH.T411 | 横断科目11 | 本講義の主題は「シミュレーション社会科学」である。社会的ジレンマに陥る様々な問題状況、たとえば、万人の万人に対する競争状態やフリーライダー問題などを説明するとともに、進化ゲーム理論や進化シミュレーションの分析手法を用いて、これらのジレンマが、共同体、国家、市場等の制度の出現によって解決し得ることを紹介する。<br>講義では、問題状況を数理モデルやプログラムで定式化し、同時に、モデルにこめられた社会科学の意味を吟味する形で、言説中心の社会理論にない新しい社会理論を示す。同時に、学生とともに批判的な検討を加え、複雑な社会をシステム思考で洞察する力を涵養する。                                           | 本講義を履修することによって次の能力を修得する。<br>1) 口や心一般交換等の社会的交換行為、万人の万人に対する競争状態、フリーライダー問題、内集団偏見、略奪国家等の概念を理解することができる。<br>2) 囚徒概念が社会的ジレンマ等の構造を持つことが理解できる。また、これらが数理的なモデルやプログラムを用いて記述できることが理解できる。<br>3) 進化ゲーム理論や進化シミュレーションが社会科学にどう応用されるかが理解できる。<br>4) 田代から得られる結果を解釈できる。特に、数理モデルが、共同体、ネーション(国民)、ステーツ(国家)という現象の洞察につながるということが理解できる。                               |

(一部抜粋)

出典：教務課作成資料

中期計画【5】「学士課程の英語カリキュラムを充実するとともに、大学院課程においては英語による授業を拡充する。また、外国人教員の配置等により基礎専門科目等の授業を日本語と英語で実施する体制を整備するなど、グローバル人材育成に向けた取組を強化する。」に係る状況

学部の英語カリキュラム充実について検討するためWGを設置し、分析と制度検証を行った結果、学部5学期に基準設定点の到達を求める「英語5」の科目の位置づけが曖昧であること等の課題を抽出し、これらを改善するため、5学期に必ず学習申告・スコアを提出させ英語5の成績判定を行うこと、5学期に基準設定点に到達している場合には、6学期以降に到達した場合よりも高い成績で評価すること等の改善したカリキュラムを23年度学部新入生から適用した（資料5-1）。他の改善施策としては、学部卒業時の英語合格基準点を最低TOEIC500点から550点以上に引き上げ、目標点を730点として継続的な英語学習要件を整える、1年次学生に対してTOEIC-IP試験を受験させる、3年次学生に対して大学負担によるTOEIC公開テストを実施する、単位認定試験制度の見直しを行い、英語学習を促したことが挙げられる（資料5-2～4）。

また、学部向け英語開講科目についても継続した改善を行い、「アカデミック・プレゼンテーション」「アカデミック・ライティング」などの科目新設、英語による専門科目の開講、外国人教員による講義を実施した。さらに理工系基礎科目では、複数クラスのうち1クラスを英語開講クラスとした。英語を母国語とする教員を雇用して日本語開講クラスと同じ内容を講義し、さらに講義外でも学生に対して教員と会話する機会を与えた（資料5-5）。

24年度採択のグローバル人材育成推進事業を積極的に推進するために、学部にグローバル理工系育成コースを設置し「国際意識醸成」「英語力・コミュニケーション力強化」「科学技術を用いた国際協力実践」「実践型海外派遣」の4つのプログラムを開設した。本コースの設置により積極的に挑戦し活躍できるグローバル人材の育成を開始した。また、グローバル人材育成推進事業の語学力強化策の一環として、英語が堪能な留学生をTAとしたグループワーク、学内外の専門家による英語開講講義やワークショップなどを実施した（資料5-6～8）。

大学院での英語講義の拡充策として、英語開講科目数の拡充及び英語開講科目修得の明確化を進めた。開講科目における英語開講科目の割合は27年度に920科目に達し、21年度と比較して113科目増加した。また、修士課程の修了要件を24年度入学者から変更し、国際コミュニケーション科目を含む大学院教養・共通科目群から2単位以上修得することとした（資料5-9, 10）。さらに、大学院で英語学習の取組を実施している専攻は25年度に68%に達し、英語プレゼンテーション・ディベートなどの少人数講義の開講、博士後期課程学生がTAとして英語開講科目を円滑に補佐できるよう、外国人教員による授業表現科目の新設などを実施した（資料5-11）。

海外派遣プロジェクト科目や海外インターンシップ、海外大学等でのサマースクール参

加に対して単位認定を可能にした。また、理工系基礎科目について、26年度より日本語と英語で授業を実施する体制を整備し、英語による講義を拡充するとともに、28年度の学院体制移行後の学士課程の英語教育を充実すべく、新たに TOEFL の導入することを決定した。さらに英語検定試験により一定の成績を取得した学生が国際コミュニケーションⅠの単位を認定される制度に関し、認定の対象となる検定試験に28年度より新たに IELTS を加えることを決定するなど、新しいカリキュラムを構築した（資料5-12, 13）。

教員の英語教授能力向上については、教育革新センターによる「英語での授業法」「講義とプレゼンテーション」セミナーの開催、部局による英語授業改善WGの設置や英語FDの実施などを通じて、英語学習環境を充実させる取組を実施した（資料5-14, 15）。

なお、27年度には、日本語教育だけでなく教育一般・研究施設・環境等、幅広い項目により決定される、日本留学アワーズ「日本語学校の教職員が選ぶ留学生に勧めたい進学先」の27年国立大学部門（東日本）トップ校に選ばれた（資料5-16）。

#### （資料5-1）英語最終報告

### 学部学生の英語教育について（最終報告）

2011年2月4日

教育推進室英語教育改革WG

主査：渋谷 一彦

#### 1. 検討の経緯

現行の英語教育では、「英語教育改革WG最終答申」（平成17年1月教育推進室）に基づき、平成18年度から新しい英語教育カリキュラムを導入し、特に5学期以降には TOEIC テストを活用した成績評価を行っている。

今回、新カリキュラムを適用した学生（06学生）が卒業したことを受け、その実績について分析を行うとともに、現行の「英語5」「英語6」「英語7」における問題点について検討を行った。

なお、TOEIC 以外のテストを利用する（例えば、TOEFL 等に変更する）ことについても検討したが、今回初めて卒業生が出たばかりであり、今後、数年のデータ蓄積及びデータ分析が必要と考えられることから、現行通り、TOEIC テストのみを用いた成績評価を行うことが望ましいと考えたこと、また、「英語5」「英語6」「英語7」のいずれか1科目を卒業までに修得する必要があること（現行通り）として議論を進めた。

※ 06在学学生については、「英語5」または「英語6」或いは「英語7」の単位取得をしていない学生はいる。しかしながら、これらの学生は他の卒業要件に係る科目の単位も不足している等の状況があり、22年3月に英語のみが原因で卒業できなかった学生というのは存在しない。

（以下省略）

出典：英語教育改革WG作成資料

## （資料５－２）国際コミュニケーション科目履修案内

## 5. 国際コミュニケーション科目履修案内

## 国際コミュニケーション科目の授業

国際コミュニケーション科目の授業は、言語運用能力の調和的な発達をこころざし、外国語に習熟するとともに、あわせて外国文化一般について知識を得ることを目的としている。

国際コミュニケーション科目には必修科目としての「国際コミュニケーションⅠ」（英語）、「国際コミュニケーションⅡ」（ドイツ語、フランス語、ロシア語及び中国語）があり、別に選択科目としての「国際コミュニケーション選択」がある。

授業ではLLなど諸設備も利用し、外国語を読み、書き、聞く、話すなどの総合的な言語運用能力を高め、国際人としてのコミュニケーション能力を養成することを目的とする。

国際コミュニケーション科目の構成と推奨履修学期は表8, 9 (P.18)の通りである。

## 国際コミュニケーション科目Ⅰ,Ⅱの必要単位

国際コミュニケーションⅠは英語、国際コミュニケーションⅡはドイツ語、フランス語、ロシア語及び中国語である。これらの科目については、合わせて14単位を5学期の終わりにまでに取得することが望ましい。このうち、国際コミュニケーションⅠを10単位（英語1から英語4までの8単位及び英語5から英語7までのうちから2単位）取得し、国際コミュニケーションⅡのうちの1外国語を4単位取得するか、又は、国際コミュニケーションⅠを8単位（英語1から英語4までのうちから6単位及び英語5から英語7までのうちから2単位）取得し、国際コミュニケーションⅡのうちの1外国語を6単位取得しなければならない。（学部学習規程第24条参照）

|                              |                                                                                                                                                                              |
|------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 国際コミュニケーションⅠ<br>国際コミュニケーションⅡ | $\left\{ \begin{array}{l} 10 \text{ 単位}^{\ast} \\ 4 \text{ 単位} \end{array} \right\}$ または $\left\{ \begin{array}{l} 8 \text{ 単位}^{\ast} \\ 6 \text{ 単位} \end{array} \right\}$ |
| 合計                           | 14単位                                                                                                                                                                         |

※英語5から英語7までのいずれか2単位を含む

## 国際コミュニケーションⅠ

国際コミュニケーションⅠ（英語）は、英語1、英語2、英語3、英語4、英語5、英語6及び英語7からなる。

英語1は1学期に全員が履修する必修科目である。指定されたクラスで履修すること。

英語2は2学期に全員が履修する必修科目である。リーディング、ライティングを中心としたRWと、リスニング、スピーキングを中心としたLSとの2種類の授業が開講されるので、事前にどちらかを選び、指定されたクラスで受講する。なおLSは2種類のクラスに分かれる。

英語3、英語4はそれぞれ3学期、4学期に開講される。学生は、（1）英語3、英語4の両科目を履修するか、（2）英語3か英語4のいずれか1科目と国際コミュニケーションⅡの中級を履修するか、のどちらかを選択することになる。英語2と同様に、RWとLSの2種類が開講されるので、事前にどちらかを選び、指定されたクラスで受講する。なおLSについては英語2同様、2種類のクラス編成が行われる。

（以下省略）

出典：学部学習案内（平成23年4月入学者用）

(資料５－３) TOEIC 公開テスト実施掲示（学生宛）

平成２３年３月

学籍番号が「０９」で始まる学生の皆さんへ

学務部教務課

## 「TOEIC公開テスト」実施のお知らせ

皆さんが入学した際に、英語能力の把握を目的として、TOEIC－IP試験を実施しましたが、２年が経過した現時点での英語能力を把握するためTOEIC公開テストの受験機会を設けることとしました。（(財)国際ビジネスコミュニケーション協会 実施）

この試験は**学籍番号が「０９」で始まる学生（以下０９学生。）のみ対象**とし、下記のとおり実施しますので、受験して下さい。

なお、次年度は今回対象にならなかった０９学生と学籍番号が「１０」で始まる学生を対象として実施する予定です。

(以下省略)

出典：教務課作成資料

(資料５－４) 各学科の新しい基準設定点（合格基準点）・目標点一覧

| 各学科の新しい基準設定点(合格基準点)・目標点一覧 |       |       |     |
|---------------------------|-------|-------|-----|
| 学科・コース                    | 基準設定点 | 合格基準点 | 目標点 |
|                           | 変更前   | 変更後   |     |
| 数学科                       | 500   | 550   | 730 |
| 物理学科                      | 500   | 550   | 730 |
| 化学科                       | 500   | 550   | 730 |
| 情報科学科                     | 500   | 550   | 730 |
| 地球惑星科学科                   | 500   | 550   | 730 |

(以下省略)

出典：教務課作成資料

## (資料5-5) 物理学B (General Physics B) シラバス

**物理学B I-ab**

General Physics B

(江間 健司)

月曜日5-6時限開講 W641

シラバス更新日: 2015年9月16日

講義資料更新日: 2015年9月16日

後期 / 推奨学期: 2

**講義概要**

I 物理学Aと同じ方針で行う。所定の教科書を用いる。

II 静電界, 電流, 静磁界及び電磁波など。

**講義の目的**

電磁気学の基礎を学ぶ。基本的な電磁現象の意味を把握し、それらの数学的な表現を与える。  
電磁現象を究明する際の物理学の方法や概念を理解し、それらを実際に応用できるようにする。  
なお、講義計画は必要に応じてその一部を変更することもある。

**講義計画**

1. 静電界の性質 (I)  
クローンの法則、電界、電界に関するガウスの法則
2. 静電界の性質 (II)  
電位、電気双極子
3. 導体 (I)  
導体、導体内の電荷と電界
4. 導体 (II)  
コンデンサーと静電エネルギー、電界のエネルギー、マクスウェル応力
5. 定常電流  
電流とオームの法則、電流の電子論
6. 静磁界  
磁界、電流に働く磁気力
7. 電流と磁界 (I)  
電流の作る磁界、ビオ・サバールの法則
8. 電流と磁界 (II)  
アンペールの法則、磁束密度に関するガウスの法則
9. 変動する電磁界 (I)  
電磁誘導の法則、誘導電界
10. 変動する電磁界 (II)  
相互誘導と自己誘導
11. 変動する電磁界 (III)  
電束線の運動と磁界、変位電流
12. マクスウェル方程式と電磁波  
積分形および微分形マクスウェル方程式、電磁波

**教科書・参考書等**

田中秀数著「電磁気学」培風館、物理学課程入門コース

**関連科目・履修の条件等**

物理学Aを履修していることが望ましい。  
基礎物理学演習を併せて履修することを強く推奨する。

**成績評価**

期末試験等による。

**物理学B I-cd**

General Physics B

(TILMA TODD EDWARD)

月曜日5-6時段開講 H136

シラバス更新日：2015年10月25日

講義資料更新日：2015年9月26日

アクセス指標：★★★★★

開講資料

後期 / 履修学期：2

**講義概要**

In this class you will learn about electromagnetic fields, including electrostatics and magnetostatics, EM waves, and even a bit of relativity (if we have time). You will also learn some of the mathematical techniques of importance to physics.

**講義の目的**

Now, as one of my professors used to say, "my duty is to help you learn and your duty is to learn." So with that in mind, my plan is as follows. I'm going to cover the text, following the below schedule to the best of my ability. Your duties include studying the text and handouts, reading other texts as necessary, working with other in the class, doing homework, and taking exams. I assign lots of homework (in relative terms), and you should work together to complete it. However, what you submit must be in your own words and using your own ideas. My exams are challenging but doable; if you have done all the homework as well as worked through the problems in the textbook, you should be able to pass. However, you are expected to attend class and enshuu (and be prepared!) and to participate: One of your main duties is to ask questions. If you don't come and don't participate, you won't be able to succeed. It's your choice.

**講義計画**

Review (5 October)

数学練習

Lecture 1 (19 October)

電気力と電場

Lecture 2 (26 October)

電気力と電場

Lecture 3 (2 November)

電位と電気容量

Lecture 4 (9 November)

電位と電気容量

Lecture 5 (16 November)

電流と直流回路

Lecture 6 (30 November)

電流と直流回路

Take Home Exam One (Posted 2 December @ 08:00. Due 4 December @ 20:00)

Lecture 7 (7 December)

磁気力と磁場

Lecture 8 (14 December)

磁気力と磁場

Lecture 9 (21 December)

ファラデーの法則とインダクタンス

Lecture 10 (4 January)

ファラデーの法則とインダクタンス

Lecture 11 (12 January)

電磁波

Lecture 12 (18 January)

出典：TOKYO TECH OCW ホームページ

(資料5-6) H27 学部授業科目一覧表(学部・国際コミュニケーション科目等)

| IV 理工系基礎科目 |                                |                         |                      |             |                                                                                             |
|------------|--------------------------------|-------------------------|----------------------|-------------|---------------------------------------------------------------------------------------------|
|            | 授 業 科 目                        | 単 位                     | 推 奨 課 程              | 推奨<br>学期    | 担 当 教 員                                                                                     |
|            | 微 分 積 分 学 第一<br>同 第二A<br>同 第二B | 2-0-0<br>2-0-0<br>2-0-0 |                      | 1<br>2<br>2 | {<br>° 柳田, 山田, 内藤, 利根川,<br>磯部, 柴田, 米田, 田辺,<br>三浦(英), 寺嶋, プレジナ,<br>*滝口, *高井, *見正,<br>*谷口     |
|            | 線 形 代 数 学 第一<br>同 第二A<br>同 第二B | 2-0-0<br>2-0-0<br>2-0-0 |                      | 1<br>2<br>2 | {<br>° 柳田, 黒川, 遠藤, 芥川,<br>加藤, 村山, 水本,<br>カールマン, 馬, 二宮,<br>プレジナ, *梶原, *三浦(真)                 |
|            | 微 分 積 分 学 演 習 第一<br>同 第二       | 0-1-0<br>0-1-0          |                      | 1<br>2      | {<br>° 柳田, 染川, 田辺, 河井,<br>野田, 川内, 柴田, 皆川,<br>山川, 新田, 糟谷, 菅,<br>鈴木(政), 野村, プレジナ              |
|            | 線 形 代 数 学 演 習 第一<br>同 第二       | 0-1-0<br>0-1-0          |                      | 1<br>2      | {<br>° 柳田, 染川, 田辺, 河井,<br>野田, 川内, 柴田, 皆川,<br>山川, 新田, 糟谷, 菅,<br>鈴木(政), 野村, プレジナ              |
|            | 物 理 学 A                        | 2-0-0                   | 1, 2, 3, 5, 6, 7類    | 1           | {<br>° 垣本, 河合, 中村, 金森,<br>宗宮, 相川, 竹内, T. Tilma,<br>谷城, 椎野, 綿引, 筒井,<br>*田村                   |
|            | 同 B                            | 2-0-0                   | 1, 2, 3, 4, 5, 6, 7類 | 2           | {<br>° 江間, 垣本, 吉野, 河合,<br>大熊, 中村, 久世, 實吉,<br>平原, 相川, 竹内, T. Tilma,<br>高橋, 宗片, 河野, 平山,<br>腰原 |
|            | 同 C                            | 2-0-0                   | 1, 4, 6類             | 1           | {<br>° 西森, 柴田, 藤澤, 大熊,<br>上妻, 宗宮, 笹本                                                        |
|            | 基 礎 物 理 学 演 習                  | 0-2-0                   |                      | 1~2         | {<br>° 田中, 垣本, 西森, 江間,<br>綿引, 椎野, *安井                                                       |
|            | 基 礎 物 理 学 実 験                  | 0.5-0-1.5               |                      | 1~2         | {<br>° 田中, 垣本, 江間, 常定,<br>町田, 加来, 栗田                                                        |

(以下省略)

出典：学部学習案内

## (資料5-7) H25～H27 英語科目一覧

| 英語による授業科目(学部) 平成27年度 |      |                                                           | Dec.18.2015<br>※英語トレーニングのための科目を含む |         |    |
|----------------------|------|-----------------------------------------------------------|-----------------------------------|---------|----|
| 分類                   | 申告番号 | 授業科目名(和文)                                                 | 担当教員                              | 学期      | 備考 |
| 文系科目                 | 0482 | Topics on Japan I 英語で学ぶ日本事情 I                             | 佐藤 由利子                            | 6       |    |
| 文系科目                 | 0483 | Topics on Japan II 英語で学ぶ日本事情II                            | 佐藤 由利子                            | 5       |    |
| 文明科目                 | 0813 | Advanced Art Workshop A                                   | *Susanne Meyer                    | 3,5,7   |    |
| 文明科目                 | 0803 | Advanced Art Workshop B                                   | *Susanne Meyer                    | 4,6,8   |    |
| 文明科目                 | 0846 | Contemporary Art Workshop I                               | *鈴木 昭男                            | 3,5,7   |    |
| 文明科目                 | 0828 | 現代アートワークショップA                                             | *Susanne Meyer                    | 1,3,5,7 |    |
| 文明科目                 | 0878 | 現代アートワークショップB                                             | *Susanne Meyer                    | 2,4,6,8 |    |
| 文明科目                 | 0832 | 映像基礎ワークショップ                                               | *Androniki Christodoulou          | 1,3,5,7 |    |
| 文明科目                 | 0882 | 映像応用ワークショップ                                               | *Androniki Christodoulou          | 4,6,8   |    |
| 文明科目                 | 0844 | How Architects and Planners Improve Our Built Environment | *DAVID BUTLER STEWART             | 3,5,7   |    |
| 文明科目                 | 0853 | Advanced Art Making Seminar                               | *Susanne Meyer                    | 4,6,8   |    |
| 理工系基礎科目              | 1021 | 微分積分学第一                                                   | *BREZINA JAN                      | 1       |    |
| 理工系基礎科目              | 1121 | 線形代数学第一                                                   | *BREZINA JAN                      | 1       |    |
| 理工系基礎科目              | 1231 | 微分積分学演習第一                                                 | *BREZINA JAN                      | 1       |    |
| 理工系基礎科目              | 1331 | 線形代数学演習第一                                                 | *BREZINA JAN                      | 1       |    |
| 理工系基礎科目              | 1081 | 微分積分学第二A                                                  | *BREZINA JAN                      | 2       |    |
| 理工系基礎科目              | 1181 | 線形代数学第二B                                                  | *BREZINA JAN                      | 2       |    |
| 理工系基礎科目              | 1281 | 微分積分学演習第二                                                 | *BREZINA JAN                      | 2       |    |
| 理工系基礎科目              | 1381 | 線形代数学演習第二                                                 | *BREZINA JAN                      | 2       |    |
| 理工系基礎科目              | 1502 | 物理学A                                                      | *TILMA TODD EDWARD                | 1       |    |

(一部抜粋)

出典：教務課作成資料

## (資料5-8) グローバル理工人育成コース概要

**グローバル理工人育成コース**

グローバル理工人育成コースとは

本学では学部卒業までの9年が大学院へ進学することから、大学院修了後に新興国を含む世界でリーダーシップを発揮できる人材を育成すべく、学部課程卒業後に大学院課程において国際水準の教育研究活動を行い得る、高度な能力を身に付けさせることを目的として学部にて設置されたコースで、「国際意識醸成プログラム」、「英語力・コミュニケーション力強化プログラム」、「科学技術を用いた国際協力実践プログラム」、「実践型海外派遣プログラム」の4つのプログラムにより構成されます。

本コースに所属する学生は、学部の標準課程を選択することに加えて、上記4つのプログラムで、高い質の保証システムによる厳格な進捗の管理と成績評価を受け、各プログラム所定の単位を取得すること。TOEIC750以上またはTOEFL iBT80以上の語学力を身に付けること。そして、ポートフォリオによる学生個々が修得した能力の評価と、進捗による習熟度及びグローバル人材足り得るかの評価を受けることとし、すべての要件を満たすことで、コース修了が認定されます。

**グローバル理工人育成コース4つのプログラム**

- 国際意識醸成プログラム
- 英語力・コミュニケーション力強化プログラム
- 科学技術を用いた国際協力実践プログラム
- 実践型海外派遣プログラム

(一部抜粋)

出典：グローバル人材育成推進支援室ホームページ

## （資料５－９）修士課程枠組みの見直し（まとめ）

|                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                   |
|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p style="text-align: right;">2011年5月11日</p> <p>東京工業大学大学院修士課程教育の枠組みの見直し（案）のまとめ</p> <p style="text-align: right;">教育推進室 教育改革 WG 修士分科会</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          |
| <p>本案は、東京工業大学第2期中期目標・中期計画（2010-2015）とそれに基づく教育関連ポリシーの具体化に対応して、各専攻での修士課程のカリキュラムの充実と修士論文の研究指導を改善していくための第一段階として、現行の修士課程教育の枠組みを、つぎの2つの視点で見直すものである。</p> <p>① 授業科目を再分類して授業科目の取得目的を明確にする</p> <p>② 修士論文研究における学修成果の評価方法を授業科目と連動させて明確化する</p> <p>そのための、主な変更箇所はつぎのとおりである。また、表1に授業科目の分類と必要単位数を新旧対照の形式でまとめる。</p> <p>1. 授業科目分類の変更</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>- 研究科目群、専門科目群、大学院教養・共通科目群の3つの科目群に区分。</li> <li>- 研究科目群として、講究科目（旧：講究）に加えて研究関連科目を分類。</li> <li>- 専門科目群として、自専攻科目、他専攻科目の代わりに、専攻専門科目、他専門科目を分類。</li> <li>- 大学院教養・共通科目群として、大学院国際コミュニケーション科目、大学院総合科目、大学院広域科目、大学院留学生科目、大学院文理科目（仮）、大学院キャリア科目（仮）を分類。</li> <li>- 専攻のすべての授業科目は、各専攻の指定に基づき、上記のいずれかの科目分類（専攻専門科目、他専門科目等）に重複を許さず割り当てる。</li> </ul> <p>2. 必要単位数の見直し</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>- 研究科目群と専門科目群を合わせて18単位以上（うち講究科目は4単位以上）とする。</li> <li>- 大学院教養・共通科目群を2単位以上とする。</li> <li>- 上記に加えて、詳細な必要単位数は各専攻で指定する。</li> </ul> <p>注1）専門職学位課程、博士後期課程においても、提案する授業科目分類を適用する。</p> |

（以下省略）

出典：教育推進室作成資料

## （資料５－10）東京工業大学大学院学習規程抜粋

(授業科目及び単位数)

第3条 大学院の授業科目及び単位数は、各研究科の定めるところによる。

2 大学院の授業科目は、次の科目群及び授業科目区分に区分するものとする。

| 科 目 群       | 授業科目区分                                                                                   |
|-------------|------------------------------------------------------------------------------------------|
| 研究科目群       | 講究科目<br>研究関連科目                                                                           |
| 専門科目群       | 専攻専門科目<br>他専門科目                                                                          |
| 大学院教養・共通科目群 | 大学院国際コミュニケーション科目<br>大学院総合科目<br>大学院広域科目<br>大学院文明科目<br>大学院キャリア科目<br>大学院創造性育成科目<br>大学院留学生科目 |

3 前項に規定する大学院教養・共通科目群の「大学院国際コミュニケーション科目」、「大学院総合科目」、「大学院文明科目」、「大学院キャリア科目」、「大学院創造性育成科目」及び「大学院留学生科目」は、大学院の共通授業科目とし、全研究科の承認を得て定める。また、「大学院広域科目」は、各研究科の共通授業科目とし、各研究科において定める。

4 前項の規定にかかわらず、各専攻は、「大学院国際コミュニケーション科目」又は「大学院キャリア科目」と同様の内容の専攻の授業科目を、大学院教養・共通科目群の専攻指定科目として区分することができる。

出典：大学院学習案内（平成 23 年 4 月入学者用）

（資料 5－11）H27 年度大学院英語科目一覧

|                               |
|-------------------------------|
| H27(2015)英語開講科目一覧             |
| KMM X                         |
| 英語理学講義(数学1)                   |
| 英語理学講義(数学2)                   |
| 英語理学講義(数学3)                   |
| 英語理学講義(数学4)                   |
| Current Chemistry I           |
| Current Chemistry II          |
| 物理学アカデミックプレゼンテーション            |
| 英語理学講義(基礎物理)第一                |
| 英語理学講義(基礎物理)第三                |
| 英語理学講義(基礎物理)第五                |
| 量子物理学・ナノサイエンスアカデミックプレゼンテーション  |
| 英語理学講義(基礎物理)第七                |
| 英語理学講義(基礎物理)第九                |
| 英語理学講義(物性物理)1                 |
| 英語理学講義(物性物理)2                 |
| 英語理学講義(物性物理)3                 |
| 英語理学講義(物性物理)4                 |
| 有機材料科学設計特論                    |
| Frontier of Materials Science |
| 材料の環境劣化                       |

（一部抜粋）

出典：教務課作成資料

（資料 5－12）理工系基礎科目英語開講クラス一覧

| 理工系基礎科目英語開講クラス一覧 |      |           |      |                     |    |    |
|------------------|------|-----------|------|---------------------|----|----|
| 分類               | 申告番号 | 授業科目名(和文) | クラス数 | 担当教員                | 学期 | 備考 |
| 理工系基礎科目          | 1021 | 微分積分学第一   | 1    | *BREZINA JAN        | 1  |    |
| 理工系基礎科目          | 1121 | 線形代数学第一   | 1    | *BREZINA JAN        | 1  |    |
| 理工系基礎科目          | 1231 | 微分積分学演習第一 | 1    | *BREZINA JAN        | 1  |    |
| 理工系基礎科目          | 1331 | 線形代数学演習第一 | 1    | *BREZINA JAN        | 1  |    |
| 理工系基礎科目          | 1081 | 微分積分学第二B  | 1    | *BREZINA JAN        | 2  |    |
| 理工系基礎科目          | 1181 | 線形代数学第二B  | 1    | *BREZINA JAN        | 2  |    |
| 理工系基礎科目          | 1281 | 微分積分学演習第二 | 1    | *BREZINA JAN        | 2  |    |
| 理工系基礎科目          | 1381 | 線形代数学演習第二 | 1    | *BREZINA JAN        | 2  |    |
| 理工系基礎科目          | 1502 | 物理学A      | 1    | *TILMA TODD EDWARD  | 1  |    |
| 理工系基礎科目          | 1532 | 物理学B      | 1    | *TILMA TODD EDWARD  | 2  |    |
| 理工系基礎科目          | 1631 | 化学第一      | 2    | *JUHASZ GERGELY MIK | 1  |    |
| 理工系基礎科目          | 1671 | 化学第二      | 3    | *JUHASZ GERGELY MIK | 2  |    |
| 理工系基礎科目          | 1705 | 基礎生物学A    | 2    | 本郷 ,*TAKAHASHI      | 1  |    |
| 理工系基礎科目          | 1736 | 基礎生物学B    | 2    | *TAKAHASHI MASAYUKI | 2  |    |

出典：教務課作成資料

(資料 5－13) TOEFL 導入に関する資料

## TOEFL 導入に関する資料

(教育改革実施WG (H28. 1. 13))

## 英語第九について

○英語第九は、平成 28 年度以降の学士課程入学者を対象として開講される必修科目（1 単位）である。（現行の英語 5（2 単位）の後継科目）

## H27/4/22 説明会資料（抜粋）

## 3－9. 教養系科目及びキャリア科目

## ① 教養系科目

(中略)

また、国際的通用性及び海外留学促進の観点から、現行の英語カリキュラムで TOEIC を対象としている「英語 5」については、教育改革後は「英語第九」として、TOEFL も対象とし、全学同一の合格基準で合否の成績を用いる。

○学修評価等は以下のとおり

- ・英語第九の学修評価においては、3 年目に大学が実施する TOEFL ITP および 3 年目以降に個別に受験した TOEFL iBT, TOEFL ITP, TOEIC 公開テストのスコアを対象とする。

| 英語第九における各基準       | TOEFL iBT | TOEFL ITP | TOEIC（公開） |
|-------------------|-----------|-----------|-----------|
| 到達目標点             | 80        | 550       | 750       |
| 合格基準点（英語第九）       | 60        | 500       | 600       |
| 合格基準点（英語第九 再履修） ※ | 50        | 470       | 500       |

※ 授業履修による評価との合算となる。

- ・全学同一の合格基準とし、合格・不合格で判定する。
- ・到達目標点は、SGU 構想で目標設定された「外国語力基準」に準じて決定。

○その他

- ・合格基準点等は 2～3 年を目途に、見直しについて再度検討する。
- ・平成 28 年度以降の学士課程入学者に対し、入学時及び入学後 3 年目の 2 回、TOEFL ITP を大学費用負担で実施する。（入学時に実施する TOEFL ITP は、英語第九には使わない。）

## 平成 28 年度以降の平成 27 年度以前入学の学部学生の取扱いについて

- ・3 年次に英語 5（必修）を履修する。（現行通り、TOEIC IP 又は TOEIC 公開テストのスコアにより成績付与）
- ・入学 3 年目の学部学生に対して TOEIC 公開テストを大学費用負担で実施する。（現行通り） ※入学時の TOEIC IP は実施済。

出典：教務課作成資料

（資料5－14）「英語での授業法」セミナーの開催案内

教育企画G 様

平成27年7月28日

各学院・系コース及びリベラルアーツ研究教育院  
専門職学位課程創設準備責任者 各位

教育革新センター 事務担当

平成27年度東京工業大学FD研修（英語での授業法研修）の開催について

いつも格別のご協力をいただき、ありがとうございます。  
先日ご案内しました、FD研修（英語での授業法研修）の開催と申し込みについて  
再度ご案内いたします。

すでに満席、あるいは残席わずかとなっている研修もございますので、  
ご希望の方はお早めにお申し込みください。

内容確認、お申し込み等は下記教育革新センターのHPからとなります。

<http://www.citl.titech.ac.jp/index.php/event/>

お忙しい中恐縮ではございますが、ご担当の各関係常勤教員へ  
周知いただきますようお願い申し上げます。

教育革新センター  
森田・川井・先名・森山  
内線:2993  
[E-mail:citl@jim.titech.ac.jp](mailto:citl@jim.titech.ac.jp)

出典：教育革新センター作成資料

（資料5－15）「講義とプレゼンテーション」セミナーの開催案内

平成27年11月25日

学科長・専攻長  
附置研究所・研究施設等の長 殿

教育革新センター センター長 松澤 昭

平成27年度 教育革新センター主催の英語による研修（後期）について

いつも格別のご協力をいただき、ありがとうございます。  
今回は「ブリティッシュカウンシルによるFD研修」と「英語によるセミナー」をご案内致します。  
そのほか後期にも英語による研修、セミナーを予定しておりますので、  
ご担当の各関係常勤教員へ周知いただきますよう、よろしくお願い申し上げます。

記

==【ブリティッシュカウンシルによるFD研修】12月10日（木）==  
「講義とプレゼンテーション」実施概要

1. 研修日時

12月10日（木）9:30～16:40

2. 目的

英語で講義を行う必要がある教員に対して、必要な英語（表現）スキル、手法等を身につけるための研修です。

3. 研修プログラム

90分のレッスンを4コマ

概要はこちら <http://www.citl.titech.ac.jp/cdata/H27/bc0.pdf>

4. 対象者、人数

英語レベル中級程度。ネイティブスピーカーによる英語でのレッスンに対応できるレベルが必要です。  
各コース12名まで

5. 研修場所

大岡山キャンパス 西9号館213号室（教育革新センター研修室）

<http://www.citl.titech.ac.jp/access-map/>

6. 申込み 教育革新センターHPより

<http://www.citl.titech.ac.jp/eventmenu/engeve/>

7. 実施体制

教育革新センターの協力を得て、BRITISH COUNCILが企画・実施します。  
BRITISH COUNCILは英国の公的な国際文化交流機関として、世界100以上の  
国と地域で英国と諸外国の文化交流活動を推進し、また、企業・大学等への機関へ  
英語教育プログラムを提供しています

==【英語によるセミナー】12月4日（金）==

「Teaching in English ～ “Online learning with MOOCs at edX: present and future”」

申し込み及び概要はこちら

<http://www.citl.titech.ac.jp/eventmenu/engeve/>

出典：教育革新センター作成資料

（資料５－１６）東工大ニュース記事（日本留学アワーズ「留学生に勧めたい進学先」国公立大学部門（東日本）を受賞）

## 日本留学アワーズ「留学生に勧めたい進学先」国公立大学部門（東日本）を受賞

[受賞・表彰](#)[教育](#)

2015.09.10

東京工業大学が、日本留学アワーズ「日本語学校の教職員が選ぶ留学生に勧めたい進学先」の2015年国公立大学部門（東日本）トップ校に選ばれました。



表彰式の様子

**受賞理由**

理工系最高峰の名にふさわしい設備と教育内容は、学生を成長させてくれていると感じる。

教授が学生をよく把握しており、留学生にもきめ細かく指導してくれる。

（以下省略）

出典：本学ホームページ

中期計画【6】「セミナーやフォーラム、留学生交流企画等、キャンパス内外で英語に接する場を充実するとともに、大学院学生を中心として、学生が海外で活動する機会を増加させる。」に係る状況

東工大留学フェアを毎年開催し、各国大使館等の講演や個別ブースの集中開設を行うなど、海外留学に関する情報提供を行うほか、留学前・出発6ヶ月前オリエンテーション、派遣交換留学経験者等による留学成果報告 My Study Abroad 留学報告会、英語関連科目の開講、英語でのセミナー・シンポジウム等を開催している（資料6-1, 2）。

また、学生及び教職員が利用できる空間としてインターナショナル・コミュニケーションズ・スペース（ICS）を設置し、毎週水曜日の昼休み時間に英語による意見交換の場 Think Aloud を開催している（資料6-3）。

学部学生向けには、留学規定を変更し、従来2年次以上に限られた留学を1年次から可能としたほか、創造性育成科目の成果を国際コンテストで発表する機会の提供（資料3-8, P33）、「大学の世界展開力強化事業」による学部学生を対象とした短期派遣、グローバル人材育成推進事業での短期留学等を実施している（資料6-4～7）。

大学院生向けには、博士後期課程の3ヶ月以上の海外経験を授業科目として認定、修士課程学生の海外留学期間上限を1年から1年6ヶ月に延長、「世界理工系トップ大学との学生交流促進プログラム」「グローバル理工学系人材育成プログラム」「日本アジア理工系学生交流プログラム」「大学の世界展開力強化事業」や「卓越した大学院拠点形成支援補助金」などによる海外での活動機会を提供している（資料6-8, 9）。

また、海外で国際夏の学校を開催し実践的な場での英語力強化を図った（資料6-10）。その他、国際会議参加の統計を取るなど約60%の専攻で海外活動機会の調査検討を行い、情報提供方法の改善を進めてきた。

なお、27年度からスーパーグローバル大学創成支援事業により、新たに4つの海外派遣プログラムを実施し、22～27年度にかけて、一年度あたりの派遣学生数を約4倍までに増加させた（資料6-11）。これらの種々の情報を集約して学生に伝えるため、学生向けのメールニュースを発刊した。

さらには、留学コンシェルジュサービス（留学相談）を開始し、留学プログラム、留学先の選択、留学準備等に関する相談及び情報提供を行う体制を整備した（資料6-12）。

（資料6-1）東工大留学フェア2016 プログラム

## 東工大留学フェア2016

### 4月20日(水) 大岡山 プログラム

#### 第1部【全体説明】13:30～14:30

東工大蔵前会館(TTF) 1階くらまえホール

|             |                  |                       |
|-------------|------------------|-----------------------|
| 13:30～13:35 | 1) 挨拶            | 副学長(国際連携担当) 関口秀俊      |
| 13:35～13:55 | 2) 各種留学プログラムについて | 国際部留学生交流課 坂本和慶        |
| 13:55～14:15 | 3) 外国語学習について     | リベラルアーツ研究教育院 准教授 薩摩竜郎 |
| 14:15～14:30 | 4) 留学体験談         | 工学院 准教授 坂本啓           |

#### 第2部【ブースでの個別相談】14:30～17:00

1階 ロイヤルブルーホール・ギャラリー／2階 小・大会議室

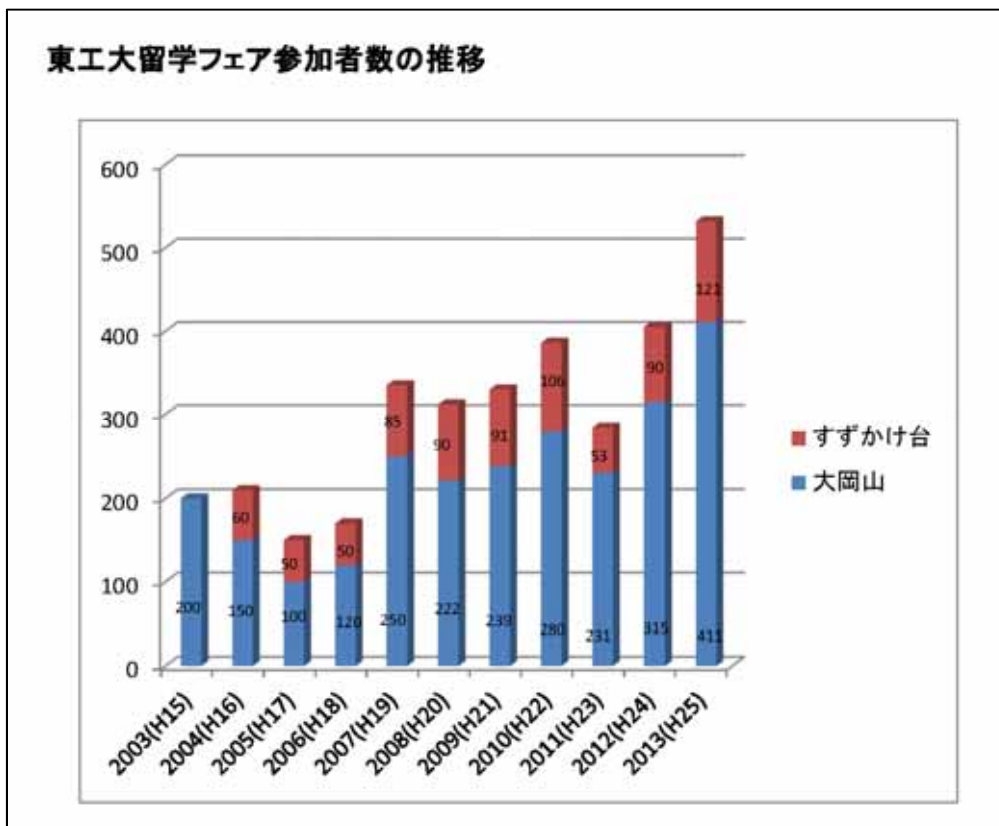
【グローバル理工人 留学報告会】15:00～17:00

3階 手島記念会議室

| 場所                   | ブース名                                        | 担当                                  |
|----------------------|---------------------------------------------|-------------------------------------|
| 1階<br>ロイヤル<br>ブルーホール | [1] 外国語学習相談室                                | 【リベラルアーツ研究教育院】<br>英語・ドイツ語・中国語       |
|                      | [2] アメリカ留学                                  | 【米国大学院学生会】<br>カリフォルニア大学バークレー校 留学経験者 |
|                      | [3] イギリス留学                                  | 【ブリティッシュカウンシル】                      |
|                      | [4] ドイツ留学                                   | 【ドイツ学術交流会】<br>ミュンヘン工科大学留学経験者        |
|                      | [5] イタリア留学                                  | 【イタリア文化会館】                          |
|                      | [6] スウェーデン留学                                | 【スウェーデン大使館】スウェーデン留学経験者              |
|                      | [7] フランス留学                                  | 【Campus France】                     |
|                      | [8] TOEFL                                   | 【国際教育交換協議会(CIEE)】【本学生協】             |
|                      | [9] IELTS                                   | 【日本英語検定協会】                          |
|                      | [10] ヴルカヌス・イン・ヨーロッパ<br>(海外インターンシップ)         | 【日欧産業協力センター】                        |
|                      | [11] IAESTE(海外インターンシップ)                     | 【東工大IAESTE会】                        |
|                      | [12] トビタテ！留学JAPAN                           | トビタテ！留学JAPAN 派遣学生                   |
| 1階<br>ギャラリー          | [13] 短期語学留学<br>(オーストラリア・モナシュ大学、TASTE)       | 【国際連携課】                             |
|                      | [14] シンガポール留学                               | シンガポール国立大学                          |
|                      | [15] フィリピン留学                                | デラサール大学留学経験者                        |
|                      | [16] Tokyo Tech AYSEAS                      | 【国際事業課】留学経験者                        |
|                      | [17] ASPIRE League                          | 【国際連携課】留学経験者                        |
| 2階<br>小会議室           | [18] 留学総合相談                                 | 【留学生交流課】                            |
|                      | [19] 留学と就職活動                                | キャリアアドバイザー                          |
| 2階<br>大会議室           | [20] グローバル人材のための<br>サイエンスコミュニケーション/科学技術デザイン | 【環境・社会理工学院 野原研究室】                   |
|                      | [21] 大学の世界展開力強化事業(トルコ)                      | 【留学生交流課】留学経験者                       |
|                      | [22] 東工大-清華大学大学院合同プログラム<br>中国留学             | 【留学生交流課】清華大学留学経験者                   |
|                      | [23] 韓国留学                                   | KAIST留学経験者                          |
|                      | [24] オランダ留学                                 | デルフト工科大学留学経験者                       |
|                      | [25] スイス留学                                  | スイス連邦工科大学チューリッヒ校・ローザンヌ<br>校留学経験者    |
|                      | [26] デンマーク留学                                | デンマーク工科大学留学経験者                      |
|                      | [27] AOTULE、SERP、台湾科技大学短期留学                 | 【工系3学院国際連携室】                        |
| 3階<br>手島記念<br>会議室    | [28] グローバル理工人育成コース<br>(超短期派遣) 留学報告会         | 【グローバル人材育成推進支援室】<br>留学経験者           |

出典：留学生交流課作成資料

（資料 6－2）東工大留学フェア参加者数の推移（H25 まで）



出典：留学生交流課作成資料

（資料 6－3）Think Aloud

Think Aloud! LUNCH

水曜のランチ、12時30分はICSへ！“Think Aloud! LUNCH”とは？

大学では「自分の頭の中で考える」。ということのみが考えるということではありません。深く考えるということは、自分の考えを誰かに話し、他者の意見にも耳を傾けてはじめて可能になるのです。“Think Aloud! LUNCH”はそのためのイベントであり、毎週水曜のお昼休みにHUB-ICSで開催しています。毎回トピックが与えられ、短いビデオクリップを観ます。その後グループにわかれて英語でディスカッションを行います。フレンドリーでリラックスした雰囲気の中でみんなで考え、自分の意見を話してみましょ。ディスカッションの後にはさまざまな英語のフレーズを紹介します。東工大の学生とスタッフの皆さん、お弁当を持ってぜひご参加ください。昼食時のイベントですので、飲食が可能です。

出典：HUB-ICS ホームページ

---

出典：留学生交流課作成資料

---

(以下省略)

(資料 6－6) AOTULE 交流実績

| AOTULE交流実績  |         |      |       |      |       |        |          |       |       |       |      |       |
|-------------|---------|------|-------|------|-------|--------|----------|-------|-------|-------|------|-------|
|             | UniMelb | 清華   | HKUST | IIIB | KAIST | Malaya | Auckland | NTU-S | NTU-T | Chula | 計    |       |
| H19<br>2007 | 派遣      | 0    | 0     | 0    | 0     | 0      | 0        | 0     | 0     | 0     | 0    | 0     |
|             | 受入      |      |       |      | (26)  |        |          |       |       |       | (26) |       |
| H20<br>2008 | 派遣      | 0    | 0     | 0    | 0     | 0      | 0        | 0     | 0     | 0     | 0    | 0     |
|             | 受入      | 1    | 2     | 1    | 2     | 2      | 1        | 2     | 2     | 0     | 13   |       |
| H21<br>2009 | 派遣      | 0    | 0     | 0    | 0     | 0      | 0        | 0     | 0     | 0     | 0    | 0     |
|             | 受入      | 1    | 1     | 0    | 1     | 1      | 2        | 3     | 2     | 2     | 13   |       |
| H22<br>2010 | 派遣      | 0    | 0     | 0    | 0     | 0      | 1        | 0     | 0     | 0     | 0    | 0     |
|             | 受入      | 1    | 2     | (23) | 2     | 1      | 1        | 1     | 2     | 2     | 13   |       |
| H23<br>2011 | 派遣      | 1    | 0     | 0    | 0     | 0      | 4        | 0     | 1     | 0     | 0    | 0     |
|             | 受入      | 0    | (24)  | 1    | 0     | 1      | 2        | 1     | 1     | 1     | 10   |       |
| H24<br>2012 | 派遣      | 1    | 0     | 0    | 1     | 0      | 1        | 2     | 1     | 0     | 0    | 0     |
|             | 受入      | 0    | 1     | 2    | 1     | 2      | (23)     | 1     | 0     | 2     | 1    | 12    |
| H25<br>2013 | 派遣      | 0    | 0     | 0    | 2     | 0      | 0        | 1     | 0     | 1     | 0    | 4     |
|             | 受入      | 1    | 1     | 2    | 0     | 2      | 2        | 2     | 2     | 1     | 2    | 15    |
| H26<br>2014 | 派遣      | 1    | 0     | 0    | 1     | 0      | 0        | 1     | 0     | 0     | 1    | 4     |
|             | 受入      | (20) | 0     | 2    | 0     | 0      | 2        | 2     | 2     | 2     | 2    | 12    |
| 計           | 派遣      | 3    | 0     | 0    | 4     | 0      | 5        | 5     | 2     | 1     | 1    | 21    |
|             | 受入      | (20) | (24)  | 0    | (23)  | (26)   | (23)     | (21)  | 0     | (19)  | (20) | (176) |
|             | 差       | 1    | 7     | 12   | 3     | 10     | 12       | 10    | 11    | 12    | 10   | 83    |
|             | 差*      | 2    | -7    | -12  | 1     | -10    | -7       | -5    | -9    | -11   | -9   | -67   |
|             | 差*      | 22   | 17    | -12  | 24    | 16     | 16       | 16    | -9    | 8     | 11   | 109   |

※派遣は、各大学実施サマープログラム等への派遣者数を含む  
 ※括弧()内の数字はAOTULE学生ワークショップに派遣した大学院生数  
 ※差\*はAOTULE学生ワークショップに派遣した大学院生数を含む場合の（派遣）－（受入）の値

出典：国際部作成資料

(資料 6－7) SERP 交流実績表

| SEPP交流実績表         |           |    |           |    |           |    |           |    |           |    |           |    |           |    |           |    |           |    |           |    |           |    |    | 2014.8.22現在 |           |  |
|-------------------|-----------|----|-----------|----|-----------|----|-----------|----|-----------|----|-----------|----|-----------|----|-----------|----|-----------|----|-----------|----|-----------|----|----|-------------|-----------|--|
| 大学                | H.17 2005 |    | H.18 2006 |    | H.19 2007 |    | H.20 2008 |    | H.21 2009 |    | H.22 2010 |    | H.23 2011 |    | H.24 2012 |    | H.25 2013 |    | H.26 2014 |    | H.27 2015 |    | 計  |             | 派遣数-受け入れ数 |  |
|                   | 派遣        | 受入 | 派遣        | 受入 | 派遣        | 受入 | 派遣        | 受入 | 派遣        | 受入 | 派遣        | 受入 | 派遣        | 受入 | 派遣        | 受入 | 派遣        | 受入 | 派遣        | 受入 | 派遣        | 受入 | 派遣 | 受入          |           |  |
| ケンブリッジ大学          | 3         |    | 2         |    | 3         |    | 3         | 1  | 1         |    | 2         |    | 1         |    | 2         |    |           | 2  | 1         | 1  |           |    | 18 | 4           | 14        |  |
| オックスフォード大学        |           |    |           |    |           |    | 2         | 1  | 1         | 2  | 1         | 3  | 2         | 1  | 1         | 2  | 2         | 1  | 2         |    |           |    | 11 | 10          | 1         |  |
| インペリアルカレッジ        | 2         |    | 2         |    | 2         |    | 2         | 1  | 2         | 1  | 2         |    | 1         |    | 1         |    | 1         |    |           |    |           |    | 15 | 2           | 13        |  |
| ウォーリック大学          |           |    |           |    |           |    | 1         |    | 1         |    | 1         |    |           | 1  | 1         | 1  |           |    |           |    |           |    | 5  | 1           | 4         |  |
| サウサンプトン大学         |           |    |           |    |           |    |           |    |           |    |           |    |           |    |           |    | 1         |    |           | 1  |           |    | 1  | 1           | 0         |  |
| アーヘン工科大学          |           |    |           |    |           |    |           |    |           |    |           |    |           |    | 1         |    | 1         |    |           | 3  |           |    | 2  | 3           | -1        |  |
| エコール・ポリテクニク       |           |    |           |    |           |    |           |    |           |    |           |    |           |    |           |    |           |    |           |    |           |    | 0  | 0           | 0         |  |
| UPMC (パリ第6大学)     |           |    |           |    |           |    |           |    |           |    |           |    |           |    |           |    | 1         | 2  |           | 3  |           |    | 1  | 5           | -4        |  |
| マドリード工科大学         |           |    |           |    |           |    |           |    |           |    |           |    |           |    | 1         |    |           | 3  |           | 3  |           |    | 1  | 6           | -5        |  |
| ミネソタ大学            |           | 1  | 2         |    | 1         |    |           |    | 2         |    | 1         | 2  | 1         | 1  |           |    | 1         |    | 1         |    |           |    | 10 | 3           | 7         |  |
| ウィスコンシン大学         |           |    |           |    |           |    |           |    |           |    |           | 2  |           |    |           |    | 1         |    | 2         |    |           |    | 5  | 0           | 5         |  |
| カリフォルニア大学サンタバーバラ校 |           |    |           |    |           |    |           |    |           |    |           |    |           |    |           |    |           |    |           |    |           |    |    |             |           |  |
| 計                 | 5         | 1  | 6         |    | 6         |    | 8         | 3  | 7         | 3  | 6         | 4  | 8         | 2  | 8         | 3  | 9         | 8  | 6         | 11 | 0         | 0  | 69 | 35          | 34        |  |
| ブラウン大学*           |           |    |           |    |           |    |           |    |           |    |           |    | 1         |    |           |    |           |    |           |    |           |    |    |             |           |  |

\* H23まではSEPP協定に準ずる大学としてカウントしていたが、H24からSEPPから除外することに決定

出典：国際部作成資料

(資料6－8) 大学の世界展開力強化事業 概要

  
 在学生の方

## 大学の世界展開力強化事業

大学の世界展開力強化事業は、平成23年度より文部科学省が開始したプログラムで、国際的に活躍できるグローバル人材の育成と大学教育のグローバル展開力の強化を目指しています。本学からは、日中韓先進科学技術大学教育環とグローバル理工系リーダー養成協働ネットワークの2件が採択されています。

東工大・大学の世界展開力強化事業ホームページ  
<http://www.ipo.titech.ac.jp/tier/> 

### 日中韓先進科学技術大学教育環

清華大学(中国)、韓国科学技術院(KAIST)(韓国)と学生交流、研究交流を行うことで、東アジア最高の理工系大学間の連携を深めています。清華大生・KAIST生を東工大で受け入れ、東工大生を両大学に派遣し大学寮で生活をしながら研究活動を行います。「知っているようで知らない」隣国を深く知ることが、国際的なキャリアを築く第一歩となります。

日中韓先進科学技術大学教育環  
<http://www.ipo.titech.ac.jp/campusasia/japanese/> 

### グローバル理工系リーダー養成協働ネットワーク

欧米を中心とした世界トップクラスの大学16校(カリフォルニア工科大学、カリフォルニア大学バークレー校、スイス連邦工科大学など)と学生交流、研究交流を行うことで、世界最高水準の理工系ネットワークを構築しています。これらパートナー大学の学生を東工大の研究室で受け入れ、パートナー大学で受け入れ研究室が決まった東工大生の研究活動を支援することで、大学間のつながりを広げ、グローバル理工系リーダーを育てていきます。

グローバル理工系リーダー養成協働ネットワーク  
<http://www.ipo.titech.ac.jp/tirop/japanese/> 






(一部抜粋)

出典：本学ホームページ

（資料 6－9）Tokyo Tech-AYSEAS 概要

# AYSEAS, Tokyo Tech-Asia Young Scientist and Engineer Advanced Study Program

## Tokyo Tech-AYSEASの概要

Tokyo Tech-AYSEAS (Tokyo Tech-Asia Young Scientist and Engineer Advanced Study Program) は、グローバル理工人育成コースの実践型海外派遣プログラムの1つです。JAYSES (Japan-Asia Young Scientist and Engineer Study Visit) を前身とし、授業の一環として単位化されました。東工大生が東南アジアの国に赴き、タイ、インドネシア、フィリピン、シンガポール、ベトナム等現地・近隣諸国の大学生とともに企業、政府機関、大学、JICA等の施設を訪問し、インターカルチュラルコミュニケーションを通してグローバル化へのモチベーションの向上を図ります。国籍・文化・言語・専門等バックグラウンドの異なる学生及び教員による対話形式の講義として行われます。

[Tokyo Tech-AYSEAS 2016](#)

## 過去の活動

- [Tokyo Tech-AYSEAS 2015](#)
- [Tokyo Tech-AYSEAS 2014](#)
- [Tokyo Tech-AYSEAS 2013](#)
- [JAYSES 2012](#)
- [JAYSES 2011](#)
- [JAYSES 2010](#)
- [JAYSES 2009](#)
- [JAYSES 2008](#)
- [JAYSES 2007](#)

## お問い合わせ

AYSEAS担当 : [ayseas\\_at\\_jim.titech.ac.jp](mailto:ayseas_at_jim.titech.ac.jp) (\_at\_ を@に置き換えてください)

東京工業大学 国際部国際事業課



Tokyo Tech  
AYSEAS

Language

にほんご

English

**Tokyo Tech-AYSEAS**

Copyright (C) Tokyo Tech-AYSEAS Working Committee All Rights Reserved.

（一部抜粋）

出典：Tokyo Tech-AYSEAS ホームページ

(資料6-10) 国際夏の学校 \_ 東京工業大学 情報生命博士教育院

東京工業大学  
情報生命博士教育院  
文部科学省 平成23年度「博士課程教育リーディングプログラム」

お問い合わせ FAQ アクセス サイトマップ 検索

一般の方 在学生・教員 参加希望学生 English

ホーム 情報生命博士教育院 案内 プログラムの特徴 カリキュラム 教員紹介 成果紹介 写真集

ホーム > プログラムの特徴 > 国際夏の学校

国際夏の学校

国際夏の学校

学生が主体となり、海外からの著名講師や海外提携校の学生を招いて「国際夏の学校」を開催します。夏の学校では、教員側も全体の企画の支援はしますが、プログラムの企画や海外とのやりとりなどの多くを学生が自主的に担うことにより、国際的な場でのリーダーシップやコミュニケーション能力の向上を図ります。発表や議論の公用語が英語であるだけでなく、海外参加者との事前の調整にも英語での交渉能力が必須となります。

**第一回 国際夏の学校** <国内開催>  
・日 時: 2012年8月3日(月)～5日(水)  
・開催地: 海軍国際村センター  
・参加者: ACLS学生41名、海外学生11名、招聘講演者8名、東工大教員30名(含: FD研修)

**第二回 国際夏の学校** <海外開催>  
・日 時: 2013年8月9日(月)～13日(金)  
・開催地: Imperial College London (イギリス)  
・参加者: ACLS学生42名、海外学生14名、招聘講演者8名、東工大・ICL教員14名

**第三回 国際夏の学校** <海外開催>  
・日 時: 2014年8月13日(水)～19日(火)  
・開催地: Purdue University(米国)  
・参加者: ACLS学生38名、海外学生12名、招聘講演者7名、東工大教員8名

**第四回 国際夏の学校** <海外開催>  
・日 時: 2015年8月30日(日)～9月6日(日)  
・開催地: University of Oxford(イギリス)

[Event overview](#)

**第五回 国際夏の学校** <海外開催>  
・日 時: 2016年8月28日(日)～9月4日(日)  
・開催地: Weill Cornell Medical College, Cornell University (米国)

**プログラムの特徴**

- グループ型問題解決演習
- 異文化コミュニケーション能力の涵養
- 国際夏の学校
- 産学官連携によるキャリアパス教育
- 短期インターンシップ
- 協力機関一覧

教員の声 学生の声

開催決定のお知らせ

情報生命博士教育院  
国際夏の学校2016

日時: 2016年8月28日(日)～9月4日(日)  
場所: コーネル大学(アメリカ・ニューヨーク)  
対象: 情報生命博士院専攻、課程参加学生、海外からの招聘学生

問い合わせ: acls@titech.ac.jp

NEW

ACLS Personal English Lessons

6月

日 月 火 水 木 金 土

出典：情報生命博士教育院ホームページ

<http://www.acls.titech.ac.jp/ja/node/64>

## (資料6-11) プログラム別学生交流実績数（派遣・受入）

プログラム別海外派遣学生数【国際室プログラムのみ】（2010年度～2015年度）

（単位：人）

| プログラム名                                          | 2010年度     |            | 2011年度     |            | 2012年度     |            | 2013年度     |            | 2014年度     |            | 2015年度     |            | 合計  | 備考                                                                    |
|-------------------------------------------------|------------|------------|------------|------------|------------|------------|------------|------------|------------|------------|------------|------------|-----|-----------------------------------------------------------------------|
|                                                 | 日本人<br>学生数 | 外国人<br>学生数 | 日本人<br>学生数 | 外国人<br>学生数 | 日本人<br>学生数 | 外国人<br>学生数 | 日本人<br>学生数 | 外国人<br>学生数 | 日本人<br>学生数 | 外国人<br>学生数 | 日本人<br>学生数 | 外国人<br>学生数 |     |                                                                       |
| 1 派遣交換留学                                        | 47         | 46         | 34         | 33         | 26         | 24         | 39         | 33         | 42         | 36         | 57         | 51         | 245 |                                                                       |
| 2 世界展開力強化事業（タイプA）                               | -          | -          | -          | -          | 11         | 11         | 10         | 9          | 12         | 9          | 6          | 5          | 39  |                                                                       |
| 3 世界展開力強化事業（タイプB）                               | -          | -          | -          | -          | 11         | 10         | 12         | 11         | 6          | 4          | 21         | 17         | 50  |                                                                       |
| 3 TIROP超短期派遣                                    | -          | -          | -          | -          | 11         | 11         | 8          | 8          | 8          | 7          | 6          | 6          | 33  |                                                                       |
| 4 東工大・清華大学大学院合同プログラ                             | 1          | 1          | 6          | 6          | 12         | 12         | 8          | 8          | 2          | 2          | 7          | 6          | 36  |                                                                       |
| 5 グローバル理工人育成コース超短期海外派遣（GGJ）                     | -          | -          | -          | -          | -          | -          | 66         | 60         | 67         | 62         | 73         | 67         | 206 | ※TIROP超短期派遣・AYSEAS・フィリピン超短期派遣・学科実施、SGU超短期（ドイツ・オーストリア・スウェーデン・インド・タイ）除く |
| 6 スウェーデン超短期派遣（SGU）                              | -          | -          | -          | -          | -          | -          | -          | -          | -          | -          | 8          | 8          | 8   |                                                                       |
| 7 ドイツ・オーストリア超短期派遣（SGU）                          | -          | -          | -          | -          | -          | -          | -          | -          | -          | -          | 8          | 8          | 8   |                                                                       |
| 8 モナシユ大学海外英語研修（春）                               | -          | -          | -          | -          | -          | -          | -          | -          | -          | -          | 17         | 14         | 17  |                                                                       |
| 9 モナシユ大学海外英語研修（夏）                               | -          | -          | -          | -          | -          | -          | -          | -          | -          | -          | 11         | 11         | 11  |                                                                       |
| 10 インド超短期派遣（SGU）                                | -          | -          | -          | -          | -          | -          | -          | -          | -          | -          | 4          | 4          | 4   |                                                                       |
| 11 タイ超短期派遣（SGU）                                 | -          | -          | -          | -          | -          | -          | -          | -          | -          | -          | 8          | 5          | 8   |                                                                       |
| 12 Tokyo Tech AYSEAS                            | 16         | 11         | 15         | 13         | 15         | 15         | 16         | 13         | 16         | 13         | 15         | 10         | 93  |                                                                       |
| 13 フィリピン超短期派遣                                   | -          | -          | -          | -          | -          | -          | -          | -          | 6          | 6          | 6          | 6          | 12  |                                                                       |
| 14 TAIIST - Tokyo Tech Student Exchange Program | -          | -          | -          | -          | -          | -          | -          | -          | -          | -          | 19         | 15         | 19  |                                                                       |
| 15 グローバルシステム開発研修                                | -          | -          | -          | -          | -          | -          | -          | -          | -          | -          | 3          | 3          | 3   |                                                                       |
| 16 TASTE海外短期語学学習                                | -          | -          | 7          | 7          | 10         | 10         | 14         | 14         | 12         | 12         | 5          | 5          | 48  |                                                                       |
| 17 ロンドン国際青年科学フォーラム                              | 7          | 6          | 6          | 5          | 5          | 1          | 4          | 4          | 7          | 6          | 0          | 0          | 29  |                                                                       |
| 18 ストックホルム国際青年科学セミナー                            | 1          | 1          | 1          | 1          | 1          | 1          | 0          | 0          | 0          | 0          | 1          | 1          | 4   |                                                                       |
| 19 イオン1%クラブ                                     | 3          | 3          | 3          | 3          | 3          | 3          | 3          | 3          | 2          | 2          | 1          | 1          | 15  |                                                                       |
| 20 G200 Youth Forum                             | -          | -          | -          | -          | -          | -          | 3          | 3          | 4          | 3          | 1          | 0          | 8   |                                                                       |
| 21 JSPS/リダグノーベル                                 | 0          | 0          | 2          | 2          | 0          | 0          | 0          | 0          | 0          | 0          | 0          | 0          | 2   |                                                                       |
| 22 ルノー財団プログラム                                   | 1          | 0          | 0          | 0          | 1          | 0          | 0          | 0          | 1          | 0          | 0          | 0          | 3   |                                                                       |
| 23 AEARU学生サマーキャンプ                               | 4          | 4          | -          | -          | 2          | 0          | 0          | 0          | 0          | 0          | 1          | 1          | 7   |                                                                       |
| 24 ASPIRE Forum SW                              | -          | -          | 5          | 3          | 5          | 4          | 5          | 4          | 5          | 3          | 5          | 2          | 25  | ※2010年は本学で開催のため、-としている                                                |
| 25 ASPIRE Undergraduate Research Academy (UGRA) | -          | -          | -          | -          | -          | -          | -          | -          | 4          | 4          | 5          | 4          | 9   |                                                                       |
| 26 IDEA League Summer School (TU Delft)         | -          | -          | -          | -          | 0          | 0          | 1          | 1          | 1          | 1          | 1          | 0          | 3   |                                                                       |
| IDEA League Summer School (RWTH Aachen)         | -          | -          | -          | -          | 3          | 1          | 3          | 2          | 1          | 0          | 0          | 0          | 7   |                                                                       |
| 合計                                              | 80         | 72         | 79         | 73         | 116        | 103        | 192        | 173        | 196        | 170        | 289        | 250        | 952 |                                                                       |

※赤枠は2015年度新規開始プログラム

※赤字は2015年度新規開始プログラム

出典：国際室作成資料

## (資料6-12) 留学コンシェルジュサービス

留学コンシェルジュサービス(留学相談)を開始しました | お知らせ ... <http://www.titech.ac.jp/enrolled/news/2015/031593.html>

東京工業大学  
Tokyo Institute of Technology

トップページ > 在学生の方 > お知らせ > 留学コンシェルジュサービス(留学相談)を開始しました

## 留学コンシェルジュサービス(留学相談)を開始しました

留学コンシェルジュサービス(留学相談)を開始しました。留学プログラム、留学先の選択、留学準備(語学学習の仕方を含む)、各種手続きに関するアドバイスをいたします。お気軽にご連絡下さい。

公開日: 2015.06.23

留学コンシェルジュサービス(留学相談)を開始しました。留学プログラム、留学先の選択、留学準備(語学学習の仕方を含む)、各種手続きに関するアドバイスをいたします。お気軽にご連絡下さい。

### 概要

- 例えばこんな時ご利用ください
  - 留学をしたいけど何から始めていいかわからない
  - 留学プログラムが沢山あって、どのプログラムが自分に合っているかわからない
- どんな人が相談に応じてくれるの?
  - 海外経験が豊富で、学内で留学プログラム業務に関わっている教職員がお応えします。

### 相談方法

- 来室しての相談(予約制)
 

氏名、学年、所属、質問内容、訪問希望時間(第3希望まで)を下記メールアドレス宛てに送信してください。改めてこちらから連絡します。毎週水曜日12:30~13:30は予約無しで相談に応じます。

|         |                                                                              |
|---------|------------------------------------------------------------------------------|
| 場所      | 大岡山キャンパス 南4号館4階408号室                                                         |
| メールアドレス | <a href="mailto:ryugaku.souden@titech.ac.jp">ryugaku.souden@titech.ac.jp</a> |
- メールでの相談
 

氏名、学年、所属、質問内容を下記メールアドレス宛てに送信してください。

|         |                                                                              |
|---------|------------------------------------------------------------------------------|
| メールアドレス | <a href="mailto:ryugaku.souden@titech.ac.jp">ryugaku.souden@titech.ac.jp</a> |
|---------|------------------------------------------------------------------------------|

お問い合わせ先  
国際推進課国際課  
Email: [ryugaku.souden@titech.ac.jp](mailto:ryugaku.souden@titech.ac.jp)

Copyright © 2015 Tokyo Institute of Technology. All rights reserved.

出典：本学ホームページ

中期計画【7】「学生の自主性を促す体系的な履修計画を策定し、それに基づく教育指導を行う。また、学生が自らの興味・関心や達成度に応じて多様な選択ができるカリキュラムへの転換を進める。」に係る状況

各学科・専攻において、教育課程の編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）を策定し、これに基づき各学習課程に学習目標・学習内容を明記した。さらに、学生が計画的に学修できるよう、科目と学習内容との相関を定めるなどカリキュラム体系化の改善を行い、24年度以降の学習案内に記載し、学生の自主性を促す体系的な履修計画を策定した（資料7－1，2）。

体系化したカリキュラムは、学士課程・大学院課程において入学時のオリエンテーション等で学生に説明・指導し、助言教員などを通じて、個々の学生にカリキュラム内容等の説明を行った。

また、修士課程のカリキュラムの充実と修士論文の研究指導の改善のため、全学的に修士課程教育の見直しを行い、次のように大学院学習規程を大幅に改訂した（資料7－3）。

- ・全ての授業科目を、研究科目群、専門科目群、大学院教養・共通科目群の3つの科目群に区分
- ・必要単位数の見直し
- ・専門職学位課程、博士後期課程においても、修士課程の授業科目分類を適用

なお、28年度からの教育改革に伴い、28年度以降に入学する全学生にアカデミック・アドバイザーを配置し、さらに学修コンシェルジュなど、学生が自主的・体系的に学修に取り組む、自らの興味・関心や達成度に応じて多様な学修が可能となる教育システムを整備し、これに対応した28年度からのカリキュラムの科目設計、科目のシラバス、時間割、教務システム等の実施準備を行った（資料7－4，5）。

新しい教育システムの主旨及び内容は、学生及び教職員に対し複数回の説明会を開催し、27年度以前の入学者に対しても、28年度以降の教授科目変更による混乱を避けるため、新旧科目の対応関係などを示し、事前に周知を図った（資料7－6）。

## (資料 7-1) 学部・研究科の教育ポリシーの内容と公表について

学部・研究科等の教育ポリシーの内容と公表について

教育推進室教育関連ポリシー検討WG 2011/4/14(2011/9/8、2011/10/14赤字改)

|     | 策定組織                          | 策定項目名             | 記載内容                        | 公表方法        | 参考資料           | 備考                                         |
|-----|-------------------------------|-------------------|-----------------------------|-------------|----------------|--------------------------------------------|
| 学部  | 人材養成の目的/<br>教育目標              | 各学部 人材養成の目的       | 養成する人材像                     | 学部HP        |                | 組織運営規則に策定済                                 |
|     |                               | 各学部 教育目標          | 前書きとともに、養成する人材像に関連づけた修得する能力 | 学部HP        | 参考資料1          |                                            |
|     |                               | 各学科 人材養成の目的       | 養成する人材像                     | 学科HP, 学習案内  | 参考資料3          |                                            |
|     | アドミッション・ポリシー<br>(入学受入れ方針)     | 各学部 入学者に求める能力と適性  | 前書きとともに、入学者に求める能力と適性        | 学部HP, 募集要項  | 参考資料2<br>参考資料5 | 学部ごとに                                      |
|     |                               | 各学部 入学者の選抜方針      | 選抜方法の基本的な考え方                | 募集要項        | 参考資料5          | 特別入試: 類(1-6)ごとに<br>前期日程: 学部ごとに<br>後期日程: 7類 |
|     |                               | 各学科 入学者に求める能力と適性  | 入学者に求める能力と適性                | 学科HP        | 参考資料3          |                                            |
|     | ディプロマ・ポリシー<br>(学位授与方針)        | 各学科 修得する能力        | 修得する能力                      | 学科HP, 学習案内  | 参考資料3          |                                            |
|     |                               | 各学科 学位の授与方針       | 卒業要件                        | 学習案内        | 参考資料3          |                                            |
|     | カリキュラム・ポリシー<br>(教育課程の編成・実施方針) | 各学科 教育内容          | 教育内容の特徴                     | 学科HP, 学習案内  | 参考資料3          |                                            |
|     |                               | 各学科 教育内容          | 教育内容の特徴                     | 学科HP, 学習案内  | 参考資料3          |                                            |
| 大学院 | 人材養成の目的/<br>教育目標              | 各研究科 人材養成の目的      | 養成する人材像                     | 全学HP, 研究科HP |                | 組織運営規則に策定済                                 |
|     |                               | 各研究科 教育目標         | 課程ごとの養成する人材像と修得する能力         | 研究科HP       | 参考資料1          | 課程ごとに                                      |
|     |                               | 各専攻 人材養成の目的       | 養成する人材像                     | 専攻HP, 学習案内  | 参考資料4          | 課程ごとに                                      |
|     | アドミッション・ポリシー<br>(入学受入れ方針)     | 各研究科 入学者に求める能力と適性 | 前書きとともに、入学者に求める能力と適性        | 研究科HP       | 参考資料2          | 課程ごとに                                      |
|     |                               | 各専攻 入学者に求める能力と適性  | 入学者に求める能力と適性                | 専攻HP, 募集要項  | 参考資料4          | 課程ごとに                                      |
|     |                               | 各専攻 入学者の選抜方針      | 選抜方法の基本的な考え方                | 専攻HP        | 参考資料4          | 課程ごとに                                      |
|     | ディプロマ・ポリシー<br>(学位授与方針)        | 各専攻 修得する能力        | 修得する能力                      | 専攻HP, 学習案内  | 参考資料4          | 課程ごとに                                      |
|     |                               | 各専攻 学位の授与方針       | 修了要件                        | 学習案内        | 参考資料4          | 課程ごとに                                      |
|     | カリキュラム・ポリシー<br>(教育課程の編成・実施方針) | 各専攻 教育内容          | 教育内容の特徴                     | 専攻HP, 学習案内  | 参考資料4          | 課程ごとに                                      |
|     |                               | 各専攻 教育内容          | 教育内容の特徴                     | 専攻HP, 学習案内  | 参考資料4          | 課程ごとに                                      |

出典：教育推進室作成資料

## （資料 7－2）学習案内記載例

| 資料 2：学習案内の記載例：A 専攻（詳細版） 青字はそのまま消去しないこと                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          |  |
|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--|
| <p style="text-align: center;"><b>A 専攻 学習課程</b></p> <div style="text-align: right; border: 1px solid red; padding: 2px; width: fit-content; margin: 0 auto;"><b>学習課程の概要</b></div> <p>A 専攻では、社会基盤を構成するエネルギーシステムと通信システムを中心とする A 工学分野において、ハードウェアとシステム・ソフトウェアの双方の技術に関する教育と研究を行っている。本専攻では、こうした広範な科学技術分野を的確に理解し、新たな領域を切り開いていく人材を養成するため、基盤となる学問分野を高度な水準で履修する「授業科目」と、高度技術者として必須の知識と素養を身につける「研究指導」を両輪として学習課程を構成している。</p> <p>また、修士論文研究では、研究指導を通じた学習成果を専攻の統一基準で評価、博士論文研究においては論文審査に外部審査員の参加を義務づけるなど、客観的な指標を重視している。</p> <p><b>【修士課程】</b></p> <p><u>人材養成の目的</u></p> <p>本課程では、研究者及び技術者の養成を目的としている。</p> <p><u>学習目標</u></p> <div style="text-align: right; border: 1px solid red; padding: 2px; width: fit-content; margin: 0 auto;"><b>ディプロマポリシーの一部</b></div> <p>本課程では、上記の目的のために、次のような能力を修得することを目指す。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ A 分野における科学技術課題の本質理解を可能とする専門学力</li> <li>・ A 分野以外の専門学力を自ら修得し、実践的問題解決に結びつける力</li> <li>・ 専門知識を自在に活用して、新たな課題解決と創造的提案を行う力</li> <li>・ 国際的視野をもって研究・開発の潮流を理解し体系化する能力</li> <li>・ 日本語および英語による論理だった説明能力と文書化能力を持ち議論を展開できる力</li> </ul> <p><u>学習内容</u></p> <div style="text-align: right; border: 1px solid red; padding: 2px; width: fit-content; margin: 0 auto;"><b>カリキュラムポリシー</b></div> <p>本課程では、上記の能力を身に付けるために、次のような学習内容を設ける。</p> <p>A) 幅広い理工系専門<br/>盤石な理工系専門学力を修得するために、学部で学んだ専門基礎分野をより高度な視点から再修得した上で、各専門領域における...を段階的に履修する。</p> <p>B) A 分野の周辺領域の基礎専門<br/>専門知識の幅を広げるとともに、異分野への適応力を修得するために、A 専攻における専門 5 分野ごとに他専門科目を指定し、...を履修する。</p> <p>C) 修士論文研究<br/>課題解決力に関する一般知識を講義で学び、修士論文研究で実践する。2 年間にわたって...記録し、指導教員と他教員からの指導を通じて、実践的問題解決力の向上を図る。</p> <p>D) 実践研究スキル<br/>研究スキル科目において、学生自らが創意工夫をすることを意識し、...成果として発表する方法を履修する。</p> <p>E) 論理的対話スキル<br/>修士論文研究や研究スキル科目を通じて、対話する相手の専門知識に応じて、的確に意見交換するための論理的な議論展開能力を...、対話型学習により修得する。</p> |  |

**修了要件****ディプロマポリシーの一部**

本課程を修了するためには、次の要件を満たさなければならない。

1. 34 単位以上を大学院授業科目から取得していること
2. 本専攻で指定された授業科目において、つぎの条件を満たすこと
  - ・講究科目を 4 単位、研究関連科目を 4 単位以上取得していること
  - ・専攻専門科目を 12 単位以上、他専門科目を 4 単位以上取得していること
  - ・大学院国際コミュニケーション科目より 2 単位以上取得していること
  - ・大学院総合科目、大学院広域科目、大学院文明科目、大学院キャリア科目（仮）より 2 単位以上取得していること
3. 修士論文研究において、学習目標の設定、評価、改善といった一連の学習課程を履修していること
4. 修士論文審査および最終審査に合格すること

**授業科目****カリキュラムの体系化**

表1に本専攻における授業科目分類と修了に必要な単位数を示す。必要単位数は科目分類ごと、また科目群ごとに指定され、また対応科目欄には科目選択にあたっての注記がある。右端の欄には科目と関連する学習内容を示す。学習申告にあたっては、科目と学習内容の関係を十分理解し、意識すること。

表2はA専攻の修士課程における研究科目群の授業科目を示す。表3は、A専攻が指定する専攻科目群を示し、「専攻専門科目」と「他専門科目」を示している。表3の備考欄に示す記号〔電〕、〔光〕、〔デ〕はA専攻における5つの研究分野に対応する。なお他専門科目は、研究分野毎に異なるため注意すること。また、表4は本専攻が指定する大学院教養・共通科目群を示す。付図1に、A専攻の5つの研究分野における標準的な履修系統図を示す。

表1 A専攻授業科目分類および修了に必要な単位数

| 授業科目                                                                          | 単位数       | 対応科目                                                                                                        | 学習内容との関連 |
|-------------------------------------------------------------------------------|-----------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------|
| <b>研究科目群</b>                                                                  | 12 単位     |                                                                                                             |          |
| 講究科目                                                                          | ・ 8 単位    | 表2の講究科目                                                                                                     | A)       |
| 研究関連科目                                                                        | ・ 4 単位    | 表2の研究関連科目より選択                                                                                               | D), E)   |
| <b>専門科目群</b>                                                                  | 16 単位以上   |                                                                                                             |          |
| 専攻専門科目                                                                        | ・ 12 単位以上 | 表3の専攻専門科目より選択                                                                                               | A)       |
| 他専門科目                                                                         | ・ 4 単位以上  | 表3の他専門科目より選択                                                                                                | B)       |
| <b>大学院教養・共通科目群</b>                                                            | 2 単位以上    |                                                                                                             |          |
| 専攻指定科目<br>A 専攻コミュニケーション1<br>A 専攻コミュニケーション2<br>A 専攻キャリア1                       | ・ 2 単位以上  | ・ 左記分類科目のいずれかから選択（表4を参照）<br>・ 印を付された専攻専門科目の授業科目の単位を大学院教養・共通科目群の授業科目として振替できる。（注1）<br>・ 大学院留学生科目は、外国人留学生のみ履修可 | B), E)   |
| 大学院国際コミュニケーション科目<br>大学院総合科目<br>大学院広域科目<br>大学院文明科目<br>大学院キャリア科目（仮）<br>大学院留学生科目 |           |                                                                                                             |          |
| 総単位数                                                                          | 34 単位以上   | 上記科目群及びその他の大学院授業科目から履修                                                                                      |          |

（注1） 印を付された専攻専門科目の授業科目の単位を振替えた場合、専攻専門科目の単位は認められないので留意すること。

表2 A専攻 研究科目群

| 分類          | 区分 | 授 業 科 目    | 単位数   | 学期 | 学習内容   | 備 考     |
|-------------|----|------------|-------|----|--------|---------|
| 講 究 科 目     |    | A専攻講究第一    | 0-2-0 | 前  | A)     | 修士課程(1) |
|             |    | A専攻講究第二    | 0-2-0 | 後  | A)     | 修士課程(1) |
|             |    | A専攻講究第三    | 0-2-0 | 前  | A)     | 修士課程(2) |
|             |    | A専攻講究第四    | 0-2-0 | 後  | A)     | 修士課程(2) |
| 研 究 関 連 科 目 |    | A専攻研究スキル第一 | 0-1-0 | 前  | D), E) | 修士課程(1) |
|             |    | A専攻研究スキル第二 | 0-1-0 | 後  | D), E) | 修士課程(1) |
|             |    | A専攻研究スキル第三 | 0-1-0 | 前  | D), E) | 修士課程(2) |
|             |    | A専攻研究スキル第四 | 0-1-0 | 後  | D), E) | 修士課程(2) |

表3 A専攻 専門科目群

他専門科目の授業科目を陽に指定する場合

| 分類     | 区分 | 授 業 科 目                    | 単位数   | 学期 | 学習内容 | 備 考            |
|--------|----|----------------------------|-------|----|------|----------------|
| 専攻専門科目 |    | Plasma Engineering         | 2-0-0 | 前  | A)   | 〔電〕, 英語講義      |
|        |    | デバイス特論                     | 2-0-0 | 前  | A)   | 〔電〕, 〔光〕, E    |
|        |    | 技術マネジメント特論                 | 2-0-0 | 前  | A)   | キャリア関連科目       |
|        |    | アナログ集積回路                   | 2-0-0 | 前  | A)   | 他) B専攻         |
|        |    | Advanced Signal Processing | 2-0-0 | 前  | A)   | 他) C専攻, 英語開講   |
|        |    | システム解析                     | 2-0-0 | 後  | A)   | O              |
| 他専門科目  |    | Guided Wave Circuit Theory | 2-0-0 | 後  | B)   | 〔電〕, A専攻, 英語講義 |
|        |    | プロセッサ特論                    | 2-0-0 | 後  | B)   | 〔デ〕, 他) B専攻    |
|        |    | 移動通信工学特論                   | 2-0-0 | 後  | B)   | 〔光〕, 他) C専攻    |
|        |    |                            |       |    |      |                |

表3 A専攻 専門科目群

他専門科目の授業科目を陽に指定しない場合

| 分類     | 区分 | 授 業 科 目                                    | 単位数   | 学期 | 学習内容 | 備 考            |
|--------|----|--------------------------------------------|-------|----|------|----------------|
| 専攻専門科目 |    | Plasma Engineering                         | 2-0-0 | 前  | A)   | 〔電〕, 英語講義      |
|        |    | デバイス特論                                     | 2-0-0 | 前  | A)   | 〔電〕, 〔光〕, E    |
|        |    | 技術マネジメント特論                                 | 2-0-0 | 前  | A)   | キャリア関連科目       |
|        |    | アナログ集積回路                                   | 2-0-0 | 前  | A)   | 他) B専攻         |
|        |    | Advanced Signal Processing                 | 2-0-0 | 前  | A)   | 他) C専攻, 英語開講   |
|        |    | システム解析                                     | 2-0-0 | 後  | A)   | O              |
| 他専門科目  |    | Guided Wave Circuit Theory                 | 2-0-0 | 後  | B)   | 〔電〕, A専攻, 英語講義 |
|        |    | プロセッサ特論                                    | 2-0-0 | 後  | B)   | 〔デ〕, 他) B専攻    |
|        |    | 上記の他専門科目に加えて、他専攻の専門科目群の授業科目(自専攻の専攻専門科目を除く) |       |    |      |                |

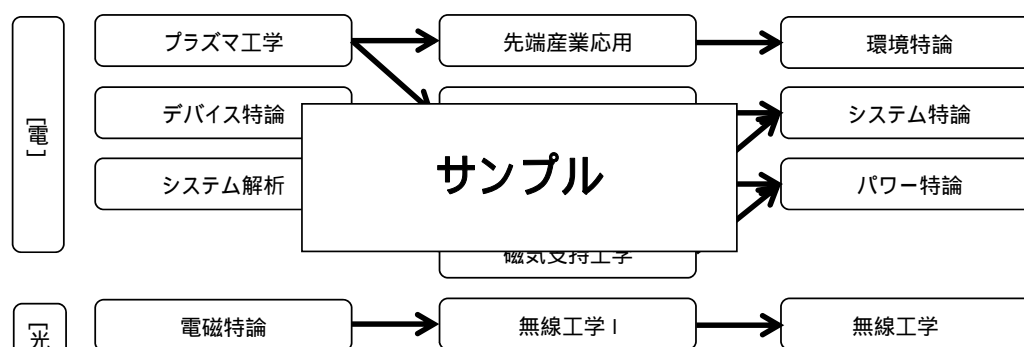
(注) 1) 印を付された授業科目は、必ず履修しておかなければならない授業科目で、備考欄の(1)、(2)などは履修年次を示す。

2) 一部の授業科目は隔年講義となっており、備考欄中の E は西暦年の偶数年度に、同じく O は奇数年度に開講するもので、何も書いていないものは毎年開講の授業科目である。

- 3) 印を付された授業科目は、英語で開講する科目であり、国際大学院プログラムにも対応する科目である。  
（なお、年度によって英語開講と交互に行う科目については、どちらも同じ授業科目とみなすので、両方の単位を修得することはできない。）
- 4) 印を付された専攻専門科目は、大学院教養・共通科目群の授業科目に振替えることができる。ただし、振替えた場合は、専攻専門科目の単位として認めない。
- 5) 備考欄中の他)は、専攻で指定した他専攻の開設科目である。

表4 A専攻 大学院教養・共通科目群

| 分類・授業科目          |                | 単位数   | 学期 | 学習内容 | 備考                                                  |
|------------------|----------------|-------|----|------|-----------------------------------------------------|
| 大学院国際コミュニケーション科目 |                |       |    | E)   | ・左記各研究科共通科目より選択<br><br>・大学院留学生科目は、外国人留学生に限り履修可能とする。 |
| 大学院総合科目          |                |       |    | E)   |                                                     |
| 大学院広域科目          |                |       |    | E)   |                                                     |
| 大学院文明科目          |                |       |    | E)   |                                                     |
| 大学院キャリア科目(仮)     |                |       |    | E)   |                                                     |
| 大学院留学生科目         |                |       |    | E)   |                                                     |
| 専攻指定             | A 専攻コミュニケーション1 | 2-0-0 | 前  | E)   |                                                     |
|                  | A 専攻コミュニケーション2 | 2-0-0 | 後  | E)   |                                                     |
|                  | A 専攻キャリア1      | 2-0-0 | 前  | B)   |                                                     |

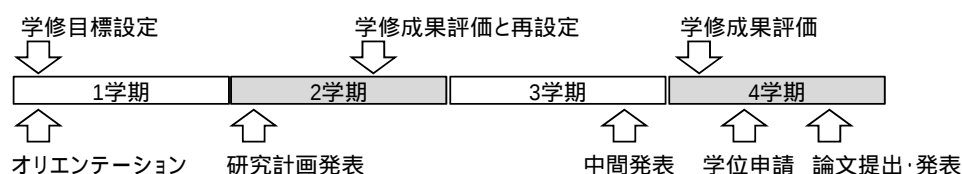


付図1 A専攻 研究分野別の標準履修系統図

## 修士論文研究

## 修士論文研究の方法・評価

修士論文研究では、一連の研究プロセスを体験し、問題設定能力、問題解決力やコミュニケーション力の向上を目指す。そのための修士論文研究の流れを付図2に示す。学期毎に設定と評価を進める。また修士学位の取得については、2学期に実施する研究計画構想の発表から、…にいたる。



付図2 A専攻修士課程における修士論文研究の流れ

（資料 7－3）修士課程枠組みの見直しに伴う各専攻の教育課程の見える化・体系化

平成 23 年 5 月 30 日（平成 23 年 8 月 8 日修正）

教育推進室教育改革WG 修士分科会

本学大学院修士課程教育の枠組みの見直しに伴う  
各専攻の教育課程の見える化・体系化について（赤字：補足・訂正箇所）

趣旨

大学院授業科目分類と本学の修了必要単位数の変更（資料 1，2）に伴う各専攻の教育課程の見直しに際して、下記の事項をお願いする。

- ・各専攻での教育課程の見える化・体系化
- ・H24 年度学習案内の改訂

依頼内容

1. 修士課程教育の枠組みの見直しについて

- 1-1 これまでの経緯（資料 2，資料 3）
- 1-2 大学院授業科目分類と本学の修了必要単位数の変更の要点（資料 1）

2. 新しい枠組みのもとでの各専攻の教育課程の見直しの際の基本方針

- 2-1 本枠組みは H24 年度入学生から適用するが、本枠組み内で、各専攻のこれまでの教育を基本的に継続できるものになっているので、まずは教育課程の「見える化」を優先する。ただし本見直しに際し、より体系化・改善できるところは積極的に検討いただく。
- 2-2 各専攻の教育内容は、専攻が、研究科の承認のもとで、専攻の教育ポリシーに沿って独自に「**学習課程**」を設定する。ただし、(i) 資料 1（もしくは資料 2）の表 1 にある全学共通の授業科目分類を用いること、及び、修了要件における全学共通の必要単位数を満たすこと。また、(ii) 専攻のすべての授業科目は、各専攻の指定に基づき、資料 1 の表 1 にある科目分類に重複を許さず割り当て、各授業科目群あるいは授業科目に対する詳細な必要単位数を設定すること。なお、専攻で指定していない他専攻等の大学院授業科目は、専攻指定外の大学院授業科目として扱う。複数コース制などの設定も可能とする。
- 2-3 H24 年度学習案内の改訂を行う。そこでは各専攻が修士課程、博士後期課程ごとに、人材養成の目的、学習目標、学習内容、修了要件、授業科目、履修図、論文研究の各項目について記載する。なお、博士後期課程の**授業科目**、履修図は必須としないが、推奨する。

3. 学習案内の改訂について

資料 4 の学習案内の例を用いて、上記の 2. の詳細を説明する。

- 3-1 前文「学習課程の概要」について記載する。
- 3-2 修士課程と博士後期課程を分けて記載する。
- 3-3 教育ポリシーの「人材養成の目的」、「修得する能力」、「教育内容」、「学位授与の方針」を「人材養成の目的」、「学習目標」、「学習内容」、「修了要件」にそれぞれ対応させて記載する。「学位授与の方針」（修了要件に対応）以外の教育ポリシーは 4/14 に策定依頼済み。ただし、**学習案内は読み手が学生であることを意識し、学習目標や学習内容においては表現方法に注意する**特に「学習内容」については「教育内容」をそのまま記載する必要はなく、たとえば「**教育内容**」に授業科目名や授業科目群を入れるなど「学習内容」として適した記載内容にする。また、可能であれば、「修了要件」の前文に本来の意味での学位授与方針を記載することが望まれる。

（以下省略）

出典：教育推進室作成資料

(資料7-4) 東京工業大学教育改革～世界トップ10に入るリサーチユニバーシティへ～

## 東京工業大学教育改革 ～世界トップ10に入るリサーチユニバーシティへ～ 1/2

### 学修・修博一貫教育

学士課程と修士課程、修士課程と博士課程の教育カリキュラムが継ぎ目なく学修しやすく設計された教育体系です。入学時から大学院までの出口を見通すことができるので、自らの興味・関心に基づく多様な選択・挑戦が可能になります。

### 学院の誕生

日本の大学で初めて、学部と大学院を統一します。

3学部23学科      6研究科45専攻

**学院**

6学院19系

### 達成度評価

「何をどれだけ学んだか」を評価し、学年進行から達成度進行に変わります。学修ポートフォリオ等を用い、履修の過程・結果を評価します。

### 現在

| 【年次】  | 【ナンバリング】 |
|-------|----------|
| 博士3年次 | 博士論文研究   |
| 博士2年次 | 博士専門科目   |
| 博士1年次 | 修士論文研究   |
| 修士2年次 | 修士専門科目   |
| 修士1年次 | 学士専門科目   |
| 学士4年次 | 学士専門科目   |
| 学士3年次 | 教養科目     |
| 学士2年次 |          |
| 学士1年次 |          |

### 改革後

|        |                 |
|--------|-----------------|
| 博士論文研究 | 600番            |
| 修士論文研究 | 500番            |
| 修士専門科目 | 400番後半          |
| 学士専門科目 | 400番前半 & 300番後半 |
| 学士専門科目 | 300番前半          |
| 教養科目   | 200番            |
|        | 100番            |

**【体系的な教育システムとアウトカムズ】** 6学院19系と1専門職学位課程という大くりにした教育プログラム（系・コース）のポリシーにより、カリキュラムの達成目標を示します。また、科目ナンバリングや科目関連図を通じて全体的な教育体系を明示し、シラバス内容の充実（各回の授業内容、身につける力、評価方法などを日本語・英語で公開）により、科目ごとの学修内容を理解させます。これらを通じて、学生にはキャリアパスを意識し、目標とするアウトカムズに沿った学修を促します。

**【早期卒業等】** 学院に統一され、学修・修博一貫のカリキュラムが実施しやすくなること、また、達成度評価、上位課程科目の先取り履修などにより、やる気がある優秀な学生に早期卒業（短縮修了）を促します。

**【教養教育等と専門教育のバランス】** 学士課程から博士課程まで教養科目を必修とし、専門教育とバランスさせます。大学院課程では、キャリア科目も必修とします。学士課程入学直後には理工系基礎科目を履修させるのに加え、レクチャーシアター（H27.4新設）で学内外の最先端研究者などの声を直接聴き、創造的討論や実験の実演を伴った双方向授業を行い、学生の意欲を喚起します。

## 東京工業大学教育改革 ～世界トップ10に入るリサーチユニバーシティへ～ 2/2

### クォーター制

| 第1クォーター   | 第2クォーター   | 第3クォーター    | 第4クォーター    |
|-----------|-----------|------------|------------|
| 4月上旬～6月上旬 | 6月中旬～8月上旬 | 8月中旬～11月下旬 | 12月上旬～2月上旬 |

- 一科目を短い期間で集中的に学ぶことで学修効果を高めることができます。
- 履修計画を柔軟に組むことができ、授業履修等に影響なく留学やインターンシップが実施可能となります。特に、学士課程3年目第2クォーターには、必修科目を設定しません。
- 必修科目等の実施回数が増えるため、学生ごとの学修の進度に細やかに対応できます。
- 海外の多くの大学と学期の開始時期が共通となるため、留学生を受け入れやすくなります。

### 世界トップスクールとチューニングするカリキュラム

世界トップクラスの教員招聘

単位互換のためのチューニング

世界トップクラス      東京工業大学

単位・学位の認定

シラバス英語化

英語で修了可能なプログラム増加

修士修了までに、国際経験を強く推奨

平成31年度に大学院の専門科目をすべて英語で実施

### 広がり柔軟性がある選択

例) 材料分野を学びたい学生の場合

#### 現在

3つの学科

- 金属工学科
- 有機材料工学科
- 無機材料工学科

改革前 学科、専攻という細かな学修分野の教育体系

#### 改革後

1つの系

材料系

【柔軟性】様々な学修分野が集約化した教育体系

★コースとは、学院の系で実施される大学院課程の教育プログラム。社会のニーズに応じて、コース設定等の見直しが見えより柔軟にできる構造。下記○印は、複数の系が横断的に実施するコース。

大学院課程の材料系では4つのコースから選択が可能

- 材料コース
- エネルギーコース
- ライフエンジニアリングコース
- 原子核工学コース

【広がり】別のコースを選択した修士課程学生が体系的に学修できるカリキュラムを「副専門」として設定

新しい教育システムを活用するために

【学修ポートフォリオ】学修ポートフォリオを使い、学生はカリキュラム全体の達成目標と学修目標、また自分が身につけた力を確認し、キャリア形成に生かします。

【アカデミック・アドバイザー】学士課程入学から担当教員がアドバイザーとなり、定期的な面談などで達成目標やアウトカムズを意識させます。

出典：教育改革事務局作成資料

（資料7－5）学修コンシェルジュ

# 学修コンシェルジュ 新入学生ガイダンス

（学士課程新入生対象）

新入生の皆さんに、東工大での学修に必要なこと  
（学修システムや教育体系、相談窓口など）を  
知ってもらい、東工大をより理解し、  
スムーズなスタートを切ってもらうために、  
学修コンシェルジュがガイダンスをします。

**全新入生は、  
必ず出席する  
必要があります**



工太郎

**日時** 自分のユニットの日時と場所を、裏面の表で確認しましょう。

※ユニットは学生証受領時に配布される所属クラス通知書で確認してください

- ◆ 所要時間は約50分間です。授業がある場合は、途中退席できます。
- ◆ お昼の時間帯受講の場合は、事前に購入したランチを持ち込みで参加してください。
- ◆ 出来るだけ割り振られた時間に参加してください。
- ◆ GSEPの学生は、別途開催する予定です。
- ◆ 参加が難しい場合は、下記メールアドレスまで必ず連絡ください。  
メールには「学籍番号、氏名、ユニット番号、複数の参加可能日時」  
を記載してください。新しいガイダンス日時を、お知らせします。

⇒ [concierge.info@jim.titech.ac.jp](mailto:concierge.info@jim.titech.ac.jp)

**場所** 裏面のスケジュール表と地図を参照に集合しましょう。

80年記念館…保健管理センターの隣

TTF（蔵前会館）…エクセルシオールカフェの2階もしくは3階

◆教室などからの移動時間を考慮してください。

出典：学生支援課作成資料

（資料 7－6）教育改革説明会実施スケジュール

## 平成28（2016）年4月に課程途中の在学生の皆さんへ

### 説明会情報

- 教育改革に関する説明会（各回同じ内容です）
- [資料ダウンロード](#) 

|    |                                                                                                     |
|----|-----------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 日時 | 2015年5月19日（水）13:20～14:20、15:00～16:00                                                                |
| 場所 | 大同山キャンパス 70周年記念講堂（大同山キャンパスマップ）                                                                      |
| 日時 | 2015年5月19日（火）9:00～10:00、10:40～11:40                                                                 |
| 場所 | すずかけ台キャンパス J2棟 2階 J221講義室（すずかけ台キャンパスマップ）<br>大同山キャンパス 西6号館 W631講義室（9:00～10:00のみ）遠隔による実施（大同山キャンパスマップ） |

**入試に関する問い合わせ先**  
 学務部入試課 学士課程入試 E-mail: [nyugai@jmtitech.ac.jp](mailto:nyugai@jmtitech.ac.jp) / 大学院入試 E-mail: [nyudai@jmtitech.ac.jp](mailto:nyudai@jmtitech.ac.jp)

**教育改革に関する問い合わせ先**  
 学務部教育改革事務局 E-mail: [kaikakuqs@jmtitech.ac.jp](mailto:kaikakuqs@jmtitech.ac.jp)

（一部抜粋）

出典：本学ホームページ

中期計画【8】「論文研究において、複数教員による組織的指導等，多面的な教育を実施する。」に係る状況

22 年度に教育推進室教育改革 WG において，修士課程は専攻全体で指導する方針案を，博士課程は複数指導体制・研究指導以外の教育を実施する方針案を各専攻に答申した（資料 8－1）。各専攻では，論文研究の中間発表・最終評価を活用するなどの検討を行い，様々な形での組織的指導の実施を行っている（資料 8－2～4）。

（1）論文研究の複数教員による組織的指導は次のように実施している。

- ・学部教育課程での副指導教員制度を一部で導入のほか，学士論文研究の中間・最終発表会で複数教員による評価を実施し，その結果を学生に知らせることで組織的な指導を行う学科もある。
- ・大学院教育課程では複数教員による組織的指導をほぼ全ての専攻で実施し，研究指導とそれ以外の指導の切り分け，専門外教員からの指導などの取組みを実施している。
- ・実施効果として，論文の多面的評価や研究室間の交流促進，研究へのフィードバック等が確認された。

（2）大学院教育課程の論文研究における多面的教育は次のように実施し，学生教員双方の視点を活かしている。

- ・多数の文献調査による総説執筆や総説ゼミの実施，他研究室ゼミや複数研究室にまたがるゼミ開催，マルチラボトレーニングの充実を進めた。
- ・複数教員による研究計画書のチェックと指導，異分野教員も交えた中間報告会の開催，論文審査への複数分野教員の配置を行った。
- ・博士課程学生への副指導教員割当て，研究室間の移動，博士論文審査における外部審査員の招聘等，専攻等の教育プログラムに応じた論文研究の多面的な教育を推進した。

なお，論文研究に関する学科・専攻単位での組織的指導の状況を踏まえ，部局単位での取組に加え，28 年度入学生からは，学部大学院ともに全学的にアカデミック・アドバイザー制度を導入し，論文研究に限らず学修指導全般に関し複数指導体制の導入を決定した（資料 8－5）。

## （資料 8－1）教育推進室教育改革 WG 修士分科会答申案

東京工業大学大学院修士課程教育の枠組みの見直し案の変更について

2011 年 2 月 2 日

教育推進室 教育改革 WG 修士分科会

昨年 10 月に各研究科教育委員会に修士課程教育の枠組みの見直し案についてご意見を伺いましたところ、概ね賛成する研究科・専攻が多い一方で

1. 他専門科目と大学院教養・共通科目を分けて 2 単位ずつにすると科目選択の自由度を損なう
2. 講究科目と研究関連科目（前回案では、論文指導関連科目）の関係がわかりにくい
3. 大学院教養・共通科目群の各科目の見直しが必要である
4. 言葉の定義が不明確で、科目の名称が悪い

等のご意見がございましたので、本 WG で再検討しました結果、つぎのように変更いたします（上記の番号と対応）。

1. 現状のままの授業科目の分類で 4 単位以上の要件を課すことは、学生がなにを学ぶべきか設計しづらいと考え、分類については前回の提案どおりとします。大学院教養・共通科目群の要件は最低限必要であると判断します。一方、各専攻の事情もありますので、「他専門科目 2 単位以上」の条件は必須としないことにします。
2. 変更案では、この点を明確に記載しています。
3. ご指摘のとおりですが、直ちに解決できる問題ではないので、各専攻の教育の見直しと平行して、今後検討していく予定です。
4. 言葉の定義を明確にし、また科目名等を変更しています。より良い名称が見つかり次第、改善していく予定です。

変更の詳細は、東京工業大学大学院修士課程教育の枠組みの見直し（変更案）をご覧ください。赤字にて変更しています。なお、研究科ごとの各意見に対する回答は、別紙 1 をご覧ください。

出典：教育推進室作成資料

## （資料 8－2）平成 23 年度論文研究の多面的な教育アンケート結果

| ④副指導教員を設置する。メンター制・アドバイザー制の導入 |   |                                                                                                                                                                                                                                  |  |
|------------------------------|---|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--|
| 数学                           | A | 必要に応じて副指導教員を配置している。                                                                                                                                                                                                              |  |
| 物性物理学                        | A | 博士課程の学生に副指導教員をつける事については、現在既に行っており、指導教員または専攻の判断で必要に応じて副指導教員をつけている                                                                                                                                                                 |  |
| 地球惑星科学                       | A | 副指導教員を全員の博士課程院生に付けることにしている                                                                                                                                                                                                       |  |
| 物質科学                         | A | 専攻設立の経緯から、教員数に比して分野が極度に幅広いものとなっており、この種の制度が理想的なものであることは専攻全体が理解を共有しているが、メンターの設定は困難な状況である。アドバイザーについては、学生の状況を見定めて必要に応じて専攻長の依頼で設定しているが、恒常的な設定は、やはり教員数の増加がないと困難な情勢である。むしろ各種博士コース活動の中で他の専攻と専門分野の重なる教員と協力してのアドバイス活動がある程度効率的に進んでいるのが実情である |  |

(以下省略)

出典：教育推進室作成資料

（資料８－３）平成 23 年度論文研究の多面的な教育アンケートの結果についての専攻への  
提案

資料 No. 5

教育改革WG D分科会  
アンケートコメント

④ 岡村、井村、山口

専攻への回答（案）

副指導教員制、メンター制、アドバイザー制などの制度の目的は、大まかに「複眼的な研究指導による教育」と「大学生活支援」の質の向上の大きく 2 つに分けられます。

研究指導に関して言えば、専攻全体で研究指導するための体制づくりが重要であると思います。

大学生活支援に関して言えば、健康保健管理センターでのカウンセリング、学生相談室、電話相談デスクなど全学的なサポート体制はありますが、まずは専攻内で問題が深くなる前に解決していただくことが望ましいと考えます。そのための一手段として、研究指導の役割を担う正・副指導教員以外に、学生生活全般に係る相談相手となるメンターやアドバイザーを各専攻に導入することが考えられます。

メンターやアドバイザーとなるのは、専攻内の実情をよく知っている教員であることも考えられます。たとえば、主・副指導教員以外の数名の教員が担当していただいても良いでしょう。すでにこのような制度を実施されている専攻におかれましては、その効果を評価し、より実効的なものとされ、まだ実行されていない専攻におかれましては、導入することを検討していただきたいと思います。

指導教員や研究室の雰囲気にも馴染めない学生に対する措置として、研究室変更制限の緩和、すなわち研究科・専攻を越えて研究室の変更を可能とする制度の構築が考えられます。しかしこれは最終手段であり、本当に学生にとってためになるのかという慎重な検討も必要です。

本WGへのコメント

（体制の整備の観点から）

副指導教員制、メンター制、アドバイザー制などの制度の目的は、大まかに「複眼的な研究指導による教育」と「大学生活支援」の質の向上の大きく 2 つに分けられます。さらに、目的に応じて、色々なレベルでの補助的な体制が考えられます。副指導教員は、おおよそ前者の研究指導にあたる教員と認識されているようです。一方、メンターやアドバイザーは、正・副指導教員以外に研究面または生活面を支援する教員と認識されているようですが、その捉え方はまちまちであるように思います。したがって、まずは、本制度の目的、おおよび、その体制と役割分担を明確にし、それにより副指導教員やメンターなどの各言葉の定義も統一していく必要があると思います。

（研究指導の観点から）

各専攻からの回答によれば、副指導教員制は多くの専攻で導入済みです。しかし、積極的な理由に基づいて副指導教員制をとっていない専攻もあるようです。専攻個々の状況を把握した上で、無理のない制度設計が望ましいと言えるかもしれません。

（大学生生活支援の観点から）

各専攻からの回答によれば、正・副指導教員以外に学生の生活面を専攻レベルで支援する体制づくりは遅れているようです。価値システム専攻と人間行動システム専攻ではコミティ制度と呼ばれるしくみを導入しており、参考に値するかもしれません。

#### -----博士課程システム改革 WG 報告書-----

##### 提言「研究室変更制限の緩和と副指導教員・メンター制の導入」

博士課程入・進学後、指導教員あるいは研究室の雰囲気馴染めず、退学に追い込まれる例も少なくない。博士課程進学時において、学生の意思により修士課程とは異なる研究室を選ぶことは全く問題がないが、進学時以外においても、研究科、専攻を越えて研究室を変更することが可能である制度を設けるべきである。また、副指導教員やメンター制度を導入し、常に指導教員以外の教員に相談できる体制が必要である。

（以下省略）

出典：教育推進室作成資料

#### （資料 8－4）平成 27 年度各部署の論文研究の多面的教育実施状況

| 平成27年度 各部署の論文研究の多面的教育実施状況 |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                               |
|---------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 中期計画                      | 論文研究において、複数教員による組織的指導等、多面的な教育を実施する。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                           |
| 理学部・理学系                   | <p>殆どの専攻で継続して副指導教員制度を実施している。</p> <p>数学専攻では、修士課程において、副指導教員による定期的なインタビューを行い、学生の研究進捗状況の把握に努めている。</p> <p>物理学専攻では、博士後期課程において、物理学コロキウムという、博士論文研究の中間報告を行う機会を設けている。</p> <p>化学専攻では全教員参加のもと博士中間報告会を昨年度に続いて実施している。</p>                                                                                                                                                   |
| 生命理工学部・生命理工学研究科           | <p>大学院修士課程1年の論文研究計画A(前期)およびB(後期)において、複数教員による研究計画と進捗のチェックと指導を継続して実施している。</p> <p>大岡山キャンパスの4専攻9研究室において、修士課程の大学院生の合同中間発表会を実施している。</p>                                                                                                                                                                                                                             |
| 総合理工学研究科                  | <p>多数の専攻が、専攻あるいは研究科を越えた研究指導体制を構築している。</p> <p>具体的には、全学生を複数教員指導制にしている他、各学年担当教員(クラス担当)を決め、入学から卒業まで常に同じ教員が担当学年の学生の対応にあたり、補足的な指導体制も完備していたり、修士・博士課程学生に必修の演習を開講し、半年に1度、修士・博士論文研究の進捗状況のチェックと研究サポートを基本的に専攻教員全員で行っている専攻、関連専攻(総理工および理工工学系)と合同ゼミを開催している専攻、修士・博士課程の中間審査時に複数教員で審査を実施している専攻などがある。</p> <p>また全学事業の「リーディング大学院」、「医歯工学特別コース」、及び「人間情報学特別教育研究コース」などに積極的に参加している。</p> |
| 情報理工学研究科                  | <p>数理・計算科学専攻では分野ごとに複数の研究室で合同セミナーを定期的に行ったり、修士課程の学生に限っては中間発表も行つことにより専門外のアドバイスやアイデアを研究に取り入れることを推奨している。</p> <p>計算工学専攻では、修士課程、博士課程の学生に適宜、副指導教員を付けている。また、中間発表を専攻全体で行い、研究の進捗状況を専攻全体で指導している。</p> <p>情報環境学専攻では情報環境プロセスにおいて、修士課程の学生には、専攻内の他専門の教官とのディスカッションを各学年2回行っている。また、博士課程については、機関外の専門家とのオフラボディスカッションを設定し、博士力強化を実施している。</p>                                          |
| 社会理工学研究科                  | <p>4年生ガイダンスで副指導教員制度について周知した。その結果、現在までで4人の学生が副指導教員を持っている。</p> <p>修士論文研究においては、中間審査等の機会を設け専門外教員による研究指導を促している。</p> <p>複数教員(コミティ)によるバックアップ体制を制度化している。</p>                                                                                                                                                                                                          |
| イノベーションマネジメント研究科          | <p>1)2)新課程のうち修士課程においては、入学後最初のセメスターにおいて各研究室の教員が研究内容を紹介する講義を新設し、その講義を受講した後に研究室所属を選択する制度に変更する。この新設講義を通じて入学生は複数教員と研究内容の相談が可能となり、個別面談を繰り返すことも推奨されている。</p> <p>博士課程においてはこれまで同様に副指導教員を置くことを必須とし、さらに中間審査制度を運用し、審査結果によっては複数教員の指導体制へと移行する制度を継続する。</p>                                                                                                                    |
| 外国語研究教育センター               | <p>① 改革非常勤(英語母語話者)によるOpen English Office Hoursで学生の英語指導(論文やプレゼン指導、会話や聞き取りの訓練など)を行っており、その成果をより詳しく調べるための方法として学生アンケートを普段から取り入れるよう改善した。</p>                                                                                                                                                                                                                        |

出典：教育推進室作成資料

## (資料8-5) アカデミック・アドバイザー面談スケジュールイメージ

## 【アカデミック・アドバイザー(教員)】

○役割: 学生一人一人を担当し、学生の成績や履修状況等を考慮しながら、履修相談や学生指導を行う。  
○学生一人に対して、二人の教員が主・副として対応する。

(理由) ・アドバイスや評価等について、より客観的なものとするため。(視点を偏らせない。)

・ハラスメントの防止のため

なお、アドバイス等に齟齬が生じないよう、事前に打ち合わせする。また、学生の何を確認するのか、役割分担をしてもよい。

○2名とも学生所属と同じ類／系を担当する教員が望ましく、類／系の中で弾力的に学生への担当を決める。

類学生: 類担当教員2名(ただし、類に関係する系が異なるようにする。)

系学生: 系担当教員2名

研究室の学生: 指導教員1名+系(又はコース)担当教員1名

参考想定【教員1人あたりの対応学部学生数】  
類(1年): 3~5名前後  
系(2~4年): 6~13名前後  
学部学生9~18名前後

○2名のうち、1名は入学~卒業・修了まで、一貫して担当できることが望ましい。

(何度変更することは避ける。)

## 【学生対応専任教員(カウンセラー/キャリアアドバイザー)】

○東工大を、そして、東工大生を理解し、社会と人間性を理解する学生対応専任教員の雇用を検討。

教員は専門分野の観点、学生対応専任教員はそれ以外の観点(例: キャリアアドバイス、学習姿勢、等)。特に学生の主体性を育む大学生活全般に関するアドバイスやキャリア及び就職を念頭に置いたアドバイスを行う。

➤今までできなかったサービスの提供へ。特に入学~卒業・修了までの一貫した体制の構築を目指す。

## アカデミック・アドバイザーによるポートフォリオを用いた面談等の実施スケジュール イメージ

・数字: 定期チェック    ➤ 黒字: システム上のやり取り    ➤ 青字: 個別面談  
・赤字: 達成度評価(今までの学修状況を振り返ると同時に、学修状況等に係る面談を行う。その際に、身に付ける力の確認を行う。次頁参照)  
・★数字: ガイダンス・集団面談    ・★数字: ガイダンス・個別面談    ・★数字: 学生対応専任教員との集団面談  
※ カッコ書きのタイミングで、行うことも可。なお、(C)(D)(E)については、最終成績の公表後に卒業・修了単位の確認をシステム上で行う。



| 時期           | 形態              | 内容                                                                                    | 学生                           | アドバイザー（主）<br>所属教員A                              | アドバイザー（副）<br>所属教員B | 学生対応専任<br>教員                   |
|--------------|-----------------|---------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------|-------------------------------------------------|--------------------|--------------------------------|
| ★1 入学後       | 高ごとにガイダンス       | 高のオリエンテーションや入学セミナーにおいて、高ごとにポートフォリオの説明を行い、学生が記入。                                       | ポートフォリオの記入（目標等）              | 学生と協働むせ<br>記録内容の確認                              |                    |                                |
| ① 4月上旬～4月下旬  | システム            | 学習申告                                                                                  | 学習申告                         | 学習申告の確認                                         |                    |                                |
| ② 4月上旬～4月末   | 個別面談            | アドバイザー教員の単位ごとに学生対応専任教員と集団面談。<br>新進法学科の心構え、学生からの質問対応。                                  | 質問 等                         | 両者、又は、どちらかの教員が同意<br>同意できない場合は、システムで確認。          | 個別面談               |                                |
| ③ 8月上旬～10月中旬 | システム            | 学生による「振り返り」、今後の目標記入。                                                                  | ポートフォリオの記入（振り返り、目標等）<br>学習申告 | 記録内容の確認<br>学習申告の確認                              |                    |                                |
| A 3月上旬～3月下旬  | 個別面談            | 【達成度評価、系所属】<br>今までの学習状況を振り返ると同時に、半修状況等に係る面談を行う。系所属のための要件の確認を行う（最終確認は系。）。              | 振り返り、<br>身に付ける力の自己評価         | 両者、又は、どちらかの教員。<br>同意できない場合は、システムで確認。            |                    |                                |
| 時期           | 形態              | 内容                                                                                    | 学生                           | 所属教員A                                           | 所属教員B              | 学生対応専任<br>教員                   |
| ★2 4月        | 高ごとにガイダンス       | 高のガイダンスで目標等の記入をする。                                                                    | ポートフォリオの記入（目標等）              | 学生と協働むせ<br>記録内容の確認                              |                    |                                |
| ① 4月上旬～4月下旬  | システム            | 学習申告                                                                                  | 学習申告                         | 学習申告の確認                                         |                    |                                |
| ② 8月上旬～10月中旬 | システム            | 学生による「振り返り」、今後の目標記入。<br>8月末～学習申告。                                                     | ポートフォリオの記入（振り返り、目標等）<br>学習申告 | 記録内容の確認<br>学習申告の確認                              |                    |                                |
| ③ 3月上旬～4月下旬  | 個別面談            | 学生による「振り返り」、今後の目標記入。<br>4月～学習申告。                                                      | ポートフォリオの記入（振り返り、目標等）<br>学習申告 | 両者、又は、どちらかの教員。<br>同意できない場合は、システムで確認。<br>学習申告の確認 |                    |                                |
| ④ 8月上旬～10月中旬 | システム            | 学生による「振り返り」、今後の目標記入。<br>8月末～学習申告。                                                     | ポートフォリオの記入（振り返り、目標等）<br>学習申告 | 記録内容の確認<br>学習申告の確認                              |                    |                                |
| B 3月上旬～3月下旬  | 個別面談            | 【達成度評価、特定課題研究専攻】<br>今までの学習状況を振り返ると同時に、半修状況等に係る面談を行う。専攻専攻・特定課題研究専攻等の要件の確認を行う（最終確認は系。）。 | 振り返り、<br>身に付ける力の自己評価         | 両者、又は、どちらかの教員。<br>同意できない場合は、システムで確認。            |                    |                                |
| 時期           | 形態              | 内容                                                                                    | 学生                           | 指導教員X                                           | 所属教員A              | 学生対応専任<br>教員                   |
| ① 4月         | 個別面談            | 研究目標等の記入                                                                              | ポートフォリオの記入（目標等）              | 個別面談                                            | -                  | 指導教員X<br>所属教員A<br>学生対応専任<br>教員 |
| ② 4月上旬～4月下旬  | システム            | 学習申告                                                                                  | 学習申告                         | 学習申告の確認                                         |                    |                                |
| ③ 8月上旬～8月下旬  | 特定課題研究の発表会、個別面談 | 特定課題研究の発表、最終研究及び修士における学修に向けたアドバイス                                                     | 発表会                          | 発表会の状況等をシステムに入力、個別面談                            |                    |                                |
| ④ 8月末～10月中旬  | システム            | 学生による「振り返り」、今後の目標記入。<br>8月末～学習申告。                                                     | ポートフォリオの記入（振り返り、目標等）<br>学習申告 | 記録内容の確認<br>学習申告の確認                              |                    |                                |
| C 2月中旬～3月上旬  | 個別面談            | 【達成度評価、卒業】<br>今までの学習状況を振り返ると同時に、修士における学修に向けたアドバイスを行う。卒業の要件の確認を行う（最終確認は系。）。            | 振り返り、<br>身に付ける力の自己評価等        | 両者、又は、どちらかの教員。<br>同意できない場合は、システムで確認。            |                    |                                |
| ⑤ 3月上旬       | システム            | 単位の確認                                                                                 |                              | 単位の確認                                           |                    |                                |

| 時期            | 形態                     | 内容                                                                                               | 学生                        | 指導教員X                                              | 所属教員A    | 学生対応専任教員 |
|---------------|------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------|----------------------------------------------------|----------|----------|
| ★3 入学後        | 系又はコースごとにガイダンス<br>個別面談 | オリエンテーションにおいて、系又はコースごとにポートフォリオの説明を行い、学生に記入させる。<br>指導教員は、学生と研究テーマ・学習申告に係る個別面談を行う。                 | ポートフォリオの記入（目標等）           | 協働むせ（集団）<br>個別面談                                   | 協働むせ（集団） |          |
| ① 4月上旬～4月下旬   | システム                   | 学習申告                                                                                             | 学習申告                      | 学習申告の確認                                            |          |          |
| ② 10月（9月）～11月 | （指導教員）個別面談             | 進路対応（博士への勧誘）、研究アドバイス。（半修状況の確認）                                                                   | ポートフォリオの記入（振り返り、目標等）、学習申告 | 学習申告の確認<br>個別面談 or システム                            |          |          |
| ③ 8月上旬～4月下旬   | 個別面談                   | 進路対応（博士への最終的な勧誘）、研究アドバイス、半修状況の確認                                                                 | ポートフォリオの記入（振り返り、目標等）、学習申告 | 両者、又は、どちらかの教員。<br>同意できない場合は、システムで確認。<br>学習申告の確認    |          |          |
| ④ 8月末～10月中旬   | システム                   | 学生による「振り返り」、今後の目標記入。<br>9月末～学習申告。                                                                | ポートフォリオの記入（振り返り、目標等）、学習申告 | 記録内容の確認<br>学習申告の確認                                 |          |          |
| D 2月中旬        | 修論研究の発表会<br>個別面談       | 【達成度評価、修7】<br>今までの学習状況を振り返ると同時に、今後に向けた（博士における学修に向けた）アドバイスを行う。（発表会の場で面談も可）。修7要件の確認を行う（最終確認はコース。）。 | 振り返り、<br>身に付ける力の自己評価等     | 両者、又は、どちらかの教員<br>（主として指導教員）。<br>同意できない場合は、システムで確認。 |          |          |
| ⑤ 8月上旬        | システム                   | 単位の確認                                                                                            |                           | 単位の確認                                              |          |          |
| 時期            | 形態                     | 内容                                                                                               | 学生                        | 指導教員X                                              | 所属教員A    | 学生対応専任教員 |
| ★4 入学後        | コースごとにガイダンス<br>個別面談    | オリエンテーションにおいて、コースごとにポートフォリオの説明を行い、学生に記入させる。<br>指導教員は、学生と研究テーマ・学習申告に係る個別面談を行う。                    | ポートフォリオの記入（目標等）           | 協働むせ（集団）<br>個別面談                                   | 協働むせ（集団） |          |
| ① 4月上旬～4月下旬   | システム                   | 学習申告                                                                                             | 学習申告                      | 学習申告の確認                                            |          |          |
| ② 8月末～10月中旬   | システム                   | 学生による「振り返り」、今後の目標記入。<br>8月末～学習申告。                                                                | ポートフォリオの記入（振り返り、目標等）、学習申告 | 記録内容の確認<br>学習申告の確認                                 |          |          |
| ③ 3月上旬～4月下旬   | 個別面談                   | 学生による「振り返り」、研究アドバイス、今後の目標記入。<br>4月～学習申告。                                                         | ポートフォリオの記入（振り返り、目標等）、学習申告 | 両者、又は、どちらかの教員。<br>同意できない場合は、システムで確認。<br>学習申告の確認    |          |          |
| ④ 8月末～10月中旬   | システム                   | 学生による「振り返り」、今後の目標記入。<br>8月末～学習申告。                                                                | ポートフォリオの記入（振り返り、目標等）、学習申告 | 記録内容の確認<br>学習申告の確認                                 |          |          |
| ⑤ 3月上旬～4月下旬   | 個別面談                   | 学生による「振り返り」、研究アドバイス、今後の目標記入。<br>4月～学習申告。                                                         | ポートフォリオの記入（振り返り、目標等）、学習申告 | 両者、又は、どちらかの教員。<br>同意できない場合は、システムで確認。<br>学習申告の確認    |          |          |
| ⑥ 8月末～10月中旬   | システム                   | 学生による「振り返り」、今後の目標記入。<br>8月末～学習申告。                                                                | ポートフォリオの記入（振り返り、目標等）、学習申告 | 記録内容の確認<br>学習申告の確認                                 |          |          |
| E 2月中旬        | 修論研究の発表会or<br>個別面談     | 【達成度評価、修7】<br>今までの学習状況を振り返ると同時に、今後に向けたアドバイスを行う。（発表会の場で面談も可）。修7要件の確認を行う（最終確認はコース。）。               | 振り返り、<br>身に付ける力の自己評価等     | 両者、又は、どちらかの教員<br>（主として指導教員）。<br>同意できない場合は、システムで確認。 |          |          |
| ⑦ 3月上旬        | システム                   | 単位の確認                                                                                            |                           | 単位の確認                                              |          |          |

中期計画【9】「学科・専攻の枠を越えた学内連携に加えて、国内外の有力大学及び研究機関との連携を推進し、多様な教育を提供する。また、イノベーション人材養成機構を核としてキャリア教育を強化する。」に係る状況

専攻の枠を越えた多様性を重んじた教育の推進のため、第2期中期目標期間では延べ29の特別教育研究コース（第1期からの継続19、当期新設10）を開設した（資料9-1）。

また、28年度以降は特別教育研究コースに代わり、先端的分野や社会の課題に対応するため複数の系又はコースが共同して教育を実施する特別専門学修プログラムを開設できることとし、さらに、もう一つの広域学修制度として、学生が選択した分野以外の広範な知識・技能を修得させるための副専門学修プログラムの設置を各コースに義務付けることとし、実施要項を定めた（資料9-2）。

国内機関との連携取組としては、四大学連合教育（本学、一橋大学、東京医科歯科大学、東京外国語大学）を継続実施するとともに、複合領域コースの所属者を増加させる方策を検討し、個別説明会を充実させた（資料9-3）。また、新たに10機関との学生交流に関する協定を締結し、全学協定は14機関に及ぶ（資料9-4）。さらに、部局間の取組としては、理工学研究科工学系で四大学工学系人材交流プログラム、理学系でSTEP10、情報理工学研究科でenPiT等の連携取組を行っている（資料9-5）。

国外機関との連携取組としては、当期中に新たに15大学等と学生交流協定を締結し、延べ108機関と協定関係にある（資料9-6）。また、連携による複数学位の取得を目指す取組として、清華大学とのダブルディグリープログラムを16年度より継続して実施している。第2期では、学位の授与を伴う合同プログラムに関するガイドラインを定め、フランスのポンゼシヨセ大学、台湾国立交通大学、韓国科学技術院（KAIST）との間に新たに協定を締結し、相互に学位取得を可能とした（資料9-7）。

これまで学内の複数組織で行っていたキャリア支援やインターンシップ等の教育面での企業等との連携について、イノベーション人材養成機構を設置して総括的に実施し、大学院修了者のアウトカムズに沿ったキャリア教育の仕組みを整備・強化した。Career Talk やドクターズキャリアフォーラム等のイベントを毎年開催し、26年度からは全ての博士後期課程学生にキャリア科目単位取得を必須として、それぞれのキャリアパスに応じたキャリア能力を養成する教育を実施している（資料9-8）。また、修士課程学生に対しては、28年度からキャリア科目の必修化を決定し、開講科目の準備を行い、さらなるキャリア教育の強化を図った。

## (資料 9 - 1) 大学院特別教育研究コース一覧 (第 2 期)

| 特別教育研究コース 一覧  |                                      |                                                                                               |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                              |          |          |       |
|---------------|--------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------|----------|-------|
| 終了<br>予定<br>順 | コース名                                 | 研究科・専攻・分野名                                                                                    | 協力研究科・専攻・分野名                                                                                                                                                                                                                                                                                                                 | 設置期間     |          | コース長名 |
|               |                                      |                                                                                               |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                              | 開始       | 終了       |       |
| 継続            | 医歯工学特別コース                            | 総合理工学研究科<br>物質科学創造専攻<br>創造エネルギー専攻<br>物理情報システム専攻<br>メカノマイクロ工学専攻<br>物理電子システム創造専攻<br>知能システム科学専攻  | 理工学研究科<br>基礎物理学専攻<br>材料工学専攻<br>応用化学専攻<br>化学工学専攻<br>機械物理学専攻<br>機械制御システム専攻<br>機械宇宙システム専攻<br>電気電子工学専攻<br>電子物理学専攻<br>原子核工学専攻<br>生命理工学研究科<br>分子生命科学専攻<br>生体システム専攻<br>生命情報専攻<br>生物プロセス専攻<br>生体分子機能工学専攻<br>総合理工学研究科<br>物質科学創造専攻等<br>情報理工学研究科<br>数理・計算科学専攻<br>計算工学専攻<br>情報環境学専攻<br>社会理工学研究科<br>価値システム専攻<br>経営工学専攻<br>イノベーションマネジメント研究 | H18.10.1 | H28.9.30 | 河野 俊之 |
| 継続            | 経済理工学特別コース                           | 社会理工学研究科<br>社会工学専攻                                                                            | 社会理工学研究科<br>人間行動システム専攻<br>価値システム専攻<br>経営工学専攻                                                                                                                                                                                                                                                                                 | H19.4.1  | H29.3.31 | 武藤 滋夫 |
| 継続            | 都市地震工学特別教育コース                        | 理工学研究科<br>建築学専攻                                                                               | 総合理工学研究科<br>環境理工学創造専攻<br>人間環境システム専攻<br>理工学研究科<br>土木工学専攻<br>情報理工学研究科<br>情報環境学専攻                                                                                                                                                                                                                                               | H19.4.1  | H29.3.31 | 時松 孝次 |
| 継続            | IT特別教育研究コース                          | 情報理工学研究科<br>数理・計算科学専攻<br>計算工学専攻                                                               | 情報理工学研究科<br>計算工学専攻                                                                                                                                                                                                                                                                                                           | H19.6.1  | H29.3.31 | 佐伯元司  |
| 継続            | 合憲形成学特別教育研究コース                       | 社会理工学研究科<br>価値システム専攻                                                                          | 総合理工学研究科<br>知能システム科学専攻                                                                                                                                                                                                                                                                                                       | H20.4.1  | H30.3.31 | 猪原 健弘 |
| 継続            | グローバルCOE量子物理学・ナノサイエンス特別教育コース         | 理工学研究科<br>物性物理学専攻<br>基礎物理学専攻                                                                  |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                              | H20.10.1 | H28.3.31 | 斎藤 晋  |
| 継続終了          | 社会資本の安全                              | 理工学研究科<br>材料工学専攻<br>機械物理学専攻<br>土木工学専攻<br>国際開発工学専攻                                             | 総合理工学研究科<br>材料物理学専攻<br>環境理工学創造専攻<br>情報理工学研究科<br>情報環境学専攻                                                                                                                                                                                                                                                                      | H17.10.1 | H22.9.30 | 水流 徹  |
| 継続終了          | バイオメカノシステム融合コース                      | 生命理工学研究科<br>5専攻<br>総合理工学研究科<br>メカノマイクロ工学専攻                                                    |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                              | H18.4.1  | H23.3.31 | 三原 久和 |
| 継続終了          | プロジェクトマネーシングコース                      | 理工学研究科<br>有機高分子物質専攻<br>(H20.10.1～)                                                            | 総合理工学研究科<br>物質科学創造専攻<br>材料物理学専攻<br>理工学研究科<br>材料工学専攻                                                                                                                                                                                                                                                                          | H19.4.1  | H24.3.31 | 三島 良直 |
| 継続終了          | 生命時空間ネットワーク<br>特別教育研究コース             | 生命理工学研究科<br>分子生命科学専攻<br>生体システム専攻<br>生命情報専攻<br>生物プロセス専攻<br>生体分子機能工学専攻                          |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                              | H20.4.1  | H24.3.31 | 徳永万壽洋 |
| 継続終了          | 電気情報系リーダー育成コース                       | 総合理工学研究科<br>物理電子システム創造専攻<br>物理情報システム専攻<br>理工学研究科<br>電気電子工学専攻<br>電子物理学専攻<br>集積システム専攻           |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                              | H20.4.1  | H25.3.31 | 小山二三夫 |
| 継続終了          | 計算世界観・特別教育研究コース                      | 情報理工学研究科<br>数理・計算科学専攻                                                                         | 情報理工学研究科<br>計算工学専攻<br>理工学研究科<br>数学専攻<br>原子核工学専攻<br>総合理工学研究科<br>知能システム科学専攻<br>物理情報システム専攻                                                                                                                                                                                                                                      | H20.4.1  | H25.3.31 | 渡辺 治  |
| 継続終了          | 先端化学計測特別コース                          | 理工学研究科<br>化学専攻                                                                                | 理工学研究科<br>物質科学専攻                                                                                                                                                                                                                                                                                                             | H20.4.1  | H25.3.31 | 岡田 哲男 |
| 継続終了          | 社会的サービス価値のデザイン・イノベーター育成プログラム         | 社会理工学研究科<br>価値システム専攻                                                                          | 総合理工学研究科<br>知能システム科学専攻                                                                                                                                                                                                                                                                                                       | H20.4.1  | H26.3.31 | 木嶋 恭一 |
| 継続終了          | ナノマテリアルイニシアティブコース                    | 理工学研究科<br>有機高分子物質専攻                                                                           | 理工学研究科<br>材料工学専攻<br>総合理工学研究科<br>物質科学創造専攻<br>材料物理学専攻                                                                                                                                                                                                                                                                          | H20.10.1 | H25.3.31 | 高田十志和 |
| 継続終了          | G-COE化学「新たな分子化学創発を目指す教育研究拠点」特別教育コース  | 理工学研究科<br>化学専攻                                                                                | 理工学研究科<br>物質科学専攻<br>応用化学専攻<br>化学工学専攻<br>総合理工学研究科<br>物質電子化学専攻<br>化学環境学専攻                                                                                                                                                                                                                                                      | H21.4.1  | H24.3.31 | 鈴木 啓介 |
| 継続終了          | International Human Economic Science | 社会理工学研究科<br>社会工学専攻<br>人間行動システム専攻<br>情報理工学研究科<br>数理・計算科学専攻<br>計算工学専攻<br>総合理工学研究科<br>知能システム科学専攻 | 情報理工学研究科<br>情報環境学専攻<br>数理・計算科学専攻                                                                                                                                                                                                                                                                                             | H21.4.1  | H26.3.31 | 肥田野 登 |
| 継続終了          | 生命情報学(情報)特別教育研究コース                   |                                                                                               | 生命理工学研究科<br>バイオ研究基盤支援総合セン<br>ター                                                                                                                                                                                                                                                                                              | H21.4.1  | H26.3.31 | 米崎 直樹 |

出典：教務課作成資料

（資料 9－2）大学院特別専門学修プログラム・副専門学修実施要項の制定

東京工業大学大学院特別専門学修プログラム実施要項等の制定について

I. 東京工業大学大学院特別専門学修プログラム実施要項

1. 概要

最先端分野や社会的な課題に対応するため、横断的かつ機動的な教育拠点を編成し、プロジェクト的に大学院課程の先端的教育及び実務的人材養成を行うことを目的に、複数のコース等が共同して教育を実施する。

2. 開設

プログラムは、学院が開設する。プログラムの開設期間は原則として5年以内とし、必要に応じて期間を延長することができる。

3. プログラムの構成

プログラムは、実施するコース等の科目コード400番台、500番台又は600番台の科目のうちから、指定された科目により構成される。

4. 対象

修士課程、博士後期課程又は専門職学位課程に在学する学生とする。

5. 修了要件単位数

プログラムの修了要件は、プログラムごとに定めるものとするが、履修学生が選択するコース等が定める標準学修課程に含まれていない科目から、8単位以上を修得することとする。

6. 施行年月日

平成28年4月1日

II. 東京工業大学大学院副専門学修プログラム実施要項

1. 概要

学生が選択したコースで高度な専門知識を体系的に修得するほかに、その分野以外についての分野を履修し、広範な知識・技能を身に付ける機会を設けるため、専門職学位課程を除き、各コースにて実施する。

2. 開設

コース等が実施する学修プログラムであり、学院が開設する。

3. プログラムの構成

各開設学院は、構成する科目をプログラムごとに指定する。

副専門科目は、科目コード400番台又は500番台の科目とし、分野の基礎的知識修得のため科目コード200番台又は300番台の指定が可能である。

|                                                              |
|--------------------------------------------------------------|
| 4. 対象                                                        |
| 対象は、原則として修上課程、又は専門職学位課程に在学する学生とする。                           |
| 5. プログラム選択                                                   |
| 学生は自ら選んだコースの副専門学修プログラムは選択することができない。またコースが同一であると認定した場合も同様である。 |
| 6. 修了要件単位数                                                   |
| プログラムの定める単位数(16単位から20単位)を修得することとする(400番台及び、500番台科目の2単位を含む)。  |
| 7. 施行年月日                                                     |
| 平成28年4月1日                                                    |

出典：教務課作成資料

(資料9-3) 四大学連合複合領域コース所属者推移

| 四大学連合複合領域コース 所属者推移(H22～H27) |               |        |     |     |     |     |     |     |     |     |     |     |     |
|-----------------------------|---------------|--------|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|
| 大学名<br>年度<br>コース名           |               | 東京工業大学 |     |     |     |     |     |     |     |     |     |     |     |
|                             |               | 22     |     | 23  |     | 24  |     | 25  |     | 26  |     | 27  |     |
|                             |               | 志願者    | 所属者 | 志願者 | 所属者 | 志願者 | 所属者 | 志願者 | 所属者 | 志願者 | 所属者 | 志願者 | 所属者 |
| 3<br>大学<br>コース              | 総合生命科学        | 8      | 8   | 15  | 14  | 15  | 15  | 28  | 27  | 33  | 33  | 45  | 44  |
|                             | 海外協力          | 2      | 2   | 1   | 1   | 2   | 2   | 7   | 6   | 5   | 5   | 5   | 5   |
|                             | 生活空間研究        | 2      | 2   | 0   | 0   | 1   | 1   | 7   | 6   | 7   | 7   | 9   | 9   |
| 2<br>大学<br>間<br>コース         | 科学技術と知的財産     | 6      | 6   | 8   | 8   | 2   | 2   | 7   | 7   | 15  | 15  | 11  | 11  |
|                             | 技術と経営         | 3      | 3   | 10  | 6   | 5   | 5   | 5   | 5   | 13  | 4   | 10  | 6   |
|                             | 文理総合          | 14     | 14  | 30  | 29  | 15  | 15  | 23  | 21  | 29  | 28  | 30  | 27  |
|                             | 医用工学          | 8      | 8   | 8   | 8   | 11  | 11  | 15  | 14  | 16  | 16  | 25  | 25  |
|                             | 国際テクニカルライティング | 2      | 2   | 5   | 5   | 6   | 6   | 6   | 6   | 3   | 3   | 8   | 8   |
| 合計                          |               | 45     | 45  | 77  | 71  | 57  | 57  | 98  | 92  | 121 | 111 | 143 | 135 |

出典：教務課作成資料

## (資料 9 - 4) 第 2 期新規・継続分国内機関との協定一覧

| 国内機関との協定一覧(学部)                     |                                 |                                                    |                        |            |                            |                       |
|------------------------------------|---------------------------------|----------------------------------------------------|------------------------|------------|----------------------------|-----------------------|
| ○ 大学関係                             |                                 |                                                    |                        |            |                            |                       |
| 相手大学等(対象学部)                        | 本学(対象学部)                        | 名称                                                 | 内容                     | 締結日        | 有効期間                       | 期限                    |
| お茶の水女子大学                           | 東京工業大学                          | 東京工業大学とお茶の水女子大学との間における学部学生交流に関する協定書                | 単位互換                   | 平成13年2月8日  | 平成13年4月1日～                 | 定めなし                  |
| お茶の水女子大学<br>(文教育学部, 理学部,<br>生活科学部) | 東京工業大学<br>(理学部, 工学部,<br>生命理工学部) | 東京工業大学とお茶の水女子大学との間における学部学生交流に関する覚書                 | 単位互換                   | 平成13年2月8日  | 平成13年4月1日～                 | 定めなし                  |
| 東京医科歯科大学<br>東京外国語大学<br>一橋大学        | 東京工業大学                          | 四大学連合憲章                                            | 四大学連合                  | 平成13年3月15日 | 定めなし                       | 定めなし                  |
| 東京医科歯科大学<br>東京外国語大学<br>一橋大学        | 東京工業大学                          | 複合領域コース, 編入学及び複数学士号に関する協定書                         | 四大学連合                  | 平成17年4月1日  | 平成17年4月1日～                 | 定めなし                  |
| 東京外国語大学                            | 東京工業大学                          | 東京工業大学と東京外国語大学との間における学部学生交流に関する協定書                 | 単位互換                   | 平成27年3月25日 | 平成27年4月1日～                 | 1年毎に自動更新              |
| 東京外国語大学                            | 東京工業大学                          | 東京工業大学と東京外国語大学との間における学部学生交流に関する覚書                  | 単位互換                   | 平成27年3月25日 | 平成27年4月1日～                 | 定めなし                  |
| 慶應義塾大学<br>(経済学部)<br>(経済学研究科)       | 東京工業大学<br>(工学部)<br>(社会理工学研究科)   | 東京工業大学と慶應義塾大学との間における学生交流に関する協定書                    | 単位互換(及び研究指導: 大学院)      | 平成22年12月1日 | 平成22年4月1日～                 | 4年(申し出がない限り1年ずつ自動延長)  |
| 慶應義塾大学<br>(経済学部)                   | 東京工業大学<br>(理学部, 工学部,<br>生命理工学部) | 東京工業大学理学部, 工学部及び生命理工学部と慶應義塾大学経済学部との間における学生交流に関する覚書 | 単位互換                   | 平成26年3月25日 | 平成26年4月1日～                 | 定めなし                  |
| 武蔵野美術大学                            | 東京工業大学                          | 東京工業大学と武蔵野美術大学との間における教育研究交流に関する協定書                 | 合同授業・研究等の実施, 学生及び教員の交流 | 平成25年6月28日 | 平成25年6月28日～                | 2年間(申し出が無い限り自動的に1年延長) |
| ○ 高等専門学校関係                         |                                 |                                                    |                        |            |                            |                       |
| 相手大学等(対象学部)                        | 本学(対象学部)                        | 名称                                                 | 内容                     | 締結日        | 有効期間                       | 期限                    |
| 沼津工業高等専門学校                         | 東京工業大学                          | 東京工業大学と沼津工業高等専門学校との間における教育研究交流に関する協定書              | 講義及び共同研究等, 学生・教員の交流等   | 平成26年12月1日 | 平成26年12月1日～<br>平成31年11月30日 | 5年間<br>(6月前までに協議して更新) |
| 沼津工業高等専門学校                         | 東京工業大学                          | 沼津工業高等専門学校から東京工業大学への実習生派遣に関する覚書                    | インターンシップ               | 平成26年12月1日 | 平成26年12月1日～<br>平成31年11月30日 | 5年間<br>(6月前までに協議して更新) |
| 東京工業高等専門学校                         | 東京工業大学                          | 東京工業大学と東京工業高等専門学校との間における教育研究交流に関する協定書              | 講義, 共同研究, 交流           | 平成23年4月1日  | 平成23年4月1日～<br>平成28年3月31日   | 5年間<br>(6月前までに協議して更新) |
| 東京工業高等専門学校                         | 東京工業大学                          | 「東京工業大学と東京工業高等専門学校との間における教育研究交流に関する協定」の実施に関する覚書    | 講義, 施設・設備利用・インターンシップ   | 平成23年4月1日  | 平成23年4月1日～<br>平成28年3月31日   | 5年間<br>(6月前までに協議して更新) |

| 国内機関との協定一覧(大学院) |            |                                                                           |
|-----------------|------------|---------------------------------------------------------------------------|
| 年度              | 大学等        |                                                                           |
| H22             | 慶應義塾大学     | 東京工業大学と慶應義塾大学との間における学生交流に関する協定書                                           |
| H22             | 四大学憲章 医科歯科 | 東京医科歯科大学と東京工業大学との間における学生交流に関する覚書                                          |
| H22             | 早稲田大学      | 大学院総合理工学研究科と早稲田大学理工学術院との間における学生交流に関する覚書                                   |
| H24             | 電気通信大学     | イノベーション人材養成機構に関する東京工業大学及び電気通信大学・横浜国立大学・慶應義塾大学・首都大学東京との間における学生交流に関する協定書・覚書 |
| H24             | 横浜国立大学     |                                                                           |
| H24             | 慶應義塾大学     |                                                                           |
| H24             | 首都大学東京     |                                                                           |
| H24             | 電気通信大学     | 「情報技術人材育成」に関する東京工業大学と電気通信大学との間における学生交流に関する協定書                             |
| H25             | 早稲田大学      | 東京工業大学大学院理工学研究科と早稲田大学理工学術院との間における学生交流に関する覚書                               |
| H25             | 学習院大学      | 学習院大学との学生交流に関する協定書及び覚書                                                    |
| H26             | 京都大学       | 東京工業大学と京都大学との間における学生交流に関する協定書                                             |
| H26             | 東京外国語大学    | 東京工業大学と東京外国語大学との間における学部学生交流に関する協定書                                        |

出典：教務課作成資料

## （資料 9－5）部局間での他機関との連携取り組み

**四大学工学系人材交流プログラムとは**

将来を担う研究、教育、組織運営のリーダーとして活躍が期待されている人材を、北海道大学、東京工業大学、名古屋大学および大阪大学の四大学が協力してさらにパワーアップすることを目的としています。このような人材の相互交流を行うことにより、異なる組織間の教育や研究、大学の組織運営の仕方を学びます。参加する大学組織間での知の共有と組織の共進化を図ると同時に、異なる知識でも活躍できる幅広い視点を身につけた教員リーダーの育成を図ります。このプログラムは我が国における人材の交流と活性化に強いインパクトを与えると期待されています。



四大学工学系人材交流プログラム

**STEP10**  
国立10大学大学院理学研究科等  
学生交流推進プログラム

サイトマップ Sitemap  
リンク Related Links

STEP10とは About    お知らせ Notices    大学別一覧 Universities    日程一覧 Courses    申込方法 Register    交通アクセス Access    FAQ FAQ

Home > STEP10とは About

**STEP10とは About**

Student Exchange Promotion Program for Graduate Schools of Science of The 10 National Universities (STEP10)は、国立大学法人10大学理学部員会（北海道大学、東北大学、筑波大学、東京大学、東京工業大学、名古屋大学、京都大学、大阪大学、広島大学、九州大学の理学部員会からなる組織）が、よりグローバルでより多様な科学人材育成のために設置した、大学間連携学生交流プログラムです。10大学が協力して、他大学学生も聴講できる授業科目を相互に授けることにより、大学の枠を超えた教育・研究を促進することを目指しています。



学生諸君には、「武者修行」や「道場修行」のような意気込みで積極的に本プログラムに参加し、自己研鑽を積むとともに知的交流を体験し、既存の大学の枠から踏み出して自主的に学ぶことを強く望みます。チャレンジをいとわない創造力にあふれた学生諸君の存在こそが、我が国の力強い成長の源であると信じます。STEP10は、次代を担う科学人材育成を使命とする国立10大学理学部の新たなステップです。

**聴講希望者ログイン**  
Log in

E-mail address  
Password

**ログイン Log in**  
[パスワード失念 Forgot your password?]

**聴講候補リスト**  
List of Favorite Courses

聴講候補リストは空です  
No courses have been chosen.

STEP10\* is an inter-university student exchange program established by the Conference for Deans of the 10 National Universities' Graduate Schools of Science — Hokkaido University, Tohoku University, University of Tsukuba, the University of Tokyo, Tokyo Institute of Technology, Nagoya University, Kyoto University, Osaka University, Hiroshima University, and Kyushu University — for the cultivation of more global and diverse human resources in scientific fields. The goal of this program is to promote education and research that go beyond the boundaries of a university by offering inter-university courses through the cooperation of the 10 universities.



We sincerely hope that students will participate actively in this program with the spirit of *Mushashugyo* (Itinerant martial arts training conducted in old Japan) or *Dojoyaburi* \* (A custom from old Japan in which martial arts trainees would take up the challenge to prove their skills to a martial art training school) so that they will not only be able to practice brainstorming but also experience intellectual exchanges, which will enable them to study independently by stepping out of the existing frame of their own university. We believe that the very existence of students who are not afraid of new challenges and who are full of creativity is a powerful source for Japan's growth. STEP10 is a new step for the 10 National Universities' Graduate Schools of Science whose mission is to inspire young scientists into becoming leaders of the next generation.

#### \*STEP10

Student Exchange Promotion Program for Graduate Schools of Science of the 10 National Universities

#### \*Dojoyaburi

It is believed that martial arts trainees challenged other training schools all alone either to make their name or to go down in deadly defeat

#### 注意事項 Notes

- ③ **本プログラムは研究指導の一環です。**  
This program is part of research guidance.
- ③ **原則として、聴講のみで単位の取得はできません。**  
As a general rule, students can audit courses but cannot receive credits for taking courses provided by STEP10.
- ③ **旅費が支給される場合もあります。**  
Depending on the situation, travel expenses may be provided.

詳細は、所属する大学院の教務担当窓口にお問い合わせください。  
For more information, please contact the Graduate School office of your institution.

**enPiT**  
Education Network for Practical Information Technologies

分野・地域を越えた実践的情報教育協働ネットワーク

実践×交流  
世界が求める新しい価値を創る

www.enpit.jp

**enPiT**  
Education Network for Practical Information Technologies

分野・地域を越えた実践的情報教育協働ネットワーク

実践×交流  
世界が求める新しい価値を創る

www.enpit.jp

出典：教務課作成資料（各ホームページ・パンフレットより引用）

## (資料 9-6) 第2期新規・継続分海外機関との協定一覧

| 全学協定校一覧     |     |    |     |       |             |                                                    |            |            |              |            |                 |            |              |            |                |
|-------------|-----|----|-----|-------|-------------|----------------------------------------------------|------------|------------|--------------|------------|-----------------|------------|--------------|------------|----------------|
| 協定校数<br>No. | No. | 種別 | 地域  | 国・地域名 | 相手機関名称(日本語) | 相手機関名称(英語)                                         | 全学協定書      |            |              |            | 授業料不徴収協定書       |            |              |            |                |
|             |     |    |     |       |             |                                                    | 開始日        | 最新更新日      | 最新協定書有効期間(年) | 次期更新予定日    | 開始日             | 最新更新日      | 最新協定書有効期間(年) | 次期更新予定日    | 授業料不徴収学生数(人)/年 |
| 1           | 1   | 全学 | アジア | 中国    | ハルビン工業大学    | Harbin Institute of Technology                     | 1988.10.23 | 2011/3/4   | 5            | 2016.3/3   | 廃止<br>2001/8/25 | 2005/3/4   | -            | 廃止         | 3              |
| 2           | 2   | 全学 | アジア | 中国    | 清華大学        | Tsinghua University                                | 1985/4/13  | 2015/4/19  | 10           | 2025/4/19  | 2003/5/1        | 2015/4/19  | 10           | 2025/4/19  | 2              |
| 3           | 3   | 全学 | アジア | 中国    | 上海交通大学      | Shanghai Jiao Tong University                      | 1991/8/14  | 2011/8/14  | 3            | 2016/8/13  | -               | -          | -            | -          | -              |
| 4           | 4   | 全学 | アジア | 中国    | 西安交通大学      | Xi'an Jiaotong University                          | 1991/8/23  | 2011/8/26  | 5            | 2016/8/25  | 2001/9/28       | 2011/8/26  | 5            | 2016/8/26  | 2              |
| 5           | 5   | 全学 | アジア | 中国    | 浙江大學        | Zhejiang University                                | 1989/9/2   | 2013/9/2   | 5            | 2018/9/1   | 2007/12/15      | 2013/9/2   | 5            | 2018/9/1   | 3              |
| 6           | 6   | 全学 | アジア | 中国    | 北京理工大学      | Beijing Institute of Technology                    | 1983/12/3  | 2013/12/9  | 5            | 2018/12/8  | 2010/2/1        | 2013/12/9  | 5            | 2018/12/8  | 2              |
| 7           | 7   | 全学 | アジア | 中国    | 中国科学技術大学    | University of Science and Technology of China      | 1987/9/28  | 2012/9/26  | 5            | 2017/9/25  | -               | -          | -            | -          | -              |
| 8           | 8   | 全学 | アジア | 中国    | 武漢理工大學      | Wuhan University of Technology                     | 2006/11/28 | 2011/11/28 | 5            | 2016/11/27 | 2006/6/28       | 2011/11/28 | 5            | 2016/11/27 | 2              |
| 9           | 9   | 全学 | アジア | 中国    | 同済大学        | Tongji University                                  | 2007/4/25  | 2012/4/26  | 3            | 2017/4/25  | 2012/4/18       | 2017/4/18  | 5            | 2017/4/17  | 2              |
| 10          | 10  | 全学 | アジア | 中国    | 天津大学        | Tianjin University                                 | 2007/8/24  | 2012/11/5  | 5            | 2017/11/4  | -               | -          | -            | -          | -              |
| 11          | 11  | 全学 | アジア | 中国    | 香港科技大学      | The Hong Kong University of Science and Technology | 2016/4/6   | 2015/4/7   | 5            | 2020/4/5   | -               | -          | -            | -          | -              |
| 12          | 12  | 全学 | アジア | 中国    | 北京大学        | Peking University                                  | 1991/8/13  | 2013/8/24  | 5            | 2018/8/23  | -               | -          | -            | -          | -              |
| 13          | 13  | 全学 | アジア | 中国    | 東南大学        | Southeast University                               | 2012/9/13  | 2015/9/16  | 5            | 2020/9/15  | -               | -          | -            | -          | -              |

(以下省略)

出典：国際部作成資料

## (資料 9-7) ダブルディグリープログラム一覧

| ダブルディグリープログラム一覧 |            |                                |
|-----------------|------------|--------------------------------|
| パートナー大学         | 開始年度       | 対象部局・分野                        |
| 清華大学            | 平成16年度     | ナノテクノロジー、バイオ、社会理工学             |
| ポンゼジョセ          | 平成22年度     | 社会理工学研究科、総合理工学研究科、土木工学専攻       |
| 国立交通大学          | 平成27年度     | 電子物理工学専攻、電気電子工学専攻、物理電子システム創造専攻 |
| KAIST           | 平成27年度(予定) | 理工学研究科機械系3専攻                   |

出典：国際部作成資料

## (資料9-8) イノベーション人材養成機構の取組

## 平成26年度後期 東工大イノベーション人材養成機構(IIDP)講義大学院キャリア科目一覧

平成26年10月22日

| 申告<br>番号 | 講義・演習科目                                                                                                                                                                                                                                       | 講師                                                                  | 日程        | 時間                           | 講義室                               | 対応GA                     |
|----------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------|-----------|------------------------------|-----------------------------------|--------------------------|
| 後学期前半 開講 |                                                                                                                                                                                                                                               |                                                                     |           |                              |                                   |                          |
| 23012    | <b>博士キャリアデザインⅠ F</b><br>*博士人材が自身のキャリア・人生を考えるという視点から、本学博士学生として直面するキャリア選択場面を想定し、個人の社会的・職業的自立に必要な「キャリア観」養成のための思考トレーニングとする。自分の希望だけでなく、受入れる企業やアカデミアからの、高度研究人材として期待されるコンピテンシー(高い成果達成行動特性・能力)を理解し、現実的な進路選択とその実現を目指す。<br>(前期の博士キャリアデザインⅠSと同内容)        | 増沢 隆太<br>(東京工業大学 特任教授)                                              | 10月17日(金) | 金曜日<br>15:05~16:35<br>(7-8限) | ●大岡山 S223<br>◆すずかけ J233<br>(遠隔講義) | A0D<br>P0D               |
|          |                                                                                                                                                                                                                                               |                                                                     | 10月24日(金) |                              |                                   |                          |
|          |                                                                                                                                                                                                                                               |                                                                     | 10月31日(金) |                              |                                   |                          |
|          |                                                                                                                                                                                                                                               |                                                                     | 11月7日(金)  |                              |                                   |                          |
|          |                                                                                                                                                                                                                                               |                                                                     | 11月14日(金) |                              |                                   |                          |
|          |                                                                                                                                                                                                                                               |                                                                     | 11月21日(金) |                              |                                   |                          |
|          |                                                                                                                                                                                                                                               |                                                                     | 11月28日(金) |                              |                                   |                          |
| 23009    | <b>ロジカルコミュニケーション演習</b><br>・コミュニケーションそのものという源泉とした存在ではなく、コミュニケーションによって実現したい、真の目的の設定、明確化、その実現への道のりという戦略的な構造を理解し、ロジカルで実践的講義と実習を交え、体験型トレーニングの場とする。                                                                                                 | 増沢 隆太<br>(東京工業大学 特任教授)                                              | 10月8日(水)  | 水曜日<br>13:20~14:50<br>(5-6限) | ●大岡山 H112                         | A2D<br>A3D<br>P2D<br>P3D |
|          |                                                                                                                                                                                                                                               |                                                                     | 10月22日(水) |                              |                                   |                          |
|          |                                                                                                                                                                                                                                               |                                                                     | 10月29日(水) |                              |                                   |                          |
|          |                                                                                                                                                                                                                                               |                                                                     | 11月5日(水)  |                              |                                   |                          |
|          |                                                                                                                                                                                                                                               |                                                                     | 11月12日(水) |                              |                                   |                          |
|          |                                                                                                                                                                                                                                               |                                                                     | 11月19日(水) |                              |                                   |                          |
|          |                                                                                                                                                                                                                                               |                                                                     | 12月3日(水)  |                              |                                   |                          |
| 23008    | <b>テクノロジーマネジメント実践論(O)</b><br>*多くの日本企業において従来から行われている研究開発マネジメントという視点と違いを意識しながら、日本企業再生へ向けて、技術そのものの開発という視点から、技術の有効性を活用することにより、いかに価値を創造するかというグローバルスタンダードな技術への取り組みを理解する機会とする。<br>(前期のテクノロジーマネジメント実践論(S)と同内容)                                        | 古田 健二<br>(東京工業大学 特任教授)                                              | 10月8日(水)  | 水曜日<br>15:05~16:35<br>(7-8限) | ●大岡山 H112                         | P0D<br>P1D               |
|          |                                                                                                                                                                                                                                               |                                                                     | 10月22日(水) |                              |                                   |                          |
|          |                                                                                                                                                                                                                                               |                                                                     | 10月29日(水) |                              |                                   |                          |
|          |                                                                                                                                                                                                                                               |                                                                     | 11月5日(水)  |                              |                                   |                          |
|          |                                                                                                                                                                                                                                               |                                                                     | 11月12日(水) |                              |                                   |                          |
|          |                                                                                                                                                                                                                                               |                                                                     | 11月19日(水) |                              |                                   |                          |
|          |                                                                                                                                                                                                                                               |                                                                     | 12月3日(水)  |                              |                                   |                          |
| 後学期後半 開講 |                                                                                                                                                                                                                                               |                                                                     |           |                              |                                   |                          |
| 23014    | <b>博士キャリアデザインⅡ F</b><br>*博士人材が自身のキャリア・人生を決めるため、進路を問わずその実現に必要な対応スキルの基礎を作る。企業就職はもちろん、アカデミアの進路を考える博士学生であっても、就職活動のプロセスを理解し、キャリア決定のスケジュールに基づくスキル養成や必要情報に何かが理解する。単なる就活ノウハウの講習でも、キャリア心理学の講義でもない、東工大生のキャリアデザインに特化した実践性を重視する。<br>(前期の博士キャリアデザインⅡSと同内容) | 増沢 隆太<br>(東京工業大学 特任教授)                                              | 12月10日(水) | 水曜日<br>13:20~14:50<br>(5-6限) | ●大岡山 S223<br>◆すずかけ J233<br>(遠隔講義) | A0D<br>P0D               |
|          |                                                                                                                                                                                                                                               |                                                                     | 12月17日(水) |                              |                                   |                          |
|          |                                                                                                                                                                                                                                               |                                                                     | 12月24日(水) |                              |                                   |                          |
|          |                                                                                                                                                                                                                                               |                                                                     | 1月7日(水)   |                              |                                   |                          |
|          |                                                                                                                                                                                                                                               |                                                                     | 1月14日(水)  |                              |                                   |                          |
|          |                                                                                                                                                                                                                                               |                                                                     | 1月21日(水)  |                              |                                   |                          |
|          |                                                                                                                                                                                                                                               |                                                                     | 1月28日(水)  |                              |                                   |                          |
| 23007    | <b>グローバル企業の研究開発実践Ⅱ</b><br>*欧米外資系企業を中心として、グローバルな活動をしている企業における研究開発活動の概要、業界・地域などの特徴、その背景にある考え方、価値観、行動様式、研究員に求められる資質について講義し、グローバルな舞台での活躍を志向する博士後期課程学生等に、キャリアパス選択の指針になるような情報を提供することを目指す。                                                           | 大久保 孝俊(住友スリーエム(株)チーフ・プロセス・オフィサー(CPO))                               | 12月10日(水) | 水曜日<br>15:05~16:35<br>(7-8限) | ◆すずかけ台 J233<br>講義室変更(10/20) J232  | P0D<br>P1D               |
|          |                                                                                                                                                                                                                                               | 的場 太(ネスレ日本(株)人事総務本部)                                                | 12月17日(水) |                              |                                   |                          |
|          |                                                                                                                                                                                                                                               | 奥 泰介(P&Gイノベーション合同会社研究開発本部グローバルヘアカア)                                 | 12月24日(水) |                              |                                   |                          |
|          |                                                                                                                                                                                                                                               | 安間 元哉(コーニンヘルディングスジャパン合同会社ハイパフォーマンスディスプレイ部門アジア・アジア・エレクトロニクス・マーケティング) | 1月7日(水)   |                              |                                   |                          |
|          |                                                                                                                                                                                                                                               | 山下 秀樹(BASFジャパン(株)研究開発室)                                             | 1月14日(水)  |                              |                                   |                          |
|          |                                                                                                                                                                                                                                               | 鳥谷 克義(ファイザーヘルスリサーチ振興財団 理事長)                                         | 1月21日(水)  |                              |                                   |                          |
|          |                                                                                                                                                                                                                                               | 大羽 隆元(デュボン(株)グローバルビジネスディレクター)                                       | 1月28日(水)  |                              |                                   |                          |

|                                                                                                                                                                                                                                                                              |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                         |                                                                                                                                                                                                                                                 |                                    |                              |                                           |                   |
|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------|------------------------------|-------------------------------------------|-------------------|
| 23104                                                                                                                                                                                                                                                                        | ALP研修基礎 F2(大)<br>研究方法論、予算獲得の仕組み、成果を社会へ発信するための論文執筆法、申請書作成法、研究倫理を学ぶ。主としてD1、D2を対象とする。<br>・第1回 研究方法論、予算獲得の仕組み、英文論文執筆リテラシー<br>・第2回 模範論文査読演習、申請書作成リテラシー<br>・第3回 模範申請書審査演習、研究者倫理 (ALP研修基礎F1(中)と同一内容)                                                                                                                                           | 榎 敏明(科学技術振興機構プラットフォーム主管・東京工業大学 名誉教授)<br>豆塚 廣章(東京工業大学 特任教授)<br>下田 隆二(東京工業大学 特任教授)<br>菊池 文彦(東京工業大学 特任教授)<br>榎松 友彦(東京工業大学 特任教授)<br>Daniel Berrar(東京工業大学 特任教授)<br>Hazel B. Gonzales(東京工業大学 特任教授)<br>Dan Ricinchi(東京工業大学 特任教授)<br>羽鳥 好律(東京工業大学 特命教授) | 12月2日(火)                           | 15:05～18:20<br>(7-10限)       | ●大岡山 H112<br>(第1回後半と第2回前半 H112、H115、H117) | A1D               |
|                                                                                                                                                                                                                                                                              |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                         |                                                                                                                                                                                                                                                 | 12月16日(火)                          |                              |                                           |                   |
|                                                                                                                                                                                                                                                                              |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                         |                                                                                                                                                                                                                                                 | 1月13日(火)                           |                              |                                           |                   |
| 23204                                                                                                                                                                                                                                                                        | PLP研修基礎 F2(大)<br>本講義は、知財マネジメントを軸に、事業や研究開発に対する考え方や、企業における研究開発活動に従事する者としての基本を学ぶものである。そのために知っておくべき研究開発活動の概略と知財制度の基礎的事項についても事例を含めて解説する。また技術者倫理についても事例を活用し理解を深める。                                                                                                                                                                            | 浦田 雄次(元(株)神戸製鋼所7&2・鋼管ハニー技術部長(兼)本社知的財産部担当部長)<br>中村 昌允(東京工業大学イノベーションマネジメント研究科客員教授(元ライオン技))<br>古田 健二(東京工業大学 特任教授)                                                                                                                                  | 12月12日(金)                          | 金曜日<br>13:20～17:35<br>(5-9限) | ●大岡山 S513                                 | P1D               |
|                                                                                                                                                                                                                                                                              |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                         |                                                                                                                                                                                                                                                 | 1月9日(金)                            |                              |                                           |                   |
|                                                                                                                                                                                                                                                                              |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                         |                                                                                                                                                                                                                                                 | 1月23日(金)                           |                              |                                           |                   |
| 23210                                                                                                                                                                                                                                                                        | PLP発展研修 F2<br>本講義は、異なる専門性を有するメンバーで構成するチームで課題解決に向けて取り組むことによる、産業界における活動の基本であるチームワークを実体験することを旨とする。<br>この際に、模範課題のベースを企業派遣のファシリテーターから提供していただき、具体的な模範テーマは学生が設定する。このことにより現実の産業界における課題解決に向けた取り組みにおける課題設定能力の向上を図ることを旨とする。<br>※基本的に3回すべて出席しないと評価対象としない                                                                                            | 遠藤 成純(日立製作所情報・通信システム社ITプラットフォーム事業本部PEビジネス本部ITマネジメントソフトウェア推進部長)<br>古田 健二(東京工業大学 特任教授)                                                                                                                                                            | 11月15日(土)                          | 13:00-17:30                  | ●大岡山 H116                                 | P1D<br>P2D<br>P3D |
|                                                                                                                                                                                                                                                                              |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                         |                                                                                                                                                                                                                                                 | 12月5日(金)                           | 午前:企業見学<br>午後:企業会議室にて講義      |                                           |                   |
|                                                                                                                                                                                                                                                                              |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                         |                                                                                                                                                                                                                                                 | 12月20日(土)                          | 13:00-17:30                  |                                           |                   |
| 23016                                                                                                                                                                                                                                                                        | 博士キャリアデザインⅡF-E(英語開講)<br>This is an intensive course on the fundamentals of scientific writing in English. The goal of this course is to equip the students with the elementary skills needed for effective scientific writing. The first class covers the essential aspects of how to write and publish a paper in an academic journal. | 羽鳥 好律(東京工業大学 特命教授)<br>Daniel Berrar(東京工業大学 特任教授)<br>Hazel B. Gonzales(東京工業大学 特任教授)<br>Dan Ricinchi(東京工業大学 特任教授)                                                                                                                                 | 1月20日(火)                           | 10:45～16:35                  | ●大岡山 S512                                 | A0D<br>P0D        |
|                                                                                                                                                                                                                                                                              |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                         |                                                                                                                                                                                                                                                 | 1月22日(木)                           | 13:20～16:35                  |                                           |                   |
|                                                                                                                                                                                                                                                                              |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                         |                                                                                                                                                                                                                                                 | 1月23日(金)                           | 13:20～16:36                  |                                           |                   |
| 後学期 開講                                                                                                                                                                                                                                                                       |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                         |                                                                                                                                                                                                                                                 |                                    |                              |                                           |                   |
| 23106                                                                                                                                                                                                                                                                        | ALP研修ⅠF(TA研修)<br>博士後期課程学生が、学部あるいは修士課程の演習・実験・実習等科目においてTAに従事することにより、将来社会を指導する立場になった場合の心構えや教授法等を実践によって高めて今後のキャリアに生かすことを目指す。<br>1. インテンシブコース(集中講義形式)<br>1. 教授法に関する講義<br>2. 英語による模範講義・模範講義実習<br>2. 学部(1年生向け基礎科目を含む)・修士向けの実験・実習、演習科目                                                                                                          | 羽鳥 好律<br>(東京工業大学 特命教授)                                                                                                                                                                                                                          | 詳細は「ALP研修1(TA)募集要項」を確認してください       |                              |                                           | A2D<br>A3D        |
|                                                                                                                                                                                                                                                                              |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                         |                                                                                                                                                                                                                                                 |                                    |                              |                                           |                   |
| 23108                                                                                                                                                                                                                                                                        | ALP研修ⅡF(海外研修)<br>博士後期課程学生が、指導教員の指導のもと、国外の大学・研究機関等で、国際共同研究等を原則として2週間以上の海外研修を行うことで、研究の国際化を実践的に習得してキャリア育成を図ることを目的とする。海外渡航経費補助有り。                                                                                                                                                                                                           | 羽鳥 好律<br>(東京工業大学 特命教授)                                                                                                                                                                                                                          | 詳細は「ALP研修2(海外研修)募集要項」を確認してください     |                              |                                           | A2D<br>A3D        |
|                                                                                                                                                                                                                                                                              |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                         |                                                                                                                                                                                                                                                 |                                    |                              |                                           |                   |
| H27年度より実施<br>H28年度は試行実施                                                                                                                                                                                                                                                      | PLP研修Ⅰ(前期開講)<br>PLP研修Ⅱ(後期開講)<br>(インターンシップ研修)<br>産業界へのインターンシップ研修                                                                                                                                                                                                                                                                         | 古田 健二<br>(東京工業大学 特任教授)                                                                                                                                                                                                                          | 詳細は今後お送りする「PLP研修Ⅰ・Ⅱ 募集要項」を確認してください |                              |                                           | P2D<br>P3D        |
|                                                                                                                                                                                                                                                                              |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                         |                                                                                                                                                                                                                                                 |                                    |                              |                                           |                   |
| ・博士学生であればあなたでも履修できます。履修登録は各自で行ってください。<br>・未定部分は、決まり次第、OCW、IDPホームページでお知らせいたします。<br>・日時、講義室変更の可能性ありますので、必ずOCW等で最新の情報をチェックするようにしてください。                                                                                                                                          |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                         |                                                                                                                                                                                                                                                 |                                    |                              |                                           |                   |
| ●アカデミクリーダー教育院(ALP)所属学生に求められるGraduate Attributes(GA)<br>A0D: 自らのキャリアプランを明確に描き、アカデミアの分野でその実現に必要な能力を自己修習できる<br>A1D: 現象の本質を見極め、学問の奥義を究めて、新たな学問領域・研究領域の開拓をリードできる<br>A2D: 社会における学術の位置づけを理解し、ステークホルダーたる社会の構成員に学術の進展を適切に説明できる<br>A3D: 教育機関等において、学術に興味を持たせ、新たな学問領域・研究領域の開拓を担う後継を育成できる |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                         |                                                                                                                                                                                                                                                 |                                    |                              |                                           |                   |
| ●プロダクティブリーダー教育院(PLP)所属学生に求められるGraduate Attributes(GA)<br>P0D: 自らのキャリアプランを明確に描き、産業界等でその実現に必要な能力を自己修習できる<br>P1D: 社会のニーズを的確に捉えて課題を見出し、将来の科学技術の発展をリードできる<br>P2D: 異なる専門性・価値観を有するメンバーからなるチームを率いて、社会に新たな価値を生み出すもの・ことを創造できる<br>P3D: プロジェクトを通して次世代の社会や産業の発展を担う後継を育成できる                |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                         |                                                                                                                                                                                                                                                 |                                    |                              |                                           |                   |

- ・博士学生であればどなたでも履修できます。履修登録は各自で行ってください。
- ・未定部分は、決まり次第、OCW、IIRPホームページでお知らせいたします。
- ・日時、講義室変更の可能性があるので、必ずOCW等で最新の情報をチェックするようにしてください。

- アカデミックリーダー教育院(ALP)所属学生に求められるGraduate Attributes(GA)
- A0D: 自らのキャリアプランを明確に描き、アカデミアの分野でその実現に必要な能力を自己修習できる
- A1D: 現象の本質を見極め、学問の奥義を究めて、新たな学問領域・研究領域の開拓をリードできる
- A2D: 社会における学術の位置づけを理解し、ステークホルダーたる社会の構成員に学術の進展を適切に説明できる
- A3D: 教育機関等において、学術に興味を持たせ、新たな学問領域・研究領域の開拓を担う後継を育成できる

- プロダクティブリーダー教育院(PLP)所属学生に求められるGraduate Attributes(GA)
- P0D: 自らのキャリアプランを明確に描き、産業界等でその実現に必要な能力を自己修習できる
- P1D: 社会のニーズを的確に捉えて課題を見出し、将来の科学技術の発展をリードできる
- P2D: 異なる専門性・価値観を有するメンバーからなるチームを率いて、社会に新たな価値を生み出すもの・ことを創造できる
- P3D: プロジェクトを通して次世代の社会や産業の発展を担う後継を育成できる

**IIDP** 東京工業大学イノベーション人材養成機構  
Innovation and Innovation Development Platform

**Feb.27, 2015**  
**12:30-17:00**  
**@TTF (Oookayama)**

# IIDP Career Talk 2014

Career Study Fair for International Students of Tokyo Tech.

**東工大留学生のためのキャリアトーク** \*留学生以外参加できません

東工大留学生のための「IIDPキャリアトーク2014」

日本企業への知見を深め、留学生としてのキャリア観を養成するための催しです。



## Time Table:

12:30-14:30 Career Seminar for Int'l Students 留学生キャリアセミナー

14:30-17:00 Communication with **Companies** 個別ブース交流

## 来場予定社

富士通、NEC  
東レ、JT、NTT  
GEヘルスケア  
日本ゼオン、  
カネカ、LIXIL  
CCC、太陽HD  
シュルンベルジェ  
JSR、寺岡精工  
NTTデータ、  
三菱電機、  
ポッシュ、レノボ  
(順不同)



## "Pre-Entry" is recommended.

Send your ; 1.氏名 2.学籍番号 3.所属研究科・専攻 4.学年  
を下記まで送って下さい。(返信をもって登録完了です)

1.Name, 2.Student ID Number, 3.Department name

4.Year in School (e.g., B3, M2, D3, ...)

To: [tokodai@disc.co.jp](mailto:tokodai@disc.co.jp)

当日受付は混雑し  
ます。事前登録を  
お勧めします。

**Pre-Entry Deadline**  
**By 23<sup>rd</sup> FEB**

## Pre-Entry特典 当日50名限定

**Privileges of  
Pre-entry ONLY:**  
"Job Hunting Guide  
for Int'l Students"  
50 copies only.  
On a first come, first  
served basis on the  
day. **Pre-entry ONLY**

東京工業大学イノベーション人材養成機構(IIDP) [iidpinfo@jim.titech.ac.jp](mailto:iidpinfo@jim.titech.ac.jp)

本企画は東京工業大学が企画・主催し、実行いたします。会場設営等の運営事務局は株式会社ディスコに委託しています。  
This event is hosted by Tokyo Institute of Technology and is administered by DISCO Inc.

**イノベーション人材養成機構(IIDP)**  
**H26 年度ドクターズキャリアフォーラム報告書**

平成 26 年 12 月 15 日

- 開催日：平成 26 年 12 月 4 日（木）12：00～18：00
- 開催場所：東京工業大学 大岡山キャンパス  
東工大蔵前会館（TTF）くらまえホール  
＊12：00～14：30 PLIP フュージョンプロジェクト同時開催

●出展企業：28 ブース

カネカ、ボッシュ、日立製作所、大塚製薬、キーサイト・テクノロジー（旧アジレント）、日本 IBM、スリーエム ジャパン、東洋合成工業、JSR、NTT、富士フイルム、三菱電機（株）先端総研・情報技術総研、富士ゼロックス、日本電気中央研究所、日本無線、村田製作所、東レ、日本ゼオン、住友金属鉱山、シュルンベルジェ、太陽ホールディングス、旭硝子、IHI、マイクロソフト ディベロプメント、フィックスターズ、日本電波工業、パナソニック、JT

●参加者：100 名

うち他大学：博士学生 4 名（総研大 3 名、首都大 1 名）、PD1 名（東北大）合計 5 名

●出展企業アンケート ＊有効回答数：31

◆IIDP ドクターズキャリアフォーラム（DCF）内容等の全体的感想

|         |    |
|---------|----|
| 大変満足である | 6  |
| 満足である   | 20 |
| やや不満がある | 3  |
| 不満である   | 2  |

【理由/コメント】

- ・分野のかたよりが多く、できるだけ全部のエリアの学生がいると良かった
- ・多数の博士学生と接触できた
- ・優秀な学生が多い
- ・多くの学生と話すことができた
- ・視野が広く、素直な学生が多くいた
- ・優秀かつ面白みのある学生が多くいた
- ・多くの学生と交流することができ、大変有意義だった

◆DCF 参加の目的（複数回答可）

|               |    |
|---------------|----|
| 博士人材採用のため     | 26 |
| 博士人材採用を検討するため | 4  |
| 産学連携のため       | 1  |

◆今回のドクターズキャリアフォーラムで採用を考えたいと思う博士人材はいましたか？

|       |    |
|-------|----|
| いた    | 24 |
| いなかった | 2  |
| 無回答   | 5  |

【理由/コメント】

- ・必ずしも分野的にマッチするからではなく、スキルの高さから採用したいと思った。
- ・社の分野との親和性が高い
- ・選考が合致し、人物的にも良いと感じたため
- ・社の事業、R&D とマッチすることが多かった

出典：イノベーション人材養成機構作成資料

中期計画【10】「教育ポリシーに基づいて、各学部・研究科でディプロマ・ポリシーを策定し、卒業・修了要件の見直し並びに評価方法を改善する。」に係る状況

教育ポリシーでは教育目標として、課程ごとに養成する人材像、修得する能力を定めており、それに基づき、23 年度に学部・研究科及び学科・専攻において修得する能力として学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）を制定し、HP で公表するとともに、学習案内に記載している（資料 10－1，2）。

各学部の学位授与方針に基づき、各学科の卒業要件を見直した。また、各研究科の学位授与方針に基づき、修了要件の見直し・明確化を行い、各専攻の学習課程を定めた。また、大学院課程の修了要件の見直しも行い、授業科目を研究科目群、専門科目群、大学院教養・共通科目群に区分し研究科目群及び専門科目群の授業科目から 18 単位以上、大学院教養・共通科目群から 2 単位以上を修了要件の必須とする学習課程を定めた（資料 10－3）。

さらに、英語のみで修了可能な国際大学院プログラム所属する学生に、履修案内及び修了要件の内容を十分に説明した英文学習案内を作成・配布し、HP でも公表した（資料 10－4）。

成績評価方法の改善については、各学科・専攻で策定する学習課程にて学位論文を含む授業科目ごとに学習内容との関連を明記し、各授業科目において該当する学習内容の到達度をもって成績を評価することとした。また、卒業・修了要件及び成績評価方法は、各学科・専攻でオリエンテーションなどを通じて学生に説明・指導しており、各専攻の学位論文の評価基準を明示し HP で公表している（資料 10－5，6）。成績評価方法については、TOKYO TECH OCW でも明示しており、28 年度からはシラバスの様式を刷新し、開講する全ての科目の公開を決定している（資料 10－7）。

また、従来の 100 点満点による成績評価に加え、GPA 制度を試行的に導入し、新教育システムが開始される 28 年度入学者からは成績評価法として正式に適用を決定し、運用方法を定めた（資料 10－8）。

(資料 10-1) 修得する能力 (課程ごと)



出典：大学ホームページ <http://www.titech.ac.jp/about/policies/education/index.html>

## (資料 10-2) ディプロマ・ポリシー (学部・学科)

| 入学者に求める能力と適性（各学部学科）                                                     |             |
|-------------------------------------------------------------------------|-------------|
| 理学部                                                                     |             |
| 数学科                                                                     | 数学科         |
| 物理学部                                                                    | 物理学部        |
| 化学部                                                                     | 化学部         |
| 地球惑星科学部                                                                 | 地球惑星科学部     |
| 工学部                                                                     |             |
| 金属工学科                                                                   | 金属工学科       |
| 機械材料工学科                                                                 | 機械材料工学科     |
| 化学工学科                                                                   | 化学工学科       |
| 高分子工学科                                                                  | 高分子工学科      |
| 機械科学部                                                                   | 機械科学部       |
| 機械知能システム工学科                                                             | 機械知能システム工学科 |
| 機械生産工学科                                                                 | 機械生産工学科     |
| 制御システム工学科                                                               | 制御システム工学科   |
| 経営システム工学科                                                               | 経営システム工学科   |
| 電気電子工学科                                                                 | 電気電子工学科     |
| 情報工学科                                                                   | 情報工学科       |
| 土木・環境工学科                                                                | 土木・環境工学科    |
| 建築工学科                                                                   | 建築工学科       |
| 社会工学科                                                                   | 社会工学科       |
| 国際経営工学科                                                                 | 国際経営工学科     |
| 生命理工学部                                                                  |             |
| 生命科学部                                                                   | 生命科学部       |
| 生命工学科                                                                   | 生命工学科       |
| 理学部                                                                     |             |
| 理学部は幅広い教育と自由な発想に基づいた研究を通して、社会や文化の発展に広く貢献することを目指しています。そのために次のような学生を求めます。 |             |
| 自然界の仕組みについて深く知りたいという強い好奇心を持つ者                                           |             |
| 教わるだけでなく、自ら主体的に学ぶことができる者                                                |             |
| 自分の意見を持ち、他者と議論することができる者                                                 |             |
| 十分な学力と表現力を持つ者                                                           |             |
| 数学科                                                                     |             |
| 数学科では、次のような資質と能力をもつ人材を求めます。                                             |             |
| 数学への好奇心と探究心を持っていること                                                     |             |
| 物事を論理的に思考し、根拠強く考える能力を持っていること                                            |             |
| 数学的能力を活かして社会に貢献する志を有すること                                                |             |

出典：教育推進室ホームページ

[http://www.eduplan.titech.ac.jp/w/edu\\_info/aptitude\\_course/](http://www.eduplan.titech.ac.jp/w/edu_info/aptitude_course/)

(資料 10-3) 大学院課程の単位数について

## 大学院について

### ■ 東工大大学院

#### 担当部署

- ・ 教務課
- ・ 学務課

#### 教務課

西 8 号館 1 階

#### 学務課

J 1 棟 1 階

本学学部学生の 9 割近くが進学する大学院。どのような課程があり、どのような学習をするのか、概要を紹介しますので参考にして下さい。

### ● 研究科及び課程

本学の大学院には、理工学研究科、生命理工学研究科、総合理工学研究科、情報理工学研究科、社会理工学研究科及びイノベーションマネジメント研究科があり、各研究科（イノベーションマネジメント研究科を除く）には前期 2 年の課程及び後期 3 年の課程に区分する博士課程が置かれ、前期 2 年の課程を「修士課程」、後期 3 年の課程を「博士後期課程」と称しています。イノベーションマネジメント研究科には、2 年の課程の専門職大学院の課程と後期 3 年の課程の博士課程が置かれ、2 年の課程を「専門職学位課程」、後期 3 年の課程を「博士後期課程」と称しています。

### ● 各課程

各課程の修了要件、単位数、論文審査等については以下のとおりです。

|       | 修士課程                                                                                                                                        | 博士後期課程                                                                                                    | 専門職学位課程                                                                                                                                      |
|-------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 修了要件  | 大学院に 2 年以上在学し、30 単位以上を修得し、かつ必要な研究指導を受けた上、修士論文の審査及び最終試験に合格しなければならない。                                                                         | 博士課程（修士課程又は専門職学位課程及び博士後期課程）を修了するためには大学院に 5 年以上在学し、30 単位以上を修得し、かつ必要な研究指導を受けた上、博士論文の論文審査及び最終試験に合格しなければならない。 | 専門職大学院に 2 年以上在学し、40 単位以上を修得しなければならない。                                                                                                        |
| 単位の修得 | 修了要件としての 30 単位以上は所属する専攻が定める学習課程に従い修得するものとし、30 単位以上のうち、18 単位以上は所属する専攻の研究科目群及び専門科目群の授業科目から、2 単位以上は大学院教養・共通科目群の授業科目又は専攻が指定する授業科目から修得しなければならない。 | 博士課程（修士課程又は専門職学位課程および博士後期課程）で修得しなければならない単位数は 30 単位以上となっており、博士後期課程では、専攻で定められた講義等の必修科目を修得することとなる。           | 修了要件としての 40 単位以上は所属する専攻が定める学習課程に従い修得するものとし、40 単位以上のうち、24 単位以上は所属する専攻の研究科目群及び専門科目群の授業科目から、2 単位以上は大学院教養・共通科目群の授業科目又は研究科の許可する授業科目から修得しなければならない。 |

出典：キャンパスガイドブック

（資料 10－4）国際大学院プログラム英文学習案内

**Graduate Schools and Departments**

Tokyo Institute of Technology has 6 Graduate Schools as below:

- Graduate School of Science and Engineering
- Graduate School of Bioscience and Biotechnology
- Graduate School of Information Science and Engineering
- Interdisciplinary Graduate School of Science and Engineering
- Graduate School of Decision Science and Technology
- Graduate School of Innovation Management

Each Graduate School has a Master (Pre-Doctoral) Program and a Doctoral Program, and are supported by constituent Departments.

International Graduate Program (A) has 7 Special Programs as below.

The Programs are supported respectively by the departments relating with the indicated field.

- Sustainable Engineering Program
  - ・ Development & Environmental Engineering Course
  - ・ Nuclear Engineering Course
  - ・ Infrastructure Metallic Materials Course
  - ・ Mechanical & Production Engineering Course
  - ・ Information & Communication Technology Course
  - ・ Advanced Materials & Chemical Processing Course
- Educational Program through International Collaboration on Architecture and Urban Design
  - ・ Architecture Design Course
- International Course in Bioscience and Biotechnology Course Program
  - ・ Environmental Life Sciences & Biotechnology Course
  - ・ Medical Life Sciences & Biotechnology Course
  - ・ Computational Life Sciences & Biotechnology Course
- International Program for Interdisciplinary Science and Engineering
  - ・ Advanced Course of Materials Science & Engineering Course
  - ・ Advanced Course of Environmental and Energy Science and Engineering Course
  - ・ Advanced Course of Information Technology & Systems Science Course
- Education Program of Japanese Advanced Information Technology
  - ・ Multimedia Contents Processing Course
  - ・ Human Interface Course
  - ・ Embedded Information System Course
  - ・ Robot Informatics Course
  - ・ Regional Planning discipline Course
  - ・ Computing and mathematical science discipline Course

（一部抜粋）

出典：教務課作成資料

## (資料 10－5) 平成 27 年度学科所属者対象の学科ガイダンス等 情報一覧

| 平成27年度学科所属者対象の学科ガイダンス等 情報一覧                                                                                             |                                                                           |
|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------|
| 学科ガイダンスに関して、教務課に連絡があった情報（概要）を掲載します。<br><b>色別のHPでは、当日の内容や持参すべきもの等の詳細を掲示している場合があります。</b><br>特に連絡がない学科については、学科HPのリンクとなります。 |                                                                           |
| 平成27年4月1日 9時                                                                                                            |                                                                           |
| 学 科                                                                                                                     | URL                                                                       |
| 数学科                                                                                                                     | 【詳細有】4月3日(金)10:30～ HI37                                                   |
| 物理学科                                                                                                                    | 【詳細有】4月6日(月)10:30～ HI11                                                   |
| 化学科                                                                                                                     | 【詳細有】4月3日(金)10:30～ HI35                                                   |
| 情報科学科                                                                                                                   | 【詳細有】4月13日(月)16:45～ 西8号館W棟8階 W809号室                                       |
| 地球惑星科学科                                                                                                                 | 【詳細有】4月17日(金)16:40～ 石川台2号館318講義室 ※詳細は学科HPを参照。                             |
| 金属工学科                                                                                                                   | 学科HP                                                                      |
| 有機材料工学科                                                                                                                 | 学科HP                                                                      |
| 無機材料工学科                                                                                                                 | 【詳細有】4月10日(金)13:20～ 南7号館202講義室                                            |
| 化学工学科(応用化学コース)                                                                                                          | 学科HP                                                                      |
| 化学工学科(化学工学コース)                                                                                                          | 学科HP                                                                      |
| 高分子工学科                                                                                                                  | 【詳細有】4月3日(金)13:00～ S423                                                   |
| 経営システム工学科                                                                                                               | 学科HP                                                                      |
| 機械科学科                                                                                                                   | 【詳細有】(オリエンテーション)4月6日(月)9:30～ 石川台3号館2階201 統合創造工房A1, A2エリア                  |
| 機械知能システム学科                                                                                                              | 【詳細有】(オリエンテーション)4月13日(月)15:00～ 石川台1号館124講義室<br>(懇親会)4月13日(月)17:00～ 生協第一食堂 |
| 機械宇宙学科                                                                                                                  | 学科HP                                                                      |
| 国際開発工学科                                                                                                                 | 学科HP                                                                      |
| 制御システム工学科                                                                                                               | 【詳細有】4月7日(火)15:00～ 石川台3号館310講義室                                           |
| 電気電子工学科                                                                                                                 | 学科HP                                                                      |
| 情報工学科                                                                                                                   | 学科HP                                                                      |
| 土木・環境工学科                                                                                                                | 【詳細有】4月7日(火)15:00～ MI14                                                   |
| 建築学科                                                                                                                    | 【詳細有】4月13日(月)17:00～ 緑が丘6号館1階緑が丘ホール                                        |
| 社会工学科                                                                                                                   | 【詳細有】4月10日(金)15:30～ 西9号館コラボレーションルーム                                       |
| 生命科学科                                                                                                                   | 学科HP                                                                      |
| 生命工学科                                                                                                                   | 学科HP                                                                      |

出典：本学ホームページ

## (資料 10－6) 学位論文評価基準

| 学位論文評価基準           |         |                                                                                                                                                                                                                              |                                                                                                                                                                                                                                                                                        |
|--------------------|---------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 専攻科                | 専攻      | 修士論文                                                                                                                                                                                                                         | 博士論文                                                                                                                                                                                                                                                                                   |
| 大学院理工学研究科<br>(理学系) | 数学専攻    | 修士論文研究では次の二つの要件を満たさなければならない。<br>1. 学位審査論文において、従来の研究と比較して新たな観点・知見・解法が何らかの形で含まれていること。<br>2. 申請者が研究内容の意義・結果について十分に理解していることを、学位審査論文及び論文審査会において明確に示せること。                                                                          | 博士論文研究では次の二つの要件を満たさなければならない。<br>1. 学位審査論文の内容に十分なオリジナリティーがあり、該当研究分野の進歩に寄与するものと認められること。<br>2. 学位申請者が主たる著者となっている論文(参考論文)が1編以上あること(ここでいう論文とは、原則として、査読付き国際学術誌に掲載あるいは受理されたものを指す)。                                                                                                            |
|                    | 基礎物理学専攻 | 1. 研究内容について<br>当該分野の進展に寄与する研究であること。<br>2. 学位論文について<br>関連分野の概観について適切なレビューがあり、当該研究の位置づけが明確になされていること。                                                                                                                           | 1. 研究内容について<br>a) 分野の進展に寄与する世界的水準の研究であること。<br>b) 国際的な査読付き学術誌に掲載可能な研究であること。<br>2. 学位論文について<br>a) 関連分野の概観について広い読者を想定した適切なレビューを行い、当該研究の位置づけが明確になれていること。<br>b) 学位論文が明瞭な英語で書かれているか、英語で書かれた論文が査読付き学術誌に掲載されていること。                                                                             |
|                    | 物理物理学専攻 | 1. 研究内容について<br>当該分野の進展に寄与する研究であること。<br>2. 学位論文について<br>関連分野の概観について適切なレビューがあり、当該研究の位置づけが明確になされていること。                                                                                                                           | 1. 研究内容について<br>分野の進展に寄与する世界的水準の研究であること。<br>2. 学位論文について<br>関連分野の概観について広い読者を想定した適切なレビューがあり、当該研究の位置づけが明確で、オリジナリティーがあること。<br>3. 主要な貢献をした論文(注)の出版が確定していること。<br>ただし、第3項は、平成22年4月以降に博士後期課程へ進学または入学した学生に適用する。<br>物理物理学専攻は、博士論文を英語で執筆することを推奨する。平成26年4月以降に博士後期課程へ進学または入学した学生は、博士論文の英語での執筆を必須とする。 |
|                    | 化学専攻    | 修士学位論文は、化学における新しい知見を含む、自著の論文であって、それらが客観的に認められるものでなければならない。                                                                                                                                                                   | 博士学位論文は、新規性、独創性と十分な学術的価値を持つ、化学に関する自著の論文であって、それらが客観的かつ批判的に広く認められるものでなければならない。                                                                                                                                                                                                           |
| 地球惑星科学専攻           |         | 1. 学位審査論文において、研究テーマにかかわる従来の研究を系統的、かつ適平足なレビューで記述していること。<br>2. 学位審査論文に、従来の研究と比較して新たな観点、知見が何らかの形で(手法、基礎データ等)で含まれていること。<br>3. 申請者が研究内容の意義・結果について十分に理解していること。学位審査論文及び論文審査会において明確に示せること。<br>なお、博士課程進学希望者に対して、修士論文研究発表会とは別に面接を実施する。 | 1. 学位審査論文の内容に十分なオリジナリティーがあり、該当研究分野の進歩に寄与するものと認められること。<br>2. 学位申請者が主たる著者となっている論文(参考論文)が1編以上あること(ここでいう論文とは、原則として、査読付き国際学術誌に掲載あるいは受理されたものを指す)。<br>3. 国際的な研究交流に資する能力を有すること。                                                                                                                |
|                    | 物質科学専攻  | ・物質科学分野における自著の論文であること<br>・論文は新しい科学的事実を含んでいること<br>・論文に関連する適切な引用がなされていること<br>・学術研究が従うべき倫理・規範を遵守していること                                                                                                                          | ・物質科学分野における自著の論文であること<br>・論理的かつ体系的に記述されていること<br>・論文は新規性、独創性と学術的価値を十分に持っていること<br>・関連する先行研究および専門性について十分な知識かつ適切な引用がなされていること<br>・学術研究が従うべき倫理・規範を遵守していること                                                                                                                                   |

(以下省略)

出典：教育推進室ホームページ [http://www.eduplan.titech.ac.jp/w/pdf/6-11\\_gakuironbunhyoukakijun\(H27\).pdf](http://www.eduplan.titech.ac.jp/w/pdf/6-11_gakuironbunhyoukakijun(H27).pdf)

## (資料 10-7) TOKYO TECH OCW 成績評価方法記載例

|                                                                                                                                                                                                                                                                                                                      |
|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>講義概要・シラバス</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                     |
| <p><b>無機化学第一</b><br/>Inorganic Chemistry I<br/>( 前田 和彦 )</p> <p>月曜日3-4時限開講 W931</p> <p>シラバス更新日: 2015年3月17日<br/>講義資料更新日: 2015年8月5日<br/>アクセス指標: ★★★★★<br/>前期 / 推奨学期: 3</p>                                                                                                                                             |
| <p><b>講義概要</b></p> <p>無機化学とは、元素全部を対象とする極めて幅広い学問分野です。本講義では化学科2年生を対象として、無機化学の基礎を解説します。特に、原子や分子の電子構造に着目して、各元素の性質と特徴（化学結合や反応性）の違いを論理的に理解することを目指します。</p>                                                                                                                                                                  |
| <p><b>講義の目的</b></p> <p>半期の講義で無機化学の全体を扱うことは困難なため、以下の3点に焦点を絞って学習します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 周期律表に基づき、元素やイオンの性質を理解し、説明できるようになる。</li> <li>・ 化学種同士の反応性、化合物の安定性を説明できるようになる。</li> <li>・ 様々な物質を構成する化学結合を説明できるようになる。</li> </ul> <p>そして、「なぜそうなるのか？」を常に意識して物質に対するセンスを養い、より高度な専門教育を受けるための礎を築くことを目指します。</p> |
| <p><b>講義計画</b></p> <p>達成目標となる上記の3点に関して、以下の内容を全15回の講義で学習します。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 原子の中の電子の振る舞い</li> <li>2. 元素の性質と周期律</li> <li>3. 共有結合と分子の構造</li> <li>4. 無機固体とその構造</li> <li>5. 酸と塩基</li> </ol> <p>講義内容の理解度を深めるため、毎回の講義において小テスト（演習）を実施するとともに、講義内容に関する簡単な復習問題を宿題として課します。</p>                    |
| <p><b>教科書・参考書等</b></p> <p>（教科書）<br/>シュライバー・アトキンス無機化学（上）第4版（東京化学同人）</p> <p>（参考書）<br/>はじめて学ぶ大学の無機化学（化学同人）</p> <p>必要に応じて講義資料をOCW-iにアップロードします。</p>                                                                                                                                                                       |
| <p><b>関連科目・履修の条件等</b></p> <p>履修の条件は特に指定しません。1年次に化学第一（量子化学）、化学第二（化学熱力学あるいは無機化学）を履修した人は、その学習成果を本講義に活かすことができます。</p>                                                                                                                                                                                                     |
| <p><b>成績評価</b></p> <p>下記、(1)と(2)を80:20の割合で評価し、最終成績とします。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 期末試験の結果</li> <li>(2) 講義中に行う小テストの内容及び復習用課題の提出状況</li> </ol>                                                                                                                                                     |
| <p><b>担当教員の一言</b></p> <p>本講義は化学科の必修授業に指定されており、化学科の学生諸君はこれを避けて通ることができません。「無機化学」と聞くと高校時代の暗記科目を連想してしまう人もいますが、論理的に考えて内容を理解できるようになると、大学の無機化学はとても魅力的な学問となります。そしてここで学んだ知識は、無機化学はもちろん物理化学や有機化学も含めたより高度な専門課程に進む上での基礎として役に立ちます。</p>                                                                                            |

出典: TOKYO TECH OCW ホームページ

（資料 10－8）東京工業大学における GPA 制度に関する要項（案）

東京工業大学における GPA 制度に関する要項制定理由

この要項は、4 年間の試行を経て、平成 28 年 4 月 1 日から正式導入するグレード・ポイント・アベレージ（GPA）に関し必要な事項を定めるものである。

○東京工業大学における GPA 制度に関する要項（案）

（目的）

第 1 条 この要項は、東京工業大学（以下「本学」という。）において、教育課程を通じて、学修の状況及び成果の客観的評価を示す指標であるグレード・ポイント・アベレージの制度に関し必要な事項を定め、厳格かつ透明性のある学修の評価を通じ、学生の能動的学修及び教員等による的確な修学指導を推進し、教育の質の向上に資することを目的とする。

（定義）

第 2 条 この要項において、次の各号に掲げる用語の意義は、それぞれ当該各号に定めるところによる。

- 一 グレード・ポイント（以下「GP」という。） 履修申告科目の成績に基づき算出される 0 又は 0.5 から 4.5 までの数値をいう。
- 二 グレード・ポイント・アベレージ（以下「GPA」という。） 履修申告科目の GP と単位数の積の総和を履修申告科目の単位数の総和で除した数値をいう。
- 三 クォーター GPA 各クォーターにおける GPA をいう。
- 四 学期 GPA 各学期における GPA をいう。
- 五 年度 GPA 各年度における GPA をいう。
- 六 通算 GPA 在学期間における GPA をいう。

（対象学生）

第 3 条 GPA 制度を適用する対象学生は、本学の学士課程、修士課程、博士後期課程及び専門職学位課程に在学する全ての学生とする。

（対象授業科目）

第 4 条 GPA 制度の対象とする授業科目（以下「対象授業科目」という。）は、各課程において卒業又は修了の要件となる全ての授業科目とする。ただし、次の各号に掲げる授業科目は、対象としない。

- 一 東京工業大学学修規程（平成 16 年規程第 10 号、本条において「学修規程」という。）第 2 条第 2 項に規定する研究関連科目並びに東京工業大学大学院学修規程（平成 16 年規程第 12 号、本条において「大学院学修規程」という。）第 3 条第 2 項に規定する講究科目及び研究関連科目に該当する授業科目
- 二 学修規程第 12 条第 2 項ただし書及び大学院学修規程第 7 条第 2 項ただし書の規定により「合格」又は「不合格」をもって学修の評価を行う授業科目
- 三 学修規程第 13 条の 2 から第 15 条まで並びに大学院学修規程第 8 条及び第 9 条の規定により単位を認定された授業科目

（以下省略）

出典：教育改革実施 WG 会議資料

中期計画【11】「教育推進室と各学部・研究科が連携し、PDCA（Plan-Do-Check-Action）サイクルに基づいた教育改善を行うシステムを充実する。」に係る状況

教育推進室と各学部・研究科が連携して、PDCA サイクルに基づいた教育改善を行うため、教育推進室に各学部・研究科の教育委員会委員長で構成した「教育推進会議」を置き、そこで教育改善を行うための施策を検討・改善を図った。

また、23 年度に入学選抜方法や学生募集戦略の改善を目的とする「アドミッションセンター」（資料 11－1）を、27 年度にさらに教育改善を推進させる組織として、教育の質保証体制の構築・教育能力開発・教育学習環境開発を 3 つの柱とする「教育革新センター」を設置し、学長裁量ポストを活用して、4 名の専任教員を配置した。これにより、PDCA サイクルに基づいた教育改善を行うシステムを充実させた（資料 11－2）。

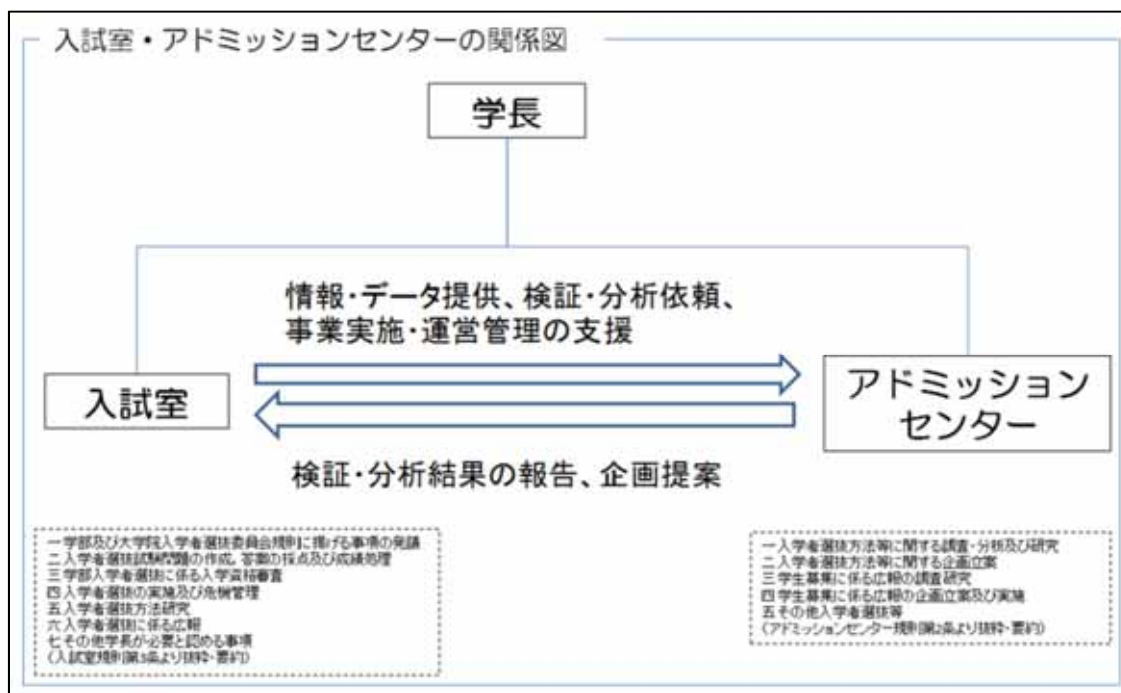
授業評価の集計方法は、集計時間を短縮し評価結果を一早く教員にフィードバックし、効果的に教育改善に繋げるため、大学院科目は 23 年度から、学部科目は 25 年度から、紙ベースから Web ベースでの実施方法に変更を行った（資料 11－3，4）。

その後、授業評価結果をより効果的に教育改善への結びつけが可能となるよう、27 年度に基本方針を改定し（資料 11－5）、集計時間をこれまでと同等に保った上で、回答率の向上を図るため、マークシートを使用し、集計等はアウトソーシングした（資料 11－6）。

また、24，27 年度に教育推進室において、卒業・修了者、その家族及び本学の卒業生・修了生の就職先等に本学の教育システムに関する調査を行い、それらの結果を第 1 期中に行った評価結果と比較しつつ教育改善を要する点を抽出し、それらの改善策の検討を行い、教育計画に反映する PDCA サイクルの枠組みを構築した（資料 11－7，8）。その後、PDCA 活動を実施するため、25 年度に全学科長を集めた「教育力向上シンポジウム」を開催し改善意識の向上を図った（資料 11－9）。

さらに、学部教育改善の取組は、学科からの応募を受け 6～8 学科を選定し、26 年度に試行的に実施を行い、その結果を公表した。また、26 年度後期に全学科長を集めた「教育改善活動（試行）前学期取組内容の報告会」を開催し（資料 11－10）、教育改善に関する情報共有を図るとともに教育改善方法を論議した。

（資料 11－1）アドミッションセンター説明資料



出典：入試室作成資料

（資料 11－2）教育革新センター説明資料



（一部抜粋）

出典：教育革新センターパンフレット

（資料 11－3）大学院授業評価の実施（試行）依頼文（H23 後期）

平成 24 年 1 月 23 日

教員各位

教育推進室長  
三島 良直

大学院授業評価の実施（試行）について

教育推進室では、『全学的な授業評価（大学院）の基本方針について』（2011 年 3 月 2 日教育推進室）に基づき、授業評価検討 WG にて検討を重ね、平成 23 年度後学期の大学院授業科目について試行的に下記のとおり授業評価を実施することとなりました。

授業評価を実施することとなった授業担当教員におかれましては、履修学生に対し、授業評価に参加するようご指導頂きますようお願いいたします。

なお、本件の実施につきましては、各学生へ連絡済みであることを申し添えます。

記

1. 授業評価期間 : 平成 24 年 1 月 23 日 ～ 平成 24 年 2 月 15 日
2. 対象授業科目 : 平成 23 年度後学期大学院授業科目のうち、各研究科が選定した科目  
(全ての大学院授業科目が対象となっているわけではありません。)
3. 授業評価の要領 : (PC 版)
  - ①Tokyo Tech Portal にログインし、メニューより「授業評価（大学院試行）」を選択
  - ②ID（学籍番号）を入力し、授業評価アンケートにアクセス
  - ③表示された履修科目名を押下してアンケートに回答  
(携帯電話・スマートフォン版)
    - ①<https://jhm.gakumu.titech.ac.jp/titfd/> にアクセス
    - ②ID（学籍番号）とパスワード（※1）を入力し、ログインボタンをクリック
    - ※1 誕生日を入力 例) 1 月 1 日 ⇒ 0101
    - ③表示された履修科目名を押下してアンケートに回答

《授業評価（大学院）の基本方針》

(1) 趣旨

授業評価は大学院教育の改善のために、大学が中心となり全学を挙げて研究科、学生、教員のために継続的に実施する。

(2) 実施体制

授業評価は全学的な教育推進活動として教育推進室が統括し、教育工学開発センターの協力の下に各研究科等が実施運営する。

(3) 結果の取り扱い

全学的な立場から共通の調査項目で、授業評価を各研究科で継続的に行うものとする。各研究科は授業評価結果をその趣旨に従って公表するとともに、研究科の教育改善のために活用する。ただし、公表する内容については各研究科で別途定めるものとする。

(4) 独自項目による調査

評価内容については全学的な評価を基本とする。しかしながら、各研究科等の特色ある教育をより改善するために、研究科等で独自の調査を実施することも可能とする。研究科等の独自調査結果の取り扱いについては、研究科の判断に委ねるが、授業評価の趣旨からできるだけ公開することを基本とする。

【本件問い合わせ先】

学務部教務課教育企画グループ 森田・笹川

内線 : 7 6 0 3 E-mail : [kyo.kyo@jim.titech.ac.jp](mailto:kyo.kyo@jim.titech.ac.jp)

## 1.メニューの中から「授業評価(大学院試行)」を選択します



## 2.自分の申告している授業(アンケート対象科目のみ)が一覧で表示されますので、授業科目から任意の授業科目名を選択します

日本語(Japanese) 英語(English) ~4/7 02/27/20

授業評価 アンケート

所属: XXXXX学部 専攻: XXXX学科 学割番号: 99, 99999

東京工業大学

あなたが所属している講座の授業名を選択し、アンケートに回答して下さい。

| 講座      | 1     | 2      | 3     | 4       | 5     | 6       |
|---------|-------|--------|-------|---------|-------|---------|
| 1-2 講座  | 授業科目名 | 1-3 講座 | 授業科目名 | 1-4 講座  | 授業科目名 | 1-5 講座  |
| 3-4 講座  |       |        |       |         |       |         |
| 5-6 講座  | 授業科目名 | 5-7 講座 | 授業科目名 | 5-8 講座  | 授業科目名 | 5-9 講座  |
| 7-8 講座  | 授業科目名 | 7-9 講座 | 授業科目名 | 7-10 講座 | 授業科目名 | 7-11 講座 |
| 9-10 講座 |       |        |       |         |       |         |
| 11 講座   |       |        |       |         |       |         |

なお、アンケートフォームは、  
 [Windows] Internet Explorer 6以上、Firefox 6.0以上、Firefox 1.5以上  
 [Macintosh] Internet Explorer 5.2以上、Netscape 7.0以上、Safari 1.0以上、Firefox 2.0以上  
 [Linux] Mozilla 1.7.0以上  
 のブラウザが対応しています。  
 各ブラウザで動作確認しているものを掲載していますが、アンケートに回答できない場合があります。  
 操作のサポートについてはお問い合わせください。お困りですらう場合は、お電話でもご対応いたします。

東京工業大学 © 2011-2012 All Rights Reserved

出典：教育推進室作成資料

（資料 11－4）学部授業評価及び大学院授業評価（試行）の実施について（H25 後期）

平成 25 年 11 月 15 日

教員各位

教育推進室長  
丸山 俊夫

**学部授業評価及び  
大学院授業評価（試行）の実施について**

教育推進室では、学部授業評価について、教育改善評価実施委員会にて検討した結果、平成 25 年度後学期から、大学院と同様に web で実施することになりました。

また、大学院授業評価については『全学的な授業評価（大学院）の基本方針について』（2011 年 3 月 2 日教育推進室、別紙参照）に基づき検討を重ね、平成 23 年度、24 年度（いずれも後学期）及び平成 25 年度前学期に引き続き、試行的に下記のとおり授業評価を実施することとなりました。

授業評価を実施することとなった授業担当教員におかれましては、履修学生に対し、授業評価に参加するようご指導頂きますようお願いいたします。

なお、本件の実施につきましては、各学生へ連絡済みであることを申し添えます。

各授業担当教員にはご負担をおかけいたしますが、授業評価を教育改善につなげるためにも、より多くの学生の声が集まりますよう、ご協力をお願い申し上げます。

記

1. 授業評価期間 : 平成 25 年 11 月 15 日（金）～平成 26 年 2 月 28 日（金）  
（本学一斉休業等のため、  
平成 25 年 12 月 27 日（金）17 時～平成 26 年 1 月 6 日（月）10 時を除く）
2. 対象授業科目 : 平成 25 年度後学期学部・大学院授業科目のうち、各学部、各研究科  
及び各全学科目実施委員会が選定した科目  
（全ての学部・大学院授業科目が対象となっているわけではありません）  
＜対象授業科目一覧＞  
【学 部】<http://www2.eduplan.titech.ac.jp/shiryo/H25jyugyohyokagakub.pdf>  
【大学院】<http://www2.eduplan.titech.ac.jp/shiryo/H25jyugyohyokadaigakuin.pdf>
3. 授業評価の確認方法 : ①Tokyo Tech Portal にログインし、メニューより「授業評価【Course Evaluation】」を選択  
【Tokyo Tech Portal】<http://portal.titech.ac.jp/>  
②アンケート実施状況照会画面  
③科目ごとの回答を確認  
今回から、学生が何度でも回答できるように変更されております。回答内容は随時確認可能ですので、例えば期間中数回アンケートを行い、平成 25 年度後学期中に学生の声を授業に反映することが可能になります。
4. 授業評価の回答要領 : 別紙参照
5. 備考 : 大学院授業評価の試行的な実施は今回限りとし、平成 26 年度以降は学部授業評価と同様、正式な実施へ移行予定です。

【本件問い合わせ先】

学務部教務課教育企画グループ 森田・武田

内線 : 7 6 0 2 E-mail : [kyo.kyo@jim.titech.ac.jp](mailto:kyo.kyo@jim.titech.ac.jp)

出典 : 教育推進室作成資料

（資料 11－5）全学的な授業評価の基本方針

平成 27 年 7 月 21 日

全学的な授業評価の基本方針（案）

教育推進室

1. 趣旨：授業評価は、教育の質の改善・向上を図るための重要な活動の一環として、全学を挙げて実施される。大学認証評価における評価基準においても、教育の内部質保証システムに関し、大学はその教育状況について点検評価し、その結果に基づいて教育の質の改善・向上を図るための体制が整備され、機能していることが求められている。
2. 実施体制：授業評価は、教育推進室において基本方針を策定し、全学的な教育推進活動として、各部局等の協力の下、教育革新センターが実施する。
3. 実施内容：教育革新センターは、授業評価実施のための企画・立案、授業評価の実施、調査結果の取りまとめと分析、教育の質の改善・向上を図るための提案及び教員へのフィードバック調査の実施等を行う。
4. 評価内容：全学的な立場から共通の調査項目で継続的に行うものとする。ただし、各部局の特色ある教育をより改善するために、部局独自の調査を実施することも可能とする。
5. 結果の取り扱い：授業評価結果は、大学が教育の質の改善・向上を図るために活用するとともに、本学の教育活動を大学内外に説明する資料として用いる。教育革新センターは、分析結果に応じて、教育の質の改善・向上を図るために教育推進室に提言を行い、教育推進室は必要な処置を講じるものとする。また、各部局等及び各教員は、結果に応じて教育の質の改善・向上を図るために必要な処置を講じるものとする。なお、教育革新センターは、教育推進室の承認を得て、その分析結果等を学術的なものに限り対外発表することができるものとする。
6. データ管理：授業評価データの保管については、教育革新センターが責任を持つ。

以上

出典：教育推進室作成資料

（資料 11－6）学部・大学院授業評価での評価実施科目及び独自項目の設定について（H27 後期）

平成27年10月9日

各学部・研究科等事務グループ  
授業評価ご担当者様

教育革新センター  
センター長 松澤 昭

学部・大学院授業評価での評価実施科目及び独自項目の設定について（依頼）

平成27年度後学期学部・大学院授業評価につきましては、アウトソーシングを活用し経費削減を図るとともに、回答率の向上を図るため、現行のWEBでの実施からマークシートを配布しての実施を試行することといたしました。

つきましては、各学部・研究科において、授業評価実施科目の選定及び評価シートに記載する学部・研究科独自項目の設定について以下の要領にて10月23日（金）までに教育革新センターへご回答くださるようお願いいたします。

○評価実施科目の選定について  
別添「平成27年度前学期授業科目一覧」の貴学部・研究科のシートを、別添の授業評価実施科目設定要領により修正いただき、ご返送願います。

○独自項目について【5段階評定、最大5項目まで】  
別添「平成27年度前学期独自項目一覧」の貴学部・研究科の箇所をご確認いただき、変更希望の場合は、下記の内容について、赤字で加筆修正願います。  
※独自項目につきましては、和文全角60文字、英文半角120文字以内で設定をお願いいたします。

・設問（和文、英文併記（学部は英文任意））  
なお、共通の質問項目については、別添「平成27年度授業評価共通項目」の項目で実施することとしておりますので確認のうえ、独自項目をご検討ください。

<今後のスケジュール>  
10月23日（月） 評価実施科目及び独自項目の設定（依頼）〆切  
11月中旬 クォーター制第3Q 授業評価実施科目へのマークシート等配布  
1月上旬 学部・大学院授業評価実施科目へのマークシート等配布

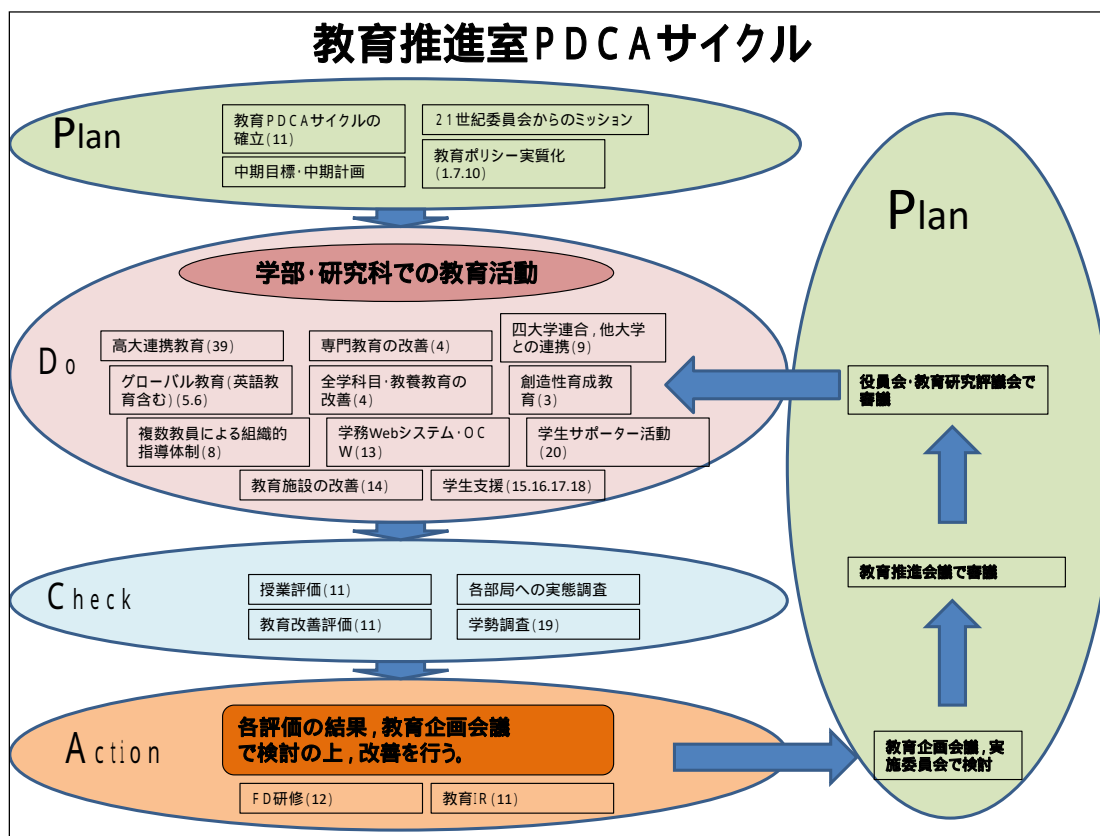
<送付物一覧>

- ・平成27年度授業評価共通項目.pdf
- ・平成27年度後学期授業科目一覧（学部・大学院）.xls
- ・平成27年度前学期独自項目一覧（学部・大学院）.xls
- ・別添授業評価実施科目設定要領.pdf

事務担当：教育革新センター 原田・森田・先名  
メールアドレス： [fd\\_staff@citl.titech.jp](mailto:fd_staff@citl.titech.jp)  
TEL： 内線 2993

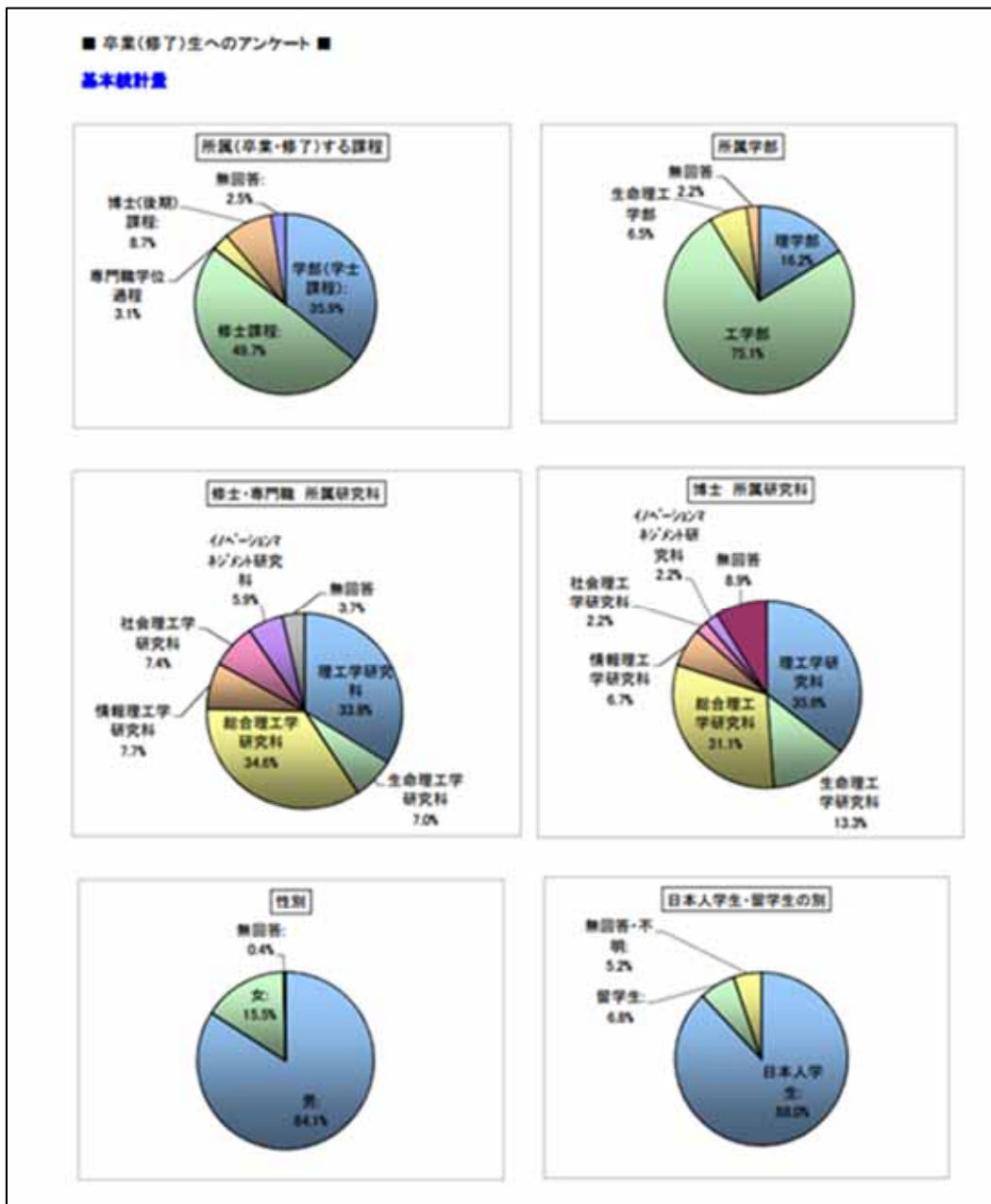
出典：教育革新センター作成資料

（資料 11－7）教育推進室 PDCA サイクルについて



出典：教育推進室作成資料

（資料 11－8）H24 年度卒業・修了生アンケート結果



（一部抜粋）

出典：教育推進室ホームページ

（資料 11－9）H25 東工大教育力向上シンポジウム

**平成 25 年度 東工大教育力向上シンポジウムプログラム**

【開催日時】 平成25年12月25日（水）13:30～16:45

【開催場所】 大岡山キャンパス 西8号館10階 情報理工学研究科大会議室

13:30～13:45 開催挨拶： 三島良直 学長

13:45～14:30 招待講演： 片峰 茂 長崎大学 学長  
「長崎大学の学士課程教育改革」

14:30～15:15 講 演： 角方正幸 氏 (株)リアセック・キャリア総合研究所所長  
「求められる人材像と大学教育」

15:15～15:30 休 憩

15:30～16:00 講 演： 西森秀稔 大学院理工学研究科理学系長  
「理学部における教育改善への取り組み」

16:00～16:30 講 演： 松澤 昭 教育推進室教育改善評価実施委員会委員長  
(大学院理工学研究科電子物理工学専攻 教授)  
「本学における教育改善評価の進め方」

16:30～16:45 閉会挨拶： 丸山俊夫 理事・副学長（教育・国際担当）

出典：教務課作成資料

（資料 11－10）H26 教育改善活動（試行）前学期取組内容の報告会

### 教育改善活動（試行）平成 26 年度前学期取組内容報告会

#### 1. 概要

教育改善試行の前学期の取組について、実施した各学科の代表から報告してもらい、成果や課題の共有を行う。また、今回教育改善に参加しなかった学科にも今後の教育改善の方法を示し、それぞれの学科で教育改善への継続的取り組みを促す。

#### 2. 開催日時、開催場所

日時：平成 26 年 10 月 29 日（水） 10:45～12:15

場所：西 8 号館 10 階大会議室

#### 3. プログラム

1) ご挨拶（丸山理事・副学長）

2) 各学科からの取組内容報告

①化学工学科 「移動論第一」「化学工学量論」「物質移動操作」（伊東 章 教授）

②電気電子工学科 「電気機器学」（千葉 明 教授）

③経営システム工学科 「経営管理論」（井上 光太郎 教授）

④理学部（西森 秀雄 理学部長）

3) 質疑応答

4) まとめ（FD 研修実施委員会副委員長 教育改善活動担当 松澤 昭 教授）

出典：教育推進室作成資料

中期計画【12】「FD（Faculty Development）の実施体制及び実施内容を見直し，更なる改善を行う。」に係る状況

22年度から教育推進室がFD研修（以下，研修）の実施母体となり，一泊二日の合宿型研修「学部・大学院FD研修」を実施し，部局の垣根を越えて，27年度までに学内の教員約330名が参加した。本研修においては，二日目にアンケートを取り，その分析結果を次年度の研修の企画に活かしている（資料12－1，2）。

また，FDに関する研究として24年度に学内調査「教育改善活動に関する調査」を実施し（資料12－3），その分析結果及び各大学における研修実施の実態調査を基に，本学らしいFDの実現を目指した「東工大型FD活動提言書」を25年度に作成した（資料12－4）。

26年度には作成した提言書の評価及び見直しの結果，今後は教育の質向上のため，具体的かつ実践的な研修にシフトする必要があることが判明し，それを受け従前の研修を見直し，授業設計やアクティブラーニングの手法，英語による教授法等の実践的な内容による新たな研修を実施した（資料12－5）。

27年度には，研修のさらなる充実のため「教育の質保証体制の構築」「教育能力開発」「教育学習環境開発」を3つの柱とする教育革新センターを設置し（資料11－2，P123），28年度から実施する教育改革を推進するため，27年度内に31回の研修を開催し，延べ400名超の教職員が受講した（資料12－6）。また，本学でのFD活動を国内外にも広めるため「教育革新シンポジウム」を開催し，国公立大学及び企業等の関係者約130名の参加があり，本学の活動情報の発信を行った（資料12－7）。

また，27年度「次世代工学系人材育成コア」の下で，四大学工学系人材交流プログラムを基礎として，教育力と教育マインドを持った教員を育成するシステムの構築を目指して，人材養成プログラム“Next Academia Leaders”を実施した。このプログラムでは，キックオフシンポジウム（7月），6大学合同の英語FD研修（8月），国際協力事業への関心を高め，日本の高等教育の現状・位置付けを考える機会の提供を目的として，FDプログラム「新興国における工学高等教育を考える－カンボジア」（10月）を実施し，交流教員，助教及び若手准教授を中心に他大学の教員を含め延べ約70名が参加した（資料12－8～10）。

（資料 12-1）平成 26 年度東京工業大学学部・大学院 FD 研修案内

より良い授業を目指して

**（１）研修の概要**

大学教育の質的な向上などを目的とした活動（取組）である Faculty Development (FD) の必要性が認識されています。本学では他大学と比べても比較的早い約 10 年前から FD 研修をスタート（工学部で実施）し、7 年前からは全学を対象とした研修会を行っています。

「FD とは？」という問いかけに対する答えは多岐にわたります。狭義では授業改善のための優れた教授法の普及活動と考えられ、実際に多くの大学の FD はこの観点を中心に行われているように思われます。一方、本学のような研究と教育の両面を求める大学では、教員を取り巻く教育と研究全体を改善するかなり広い活動を FD と定義するほうがよりふさわしいと考えられます。

平成 26 年度東京工業大学 学部・大学院 FD 研修（FD 研修）では 2 日間にわたって、本学の教育、研究に関わる話題提供、外部講師による講演を行い、さらに参加者によるワークショップで教育や研究に関するテーマ（学部・大学院教育関連トピックス）で討議を行います。2 日目は全体会議を設けワークショップ討議結果の発表と意見交換を行い、本 FD 研修の成果について議論します。

**研修目標：**

- ・ FD に取り組むことの必要性を明確にし、教員の FD への認識度を高める。
- ・ ワークショップでは参加者相互がお互いに考え方を意見交換し、個々の教員が行っている FD への取り組みに対し手掛かりを提供する。
- ・ 組織として FD 環境を形成し、組織としての教育目標と個々の教員が担当する部分の教育、研究の目標との連関を検討する。

**研修形式：1 泊 2 日の宿泊研修**

日 時：平成 26 年 9 月 18 日（木）～19 日（金）

会 場：多摩永山情報教育センター

※ 当日は現地集合です。会場へのアクセスについては次ページをご参照下さい。

※ 当日は 12 時 50 分までに会場受付（教育棟 3 階、P4 参照）へお越しください。

食 事：研修 1 日目の夕食代、研修 2 日目の朝食代・昼食代は、大学にて負担いたします。

宿 泊：多摩永山情報教育センターシングルルーム（1 室 1 名）を予約済みです。代金は大学にて負担します。

※ 研修 1 日目に宿泊用ルームキーを配付しますので、各自研修 2 日目の朝 9 時までにフロントにルームキーを返却してください。

参加費（懇親会費）：当日会場受付にて懇親会費 3,000 円（現金）を申し受けますので、釣り銭のいらないようにご準備の程よろしくお願いいたします。

その他：宿泊室でインターネットをされる場合、宿泊棟 1 階のゲストラウンジにて Wi-Fi をご利用いただけます（9:00～24:00 まで）。ただし、接続台数に限りがありますので、インターネット使用予定の方は、ルーターをご持参いただくことをお勧めします。

**企画担当**

教育推進室 FD 研修実施委員会委員：（◎：委員長，○：副委員長）

◎河内宣之（理工学），○松澤 昭（理工学），中山 実（社会理工学），西方敦博（社会理工学），三平満司（理工学），高橋章浩（理工学），一瀬 宏（生命理工学），那須 聖（総合理工学），十代田 朗（情報理工学），田中義敏（イノベーションマネジメント），水本哲弥（理工学・副学長），松本胤明（学務部長），草薨久男（教務課長）

**事務担当** 学務部

出典：教育推進室作成資料

## （資料 12－2）平成 26 年度学部・大学院 FD 研修アンケート結果

2014 年 9 月 18～19 日実施 東京工業大学 FD 研修  
アンケート集計結果

## 1 アンケートの内容

以下に示す内容のアンケートを、研修の終了時に回収。回収数は 48 部。

Q1: 研修の全般についてお尋ねしますので、5 段階評価をお願いします。（1: そう思わない ～ 5: そう思う）  
また、それぞれの設問の下に具体的なご意見をお書きいただけますと幸いです。

Q1-1: 今後の授業運営に効果はあると思われますか  
Q1-2: 今後の学生とのコミュニケーションに役立つと思われますか  
Q1-3: 教員相互の意見交換は有益でしたか  
Q1-4: FD への関心は高まりましたか

-----  
Q2: 研修の各内容に対する満足度を 5 段階で評定してください。（1: 不満足 ～ 5: 満足）  
また、それぞれの項目の下に具体的なご意見をお書きいただけますと幸いです。

Q2-1: プログラムの構成  
Q2-2: 話題提供・講演  
Q2-3: ワークショップ・全体討論  
Q2-4: 開催時期・期間  
Q2-5: 研修の会場（宿泊研修施設、機材、環境等）

-----  
Q3: 今回の全体討論のワークショップの結果および各話題提供の講演内容について、各部局の FD 活動にて有効に活用していただきたいと考えています。貴所属部局にて、今回の FD 研修をどのように活用する予定であるか、アイデアをお寄せください。（自由記述）

-----  
Q4: 教育改革を見据え、全学の FD 活動として、今後必要と思われる企画内容をお教えてください。（自由記述）

-----  
Q5: 今回の FD 研修に関して、要望などがありましたら自由にご記述ください。（自由記述）

## 2 Q1 の集計結果

FD 研修会の有用性などを問う Q1-1, Q1-2, Q1-3, Q1-4 の、各問に対する回答分布のヒストグラムを図 1 上段に示す。1-5 点の 5 段階であり 5 点が最高評価を表す。同図の下段の左側に Q1 の各問の平均点を示す。

全体として 4 点前後の、肯定的な評価となっている。特に、設問 Q1-3「教員相互の意見交換」が平均 4.27 点と比較的高い。自由記述にも、他の分野の教員との情報交換・意見交換が為になったとの記述が多数見られた。一方、Q1-2「今後の学生とのコミュニケーション」については平均 3.52 点とやや低く、自由記述においても肯定的な意見と否定的な意見の両方が見られた。

## 3 Q1 の自由記述回答

Q1 の自由記述欄の内容を以下に分類してまとめた。括弧内の件数の記述を 1 つにまとめた。

Q1-1: 今後の授業運営に効果はあると思われますか

- アクティブラーニングや反転授業について知ることができて勉強になった。ただし自分の講義に活かせる段階ではない。より具体的に、優れた実践例の講演などが聴きたかった。(9 件)
- 授業改善について他の先生方の工夫や他学科の取組みを具体的に知ることができて勉強になった。(7 件)
- やり方次第で効果はあり参考にもなる。(3 件)
- 一般論、ありきたりの改善方法でありスキルアップには役立たない。(3 件)

Q1-2: 今後の学生とのコミュニケーションに役立つと思われますか

- 斉藤先生のお話は具体的で有益。学生に対する意識や姿勢を考え直した。トラブルやハラスメントが避けられることを願う。カウンセリング実践があってもよい。(7 件)
- 学生との摩擦はどうしても生じる。一般論で対応できない。教員の資質によるもので改善できない。コミュニケーションスキルの知識向上はなかった。あまり具体事例がなかった。(5 件)
- 学生とのコミュニケーションは大きなテーマであるが、学生の性向の情報が参考になる。この FD 自体が対話のネタになる。(3 件)

## （資料 12－3）学内調査「教育改善活動に関する調査」結果

|                                  |    |
|----------------------------------|----|
| <目次>                             |    |
| 1. 目的 .....                      | 2  |
| 2. 対象 .....                      | 2  |
| 3. 調査 .....                      | 2  |
| 3.1 調査方法・対象 .....                | 2  |
| 3.2 調査時期 .....                   | 2  |
| 3.3 分析方法・対象 .....                | 2  |
| 4 結果 .....                       | 2  |
| A. FD 研修の実施状況について .....          | 2  |
| B. 学習効果が高まるよう工夫している事例 .....      | 3  |
| C. 学習活動評価 .....                  | 3  |
| <実施例>（「」の中は、調査用紙内の設問タイトル） .....  | 4  |
| A. 「1. 研修等の実施状況」 .....           | 4  |
| B. 「2. 学生の学習評価の実施」 .....         | 8  |
| C. 成績評価 .....                    | 11 |
| D. 「3. 教育改善のための競争的資金の獲得状況」 ..... | 12 |
| その他：「4. 今後の計画（及び要望）」 .....       | 13 |
| 5 まとめ .....                      | 14 |
| 6 今後の課題 .....                    | 14 |

## 1. 目的

東工大としての FD のあり方を検討するために、本学の教育改善活動の実態を調査する。

## 2. 対象

全学部、全研究科、各プロジェクトなど。

## 3. 調査

## 3.1 調査方法・対象

本学の FD 研究検討計画を基に、「教育改善活動に関する調査」を作成し、全学部、研究科、各プロジェクトに配布し、回収した。

各団体がどのような教育改善活動を行っているのか、より詳細を把握するため、設問に対する回答は全て自由記述形式にした。

以下が回答状況である。

|   | 理学系   | 工学系    | 生命理工学研究科 | 総合理工学研究科 | 情報理工学研究科 | 社会理工学研究科 | トランスジェネレーションマネジメント研究科 | イノベーション | COE | ム | グリーディングプログラム | リーダーシップ |
|---|-------|--------|----------|----------|----------|----------|-----------------------|---------|-----|---|--------------|---------|
| N | 10（9） | 20（14） | 1        | 11       | 3        | 5        | 1                     |         | 2   |   | 3            |         |

（注）カッコ内は、学部からの回答を除いた数

（以下省略）

出典：教育推進室作成資料

（資料 12－4）東工大型 FD 活動提言書

## 東工大型 F D 活動提言書

平成 26 年 3 月 24 日

教育推進室 F D 研修実施委員会

### 《提言》

1. 現状の学部・大学院 F D 研修（合宿型／1 年に 1 回）の継続的实施
2. 教員の階層別にそのニーズに合った F D 研修を定期的に実施
3. 自主的に F D 活動を行う部局等や教員への支援

以下に、東工大 F D 活動の現状についてまとめるとともに、現在の課題及び今後の活動等についても要点を記しておく。

### 1. はじめに

大学教育の質的な向上を目的とした取組である Faculty Development (FD) 活動についての東工大での取組は平成 13 年度から平成 18 年度にかけて行われた工学部での取組に端を発する。この間に、理学部、情報理工学研究科などでも FD 活動がスタートした。これらの取組は、他大学と比べても比較的早いものであった。学部、研究科等の FD 活動を集約する形で、平成 19 年度に全学を対象とした FD 活動がスタートし、平成 21 年度までは総務部で実施し、平成 22 年度からは学務部が担当している。

平成 22 年度以降の FD 活動は、教育推進室教育企画班の下に設置された FD 検討 WG(平成 25 年度からは FD 研修実施委員会)において行われている。FD 活動は、一般的(狭義)には授業改善のための優れた教授法の普及活動と定義され、実際に多くの大学ではそのような方針・観点で実施されることが多い。一方、各教員が世界トップレベルを目指した研究を推し進めるなかで、学生を優れた研究者・技術者に育てることを標榜している本学のような研究型大学では、FD 活動は一般的なものだけでは不十分であり、研究型大学であることを強く意識したものでなければならない。このような観点から、“教育と研究全体を改善する東工大らしい FD 活動”を意味する言葉として、“東工大型 FD”を目指すこととした。

出典：教育推進室作成資料

## (資料 12-5) 平成 25 年度, 平成 26 年度実施の FD 研修一覧

| H25年度、H26年度実施のFD研修一覧（教育推進室） |                                                          |                                      |                                                    |                               |
|-----------------------------|----------------------------------------------------------|--------------------------------------|----------------------------------------------------|-------------------------------|
|                             | 実施日                                                      | タイトル                                 | 対象者                                                | 講師                            |
| H25                         | 1 H25.9.19～H25.9.20                                      | 平成25年度 東京工業大学 学部・大学院FD研修             | 各専攻より1～2名の代表者                                      | 別添の概要参照                       |
|                             | 2 H25.12.25                                              | 東工大教育力向上シンポジウム                       | 各学部長・研究科長(系長)、各学<br>科長(欠席の場合は代理)、専攻<br>長、その他希望する教員 | 別添の概要参照                       |
| H26                         | 3 H26.8.4                                                | 大学教員のためのFD 研修会<br>～アクティブラーニング実現に向けて～ | 各学科より1名の代表者                                        | 鈴木 克明 教授<br>(熊本大学)            |
|                             | 4 H26.9.18～H26.9.19                                      | 平成26年度 東京工業大学 学部・大学院FD研修             | 各専攻より1名の代表者                                        | 別添の概要参照                       |
|                             | 5 H26.10.29                                              | 教育改善活動(試行)前学期取組内容報告会                 | 各学科からの代表者1名以上、教育<br>企画会議委員、FD研修実施委員会<br>委員         | 別添の概要参照                       |
|                             | 6 H26.12.10<br>H26.12.11<br>H27.3.23(予定)<br>H27.3.24(予定) | 英語による教授法(導入)研修                       | 常勤の大学教員(教授、准教授、講<br>師、助教)より希望者                     | BRITISH COUNCIL               |
|                             | 7 H26.12.12                                              | 系等のカリキュラム責任教員への研修会                   | 系等のカリキュラム責任教員、教育<br>推進室教育改革対応WG委員                  | 松澤 昭 教授<br>(東京工業大学)           |
|                             | 8 H27.3.2～H27.3.6                                        | 英語による教授法(実践)研修                       | 常勤の大学教員(教授、准教授、講<br>師、助教)のうち各系からの推薦者<br>(任意)及び希望者  | クイーンズランド大学継続教<br>育&TESOL教育研究所 |
|                             | 9 H27.3.19                                               | アクティブラーニング研修                         | 常勤の大学教員(教授、准教授、講<br>師、助教)より希望者                     | 森 秀樹 准教授                      |

出典：教育推進室作成資料

## (資料 12-6) H27 年度 FD 研修実績

| CITL 研修実績                                                                |      |                                  |      |
|--------------------------------------------------------------------------|------|----------------------------------|------|
|                                                                          | 参加者数 | 英語                               | 参加者数 |
| 第一回 学修マネージメント勉強会<br>(2015.5.21)                                          | 14   | H27科目設計セミナー 第1回<br>(2015.8.24)   | 25   |
| 第二回 改革期における教職協働と実践的アク<br>ティブラーニング<br>(2015.7.17)                         | 11   | H27科目設計セミナー 第2回<br>(2015.8.27)   | 22   |
| 第三回 教育改革を評価する<br>(2015.8.11)                                             | 15   | H27科目設計セミナー 第3回<br>(2015.9.28)   | 9    |
| 第四回 教育活動を育むきっかけと<br>コミュニティ作り(2015.10.22)                                 | 10   | H27科目設計セミナー 第4回<br>(2015.9.30)   | 8    |
| 第五回 Teaching English(2015.12.4)<br>すずかけとボリコムでつないで実施<br>すずかけ参加者 教員1, 学生10 | 27   | H27科目設計セミナー 第5回<br>(2015.10.6)   | 7    |
| 第六回 アクティブラーニング<br>すずかけ台(2016.1.19)                                       | 7    | H27科目設計セミナー 第6回<br>(2015.10.15)  | 15   |
| 第七回 Teaching in English -<br>CALTECH Dr.Cassandraの講演会<br>(2016.1.25)     | 14   | H27科目設計セミナー 第7回<br>(2015.10.20)  | 14   |
| 小計                                                                       | 98   | H27科目設計セミナー 第8回<br>(2015.11.17)  | 21   |
| 発表とGlobal Englishes研修<br>(2015.8.3)                                      | 10   | H27科目設計セミナー 第9回<br>(2015.11.20)  | 14   |
| ゼミとディスカッショングループ研修<br>(2015.8.10)                                         | 11   | H27科目設計セミナー 第10回<br>(2015.11.25) | 16   |
| CILILプログラム研修<br>(2015.9.7)                                               | 17   | H27科目設計セミナー 第11回<br>(2015.12.7)  | 13   |
| 講義とプレゼンテーション<br>(2015.9.15)                                              | 6    | H27科目設計セミナー 第12回<br>(2015.12.15) | 16   |
| 英語シラバスライティング研修<br>(2015.10.16)                                           | 10   | H27科目設計セミナー 第13回<br>(2015.12.17) | 15   |
| CILILプログラム(アドバンス)<br>(2016.2/29-3/4)                                     | 7    | H28科目設計セミナー 第14回<br>(2016.1.15)  | 14   |
| 講義とプレゼンテーション<br>(2016.3/10)                                              | 4    | H28科目設計セミナー 第15回<br>(2016.1.21)  | 12   |
| 発表とGlobal Englishes<br>(2016.3/11)                                       | 7    | H28科目設計セミナー 第16回<br>(2016.1.26)  | 18   |

出典：教育革新センター作成資料

（資料 12－7）教育革新シンポジウム報告書

## 教育革新シンポジウム開催報告

平成 27 年 10 月 23 日（金）13:30 からレクチャーシアター（大岡山地区西 5 号館 W531 講義室）において開催した，教育革新シンポジウムは，University of British Colombia の Simon Bates 氏の基調講演，国内外の有識者による「教育の革新を図るには」と題したパネルディスカッション及び本学教育革新センターの取組みについて紹介を行った。

シンポジウムには学内外合わせ 134 人，シンポジウム終了後に企画されたアクティブラーニング対応講義室や収録スタジオの施設見学会には 37 人，情報交換会には 37 人が参加した。

今回のシンポジウムの開催において，国内外の機関における教育支援に関する現状等を知ることができたとともに，本センターの活動情報の発信を行うことができた。

### 教育革新シンポジウム参加者内訳

|       |      |         |      |
|-------|------|---------|------|
| 学内参加者 | 72 名 | 学外参加者   | 62 名 |
| 教員    | 52 名 | 国立大学関係者 | 15 名 |
| 事務職員  | 20 名 | 公立大学関係者 | 1 名  |
|       |      | 私立大学関係者 | 21 名 |
|       |      | 企業等関係者  | 23 名 |
|       |      | その他     | 2 名  |

（以下省略）

出典：教育革新センター作成資料

（資料 12－8）次世代人材育成コア打合せ議事メモ

H27 年 5 月 21 日 次世代人材育成コア打合せメモ

- 機構
  - 工系の実施組織は「工系国際教育推進体」となっている。そこで、ここに「人材育成部門」を作って「工学系人材養成機構」を設置する。
    - ◇ 設置する場合には、代議員会に諮る。
  - 4 大学交流を経験した教員の方に主体的に動いて頂く。
    - ◇ 高橋先生（主査：電気）、大竹先生（機械）、坂口先生（電気）、寺田先生（金属：すずかけ台）、蒲池先生（生命：すずかけ台）
      - 現：松本先生（産総研）、林先生（北大？）
  - 特任教授または特任准教授の選考委員会を立ち上げる。
    - ◇ 工学系共通講座の中
    - ◇ 事務員は東工大 2 名、名大 1 名、阪大 1 名、北大 1 名か。
      - 各大学に事務担当者が居ないと、円滑に連絡が図れない。
  - 事務室は、S6 の 3 階又は 4 階。神田先生、阿部先生に確認する。
- 夏季集中講座
  - 教育革新センターのプログラムに準じてこの夏に実施する。
    - ◇ 前は、イントロ＋半日×5 回行った。
- 各大学との連携
  - 岸本系長：各工学部長には伝達済み。九大にも声をかける。
- キックオフミーティング
  - 東工大にて行う。
    - ◇ 候補日：第 1 候補 7 月 17 日、18 日、第 2 候補 7 月 10 日、11 日
    - ◇ プログラム案
      - 趣旨説明：東工大
      - 基調講演：北大
      - 講演：九大 渡辺先生「人が動くことによるメリット」
      - 4 大学の経験者から体験記
      - 系長会議を行って、今後の PJ について話し合う。
    - ◇ 2 回目は、北大か？
  - 4 大学（東工大、名大、阪大、北大）だが、九大にも声をかける。
- その他
  - 1 大学交流に伴う教員の移動費（立ち上げ費が計上されている）
    - ◇ 現状、松本先生、林先生が該当するか？
  - 岸本系長：次世代の育成は助教が重要である。助教の育成を図りたい。
    - ◇ 助教のキャリアパスのための人脈形成にもなる。
    - ◇ 来年度以降（？）のメニュー例
      - 短期海外研修
        - 助教にも任期がついて、研究成果が求められているため、長期派遣は難しい。
      - （海外の？）教育現場視察
  - 各大学で行っている PD 研修等の成果を、本 PJ に取り込む。

出典：工学系作成資料

## (資料 12－9) 四大学人材交流協定書

| 四大学工学系人材交流協定書                                                                                                                                                                     |                                                       |
|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------|
| <p>北海道大学大学院工学研究院、東京工業大学大学院理工学研究科工学系、東京工業大学大学院生命理工学研究科、名古屋大学大学院工学研究科及び大阪大学大学院工学研究科は、教員の相互交流を通じて人材の育成及び参加組織間での知の共有化・参加組織の共通化を実現することを目的として、各組織及び関連する組織の相互交流のため、次のとおり人材交流協定を締結する。</p> | <p>以上を締結するため本協定書を5遺作成し、いずれも正本とし、四大学の五組織が各1遺を保有する。</p> |
| <p>平成25年4月26日</p>                                                                                                                                                                 |                                                       |
| <p>1. 四大学は、協定の目的を達成するために、四大学の自主性を尊重するとともに、平等互恵の原則に基づいて教員の人材交流活動を行う。</p>                                                                                                           | <p>北海道大学大学院工学研究院<br/>研究科長 馬場 直志</p>                   |
| <p>2. 前項の活動を行うにあたっては、下記の事項を遵守する。</p>                                                                                                                                              | <p>東京工業大学大学院理工学研究科工学系<br/>工学系長 岸本 義久雄</p>             |
| <p>① 派遣対象となる教員は、派遣期間満了時点で45歳程度までの准教授・講師とする。</p>                                                                                                                                   | <p>東京工業大学大学院生命理工学研究科<br/>研究科長 関根 光雄</p>               |
| <p>② 派遣教員は、派遣元大学へ復職することを条件とする「転属志向」として派遣する。</p>                                                                                                                                   | <p>名古屋大学大学院工学研究科<br/>研究科長 松下 裕香</p>                   |
| <p>③ 派遣期間は、原則として3年とする。</p>                                                                                                                                                        | <p>大阪大学大学院工学研究科<br/>研究科長 松下 知行</p>                    |
| <p>④ 派遣先ないし派遣元の都合による派遣中断は、原則として認めない。</p>                                                                                                                                          |                                                       |
| <p>⑤ 派遣教員の派遣期間中の採用・昇進・配置転等は、原則として行わない。</p>                                                                                                                                        |                                                       |
| <p>⑥ 各組織からの派遣教員数は、1名以上となるように努め、2名以上であることが望ましいが、各大学において派遣数と受入数の不均衡が生じた場合には、3年程度で解消するように努める。</p>                                                                                    |                                                       |
| <p>⑦ 派遣期間中に受入大学において組織改編等が生じた場合にも、派遣教員に不都合が生じないように、受入大学は責任を持って対応する。</p>                                                                                                            |                                                       |
| <p>⑧ 派遣先への赴任に伴う費用、研究用機器の移転費は、派遣先大学が負担する。</p>                                                                                                                                      |                                                       |
| <p>⑨ 派遣終了に伴う研究機器の移転費は、派遣元大学が負担する。</p>                                                                                                                                             |                                                       |
| <p>3. 「2.」の項目以外の実施内容については、「四大学人材交流プログラム」を基本として、第一に指導学生、第二に派遣教員の利益を優先することを原則に、その都度研究科長、工学系長、各研究科長及び関係者が協議し誠意を持って対応する。</p>                                                          |                                                       |
| <p>4. この協定は、四大学の研究科長、工学系長及び各研究科長が協定書に押印を行った日から効力を生じるものとし、四大学のいずれかが1年前までに協定の終了を通知しない限り存続する。</p>                                                                                    |                                                       |

出典：工学系提供資料

（資料 12－10）「FD プログラム：新興国における工学高等教育を考える－カンボジア」  
依頼文

2015年10月5日

専攻長 各位

工学系人材養成機構長・  
大学院理工学研究科工学系長  
岸本 喜久雄

次世代工学系人材育成コア

「FDプログラム：新興国における工学高等教育を考える－カンボジア」開催のお知らせ

工学系人材養成機構では、次世代工学系人材育成コア事業の一環として、工学系に所属する准教授・助教などの若手教員に対して、表記FD研修会「人材養成プログラム“Next Academia Leaders”」を実施します。

つきましては、各専攻から准教授・助教などの若手教員 1、2 名を、講義等の業務に差し支えない範囲で、ご推薦をお願いいたします。

なお、教員・学生ともに自由に聴講できますので、貴専攻の関係者にも広くご案内をお願いいたします。

記

日 時：2015年10月20日（火）13:30-15:30

場 所：理学系第2会議室（本館3－45）

内 容：カンボジアの工学高等教育事情に関する講演と討論

講 師：Om Romny カンボジア工科大学 学長  
Yuok Ngoy カンボジア王国 教育省次官  
Mak Ngoy カンボジア王国 教育省高等教育総局長

なお、参加される若手教員の把握をさせていただきたいので、添付の参加者名簿に記載の上、10月16日（金）までに工学系事務第1グループ（[kog.jim1@jim.titech.ac.jp](mailto:kog.jim1@jim.titech.ac.jp)）宛にメールでお送りください。

工学系事務第1グループ 井筒  
（内線：3108）

出典：工学系作成資料

中期計画【13】「ICT（Information and Communication Technology）を活用した教育支援システム及び運用体制を充実する。また、平成 28 年度から開始する学部大学院一貫の新たな教育システムに対応できる新教務支援システムを構築する。」に係る状況

ICT を活用した教育支援システムとして、教務 Web システム並びに TOKYO TECH OCW/OCW-i の運用体制の充実を図った（資料 13－1～4）。

教務 Web システムの利用については、学生に対する調査や教員からの意見聴取を行い、改善の実施とともに、さらなる利便性向上のための新機能を順次追加した（資料 13－5～7）。

TOKYO TECH OCW/OCW-i については、教務 Web システムとの連携強化を図るとともに、OCW/OCW-i 利用促進のための機能充実を図った。例えば、学習申告未了の学生でも TOKYO TECH OCW-i より講義関係資料が入手可能、携帯電話からアクセスできる携帯版 OCW-i の開設及び音声・動画配信機能、学生への個別連絡機能、クリッカー機能等の機能追加があげられる（資料 13－8）。

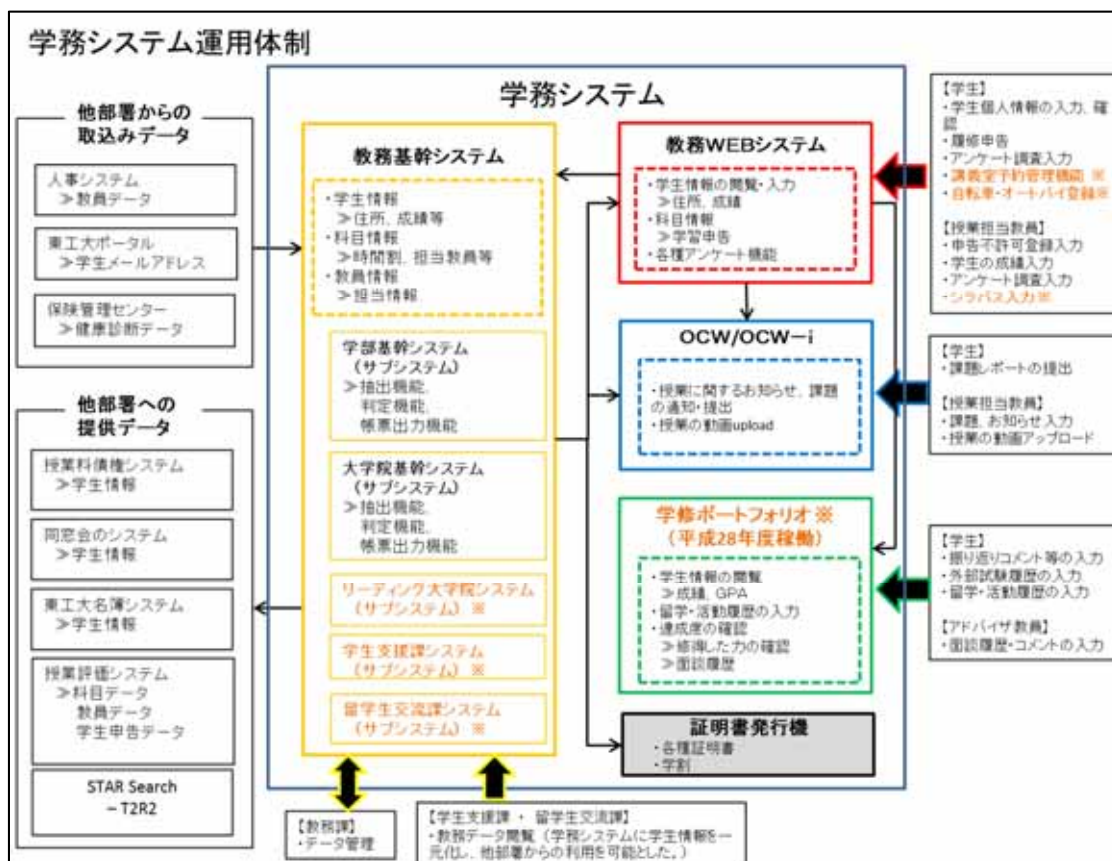
また、無線 LAN のアクセスポイントの設置状況を調査し、学生が利用する建物に全て配置していることを確認し、さらに配置数を増やす等の一層の充実を図った（資料 13－9）。

大岡山及びすずかけ台キャンパスの遠隔講義システムは、新規に 3 件追加導入し、異なるキャンパスで学ぶ学生の利便性を図るとともに、一橋大学や東京外国語大学等を中心に他大学との授業相互配信を行っている（資料 13－10）。

28 年度からの教育改革に向け、新教育システムに対応する新教務システムを構築し、試行的に運用を開始したほか（資料 13－11）、学生が学修の過程並びに学修成果を長期に亘って収集したものを必要に応じて系統的に選択し、その到達度を評価し、次に取り組むべき課題を見つけ、ステップアップを図るための学修ポートフォリオシステムを構築し、試行運用を行った（資料 13－12）。さらに、シラバスの入力機能については、日本語・英語の 2 ヶ国語対応の実現、システム利用者の利便性の向上、国際化への対応を目的として教務 Web システムに機能追加を行うとともに、開講する全ての科目について OCW において日本語・英語版のシラバスを公開することとし、27 年度中に、28 年度開講予定科目の 96.3%のシラバスを TOKYO TECH OCW で公開した（資料 13－13, 14）。

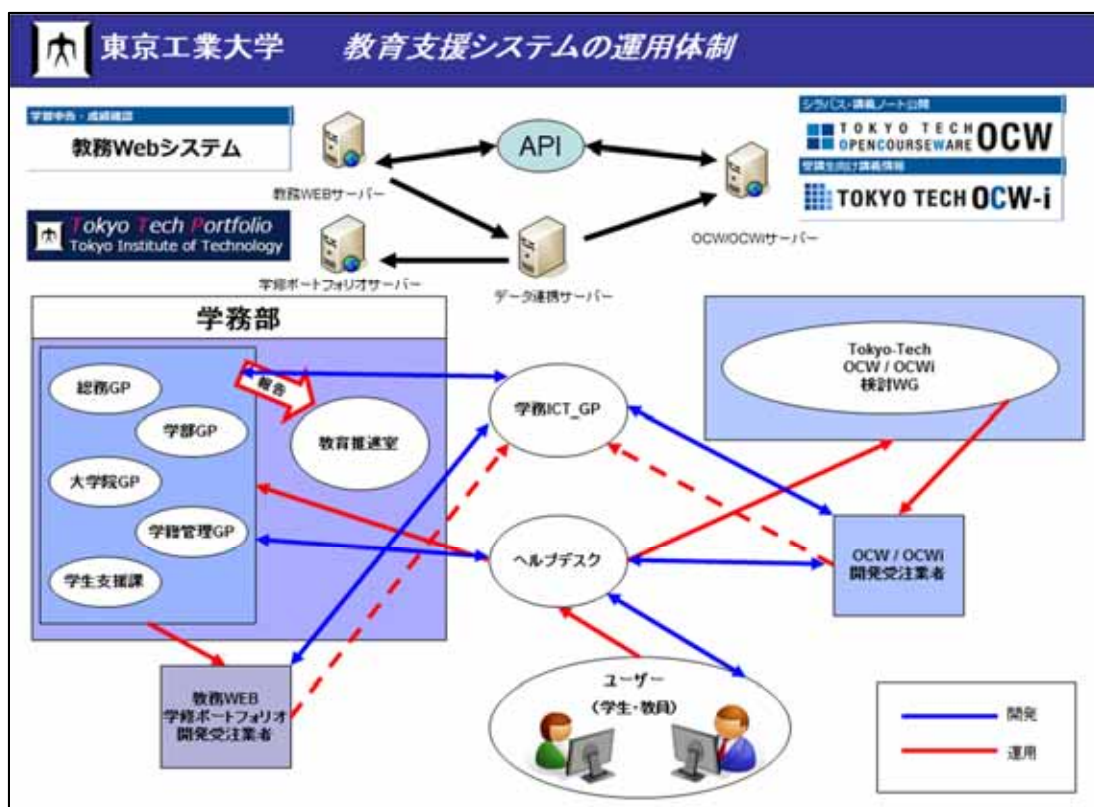
また、オンライン学習環境を充実させるため、MOOCs（Massive Open Online Courses）の一つである edX コンソーシアムに加盟し、このプラットフォームで提供するコンテンツの制作に着手し、27 年度に 2 コンテンツを作成した。1 コンテンツにおいて、世界 155 カ国の学生合計 5,400 名以上の登録があった（資料 13－15）。

（資料 13－1）学務 ICT 運用体制

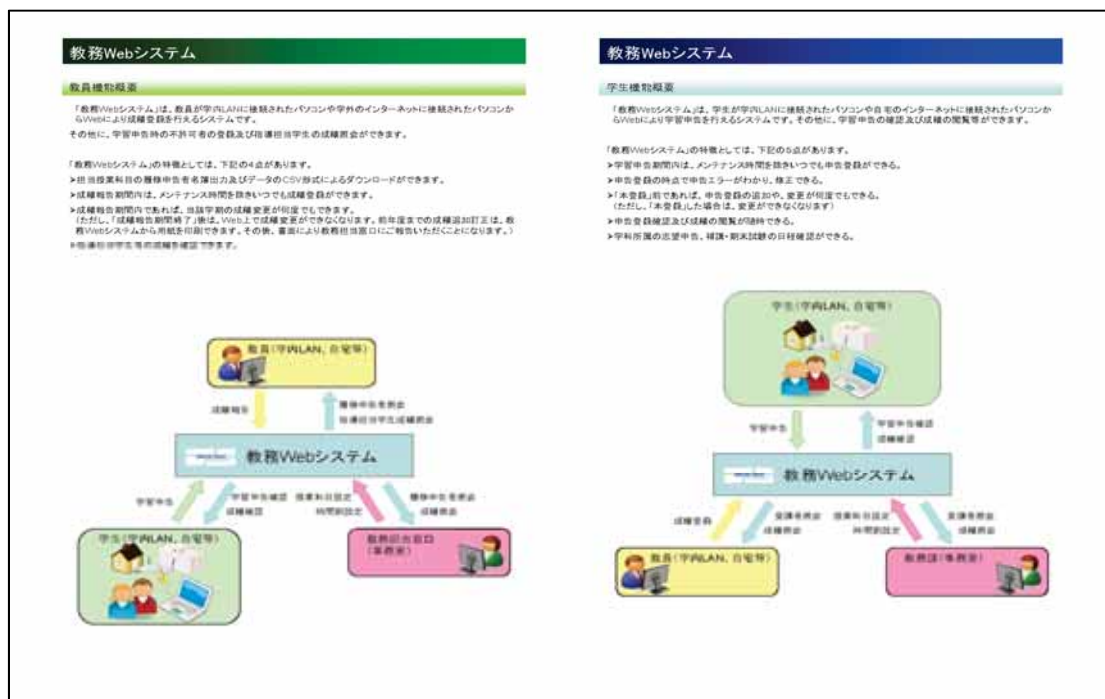


出典：教務課作成資料

（資料 13－2）教育支援システムの運用体制



## (資料 13-3) 教務 Web システムについて



## (資料 13-4) TOKYO TECH OCW/OCW-i について

**TOKYO TECH OCW**

TOKYO TECH OCWでは、シラバス、講義ノートなどの教育資源を学内外に向けて提供しています。シラバスは全科目を網羅しており、講義申告に役立ちます。3000以上に達する公開講義の講義ノートを活用し、応用を促しましょう。

**※ 講義の概要**

- シラバス（授業計画）
- 講義ノートの閲覧、ダウンロード
- 各コース紹介、教員紹介の閲覧
- 講義紹介等各種動画の閲覧

アクセスランキング機能では、人気の講義を一目で確認することができます。  
高やコース、関連キーワードに応じた検索も可能です。

OCWを通じて、大学の場や自講義を配信、履修申告や自己学習に役立ててください。

**TOKYO TECH OCW**

**TOKYO TECH OCW/OCW-i 利用ガイド**

**OCWヘルプデスク窓口**

教務課（大塚山キヤンパス南会館1階1号）  
TEL 03-5728-3000（土・日・夜・年末年始を除く）  
FAX 03-5728-3000/3040 E-mail inquiries@ocw.titech.ac.jp

The image shows a user guide for TOKYO TECH OCW/OCW-i. It features a large image of the Tokyo Tech campus and a detailed list of features and contact information. The guide is designed to help users navigate the open courseware platform and utilize its resources effectively.

## (資料 13-5) 教務 Web システム 学生アンケート

| アンケート結果：教務Webシステム |                      |         |       |       |       |       |       |       |        |       |       |       |        |      |       |        |       |        |        |        |    |  |  |  |  |  |
|-------------------|----------------------|---------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|--------|-------|-------|-------|--------|------|-------|--------|-------|--------|--------|--------|----|--|--|--|--|--|
| No.               | 項目                   | 評価      | 全 体   |       | 学部    |       |       |       |        |       |       |       | 修士     |      |       |        |       |        |        |        | 博士 |  |  |  |  |  |
|                   |                      |         | 合 計   | 計     | 10    | 09    | 08    | 07    | 06以前   | 計     | 10    | 09    | 08     | 07以前 | 計     | 10     | 09    | 08     | 07     | 06以前   |    |  |  |  |  |  |
| 1                 | 動作                   |         | 481   | 279   | 84    | 83    | 48    | 30    | 4      | 148   | 81    | 84    | 3      | 0    | 34    | 13     | 10    | 7      | 1      | 3      |    |  |  |  |  |  |
|                   |                      | 良い      | 218   | 118   | 40    | 34    | 21    | 20    | 3      | 52    | 42    | 38    | 2      |      | 15    | 8      | 5     | 3      |        | 2      |    |  |  |  |  |  |
|                   |                      | やや良い    | 212   | 140   | 48    | 40    | 25    | 28    | 1      | 58    | 34    | 33    | 1      |      | 14    | 5      | 4     | 4      | 1      |        |    |  |  |  |  |  |
|                   |                      | やや悪い    | 29    | 19    | 6     | 8     | 2     | 3     |        | 5     | 3     | 3     |        |      | 1     |        | 1     |        |        |        |    |  |  |  |  |  |
|                   |                      | 悪い      | 8     | 2     |       | 1     |       | 1     |        | 3     | 3     |       |        |      | 1     |        |       |        |        | 1      |    |  |  |  |  |  |
|                   |                      | 良い・やや良い | 83.2% | 82.3% | 91.6% | 84.2% | 85.8% | 82.0% | 100.0% | 94.6% | 93.6% | 95.3% | 100.0% |      | 94.1% | 100.0% | 96.0% | 100.0% | 100.0% | 66.7%  |    |  |  |  |  |  |
| 2                 | デザイン                 |         |       |       |       |       |       |       |        |       |       |       |        |      |       |        |       |        |        |        |    |  |  |  |  |  |
|                   |                      | 良い      | 187   | 112   | 42    | 34    | 17    | 17    | 2      | 62    | 31    | 38    | 3      |      | 12    | 7      | 4     | 1      |        | 1      |    |  |  |  |  |  |
|                   |                      | やや良い    | 251   | 158   | 51    | 43    | 28    | 32    | 2      | 80    | 48    | 34    |        |      | 15    | 4      | 4     | 3      | 1      | 1      |    |  |  |  |  |  |
|                   |                      | やや悪い    | 15    | 8     | 1     | 3     | 3     | 1     |        | 4     | 2     | 2     |        |      | 2     | 1      | 1     | 1      |        |        |    |  |  |  |  |  |
|                   |                      | 悪い      | 8     | 2     |       | 3     |       |       |        | 2     | 2     |       |        |      | 3     | 1      | 1     |        |        | 1      |    |  |  |  |  |  |
|                   |                      | 良い・やや良い | 86.0% | 86.1% | 90.3% | 82.8% | 83.8% | 90.0% | 100.0% | 89.6% | 92.1% | 96.9% | 100.0% |      | 82.4% | 84.6%  | 90.0% | 85.7%  | 100.0% | 66.7%  |    |  |  |  |  |  |
| 3                 | 学習内容<br>(操作性・分かりやすさ) |         |       |       |       |       |       |       |        |       |       |       |        |      |       |        |       |        |        |        |    |  |  |  |  |  |
|                   |                      | 良い      | 182   | 108   | 37    | 30    | 28    | 17    | 2      | 47    | 22    | 22    | 3      |      | 9     | 3      | 3     | 1      |        | 2      |    |  |  |  |  |  |
|                   |                      | やや良い    | 214   | 129   | 37    | 43    | 22    | 21    | 1      | 72    | 38    | 34    |        |      | 11    | 7      | 5     | 4      | 1      | 1      |    |  |  |  |  |  |
|                   |                      | やや悪い    | 88    | 43    | 17    | 7     | 5     | 10    | 1      | 18    | 12    | 8     |        |      | 6     | 2      | 2     | 2      |        |        |    |  |  |  |  |  |
|                   |                      | 悪い      | 20    | 8     | 3     | 3     | 1     | 3     |        | 10    | 8     | 2     |        |      | 1     | 1      |       |        |        |        |    |  |  |  |  |  |
|                   |                      | 良い・やや良い | 81.6% | 82.4% | 78.7% | 88.0% | 87.3% | 78.0% | 75.0%  | 89.4% | 74.1% | 87.3% | 100.0% |      | 78.4% | 78.9%  | 89.0% | 71.4%  | 100.0% | 100.0% |    |  |  |  |  |  |
| 4                 | 成績閲覧<br>(見やすさ etc.)  |         |       |       |       |       |       |       |        |       |       |       |        |      |       |        |       |        |        |        |    |  |  |  |  |  |
|                   |                      | 良い      | 171   | 97    | 28    | 31    | 21    | 18    | 1      | 40    | 24    | 30    | 3      |      | 14    | 4      | 3     | 3      |        | 2      |    |  |  |  |  |  |
|                   |                      | やや良い    | 254   | 158   | 64    | 44    | 28    | 28    | 3      | 78    | 51    | 28    |        |      | 18    | 5      | 8     | 3      | 1      | 1      |    |  |  |  |  |  |
|                   |                      | やや悪い    | 28    | 11    | 2     | 6     | 7     | 2     |        | 6     | 4     | 2     |        |      | 2     | 1      | 1     | 1      |        |        |    |  |  |  |  |  |
|                   |                      | 悪い      | 10    | 6     | 2     | 2     |       | 2     |        | 3     | 2     | 1     |        |      | 1     | 1      |       |        |        |        |    |  |  |  |  |  |
|                   |                      | 良い・やや良い | 88.2% | 81.0% | 91.7% | 90.4% | 85.4% | 82.0% | 100.0% | 89.9% | 92.6% | 95.3% | 100.0% |      | 86.2% | 84.6%  | 90.0% | 85.7%  | 100.0% | 100.0% |    |  |  |  |  |  |
| 5                 | 追加機能                 | 記入者     | 104   | 54    | 18    | 14    | 12    | 10    |        | 41    | 22    | 18    | 1      |      | 9     | 2      | 4     | 2      |        | 1      |    |  |  |  |  |  |
|                   | 意見・感想                | 記入者     | 70    | 38    | 9     | 13    | 12    | 4     | 1      | 28    | 12    | 13    | 1      |      | 3     | 1      | 2     | 1      |        | 1      |    |  |  |  |  |  |

出典：教務課作成資料

## （資料 13－6）教務 Web システム 学生要望

要望（追加機能）まとめ

| 順位  | 項 目            | 人 数   |
|-----|----------------|-------|
| 1   | 卒業・学科所属・学論所属要件 | 23 名  |
| 2   | 休講情報           | 19 名  |
| 3   | 時間割（試験）        | 9 名   |
| 4   | 学部・修士成績表示      | 9 名   |
| 5   | 講義室予約・場所       | 7 名   |
| 6   | 時間割（授業）        | 5 名   |
| 7   | 推奨科目表示         | 5 名   |
| 8   | 追加申告のWeb化      | 4 名   |
| 9   | 画面保存・印刷        | 3 名   |
| 10  | 掲示物            | 2 名   |
| 11  | 講義室等変更情報       | 2 名   |
| 12  | OCW-iとの連携      | 2 名   |
| 13  | お知らせ           | 2 名   |
| 14  | シラバス           | 2 名   |
| 15  | メール            | 2 名   |
| 16  | 履修申告者          | 2 名   |
| 17  | 入学試験結果         | 1 名   |
| 18  | 履修申告者数         | 1 名   |
| 19  | 申告画面           | 1 名   |
| 20  | 携帯電話           | 1 名   |
| 21  | myポータル         | 1 名   |
| 22  | 余剰単位           | 1 名   |
| 23  | 入退室            | 1 名   |
| 24  | 教員アドレス         | 1 名   |
| 25  | 講義資料（申告前）      | 1 名   |
| 26  | 授業評価           | 1 名   |
| 27  | 成績順位           | 1 名   |
| 28  | 大学院科目成績        | 1 名   |
| 29  | 英語学習システム       | 1 名   |
| 30  | カレンダー機能        | 1 名   |
| 31  | 様式             | 1 名   |
| 32  | 早期卒業           | 1 名   |
| 合 計 |                | 114 名 |

出典：教務課作成資料

## （資料 13－7）教務 Web システム改修状況

| 教務Webシステム改修状況                         |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          |
|---------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|                                       |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          |
|                                       |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          |
|                                       |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          |
| 項目                                    | 項目の詳細および対応・改修状況                                                                                                                                                                                                                                                                                                          |
| ご意見箱(アンケート機能)の設置                      | 教員や学生の意見を聞くために、質問項目を自由に作成できるアンケート機能を実装した。                                                                                                                                                                                                                                                                                |
| 大学院学生の申告時における指導教員の承認について              | 大学院学生を指導している教官が学生の申告状況を把握して承認をするための機能を追加した。                                                                                                                                                                                                                                                                              |
| 履修申告者のメールアドレス情報の追加                    | 教員が担当する授業科目を履修している学生のメールアドレスをcsvファイルでダウンロードできるようにした。                                                                                                                                                                                                                                                                     |
| csv以外のファイルアップロード時にはエラー表示              | 成績報告を一括で行う際、csv形式以外のファイルを選択した場合にエラーを表示させるようにした。                                                                                                                                                                                                                                                                          |
| 特記事項欄の設置                              | 成績入力を行う際、教員が教務課に伝えるべきことがあった場合にコメントを入力できるように特記事項欄を成績報告画面に追加した。                                                                                                                                                                                                                                                            |
| 承認申請ボタンの明確化                           | テキスト形式で記載されていたメニューをより明確にするために画像ボタンに変更した。                                                                                                                                                                                                                                                                                 |
| 権限により閲覧できる学生情報の追加                     | 学生ポップアップ画面に卒業要件等のタブを追加した。                                                                                                                                                                                                                                                                                                |
| 補講期末試験調査において重複が発生しない日付候補を表示できるようにする   | 「空き時間チェック」のタブを追加した。                                                                                                                                                                                                                                                                                                      |
| 補講期末試験調査における回答状況の確認                   | 回答済みかどうかのステータスで科目をフィルターできるようにした。                                                                                                                                                                                                                                                                                         |
| 申告エラー条件：学生別上限単位の設定                    | これまで学部・大学院で異なっていた条件について、合わせて年度ごとの設定にしました。CSVの年度列を書き換えてアップロードすれば表示される。                                                                                                                                                                                                                                                    |
| お知らせメール言語設定                           | 教員・学生向けのお知らせメールについて、言語設定メニュー（日本語or英語）を設置した。                                                                                                                                                                                                                                                                              |
| 操作日時の設定                               | 全ページにおいて操作日時の設定(過去日付、未来日付で画面操作すること)が出来るようにした。                                                                                                                                                                                                                                                                            |
| アンケート機能の選択肢について                       | アンケート回答する際に「その他」を選択した場合は、その他の内容を入力させるフォームを付けた(単一選択回答、複数選択回答問わず)。                                                                                                                                                                                                                                                         |
| 身分異動の履歴をグラフ的に見られるようにする                | ・各身分異動種別の順番を変更(基本在籍→延長→留学→休学→復学→休学(兵役)→その他)<br>・管理者/教務課でのみ表示(教員に代理入力した場合も表示されるが、完全なリソースまでは表示しないよう制御)<br>印刷時に各セルの背景色が出ないことについては、ブラウザの仕様のためプログラム側で制御できず、背景色を印刷したい場合は各ブラウザの印刷設定にて対応する必要があります。また、今回の改修で教務課メニュー右下に「学生情報」というメニューを追加し、学籍番号を入れて表示ボタンを押すと、身分異動履歴のリンクが表示されます。なお、学生情報画面については、申告状況などに学籍番号を指定して飛ぶリンクを追加するよう引き続き検討します。 |
| 教員スケジュール画面：前学期でも後学期のスケジュールを確認できるようにする | スケジュールを確認できるよう改修を行った。                                                                                                                                                                                                                                                                                                    |
| 健康診断のフォーマット修正・連携の修正                   | 教務webシステムとデータ連携している学生支援課(保健管理センター)管理の健康診断システムがリニューアルされたため、それに合わせてデータ連携の機能改修および教務Webシステム側のフォーマット変更(英語表記の追加など)を行った。                                                                                                                                                                                                        |
| データ連携の修正                              | 教務Webシステムは教務基幹システムから定時のデータ連携(取込)を行っているが、基幹システム側のデータ量が日々増大していることを踏まえ、システム間のデータ連携機能について追加改修を行った。                                                                                                                                                                                                                           |
| 各学科の科目一覧の表示について                       | 学科長等の権限による閲覧により、学科の各学期別の開講科目一覧を閲覧できるようにし、CSV出力もできるよう改修を行った。                                                                                                                                                                                                                                                              |
| 大学院学生の申告承認手続について                      | 大学院学生の申告承認手続について、現行では一度許可・不許可を決定するとその後の変更ができないため、申告不許可の処理と同様に承認期間中であれば教員が「許可・不許可を変更できるように改修を行った。                                                                                                                                                                                                                         |
| IE11対応                                | Windows7<br>・PDFダウンロードでファイル名が文字化けする点について、改修を行った。<br>・表示ボタンを押して一定時間経つと自動的に画面が閉じることについてはWindows7の仕様ですが、一定時間中にファイルをダウンロードしないと再度表示ボタンを押さないと開けなくなるので、対処できるか引き続き検討します。<br><br>Windows8.1<br>・申告取消で表示ボタンを押しても一覧のステータスが「承認待ち」に変わらない(ページ遷移して戻ると変わっている)点について、対処できるか引き続き検討します。                                                      |
| 時間割の検索について                            | 現在、学部学生が時間割を検索する際に、推奨されている科目であればデフォルトで表示されるが、推奨していない科目(他学科)については、あえて検索しなければ出てこない。推奨していない科目についても、担当者が各種設定画面で登録することによって、デフォルト表示にできるよう改修を行った。                                                                                                                                                                               |
| 学部時代にとった大学院科目の成績表示                    | 大学院生の操作画面において、認定が必要な大学院科目がある場合、タブを分けて表示するよう改修を行った。                                                                                                                                                                                                                                                                       |
| 自転車・オートバイ利用手続き機能の追加                   | 窓口申請を行っていた自転車・オートバイの利用申請手続きを電子化した。                                                                                                                                                                                                                                                                                       |
| 講義室予約管理                               | 学生や教員が使用する講義室の予約手続きを紙での管理からWeb登録での管理に変更した。                                                                                                                                                                                                                                                                               |

出典：教務課作成資料

（資料 13－8）TOKYO TECH OCW OCW-i 開発項目一覧

TOKYO TECH OCW/OCW-i 開発項目一覧

- 1.1 改組に伴う学部・研究科の類・学科・専攻表示から学院の系への変更に伴うページリニューアル（OCW）
- 1.2 科目ナンバリングへの変更（OCW）
- 1.3 推奨学期の表示変更（OCW／OCW 管理／OCW-i）
- 1.4 クォーター制への変更（OCW／OCW 管理／OCW-i）
- 1.5 教務基幹システム連動バッチ処理変更
- 1.6 新カリキュラムのシラバス表示と表示項目の変更（OCW／OCW 管理／OCW-i）
- 1.7 シラバスデータの講義スケジュール反映機能（OCW 管理）
- 1.8 シラバス編集機能の除去（OCW 管理）
- 1.9 英語サイトへの全講義表示（OCW）
- 1.10 講義スケジュール入力・表示の日英対応（OCW／OCW 管理／OCW-i）
- 1.11 課題公開時のメール配信機能の修正（OCW 管理）
- 1.12 カレンダー公開時の OCW 表記の是正（OCW）
- 1.13 OCW-i の UI 調整

出典：教務課作成資料

(資料 13-9) 無線 LAN アクセスポイント

| 無線LANアクセスポイント |                               |    |     |                 |     |    |    |  |
|---------------|-------------------------------|----|-----|-----------------|-----|----|----|--|
| 大岡山キャンパス      |                               |    |     |                 |     |    |    |  |
| 設置場所          |                               |    | H25 |                 | H24 |    |    |  |
| 地区            | 建物名称                          | 建物 | フロア | 部屋名称            | AP数 |    |    |  |
| 緑ヶ丘地区         | 緑ヶ丘1号館                        | 21 | 1階  | M111講義室(103)    | 2   | 21 | 20 |  |
|               |                               |    |     | M112講義室(105)    | 1   |    |    |  |
|               |                               |    |     | M113講義室(106)    | 2   |    |    |  |
|               |                               |    |     | M114講義室(107)    | 2   |    |    |  |
|               |                               |    |     | 土木会議室(101A)     | 1   |    |    |  |
|               |                               |    |     | 土木研究室(109A)     | 1   |    |    |  |
|               |                               |    |     | 土木会議室(109B)     | 1   |    |    |  |
|               |                               |    | 2階  | 建築製図室(201)      | 2   |    |    |  |
|               |                               |    |     | 建築製図室(202)      | 2   |    |    |  |
|               |                               |    |     | 建築製図室(203)      | 2   |    |    |  |
|               |                               |    |     | 建築製図室(204)      | 2   |    |    |  |
|               |                               |    |     | 土木研究室(206A)     | 1   |    |    |  |
|               |                               |    |     | 土木製図室(206B)     | 1   |    |    |  |
|               |                               |    | 5階  | 土木会議室(507)      | 1   |    |    |  |
|               | 緑ヶ丘3号館                        | 4  | 1階  | 学生ホール(105)      | 2   | 4  | 4  |  |
|               |                               |    | 2階  | M321講義室         | 2   |    |    |  |
|               | 緑ヶ丘5号館<br>(創造プロジェクト館)         | 3  | 1階  | ホール             | 1   | 3  | 3  |  |
|               |                               |    |     | 会議室(102)        | 2   |    |    |  |
|               | 緑ヶ丘講義棟                        | 3  | 1階  | M011講義室(101)    | 3   | 3  | 3  |  |
|               | 緑ヶ丘6号館                        | 6  | 1階  | 多目的室            | 2   | 6  | 0  |  |
|               |                               |    |     | 緑ヶ丘ホール          | 4   |    |    |  |
| 北地区           | 80年記念会議室                      | 3  | 1階  | 談話室(101)        | 1   | 3  | 2  |  |
|               |                               |    |     | マルチスペース(102)    | 1   |    |    |  |
|               |                               |    | 2階  | 講義室             | 1   |    |    |  |
|               | 東工大蔵前会館<br>(Tokyo Tech Front) | 17 | 1階  | 蔵前ホール(101)      | 4   | 17 | 17 |  |
|               |                               |    |     | エクセルシオール(109)   | 1   |    |    |  |
|               |                               |    |     | ホワイエ            | 2   |    |    |  |
|               |                               |    |     | ロイヤルブルーホール(106) | 3   |    |    |  |
|               |                               |    | 2階  | レストラン(精養軒)(204) | 3   |    |    |  |
|               |                               |    |     | 大会議室(206)       | 1   |    |    |  |
|               |                               |    | 3階  | 小会議室(205)       | 1   |    |    |  |
|               |                               |    |     | 手島精一記念会議室S(302) | 1   |    |    |  |
|               | サークル棟5                        | 2  | 1階  | 手島精一記念会議室L(303) | 1   | 2  | 2  |  |
|               |                               |    |     | 弓道部室(102)       | 1   |    |    |  |
|               | 自動車部室                         | 1  | 1階  | テニス部室(104)      | 1   | 1  | 1  |  |
|               |                               |    |     | 自動車部室           | 1   |    |    |  |
|               | グリーンヒルズ1号館                    | 18 | 1階  | 多目的ホール          | 2   | 18 | 18 |  |
|               |                               |    |     | 会議室             | 1   |    |    |  |
|               |                               |    | 2階  | リフレッシュコーナー      | 1   |    |    |  |
|               |                               |    |     | 会議室             | 1   |    |    |  |
|               |                               |    | 3階  | リフレッシュルーム       | 1   |    |    |  |
|               |                               |    |     | リフレッシュコーナー      | 1   |    |    |  |
|               |                               |    | 4階  | リフレッシュルーム       | 1   |    |    |  |
|               |                               |    |     | 会議室             | 1   |    |    |  |
|               |                               |    | 5階  | リフレッシュルーム       | 1   |    |    |  |
|               |                               |    |     | リフレッシュコーナー      | 1   |    |    |  |
|               |                               |    | 6階  | リフレッシュルーム       | 1   |    |    |  |
|               |                               |    |     | 会議室             | 1   |    |    |  |
|               |                               |    | 7階  | リフレッシュルーム       | 1   |    |    |  |
|               |                               |    |     | リフレッシュコーナー      | 1   |    |    |  |

(以下省略)

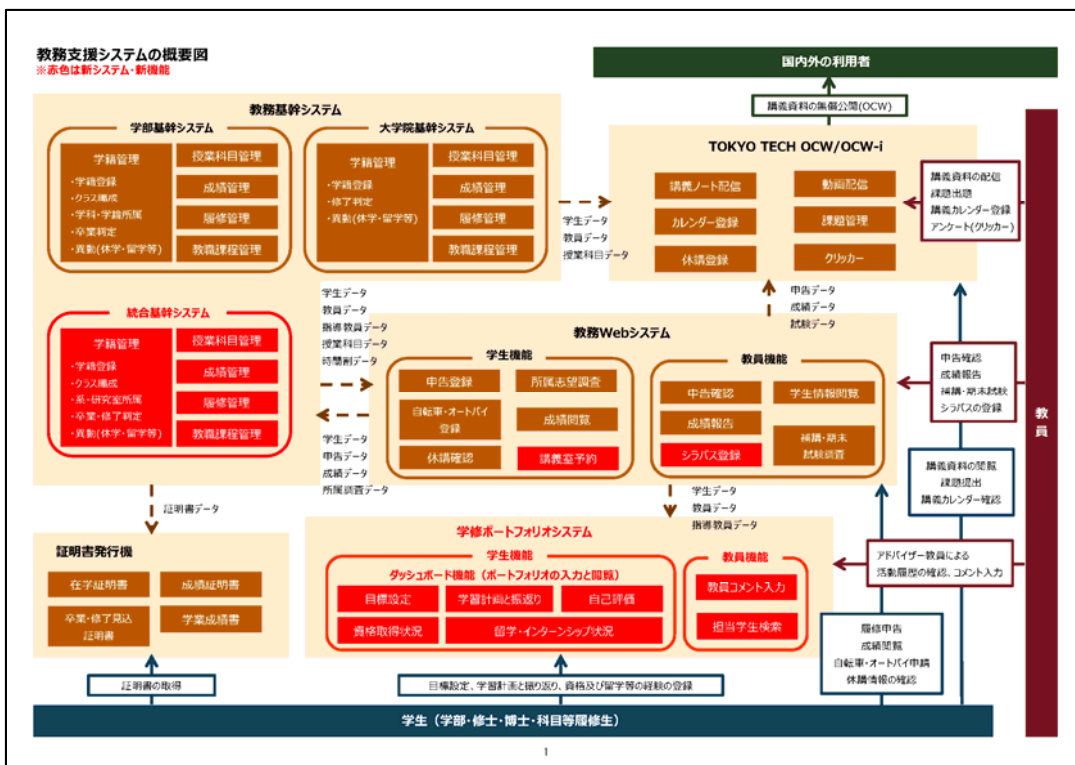
出典：教務課作成資料

(資料 13-10) 遠隔講義室一覽

[illegible]

出典：教務課作成資料

(資料 13-11) 新教務システム改修状況



(以下省略)

出典：教務課作成資料

## (資料 13-12) 学修ポートフォリオシステム内容

**Tokyo Tech Portfolio**  
Tokyo Institute of Technology

数系系 16\_19376 工大 太郎 日本語 English

## 東工大学修ポートフォリオ 学修ポートフォリオとは？

これからの本学での学修・研究を有意義なものにするために、以下の事について考え入力してください。入力した内容はあなたの指導教員が、あなたをサポートするために確認します。しっかりと考えて入力してください。なお、例えば、目標が明確になった等、大学生生活の過程で記載の内容に変更があれば、積極的に更新をしてください。過去に入力した内容は履歴で閲覧が可能です。

```

graph LR
    A[夢・目標・進路] --> B[強み・弱み]
    B --> C[学修計画]
    C --> D[資格・TOEFL等]
    D --> E[海外留学・国際経験]
    F[インターンシップ] --> G[部・サークル活動・各種取組]
    G --> H[受講・知識の確認]
  
```

- 入力中はいつでも中断、再開出来ます。
- 入力には十分な時間を確保し、じっくり考えて入力してください。コーヒーを淹れるなら今のうちです。

[ダッシュボードを見る](#) [入力を始める](#)

(一部抜粋)

出典：教務課作成資料

(資料 13-13) TOKYO TECH OCW シラバス（日本語・英語版）

**H28年度 代数学特論A Advanced topics in Algebra A**

|            |                       |
|------------|-----------------------|
| 開講元        | 数学コース                 |
| 担当教員名      | <a href="#">黒川 信重</a> |
| 授業形態       | 講義                    |
| 曜日・時限(講義室) | 木3-4(H137)            |
| クラス        | -                     |
| 科目コード      | MTH.A401              |
| 単位数        | 1                     |
| 開講年度       | H28年度                 |
| 開講クォーター    | 1Q                    |
| シラバス更新日    | 2016年3月28日            |
| 講義資料更新日    | -                     |
| 使用言語       | 日本語                   |
| アクセスランキング  | ★★★★★                 |

**シラバス****講義の概要とねらい**

本講義は代数的整数論の基礎と発展の解説を与えるものである。理解の定着のために、講義中に演習問題を提示するので、レポートとして提出すること。この講義は、2Qに行われる「代数学特論B」に続くものである。

代数的整数論とは、通常の整数および代数的整数の研究を行うものである。代数的整数論には、フェルマー予想やリーマン予想などのように有名な予想・問題が多く存在する。本講義では、代数的整数の基礎から始めて、基本的概念を例を豊富にあげつつ解説する。さらに、現代の代数的整数論の発展の源泉となっているラングランズ予想・非可換類体論へと、簡単な導入を行う。

**到達目標**

特に重要な概念は以下の通りである：代数的整数、素元分解、素イデアル分解、代数的集合、ゼータ関数。

**キーワード**

代数的整数、素元分解、素イデアル分解、代数的集合、ゼータ関数

**学生が身につける力**

| 国際的教養力 | コミュニケーション力 | 専門力 | 課題設定力 | 実践力または解決力 |
|--------|------------|-----|-------|-----------|
| -      | -          | ✓   | -     | -         |

**授業の進め方**

通常の講義形式による講義に問題演習を組み入れる。

**2016 Advanced topics in Algebra A**

|                               |                                    |
|-------------------------------|------------------------------------|
| <b>Academic unit or major</b> | Graduate major in Mathematics      |
| <b>Instructor(s)</b>          | <a href="#">Kurokawa Nobushige</a> |
| <b>Course component(s)</b>    | Lecture                            |
| <b>Day/Period(Room No.)</b>   | Thr3-4                             |
| <b>Group</b>                  | -                                  |
| <b>Course number</b>          | MTH.A401                           |
| <b>Credits</b>                | 1                                  |
| <b>Academic year</b>          | 2016                               |
| <b>Offered quarter</b>        | 1Q                                 |
| <b>Update syllabus</b>        | 2016/3/28                          |
| <b>Update lecture notes</b>   | -                                  |
| <b>Language used</b>          | Japanese                           |
| <b>Access Index</b>           | ★★★★★                              |

**Syllabus****Course description and aims**

This course gives explanations of the basics and developments of algebraic number theory. To understand firmly we provide problems in lectures. Students should make reports. This lecture will be succeeded by ``Advanced topics in Algebra B'' in the second quarter.

Algebraic number theory studies usual integers and algebraic integers. Algebraic number theory has many famous conjectures and problems such as Fermat conjecture and Riemann hypothesis. In this course, we start from basics about algebraic integers, we explain basic notions with many examples. We give simple introduction to Langlands conjecture and noncommutative class field theory, those are central problems of the modern algebraic number theory.

**Student learning outcomes**

The important notions are as follows: algebraic integer, prime factorization, prime ideal decomposition, algebraic set, zeta functions.

**Keywords**

algebraic integer, prime factorization, prime ideal decomposition, algebraic set, zeta functions

**Competencies that will be developed**

| Intercultural skills | Communication skills | Specialist skills | Critical thinking skills | Practical and/or problem-solving skills |
|----------------------|----------------------|-------------------|--------------------------|-----------------------------------------|
| -                    | -                    | ✓                 | -                        | -                                       |

（一部抜粋）

出典：TOKYO TECH OCW ホームページ

(資料 13-14) シラバス公開状況

| シラバス公開状況 平成28年3月30日現在 |         |          |        |
|-----------------------|---------|----------|--------|
| 区分                    | 全科目数(件) | 公開科目数(件) | 公開率(%) |
| 大学全体                  | 6427    | 6190     | 96.3   |
| 学部Total               | 2628    | 2494     | 94.9   |
| 大学院Total              | 3799    | 3696     | 97.3   |

出典：教務課作成資料

(資料 13-15) 「edX」参加プレスリリース全文


**東京工業大学**  
 Tokyo Institute of Technology

平成 26 年 9 月 30 日

報道機関各位

東京工業大学広報センター長  
大 谷 清

**東工大、米MIT・ハーバード大などの  
オンライン講座コンソーシアム「edX」に参加**

【概要】

東京工業大学（東工大＝Tokyo Tech、三島良直学長）は、米国マサチューセッツ工科大学（MIT）・ハーバード大学の共同設置による大規模オンライン講座「MOOC(s)」（解説参照）のコンソーシアム「edX」（解説参照）に参加しました。

東工大は世界トップ 10 のリサーチユニバーシティ（研究大学）を目指しており、このたび「スーパーグローバル大学創成支援」（※1）にも採択されました。「国際的視野での教育システムの刷新」の一環として、世界中の学習者にインターネットを通じて東工大の教育を「TokyoTechX」（※2）として配信し、双方向の学びを提供します。加えて、東工大の学生に対しても反転授業を導入した SPOC（Small Private Online Courses、解説参照）のコースを配信し、質の高い教育・学習環境の提供を実現します。

第 1 弾として、2015 年秋学期に、文部科学省から世界トップレベル研究拠点プログラムとして採択されている地球生命研究所の廣瀬敬所長・教授による講義の配信を計画しております。

●意義・狙い

東工大は卓越した専門性に加えてリーダーシップを備えた理工系人材の育成を目指して、大規模な教育改革を実施し、2016 年より新しい教育システムをスタートさせます（※3）。edX への参加は、この新しい教育環境の整備の一環として実施するもので、世界中のトップ大学が集まる edX で本学の教育を世界に発信することにより、世界中の学習者に最先端の理工系の研究を通じた学びを実現させるだけでなく、将来的には優秀な研究者を東工大に集めることが可能になります。

そして、edX を通じた世界中の学習者と東工大の学生による双方向コミュニケーションは、東工大の学生のグローバル化を促進することにつながると考えています。また、SPOC による学内向けコンテンツの配信によって、理工系分野におけるアクティブラーニングを促進し、

学生に主体的な学びと深い理解を導きます。一方で、質の高い教育を提供するための教授力の強化、また、それを支援する職員の能力向上も喫緊の課題です。edX のプラットフォームを通じて、本学の教職員向けのコンテンツ配信も検討しております。

(以下省略)

出典：本学ホームページ

**中期計画【14】「アクティブラーニングや少人数教育など授業形態の多様化に対応できる教育施設・設備を整備する。」に係る状況**

授業形態の多様化に対応できる教育施設・設備を整備するため、教育推進室の下にWGを設置し、講義室の問題点、講義数増加への対応、講義室収容人数と申告者数のミスマッチ解消など将来の展望を含めた検討を行い、今後の講義室の在り方・講義棟の新設・授業環境の改善等についての報告をまとめた（資料14-1）。

形状が講義室として適さない、机等の規格が古い等の指摘事項に対応するため、講義室の形状変更や、机・椅子・プロジェクター等の設備改善等を段階的に進め、学習環境の整備を図った（資料14-2）。主な改善等は、（資料14-2下段）のとおりである。

また、アクティブラーニング等の学生の主体的・協同的な授業形態へ対応するため、可動式の机・椅子、電子黒板及び学生グループ用にタブレット等を兼ね備えたアクティブラーニング対応型講義室を26年度に7室設置した（資料14-3）。

26年度には、既存の階段教室をレクチャーシアター（劇場型教室）に改修し、世界的に著名な発見・発明者を招き、実験や観察などを含めた創造的経験を学生へ提供することが可能となった（資料14-4）。レクチャーシアターを用いて、新たに科学・技術の面白さを体感できる1年生向けの授業「科学・技術の最前線」（プレ実施）、高校生向け公開授業、クリスマス・レクチャー等を27年度から実施した（資料14-5）。

さらにアクティブラーニングを活用した授業実施のため、FD研修を開催し、助教から教授まで、様々な立場の教員が参加し、アクティブラーニングを促す教育方法についての理解を深めた（資料14-6）。

（資料 14－1）学生及び教育に関する建物について（第一次答申）

【要旨】学生及び教育に関する建物について（第一次答申）

2011年10月 教育推進室学務関係建物マスタープラン検討WG

【目的】「学生窓口の一元化」及び「講義室整備」に関する問題点を把握し、その解決を図る。

【解決案】全学科目を中心とする講義棟を建設し、その棟内に学生窓口を集約する。

しかし、同一棟にすることは“敷地”や“予算”等の問題があり容易ではない。どちらも喫緊の問題であるため、「学生窓口の一元化」と「講義室整備」を分離し、学生サービスの向上を目指す「学生窓口の一元化」を第一次答申、「講義室整備」は中間報告とした。

「学生窓口の一元化」を優先し、「講義室整備」は現状を主とした中間報告とした

【学生窓口の一元化】（第一次答申）

- 問題点：①学生窓口が散在（西8、TTF、本館等に、6箇所）  
→学生窓口の一元化ができていないため、無駄な往来が生じる。  
②正門から遠いため学生の動線上になく、利便性に欠ける。等
- 解決策：附属図書館跡地に底地800m<sup>2</sup>、地下1階・地上3階の“Student Center”（仮称）を建設し、学生サービスの向上に役立てる。  
→1階：主たる学生窓口（教務課、学生支援課、留学生交流課）、  
証明書自動発行機  
2階：一部の学生窓口（入試課、キャリア支援等）  
3階：教育企画機能、会議室  
地階：設備機器、倉庫
- 期待される効果：  
①学生窓口を集約すること、及びその窓口を正門付近に設けることで学生の利便性が大幅に向上する。  
②入試から卒業に至るまでの学生に関する機能が同じ建物内に位置することにより、受験生・在学生に対して一括したサービスを提供できるとともに、学生関係部署の連携強化が図られ、より一層の東工大の教育・学生支援機能の向上に寄与できる。

【講義室整備】（中間報告）

- 問題点：①教育改革等により、授業数の増加が見込まれ、近い将来講義室が不足する。  
②形状が講義室として適さない、机等の規格が古いなどの問題がある。  
③科目によってはクラス毎に異なる建物・地区で授業を行っている。等  
→数と、質と、位置の問題
- 今後：より良い教育環境を整えるため、学科・専攻に対し学科等で保有する講義室に関する調査を行い、教務課管理の講義室とあわせて、必要な講義室数や規模の把握、効率的な講義室運営を目指す。本件については、別途報告を行う。

（以下省略）

出典：教育推進室作成資料

（資料 14－2）第二期中期計画期間の新設・改修講義室リスト

## 新設・改修講義室一覧表(平成22年度～27年度)

| 年度     | 大岡山地区  |                                                                |    | すずかけ台地区 |                                                                           |    |
|--------|--------|----------------------------------------------------------------|----|---------|---------------------------------------------------------------------------|----|
|        | 建物名    | 講義室名                                                           | 区分 | 建物名     | 講義室名                                                                      | 区分 |
| 平成22年度 | 本館     | H101講義室                                                        | 改修 |         |                                                                           |    |
| 平成23年度 | 西2号館   | W241講義室                                                        | 改修 | J2棟     | J221講義室                                                                   | 改修 |
|        | 南2号館   | S223講義室<br>S224講義室                                             | 新設 |         |                                                                           |    |
| 平成24年度 | 本館     | H121講義室                                                        | 改修 | B2棟     | B223講義室                                                                   | 改修 |
|        | 本館     | H117講義室<br>H118講義室                                             | 新設 | G1～G3棟  | G111講義室<br>G112講義室<br>G113講義室                                             | 改修 |
|        | 西6号館   | W631講義室                                                        | 改修 | J2棟     | J232講義室<br>J233講義室<br>J234講義室                                             | 改修 |
|        | 南2号館   | S222講義室                                                        | 改修 |         |                                                                           |    |
| 平成25年度 | 本館     | H119A講義室<br>H119B講義室<br>H102講義室<br>H103講義室<br>H104講義室          | 新設 | B2棟     | B221講義室<br>B225講義室                                                        | 改修 |
|        | 南5号館   | S511講義室<br>S512講義室<br>S513講義室<br>S514講義室<br>S515講義室<br>S516講義室 | 新設 | G1棟     | G111講義室<br>G115講義室                                                        | 改修 |
| 平成26年度 | 本館     | H136講義室                                                        | 新設 | G1～G5棟  | G112講義室<br>G113講義室<br>G114講義室<br>G223講義室<br>G324講義室<br>G511講義室<br>G512講義室 | 改修 |
|        | 西3号館   | W371講義室                                                        | 新設 |         |                                                                           |    |
|        | 西5号館   | W531講義室                                                        | 改修 | J2棟     | J232講義室                                                                   | 改修 |
|        | 南2号館   | S223講義室                                                        | 改修 |         |                                                                           |    |
|        | 南3号館   | S322講義室<br>S323講義室                                             | 改修 |         |                                                                           |    |
|        | 南5号館   | S517講義室<br>S518講義室                                             | 新設 |         |                                                                           |    |
| 平成27年度 | 石川台1号館 | I121講義室                                                        | 改修 |         |                                                                           |    |

（主な改善点）

（大岡山キャンパス）

- ・南2号館の大講義室（200名規模1室）を新設
- ・本館の中庭の講義室（100名室及び50名規模2室）を新設
- ・本館内の講義室（30～35名規模数室）を新設

（すずかけ台キャンパス）

- ・B225講義室（収容48名）、J234講義室（60名）の2室にある遠隔講義システムを最新のハイビジョンタイプの遠隔講義システムに更新

出典：教務課・学務課作成資料

（資料 14－3）アクティブラーニング対応型講義室一覧

| アクティブラーニング講義室一覧 |      |         |      |      |                                                                                                                                                                                                                                                                   |                                                                         |                                                                                           |
|-----------------|------|---------|------|------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------|
| キャンパス           | 建物   | 講義室名    | 収容人数 | 試験人数 | 講義室の特徴                                                                                                                                                                                                                                                            | 使用機器                                                                    | 付帯・備品等                                                                                    |
| 大岡山キャンパス        | 本館   | H136講義室 | 101  | 61   | 【双方向学習・グループディスカッション・遠隔講義対応】<br>65型電子黒板を設置し、持ち込んだパソコンやUSBメモリのデータを投影・書き込みが可能。<br>また、65型電子黒板の画面に、学生用は5インチタブレット9台分のデータを同時に映したり、1つのグループのデータを映すことが可能。<br>さらに、アプリケーションソフトの導入により、65型電子黒板と学生用タブレットの間で双方向のやり取りが実現可能。<br>1人1台ずつ可動式の机・椅子を準備し、自由なレイアウトを実現。<br>什置などを収納可能な収納を併設。 | ・65型電子黒板<br>・プロジェクター<br>・120インチスクリーン<br>・学生用は5インチタブレット9台<br>・ブルーレイプレーヤー | ・可動式1人用机<br>・可動式椅子<br>・グループ用ホワイトボード                                                       |
|                 | 西3号館 | W371講義室 | 72   | 45   | 【ハンズオン学習・グループディスカッション・遠隔講義対応】<br>60型電子黒板を設置し、持ち込んだパソコンやUSBメモリのデータを投影・書き込みが可能。<br>10名まで高座可能なミーティングルーム兼座席を併設。<br>液晶が2台あり、ハンズオン学習等にも対応可能。                                                                                                                            | ・60型電子黒板<br>・プロジェクター<br>・120インチスクリーン<br>・ブルーレイプレーヤー                     | ・可動式1人用机(18台)<br>・可動式2人用机(9台)<br>・可動式椅子<br>・前方・後方設置全体桌椅<br>・地下設置用ホワイトボード<br>・グループ用ホワイトボード |
|                 | 南3号館 | S322講義室 | 45   | 30   | 【グループディスカッション・遠隔講義対応】<br>60型電子黒板を設置し、持ち込んだパソコンやUSBメモリのデータを投影・書き込みが可能。<br>また、ガラススクリーンを設置し、プロジェクターの映像を投影したり、ホワイトボードのように書き込むことが可能。                                                                                                                                   | ・60型電子黒板<br>・プロジェクター<br>・ブルーレイプレーヤー<br>・OHP                             | ・可動式1人用机(18台)<br>・可動式椅子<br>・OAフロア<br>・ガラススクリーン<br>・地下設置用ホワイトボード兼置<br>・グループ用ホワイトボード        |
|                 |      | S323講義室 | 45   | 30   | 【グループディスカッション・遠隔講義対応】<br>60型電子黒板を設置し、持ち込んだパソコンやUSBメモリのデータを投影・書き込みが可能。<br>また、ガラススクリーンを設置し、プロジェクターの映像を投影したり、ホワイトボードのように書き込むことが可能。                                                                                                                                   | ・60型電子黒板<br>・大型マルチスクリーンディスプレイ<br>・プロジェクター<br>・ブルーレイプレーヤー<br>・OHP        | ・可動式1人用机<br>・可動式椅子<br>・OAフロア<br>・ガラススクリーン<br>・地下設置用ホワイトボード兼置<br>・グループ用ホワイトボード             |
|                 |      | S517講義室 | 24   | 24   | 【双方向学習・グループディスカッション対応】<br>60型電子黒板を設置し、持ち込んだパソコンやUSBメモリのデータを投影・書き込みが可能。<br>また、大型の黒板補助マルチスクリーンディスプレイを設置し、学生用20型タブレット4台分のデータを同時に映したり、1つのグループのデータを映すことが可能。<br>なお、1人1台ずつ可動式の机・椅子を準備し、自由なレイアウトを実現。                                                                      | ・60型電子黒板<br>・大型マルチスクリーンディスプレイ<br>・学生用20型タブレット(4台)<br>・ブルーレイプレーヤー        | ・可動式1人用机<br>・可動式椅子<br>・OAフロア<br>・ガラススクリーン<br>・グループ用ホワイトボード                                |
|                 |      | S518講義室 | 24   | 24   | 【双方向学習・グループディスカッション対応】<br>60型電子黒板を設置し、持ち込んだパソコンやUSBメモリのデータを投影・書き込みが可能。<br>また、ガラススクリーンを設置し、学生用20型タブレット4台分のデータを同時に映したり、1つのグループのデータを映すことが可能。<br>なお、1人1台ずつ可動式の机・椅子を準備し、自由なレイアウトを実現。                                                                                   | ・60型電子黒板<br>・大型マルチスクリーンディスプレイ<br>・学生用20型タブレット(4台)<br>・ブルーレイプレーヤー        | ・テーブル付き可動椅子<br>・OAフロア<br>・ガラススクリーン<br>・グループ用ホワイトボード                                       |
| すすヶけ台キャンパス      | J2棟  | J232講義室 | 60   | 30   | 【双方向学習・グループディスカッション・遠隔講義対応】<br>60型電子黒板を設置し、持ち込んだパソコンやUSBメモリのデータを投影・書き込みが可能。<br>また、50型電子黒板に、学生用20型タブレット4台分のデータを同時に映したり、1つのグループのデータを映すことが可能。<br>さらに、アプリケーションソフトの導入により、60型電子黒板と学生用20型タブレットの間で双方向のやり取りが実現可能。                                                          | ・60型電子黒板<br>・プロジェクター<br>・学生用20型タブレット(4台)<br>・ブルーレイプレーヤー                 | ・可動式1人用机(30台)<br>・可動式椅子<br>・前方・後方設置全体桌椅<br>・地下設置用ホワイトボード兼置<br>・グループ用ホワイトボード               |

出典：教務課作成資料

（資料 14－4）レクチャーシアター説明資料



### 東京工業大学レクチャーシアター（西5号館3階）





【レクチャーシアターの概要】  
 概要：収容人数274（固定椅子245席、可動椅子29席）  
 前面昇降板上げ、20/30プロジェクター、150型スクリーン2台（55型補助モニター3台）、65型電子黒板1台、実験台（吸着スクワバー装置）1台、ワークステーション（パッドワークス・オートキッド）1台、遠隔送信システム・同時通訳システムを装備  
 従来の黒板及び電子黒板（65型）を備え、電子黒板の内容は150型スクリーン及び補助モニターに投影可。板書内容もLiveカメラにより、一部投影することができる。  
 持込PC・USBメモリの内容を投影することは勿論のこと、SEM・EDS、蛍光顕微鏡、マイクロスコープなど、下記設備の操作・投影ができる。（但し、ものづくりセンター保管設備ではデータ投影に際するものもある。）更に、上下階への映像・音声配信、TV会議室システムによるすすヶけ台キャンパスなど遠隔地へのLIVE配信、同時通訳システムを備えている。

#### レクチャーシアター内設備



**SEM（企業型電子顕微鏡）**  
波長の短い電子線を利用し、ナノメートルの構造まで観察可能な顕微鏡



**マイクロスコープ**  
最大1000倍までのズームが可能でディスプレイに拡大画像を表示可能



**蛍光顕微鏡**  
試料からの蛍光・偏光現象を観察することによって対象を観察する顕微鏡

#### ものづくり教育研究支援センター保管設備



**複合型顕微鏡**  
光学顕微鏡、レーザー顕微鏡、プロップ顕微鏡それぞれの機能を併用可能



**CO2レーザー加工機**  
レーザービームであらゆる素材に彫刻・切断・マーキングが可能



**ラマン分光光度計**  
試料にレーザーを照射して、発生したラマン散乱光から物質の種類や状態を調べる装置



**高速カメラ**  
HD画質での高速撮影が可能なハンディハイスピードカメラ



**X線分析顕微鏡**  
X線付与装置を用い、真空状態で分析が難しい固体、液体、粉末試料などの元素分析が可能



**立体顕微鏡**  
対象物から出てくる赤外線放射熱エネルギーを検出し、温度分布を画像表示する装置

出典：教務課作成資料

（資料 14－5）レクチャーシアター使用例

## 東工大レクチャーシアターを利用した講義、イベント等一覧：

## 1 通常授業

| 前期                 |                        |
|--------------------|------------------------|
| 月曜：心理学・文化人類学・5類Fゼミ | 火曜：2類TLT試行             |
| 水曜：7類リテラシー         | 木曜：1類リテラシー・4類リテラシー     |
| 金曜：テキスト解釈論・電気学第一   |                        |
| 後期                 |                        |
| 月曜：熱統計力学第一         | 金曜：電気電子基礎・グローバル時代の国際政治 |

## 2 イベント等

| 日付            | イベント名称                         | 担当部署             |
|---------------|--------------------------------|------------------|
| 4月3日          | セミナー                           | 情報理工グループ         |
| 5月9日          | セミナー                           | 材料工学専攻           |
| 5月23日         | ホームカミングデー                      | ホームカミングデイ事務局     |
| 5月31日         | 一日東工大生                         | 社会理工学研究科         |
| 6月1日          | ロールスロイス社講演会                    | 工学系専攻            |
| 6月10日         | 横須賀高校来訪                        | 国際フロンティア         |
| 6月20日         | セミナー                           | 化学科              |
| 6月29日         | 5類特別講義(JR東海・リニア)               | 国際フロンティア         |
| 7月1日          | セミナー                           | 応用化学専攻           |
| 7月4日          | 教員向け入試説明会                      | 入試課              |
| 7月8日          | 山田研セミナー                        | 山田研究室            |
| 7月9日          | 授業設計説明会                        | 教育革新センター         |
| 7月15日         | イベント                           | 留学生交流課           |
| 7月16日         | JSTサクラサイエンスプラン                 | 広報・社会連携課         |
| 7月22日         | キャンパスアジアサマープログラム               | 留学生交流課           |
| 7月23日         | 4類特別講義(ファナック株式会社)              | 国際フロンティア         |
| 7月28日         | 会議                             | 産学連携             |
| 8月8日          | オープンキャンパス                      | アドミッションセンター      |
| 8月21日         | サマープログラム閉講式                    | 留学生交流課           |
| 8月30日         | 高大接続シンポジウム                     | 総務課              |
| 9月12日～13日     | クリスマスレクチャー2015                 | 国際フロンティア         |
| 9月15日～9月19日   | 分子科学討論会                        | 化学専攻             |
| 9月25日～9月26日   | 講演会                            | 応用化学専攻           |
| 9月30日         | シラバスチェック説明会                    | 教務課・教育企画グループ     |
| 10月11日        | the 4th ELITES General Meeting | 基礎物理専攻           |
| 10月19日, 12月2日 | 3類特別講義(Joop Schoonman 教授)      | 国際フロンティア         |
| 10月21日        | 保安教育講習会                        | 安全管理室            |
| 10月23日        | 教育改革に関するシンポジウム                 | 教育革新センター         |
| 10月26日        | 人間力基礎第二講義                      | グローバルリーダー教育院     |
| 10月29日～30日    | シンポジウム                         | 経営工学専攻           |
| 11月16日        | レクチャーコンサート                     | 有機・高分子専攻         |
| 11月18日, 25日   | プロジェクト発表会                      | IT特別教育研究コース      |
| 11月22日～23日    | 大隅教授ガードナー賞受賞記念講演会              | 生命理工学部生体システム専攻   |
| 11月27日        | 文部科学省ヒアリング                     | 施設総合企画課          |
| 11月30日        | 文部科学副大臣視察                      | 総務課              |
| 12月5日         | ワークショップ                        | 留学生交流課           |
| 12月9日         | 1類特別講義(谷本教授)                   | 国際フロンティア         |
| 12月10日        | 7類特別講義(David Van Vactor教授)     | 国際フロンティア         |
| 12月20日～23日    | 研究会                            | 基礎物理専攻           |
| 1月7日          | 創造性科目発表会                       | 教務課・教育企画グループ     |
| 1月14日         | 会議                             | 資源研              |
| 1月27日         | 1類特別講義(長谷川准教授)                 | 国際フロンティア         |
| 1月27日         | 6類特別講義(Dr.ナダレンジャー)             | 国際フロンティア         |
| 1月28日         | 7類「科学技術の創造プロセス」ブレ実施            | 生命理工学部           |
| 2月3日          | 公開セミナー                         | 「ぐるなび」食の未来創成寄附講座 |

(一部抜粋)

出典：国際フロンティア理工学教育プログラム作成資料

## （資料 14－6）アクティブラーニング研修報告書

## FD 研修「アクティブラーニング研修」実施報告

東京工業大学では、平成 27 年度から教育改革の一環として、新たに大岡山キャンパス及びすずかけ台キャンパスに合計 7 つのアクティブラーニング教室が設置されます。アクティブラーニング教室の活用や、アクティブラーニングを活用した授業実施のために、平成 27 年 3 月 19 日に、平成 26 年度東京工業大学 FD 研修「アクティブラーニング研修」を実施しました。各研究科の助教から教授まで、様々な立場の意欲溢れる計 12 名の教員が参加しました。

今回の FD 研修では、近年アクティブラーニングが注目されている背景やアクティブラーニングのメリットとデメリット、様々なアクティブラーニングを促す教育方法についての理解を深めるとともに、研修参加者には、実際にクリッカーを活用したピア・インストラクションなどを体験してもらいながら、アクティブラーニングを本学で導入する意義や新たに設置されたアクティブラーニング対応教室の授業での活用方法についてグループで議論を行いました。本研修の参加者からは、「4 月からの講義でアクティブラーニングを一部導入してみたい。」、「さまざまなアクティブラーニングの手法とその効果を知ることができた。」、「アクティブラーニングの実践例を詳しく知ることができました。」などの感想をいただきました。本研修は平成 27 年度も引き続き開催されます。



「アクティブラーニングとは何か」について説明を行う森秀樹准教授

（以下省略）

出典：教務課作成資料

中期計画【15】「学生支援のための諸活動の拠点として、学生支援センターにおける各部門の運営体制を強化し、かつ部門間の連携を進める。」に係る状況

第2期中期目標期間において、これまで健康、キャリア、キャンパスライフ等の支援を行ってきた学生支援センター（以下、センター）を、さらに学生支援の中核として機能させ、キャリア支援について特化した別の組織を設置するなど、学内の変化に順応した機能の見直しを行うことで運営体制を強化し、また部門間の連携強化を行った。

22年度は、各部門の運営体制の強化のために、部門の実績と課題について調査・分析を行った結果、教育推進室の下に置く厚生補導協議会が審議する一部の事項のセンター・キャンパスライフ支援部門への移行を含めた改変を行うこととした（資料15-1）。

23～24年度にかけて、センターの在り方についてさらに検討を重ね、センター規則において各部門の任務内容を明示した（資料15-2, 3）。また、25年度のイノベーション人材養成機構の発足に伴い、キャリア支援機能は同機構へ移管し、学生相談部門と自律支援部門の2部門体制で運営を開始した（資料15-4～6）。

学生相談部門では、カウンセリング・ハラスメント対策委員会を設置し、全学の相談活動実績の収集や学生・教職員への啓発活動を行っている（資料15-7, 8）。自律支援部門では、学生間・大学・地域等に対して有益という公的な性格を有し、学生の自主性にに基づき企画・立案・実施され、教職員も協働し関与が必要で、大学コミュニティの活性化に繋がる活動の支援として、主に学勢調査、国際交流学生会等の活動への支援を行っている（資料15-9, 10）。

さらに、28年度より施行の「障害者差別解消法」により国立大学法人では障害学生への差別の禁止と合理的配慮の提供の義務化に伴い「障害学生支援の方針と体制について」をとりまとめ、提案を行った。その結果、学生支援センター内にバリアフリー支援部門を設置し、相談部門と連携し総合的な相談・支援体制を充実させるための検討を進めた（資料15-11）。

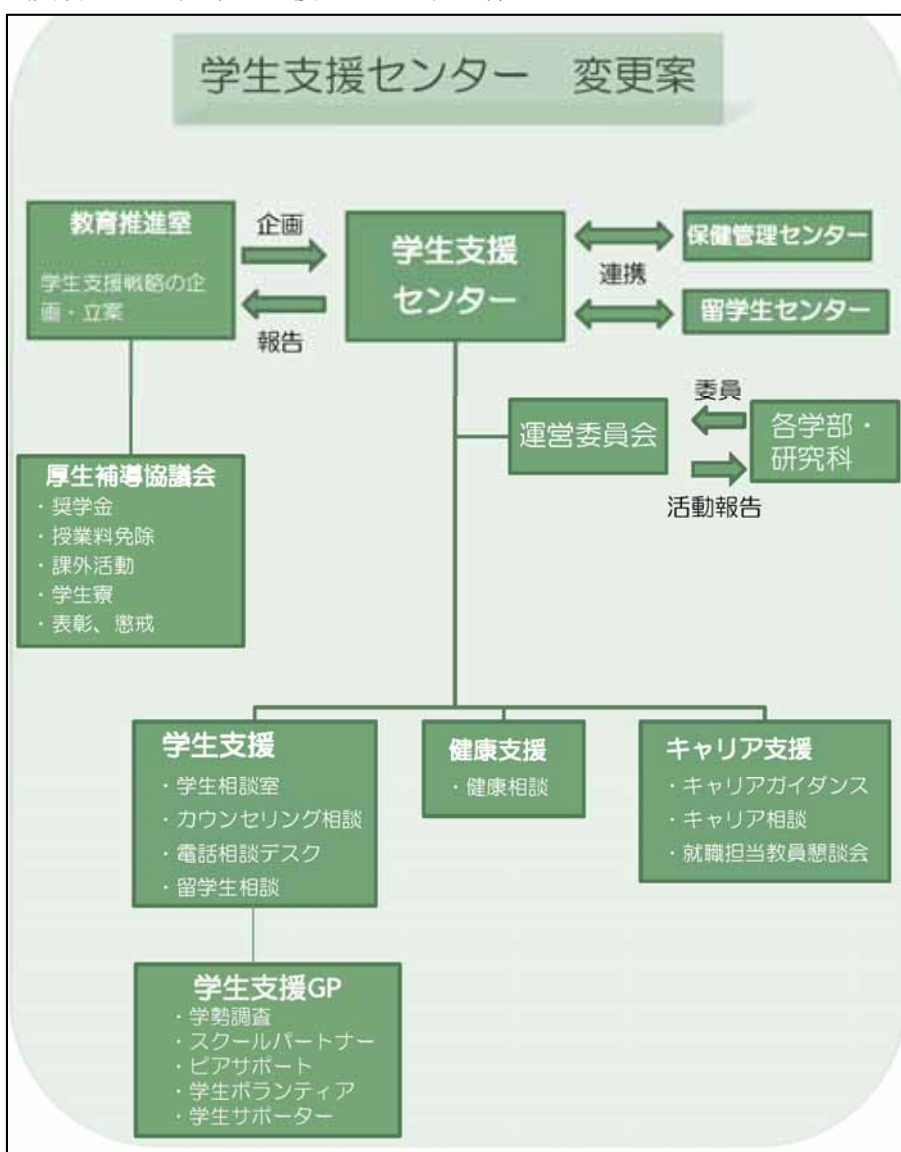
各部門の特性を十分活かした運営体制とするため、学生相談部門の部門長を学生相談室長、自律支援部門長を理事・副学長（教育・国際担当）特別補佐が担当することとした（資料15-12）。各部門間の有機的連携は、複数名の教員が学生相談部門下の委員会及び自律支援部門下の委員会の双方に携わることで、部門間での意思疎通を強化した（資料15-7, 12）。全学との連携を図るため、従来設置されていた部門の移管先である教育推進室、保健管理センター、イノベーション人材養成機構キャリア支援室における委員会には、センターの教員が構成員となっている。

（資料 15－1）厚生補導協議会審議事項移行案

| 厚生補導協議会での審議事項について（新組織への移行案）  |   |                        |              |
|------------------------------|---|------------------------|--------------|
| （現行規程での審議事項）                 |   | （新組織での移行先（案））          |              |
| （審議事項）                       |   |                        |              |
| 第2条 協議会は、次に掲げる事項について審議する。    |   |                        |              |
| 一 入学科の免除及び徴収猶予、授業料の免除及び徴収猶予、 | → | 学生支援センター               | キャンパスライフ支援部門 |
| 寄宿料の免除に関する事項                 | → | 同                      | 上            |
| 二 奨学金及び経済的援助に関する事項           | → | 同                      | 上            |
| 三 学生団体、サークル及び正大祭等課外活動に関する事項  | → | 同                      | 上            |
| 四 学生寮に関する事項                  | → | 同                      | 上            |
| 五 学生の表彰及び懲戒に関する基本的事項         | → | （表彰）                   | 同 上          |
|                              | → | （懲戒）理事・副学長（教育担当）直轄の新組織 |              |
| 六 学生の福利・厚生施設に関する事項           | → | 学生支援センター               | キャンパスライフ支援部門 |
| 七 学生の事故対応に関する事項              | → | 同                      | 上            |
| 八 その他協議会が必要と認める事項            | → | 同                      | 上            |

出典：学生支援課作成資料

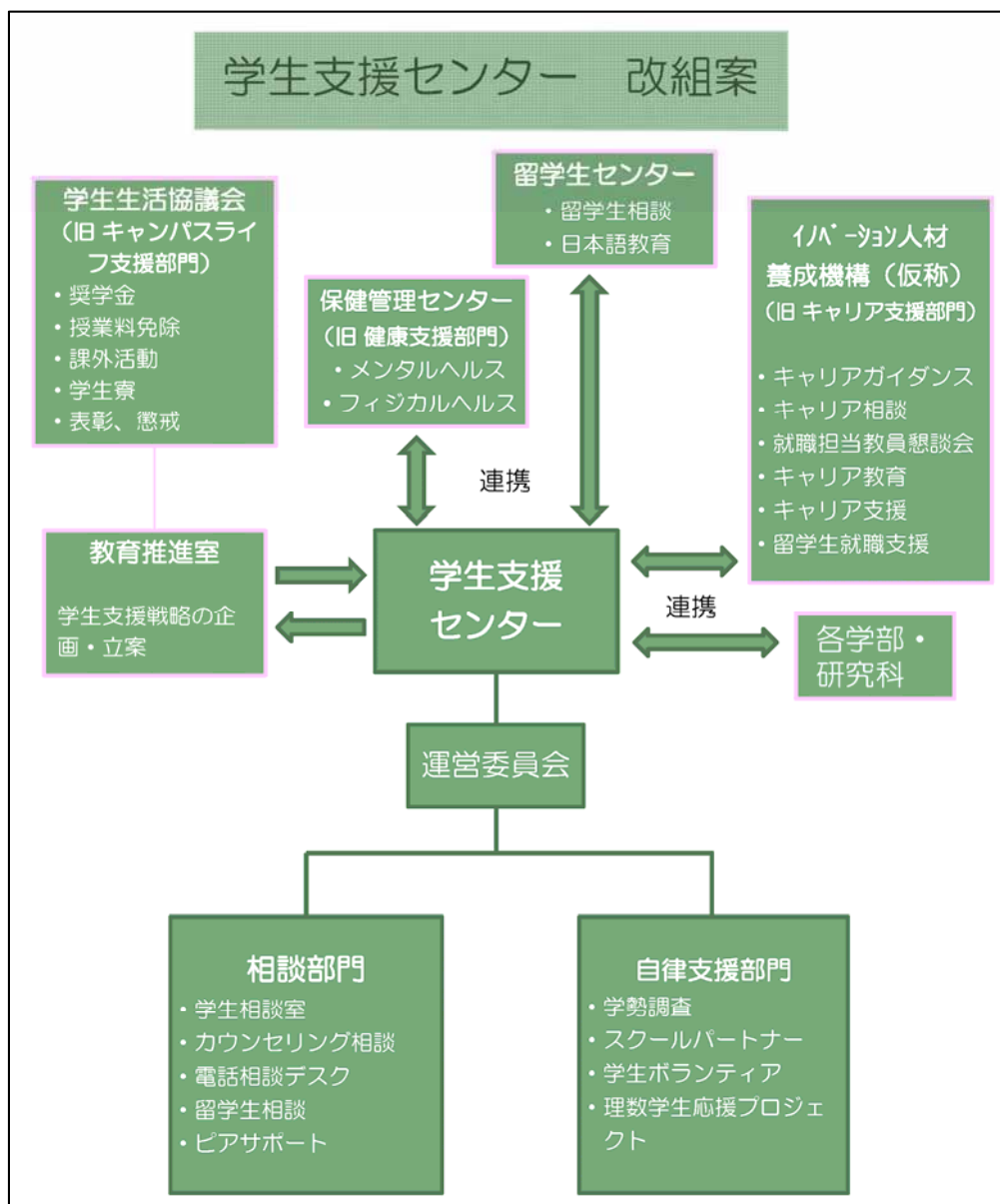
（資料 15－2）学生支援センター変更案



（以下省略）

出典：学生支援課作成資料

（資料 15－3）学生支援センター改組案



出典：学生支援課作成資料

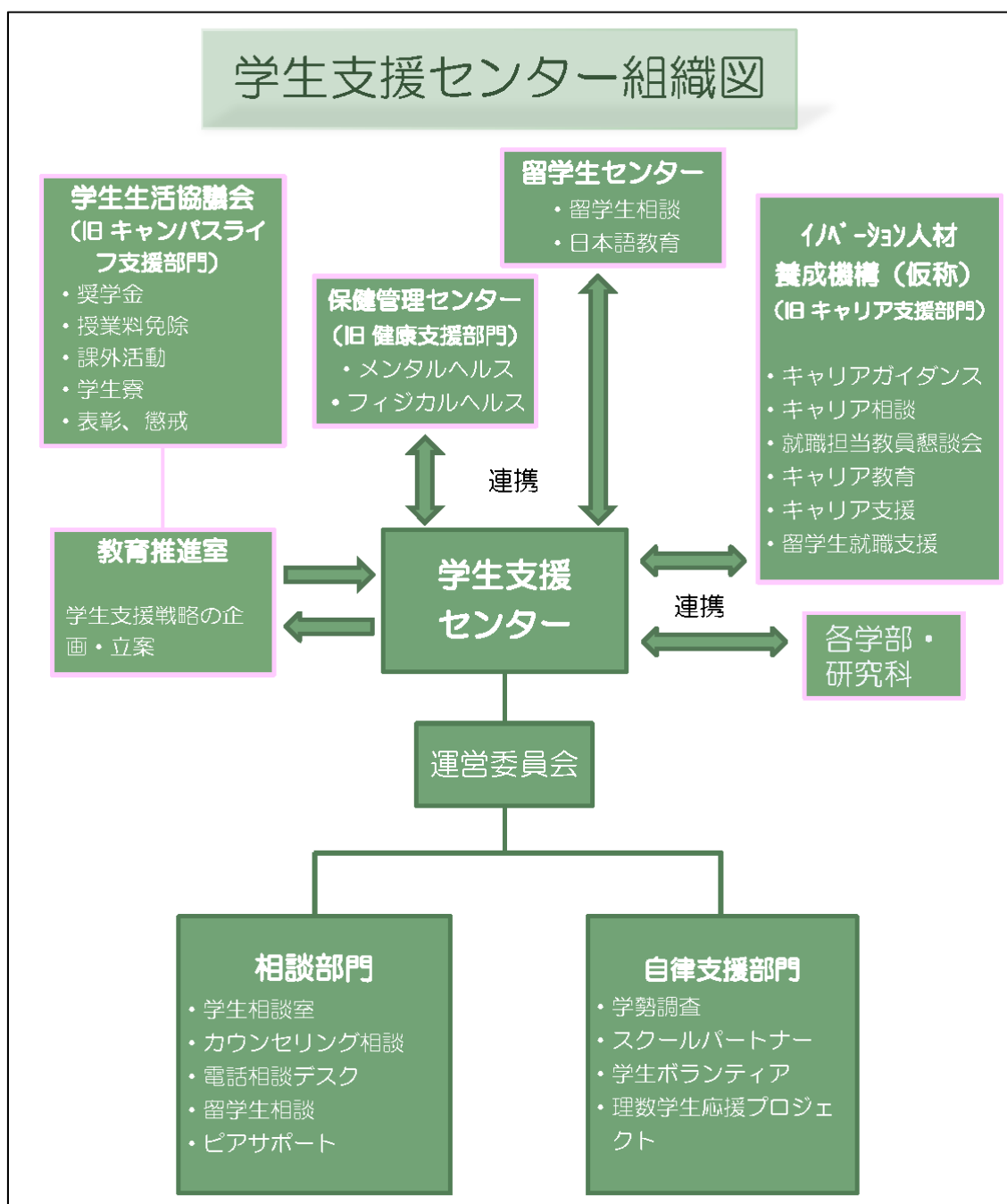
（資料 15－4）学生支援センター規則一部改正

| 東京工業大学学生支援センター規則一部改正理由                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                    |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        |
|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| この規則は、イノベーション人材養成機構の設置に伴い、必要な改正を行うものである。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                  |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        |
| 東京工業大学学生支援センター規則一部改正案新旧対照表                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        |
| アンダーラインの部分が改正点である。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        |
| 改正案                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                       | 現行                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                     |
| <p>（趣旨）</p> <p>第1条 この規則は、国立大学法人東京工業大学組織運営規則（平成16年規則第2号）第28条第3項の規定に基づき、東京工業大学学生支援センター（以下「センター」という。）の組織及び運営等に関し必要な事項を定めるものとする。</p> <p>（目的）</p> <p>第2条 センターは、東京工業大学（以下「本学」という。）における大学教育の一環として、日本人学生、留学生を問わず全ての本学学生に対し、<u>次条に定める支援業務を総合的に行い</u>、もって、学生の人間的な成長及び<u>自律</u>を図り、科学技術の高度な専門能力を基礎とする豊かな創造性を兼ね備えた社会のリーダーとなり得る人材の育成に資することを目的とする。</p> <p>（業務）</p> <p>第3条 センターにおいては、次の支援業務を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>一 修学及び学生生活に関すること。</li> <li>二 <u>学生の自律促進</u>に関すること。</li> </ul> | <p>（趣旨）</p> <p>第1条 この規則は、国立大学法人東京工業大学組織運営規則（平成16年規則第2号）第28条第3項の規定に基づき、東京工業大学学生支援センター（以下「センター」という。）の組織及び運営等に関し必要な事項を定めるものとする。</p> <p>（目的）</p> <p>第2条 センターは、東京工業大学（以下「本学」という。）における大学教育の一環として、日本人学生、留学生を問わず全ての本学学生に対し、<u>修学面、健康面及び生活面並びに進路選択等の支援業務を総合的に行い</u>、もって、学生の人間的な成長及び<u>自立</u>を図り、科学技術の高度な専門能力を基礎とする豊かな創造性を兼ね備えた社会のリーダーとなり得る人材の育成に資することを目的とする。</p> <p>（業務）</p> <p>第3条 センターにおいては、次の<u>学生支援業務</u>を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>一 修学に関すること。</li> <li>二 <u>健康</u>に関すること。</li> </ul> |

（以下省略）

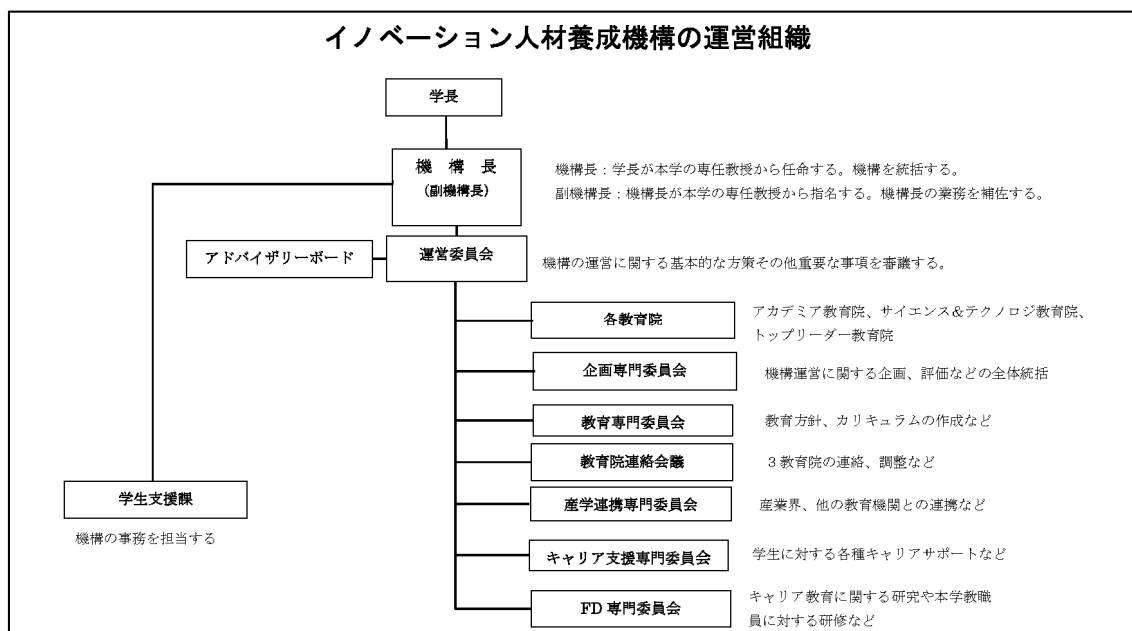
出典：学生支援課作成資料

（資料 15－ 5） 学生支援センター組織図



出典：学生支援課作成資料

(資料 15－6) イノベーション人材養成機構組織図



出典：学生支援課作成資料

(資料 15－7) H26 カウンセリング・ハラスメント対策企画委員会名簿

| 平成26年度カウンセリング・ハラスメント対策企画委員会名簿 |           |       |       |                         |
|-------------------------------|-----------|-------|-------|-------------------------|
|                               |           |       |       | 26.11.17                |
| 所 属                           | 専攻等       | 職 名   | 氏 名   | 備考                      |
| 大学院総合理工学研究科                   | 創造エネルギー専攻 | 教授    | 岡村哲至  | 理事・副学長(教育・国際担当)<br>特別補佐 |
| 保健管理センター                      |           | 教授    | 齋藤憲司  | カウンセラー                  |
| 保健管理センター                      |           | 教授    | 安宅勝弘  | 精神科医・学校医                |
| 大学院理工学研究科                     | 材料工学専攻    | 教授    | 熊井真次  | 学生相談室長                  |
| 大学院理工学研究科                     | 国際開発工学専攻  | 教授    | 大即信明  | ハラスメント相談員連絡会議主査         |
| 留学生センター                       |           | 准教授   | 佐藤 礼子 | ハラスメント相談員               |
| 学生支援課                         |           | 課長    | 青木 彰  | 事務担当                    |
| 学生支援課                         |           | グループ長 | 松永 修  | 事務担当                    |

出典：学生支援課作成資料

## (資料 15－8) 学生支援に係る研修の実施状況（平成 26 年度）

| 学生支援に係る研修の実施状況(平成26年度)       |                                              |                              |                             |           |                |                                       |                                        |
|------------------------------|----------------------------------------------|------------------------------|-----------------------------|-----------|----------------|---------------------------------------|----------------------------------------|
| 名称                           | タイトル                                         | 主催                           | 開催日                         | 時間        | 講師             | 参加人数                                  | 内容(備考)                                 |
| 《全学的に参加を呼びかけているもの》           |                                              |                              |                             |           |                |                                       |                                        |
| ●教育研究評議会 研修                  | ●自殺防止対策の基本方針と具体的な施策                          | 教育研究評議会                      | 5月9日                        | 60分       | カウンセラー         | 約50名                                  | 各担当を統括する教職員対象：本学における自殺問題の現状と方針・対策の共有   |
| ●第64回カウンセリング懇話会              | ●カウンセリング活動状況、学生支援体制、学生を元気に(大岡山)              | 保健／学支セ                       | 7月17日                       | 2時間       | カウンセラー／医師      | 約60名                                  | 相談現場から報告／意見交換(急送の傾向、自殺防止対策の検討から、等)     |
| ●第65回カウンセリング懇話会              | (同上)                                         | 保健／学支セ                       | (3月予定)                      | 2時間       | カウンセラー／医師      | (約50名)                                | 相談現場から報告／意見交換(各相談窓口の特性、対応上の課題、等)       |
| 《全学FDの中で実施されたもの》             |                                              |                              |                             |           |                |                                       |                                        |
| ●平成26年度学部・大学院FD研修            | ●学生のすたが教職員のまなざしー相談と教育の連携からー                  | 教育推進室                        | 9月19日                       | 40分       | カウンセラー         | 約70名                                  | カウンセリングの諸相、学生への関わり方、自殺防止対策、教職員のライフコース等 |
| 《人事的な側面からの研修》                |                                              |                              |                             |           |                |                                       |                                        |
| ●平成26年度新採用教員セミナー             | ●メンタルヘルスについてー東工大の教員になるということー                 | 人事課                          | 4月3日、10月8日                  | 30分       | カウンセラー         | 4月 56名<br>10月 32名                     | 心身のセルフチェック／東工大の特徴と教員としての関わり方など         |
| ●平成26年度新採用教員セミナー             | ●教育現場におけるハラスメント防止                            | 人事課                          | 4月3日、10月8日                  | 60分       | 副学長(人権担当)      | 4月 56名<br>10月 32名                     | 大学におけるハラスメントの防止について                    |
| ●平成26年度新採用教員研修               | ●健康管理・ハラスメント防止について                           | 人事課                          | 4月11日、6月5日                  | 90分       | カウンセラー         | 各回約10名                                | 心身のふりかえり／職場内のハラスメント／学生対応の工夫など          |
| ●平成26年度中堅教員研修                | ●ストレス・マネジメント                                 | 人事課                          | 12月8日                       | 30分       | カウンセラー         | 17名                                   | 中堅という立場／ストレスの認知・予防・調整／自分せいやす・まいににきく、等  |
| ●教員長・評議員研修                   | ●ハラスメントの防止及び対応について                           | 人事課                          | 6月8日                        | 60分       | 副学長(人権担当)      | 10名                                   | 大学におけるハラスメントの防止について                    |
| 《各担当の円等として実施されたもの》           |                                              |                              |                             |           |                |                                       |                                        |
| ●生命理工学研究所教員FD研修              | ●学生対応の留意点と自殺防止対策ー日常的支持からハラスメント生命理工学研究所教員FD研修 | 生命理工学研究所                     | 11月19日                      | 60分       | カウンセラー         | 数十名                                   | 相談活動の現状／自殺防止対策の方針と施策／学生対応の基本・ハラスメント防止  |
| ●理学系教員FD研修                   | ●教育現場におけるハラスメント防止と対策                         | 理学系教員FD研修                    | 9月17日                       | 30分       | 副学長(人権担当)      | 56名                                   | 大学におけるハラスメントの防止について                    |
| ●技術職員ハラスメント研修                | ●教育現場におけるハラスメント防止と対策                         | 技術系                          | 10月26日                      | 60分       | 副学長(人権担当)      | 74名                                   | 大学におけるハラスメントの防止について                    |
| ●総合理工学研究所教員FD研修              | ●ハラスメントとは／ハラスメントに対する再認識と防止について               | 総合理工学研究所                     | 2月24日                       | 20分       | 医師             | 56名                                   | ハラスメントの定義、実態、対策について                    |
| 《相談員役割前・初級教員に対する研修》          |                                              |                              |                             |           |                |                                       |                                        |
| ●第1回学生相談委員会                  | ●相談面接の手順と留意点                                 | 学生相談室                        | 4月24日                       | 約30分      | カウンセラー         | 約30名                                  | 相談の実態ー教育指導との関連／学内サポート体制、等              |
| ●学生相談室情報交換会                  | (相談事例に基づく相互研修／時にレクチャー)                       | 学生相談室                        | (大)3月19日<br>(小)7月19日        | 約60分      | 相談員相互研修／カウンセラー | (大)11名<br>(小)11名                      | 対応の工夫など意見交換と相互支援の場として／発達障害学生支援の取り組み    |
| ●(ハラスメント)相談員研修(通)            | ●(ハラスメント)相談への対応について                          | 人事課                          | (来年度に予定)                    | 約50分      | カウンセラー         | 約50名                                  | ハラスメント相談の留意点／実際の相談場面を想定して              |
| 《安全管理面的な側面から実施された研修企画(全学)》   |                                              |                              |                             |           |                |                                       |                                        |
| ●環境安全衛生講習会                   | ●本学における健康管理について                              | 総合理工学研究所                     | (大)3/30、5/12<br>(小)5/7、5/14 | 25分       | 医師             | (大)約100名<br>(小)約100名                  | 労働安全と学校保健安全／健康管理の留意点と留意点               |
| ●放射線業務従事者(経験者)全学講習           | ●特殊健康診断について                                  | 放射線管理センター                    | (大)5/21<br>(小)5/14          | 30分       | 医師             | (大)約100名<br>(小)約100名                  | 放射線使用による健康障害の予防とその予防                   |
| ●健康衛生週間特別講演会                 | ●ガボンの精神医療をまじりに行く                             | 総合理工学研究所                     | 10月2日                       | 15分       | 医師             | 約100名                                 | 途上国に調査研究に行く際の予防接種等の準備について              |
| 《安全管理面的な側面から実施された研修企画(各研究等)》 |                                              |                              |                             |           |                |                                       |                                        |
| ●オープンキャンパスでの注意               | ●熱中症対策                                       | オープンキャンパス担当                  | 7月9日                        | 20分       | 医師・看護士         | 25名                                   | 本学来訪者への対応における留意事項について                  |
| 《全国的研修会への関わり》                |                                              |                              |                             |           |                |                                       |                                        |
| ●心の問題と成長支援ワークショップ            | ●メンタルヘルスの課題認識／学生対応の基本、ハラスメント、危機対応、日本学生支援機構   | 神戸9/25～9/29<br>東京10/29～10/30 | 2日間                         | 医師／カウンセラー | 各100名          | 全国の学生支援に係る教職員対象(本学受講者なし)／医師らカウンセラーが講師 |                                        |
| ●障害学生支援実務者養成研修会              | ●障害学生支援と保健管理センターー外部機関との連携                    | 日本学生支援機構                     | 8/18～8/19                   | 2日間       | 医師             | 200名                                  | 全国の障害学生支援に係る教職員対象(本学受講者なし)／医師が講師       |
| ●第52回全国学生相談員研修会              | ●学生相談の相談／理論と実践／研究／特定テーマのレクチャー                | 日本学生相談学会                     | 11月10日～12月2日                | 3日間       | カウンセラー／医師      | 約600名                                 | 全国の学生相談員を対象(本学受講者なし)／カウンセラー医師が講師(企画運営) |
| 《学生対象の研修プログラム》               |                                              |                              |                             |           |                |                                       |                                        |
| ●学部新入生総合オリエンテーション            | ●キャンパスライフ入門                                  | 学芸部                          | 4月5日                        | 20分       | カウンセラー         | 約1,000名                               | 学生生活の過ごし方(新しい環境への適応、特にカルト注意、イッキ飲み注意、等) |
| ●大学院新入生オリエンテーション             | ●キャンパスライフについてー研究中心の学生生活／その過ごし方               | 学芸部                          | 4月2日                        | 10分       | カウンセラー         | 約1,000名                               | 大学院生活の過ごし方(研究への適応、特に生マッシュ・ハラスメント防止、等)  |
| ●公益サークル代表者研修会                | ●アルコールとうまく付き合うための心得                          | 理系・副学長(教)                    | 11月19日                      | 60分       | 医師             | 約50名                                  | サークル運営の留意点(特にイッキ飲みや急死アルコール中毒への注意喚起と対応) |
| ●大学院新入生オリエンテーション             | ●相談窓口案内・障害学生支援相談員との紹介                        | 学生センター                       | 4月2日                        | 約45分      | 学生支援相談員        | 135名                                  | 学内の相談窓口の紹介・留意事項・日本語話学、学生支援相談員との紹介      |
| ●学部新入生総合オリエンテーション            | ●相談窓口案内・学芸部学生としての留意事項                        | 学生センター                       | 4月9日                        | 約15分      | 学生支援相談員        | 約45名                                  | 学内の相談窓口の紹介・手帳き関係事項・生活上の留意事項について        |

出典：学生支援課作成資料

## （資料 15－9）学勢調査ホームページ

## はじめに

「東工大をこうしたい！あれがやりたい！でも・・・」「もう少し、こうなってくればいいのに・・・」学生の『声』を表現し、実現する『形』へと学生自らがつなげる場、それがこの『学勢調査』です。

教育改善や施設づくりに学生の意見を取り入れ、本学をより良くしてゆくために、「学勢調査」と名付けた全学生対象の大規模なアンケート調査を平成16年度から開始しました。「勢」という漢字には「ありさま」「かたむき」そして「さかんな力」という意味があり、学生の状況＝「ありさま」を見きわめ、学生の意見や希望＝「かたむき」を受けとめることで、学生たち自身の「さかんな力」がよりのびやかに開花するようとの願いをこめて実施しています。

この調査のユニークな点は、調査結果の集計、解析、提案を、公募に応じたリポーター学生が主導で実施していることです。学生の視点でアンケート結果を読み解き、建設的な提案がおこなわれています。膨大なアンケート結果や提案等は学長を中心とする役員会でも紹介され、議論がなされています。

学生からの意見や提案とアンケート結果は大学にフィードバックされ、各部署でできる限りの対応に取り組んでいます。このHPでは、大学がおこなった対応を順次開示します。提案の中には、慎重な検討を要するもの、大きな予算を伴うものなどもあり、対応するには時間がかかるものもあります。

本学はもとより、全国でも例を見ないこの試みをたしかな成果に結び付けてゆくために、今後も学勢調査を継続してゆきます。

学勢調査2010 WG主査 岡村哲至

## 「学勢調査2012」キャンパスミーティングのご案内（2月27日、28日）

昨年10月に実施した「学勢調査2012」の結果をもとに、学生スタッフを中心に大学への提言書を作成しています。在学生と意見交換の場を設けますので、積極的にご参加ください。

日時 2月27日（水）、28日（木） 13:00～15:00、15:00～17:00

※1日2回、合計4回実施します。各回すべて同じ内容の予定です。場所 大岡山キャンパス 本館1階 H112

現在の活動状況は[Facebookのページ](#)で公開しております。

ご質問等はこちらのページをお願いします。

url:<https://www.facebook.com/gakuseichousa>

## 学勢調査結果

- 調査結果を見る ([html版](#)/ [PDF版\(4MB\)](#))
- English  
([Abstract/University's Response](#))*new!*
- [大学の対応](#) *new!*
- [アンケート項目](#)
- [WGメンバー](#)
- 調査結果を見る ([html版](#)/ [PDF版\(8MB\)](#))
- [大学の対応](#)
- [アンケート項目](#)
- [WGメンバー](#)

- [調査結果を見る\(html版\)](#)
- [アンケート項目](#)
- [大学の対応](#)
- [WGメンバー](#)

## 教育推進室 学勢調査2012 WG

岩附信行（機械理工学専攻・主査）、岡村哲至（創造工ネルギー専攻）、齋藤憲司（保健管理センター）、篠崎和夫（材料工学専攻）、西原明法（教育工学開発センター）、野原佳代子（留学生センター）、山田恵美子（学生支援センター）、秋友豊香（学生支援課長）

## 教育推進室 学勢調査2010 WG

岡村哲至（創造工ネルギー専攻・主査）、齋藤憲司（保健管理センター）、篠崎和夫（材料工学専攻）、西原明法（教育工学開発センター）、野原佳代子（留学生センター）、山田恵美子（学生支援センター）、草舘久男（学生支援課長）

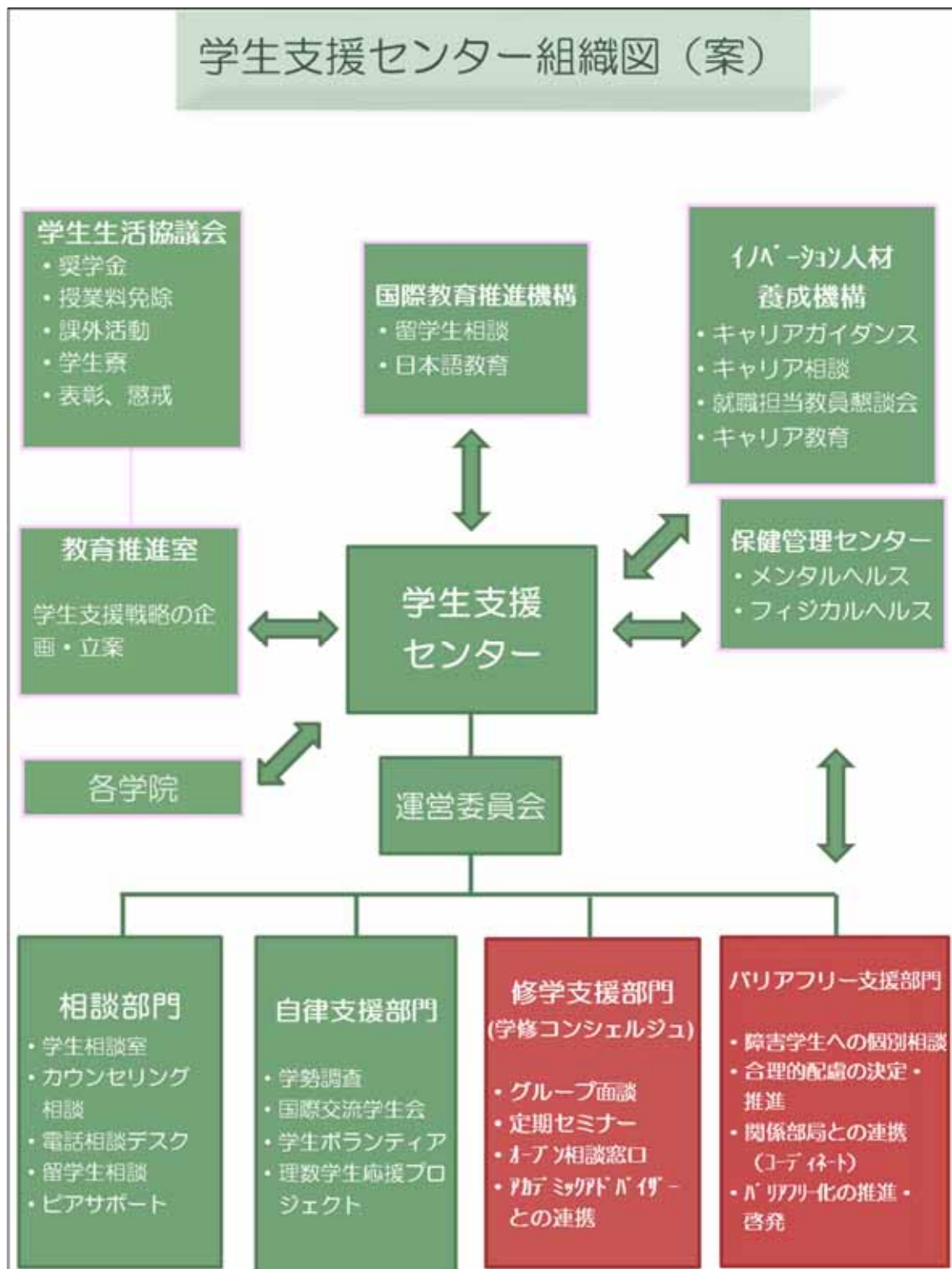
出典：学生支援課ホームページ

## (資料 15－10) 国際交流学生会の活動実績

| 国際交流学生会SAGE(Student Association for Global Exchange) 取組実績                                                                                                               |                                                                                                                                                                                                                                                                     |                                                                                                                                                                                                 |
|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 活動内容                                                                                                                                                                    | 活動実績                                                                                                                                                                                                                                                                |                                                                                                                                                                                                 |
| 海外の学生の訪問を手伝い、交流会等(キャンパスツアー、学生討論会、ウェルカムパーティー)を企画・運営する。<br>また、海外大学生の招へいプログラムを企画する。<br><br>【登録人数】<br>平成22年度：8名<br>平成23年度：10名<br>平成24年度：10名<br><br>平成25年度：12名<br>平成26年度：16名 | <b>平成22(2010)年度・活動実績</b>                                                                                                                                                                                                                                            |                                                                                                                                                                                                 |
|                                                                                                                                                                         | 【交流会】(来訪受入れ)<br>・Aalborg大学(4/1, 2 18名)<br>・University of British Columbia(カナダ)(5/7 26名)<br>・Ecole des Mines (7/8 11名)<br>・Pohang University of Science and Technology (8/24 2名)<br>・City University of Hong Kong(8/25 4名)<br>・Japan Visit Team from Korea(11/5 37名) | 【その他】(自主企画)<br>東京オリエンテーリング(11/5 37名)                                                                                                                                                            |
|                                                                                                                                                                         | <b>平成23(2011)年度・活動実績</b>                                                                                                                                                                                                                                            |                                                                                                                                                                                                 |
|                                                                                                                                                                         | 【交流会】(来訪受入れ)<br>・King Mongkut's University of Technology Thonburi (4/21 17名)<br>・グランゼコール(6/27, 7/4, 11, 18 のべ80名)                                                                                                                                                   | 【その他】(自主企画)<br>・第2回東京オリエンテーリング(4/23 18名)<br>・第1回フードパーティー(6/23 38名)<br>・第3回東京オリエンテーリング(10/29 40名)<br>・第2回フードパーティー(12/22 40名)<br>・第3回ASCENTアジア理工系学生連携促進プログラム(3/12～20 来訪17名)                       |
|                                                                                                                                                                         | <b>平成24(2012)年度・活動実績</b>                                                                                                                                                                                                                                            |                                                                                                                                                                                                 |
|                                                                                                                                                                         | 【交流会】(来訪受入れ)<br>・キングモンクット工科大学(タイ)(5/28 19名)<br>・グランゼコール(フランス)(6/14, 7/4, 7/11, 7/18 80名)                                                                                                                                                                            | 【その他】(自主企画)<br>・第4回東京オリエンテーリング(4/21 45名)<br>・第5回東京オリエンテーリング(10/27 45名)<br>・第1回東工大オリエンテーリング(12/14 13名)<br>・第4回ASCENTアジア理工系学生連携促進プログラム(3/15～3/24 9名うち来訪7名)<br><br>(その他)<br>・米国大学院留学説明会(6/22 123名) |
|                                                                                                                                                                         | <b>平成25(2013)年度・活動実績</b>                                                                                                                                                                                                                                            |                                                                                                                                                                                                 |
|                                                                                                                                                                         | 【交流会】(来訪受入れ)<br>・Leiden大学(オランダ)(4/30, 5/2 36名)<br>・嶺南大学(韓国)(8/16 3名)<br>・カーネギーメロン大学(カタールキャンパス)(3/7 16名)<br>・カレリア大学(フィンランド)(3/28 9名)                                                                                                                                 | 【その他】(自主企画)<br>・第6回東京オリエンテーリング(4/27 47名)<br>・第7回東京オリエンテーリング(11/2 34名)<br>・第5回ASCENTアジア理工系学生連携促進プログラム(3/14～3/23 24名うち来訪14名)                                                                      |
|                                                                                                                                                                         | <b>平成26(2014)年度・活動実績</b>                                                                                                                                                                                                                                            |                                                                                                                                                                                                 |
|                                                                                                                                                                         | 【交流会】(来訪受入れ)<br>・科学技術振興機構さくらサイエンスプラン(中国)(7/28 32名)<br>・カセテート大学附属高校(タイ)(10/1 5名)<br>・マブア工科大学(フィリピン)(12/3 19名)<br>・ジョージア工科大学(アメリカ)(12/22 1名)<br>・KAIST(韓国)(1/7 44名)<br>・チョンナム大学(韓国)(2/4 4名)<br>・香港專業教育学院(香港)(3/30 43名)                                                | 【その他】(自主企画)<br>・第8回東京オリエンテーリング(4/26 49名)<br>・第2回フードパーティー(5/31 15名)<br>・第9回東京オリエンテーリング(10/25 37名)<br>・第6回ASCENTアジア理工系学生連携促進プログラム(3/13～23 40名うち来訪19名)                                             |

出典：学生支援課作成資料

（資料 15－11）学生支援センター組織図



出典：学生支援課作成資料

(資料 15－12) H26 学生支援センター自律支援部門実施チーム名簿

| 平成26年度 学生支援センター自律支援部門 実施チーム名簿                               |                              |                             |
|-------------------------------------------------------------|------------------------------|-----------------------------|
| 学生支援GPIは文科省からの補助期間が平成23年3月で終了し、4月以降は大学の事業として継続発展を期して運営している。 |                              |                             |
| 氏 名                                                         | 所 属                          | 備 考                         |
| コ ア メ ン バ ー                                                 |                              |                             |
| 岡村 哲至                                                       | 大学院総合理工学研究科教授<br>創造エネルギー専攻   | 自律支援部門長/<br>ピアサポート          |
| 岩附 信行                                                       | 大学院理工学研究科(工学系)教授<br>機械物理工学専攻 | 学勢調査                        |
| 齋藤 憲司                                                       | 保健管理センター教授                   | ボランティア/旧:学生支援GP継続プログラム      |
| 篠崎 和夫                                                       | 大学院理工学研究科(工学系)教授<br>材料工学専攻   | 電子掲示板                       |
| 西原 明法                                                       | 大学院社会理工学研究科教授<br>人間行動システム専攻  | SAGA/理工系学生能力発見・<br>開発プロジェクト |
| 長谷川 純                                                       | 大学院総合理工学研究科准教授<br>創造エネルギー専攻  | すすかけ台活動支援                   |
| 山田 恵美子                                                      | 学生支援センター特任准教授                | コーディネーター                    |
| 齋藤 宏文                                                       | 教育学部開発センター特任助教               | 理工系学生能力発見・開発プロジェクト          |
| 事 務 担 当                                                     |                              |                             |
| 青木 彰                                                        | 学生支援課                        | 課長                          |
| 松永 修                                                        | 学生支援課支援企画グループ                | グループ長                       |
| 妹尾 雅俊                                                       | 学生支援課支援企画グループ                |                             |
| 小森 友紀子                                                      | 自律支援部門                       |                             |

出典：学生支援課作成資料

中期計画【16】「博士課程学生，困窮度の高い学生，国内外で開催される競技や国際的な催しに参加する学生等，広い視点で経済的支援を継続的に実施する。」に係る状況

本学では，20 年度より博士後期課程学生の経済的負担を軽減する制度として TRA 制度を開始し，現在も継続実施している。

22 年度に意識調査を実施した結果では，約 6 割の学生にとって TRA 制度が博士課程進学への動機となることや授業料免除，給与型経済支援を望む学生・教員が多いこと，また，全学生を対象とした学勢調査結果でも奨学金・授業料免除の充実を求める意見が多いことも判明した（資料 16－1）。

23 年度以降，前年度の調査結果を踏まえ，東京工業大学基金を財源とした新たな給付奨学金を新設し，毎年，継続的に実施している（資料 16－2）。25 年度以降は，博士課程学生への経済的支援制度実施の効果の分析に基づき，部局の判断により，優秀な学生に支援額を増す等の裁量を与えることとした。

困窮度の高い学生への経済的支援策として，23 年 3 月に発生した東日本大震災を受け，文部科学省の入学料免除や授業料免除の追加措置に加え，追加経費でカバーできない被災学生に対して大学経費で免除枠を拡大して実施するとともに，大学独自の給付奨学金を新設し，延べ 108 名の被災学生に給付した（資料 16－3）。また，授業料等の納付が困難な学生に授業料免除等の経済的支援の実施・奨学金の給付を行った。さらに，東工大基金を財源とした学部学生，修士課程学生を対象とする新たな給付奨学金を新設した（資料 16－2）。24 年度には，寮費，高額医療費の支援策の検討を行い，次年度，入院中の留学生の申請に基づき，寮費の免除を行っている。また，25 年度からは，博士課程進学予定の修士課程 2 年次の学生に「130 周年記念博士進学エンカレッジ奨学金」を支援している（資料 16－2）。

課外活動等の参加者への新たな経済的支援として，東工大 130 周年事業から合成生物学の国際大会である iGEM2011 の参加費用や SAKURA PROJECT 活動費などの援助を実施した。また，東工大基金からもサークルへの寄附を積極的に呼びかけ，基金の一部をサークルへの助成金として使用できることとした。併せて，全国レベルあるいは国際レベルに出場するサークルを対象に毎年，一定額の支援を行っている（資料 16－4，5）。

## （資料 16－1）博士後期課程学生への経済的支援（T R A） 意識調査結果

## 博士後期課程学生への経済的支援（T R A） 意識調査結果

2010.9.14 学生支援課&amp;岡村

## 1. 目的

博士後期課程学生への経済的支援（T R A：平成 20 年度より開始）により、T R A業務に従事した学生及びその指導教員に対し、アンケート形式にて本制度への意識調査を行い、今後の本制度の改善や博士後期課程改革のための基礎資料とする。

## 2. 調査対象、調査方法、調査時期

平成 21 年度に博士後期課程に入学し、T R Aとして業務に従事した博士課程学生 1 5 7 名、及びその指導教員 1 3 0 名とする。平成 22 年 7 月 7 日付けで、添付資料 1、2、3 を文書で依頼し、7 月 30 日を〆切とした。（学生及び指導教員の対象者の内訳は、添付資料 4）

## 3. 従事学生に対する調査結果概要

（カッコ内の数値は昨年の調査結果、下線部は昨年と優位な変化があった事柄）  
学生からの回答数は、157 名のうち 77 名 {49.0%}。（161 名のうち 90 名 {55.9%}）

（調査結果のすべては添付資料 5）

- ・T R A制度を知ったのが、博士後期課程になってからが 50.6% (60.0)、修士課程では 40.3% (34.4)。
- ・T R A制度を知るきっかけは、教員からが 55.8% (66.7)、HP その他からが 42.9% (33.3)。
- ・博士後期課程進学の動機付けになったが 59.8% (48.9)、ならなかったが 33.8% (41.1)。
- ・申請した理由の 89.6% (90.0) は経済状況の改善。
- ・T R A以外にも、36.4% (41.1) が日本学生支援機構奨学金、55.8% (55.6) が TA, RA で経済支援を受けている。
- ・T R A業務について、教員と全く話し合っていない学生が 18.2% (10.0)。
- ・T R A業務が忙しかったが 22.1% (18.9)、学業に支障があったが 13% (8.9)。
- ・支援額は適切であると思うが 52.0% (67.8)、足りないと思うが 40.3% (25.6)。
- ・改善してほしい事項として、支援額が 44.2% (23.3)、事務手続きが 28.6% (28.9)、業務開始時期が 19.5% (34.4)。
- ・T R A以外で期待する経済支援として、授業料免除が 57.1% (44.4)、給付型奨学金が 37.7% (27.8)。

## 自由記述によるおもな意見

- ・一度授業料を納めなければならぬのが、つらい。
- ・学振特別研究員にも給付があってもよい。応募資格の見直し。
- ・他の R Aがあることにより、T R Aの額が半額になった。
- ・給与として支払われると税金がかかる。
- ・業務の内容が人によって差がある。／ほとんど何もやっていない学生と、仕事を頼まれる学生がいることに差別を感じる。
- ・（社会人学生）不況の中、収入も減少しているので、非常に助かっている。
- ・授業料免除のようなかたちがよい。

（以下省略）

出典：学生支援課作成資料

(資料 16-2) 東京工業大学基金奨学金一覧及び採用数

| 名 称<br>(開始時期)                                 | 対 象                                    | 給付額                                    | 平成 26<br>年度採用<br>数 | 所要財源                          |
|-----------------------------------------------|----------------------------------------|----------------------------------------|--------------------|-------------------------------|
| ユニカミルタ奨学金<br>(2011.10 開始)                     | 外国人留学生<br>修士課程(国際大学院コース)<br>成績優秀       | 15 万円/月<br>入学科・授業料<br>標準修業年限           | 0 名                | 496 万円<br>(大口使途特定<br>寄附)      |
| フリストン/東工大<br>奨学金<br>(2011.10 開始)              | 外国人留学生<br>修士課程(国際大学院コース)<br>成績優秀       | 1 年目 82 万円/年<br>2 年目 55 万円/年<br>標準修業年限 | 0 名                | 137 万円<br>(大口使途特定<br>寄附)      |
| 手島精一記念奨<br>学金<br>(2012.4 開始)                  | 国内学生<br>学部2年次<br>成績優秀かつ経済的困窮           | 5 万円/月<br>標準修業年限                       | 3 名                | 540 万円<br>(手島財団より<br>継承した財産)  |
| 青木朗記念奨学<br>金<br>(2012.4 開始)                   | 国内学生<br>修士課程<br>成績優秀かつ経済的困窮            | 5 万円/月<br>標準修業年限                       | 3 名                | 360 万円<br>(大口使途特定<br>寄附)      |
| 草間秀俊記念奨<br>学金<br>(2012.4 開始)                  | 国内学生<br>博士後期課程<br>成績優秀かつ経済的困窮          | 6 万円/月<br>標準修業年限                       | 2 名                | 432 万円<br>(大口使途特定<br>寄附)      |
| 130 周年記念博士<br>進学エンカレッジ<br>奨学金<br>(2012.10 開始) | 修士2年次<br>各専攻1名で、博士課程に<br>進学する者         | 5 万円/月<br>修士修了前6ヶ月<br>間                | 39 名               | 1,320 万円<br>(使途特定寄附<br>及び運用益) |
| Hino Scholarship<br>(2013.10 開始)              | 外国人留学生(タイ国籍)<br>修士課程(国際大学院コース)<br>成績優秀 | 12 万円/月<br>入学科・授業料<br>標準修業年限           | 0 名                | 424 万円<br>(大口使途特定<br>寄附)      |

(設置順)

出典：学生支援課作成資料

(資料 16-3) 被災奨学金年度別人数

(単位：千円)

|                |            | 平成23年度 |        | 平成24年度 |       | 平成25年度 |       | 平成26年度 |       | 平成27年度 |       |
|----------------|------------|--------|--------|--------|-------|--------|-------|--------|-------|--------|-------|
|                | 金額<br>(年間) | 人数     | 金額     | 人数     | 金額    | 人数     | 金額    | 人数     | 金額    | 人数     | 金額    |
| I 種（全壊、原発避難区域） | 600        | 8      | 4,500  | 3      | 1,800 | 4      | 2,400 | 6      | 3,600 | 5      | 3,000 |
| II 種（半壊）       | 480        | 20     | 7,920  | 11     | 5,280 | 8      | 3,840 | 5      | 2,400 | 8      | 3,840 |
| III 種（一部損壊）    | 360        | 12     | 3,960  | 7      | 2,520 | 6      | 2,160 | 4      | 1,440 |        |       |
| IV 種（その他）      | 240        | 1      | 240    | 0      | 0     | 0      | 0     | 0      | 0     |        |       |
|                |            | 41     | 16,620 | 21     | 9,600 | 18     | 8,400 | 15     | 7,440 | 13     | 6,840 |
| 内東工大基金負担額      |            |        | 6,000  |        | 4,800 |        | 4,200 |        | 3,720 |        | 3,720 |

出典：学生支援課作成資料

## （資料 16－4）課外活動援助金申請一覧

| 団体名               | 顧問教員 | 申請者  | 大会名                     | 日時                   | 場所               | 出場者・成績等                        | 支援額(案)(円)     |
|-------------------|------|------|-------------------------|----------------------|------------------|--------------------------------|---------------|
| マイスター             | 井上剛良 | 井上毅哉 | 鳥人間コンテスト<br>2015        | 2015/7/25<br>～7/26   | 滋賀県彦根市           | マイスター・人力プロ<br>ペラ機デスタンス部<br>門4位 | 100,000       |
| 陸上競技部             | 井頭政之 | 永島唯哉 | 第31回日本ジュニア<br>陸上競技選手権大会 | 2015/10/16<br>～10/18 | 静岡県瑞穂公園<br>陸上競技場 | 永島唯哉・110mH準<br>決勝進出            | 21,450        |
| サイクリング部           | 吉岡勇人 | 高橋佑太 | 第46回全日本選手<br>権          | 2015/12/12<br>～12/13 | 福岡県阿珂川町<br>尾体育館  | 予選リーグ・2位                       | 91,499        |
| サイクリング部           | 吉岡勇人 | 高橋佑太 | サイクルサッカーホソ<br>コンオープン    | 2015/8/2             | 香港柴湾体育館          | 予選リーグ・2位                       | 100,000       |
| * 支援額の上限は10万円とする。 |      |      |                         |                      |                  |                                |               |
|                   |      |      |                         |                      |                  |                                | (2016.1.29作成) |

出典：学生支援課作成資料

## （資料 16－5）学生の課外活動への支援について

|                                                                        |  |
|------------------------------------------------------------------------|--|
| 平成 25 年 3 月 27 日 東京工業大学教育推進会議 承認                                       |  |
| <b>学生の課外活動への支援について</b>                                                 |  |
| スポーツ及び文化活動を通して学生の健全な成長を促進するため、東工大基金より課外活動を行う団体・個人に対して次のとおり援助する。        |  |
| 1. 援助の種類                                                               |  |
| 1) 遠征援助                                                                |  |
| 2) 奨励援助                                                                |  |
| 2. 援助の基準                                                               |  |
| 1) 遠征援助                                                                |  |
| ① 地区予選等を経て全国・世界的規模の大会等へ参加するための遠征に係る旅費に<br>対する援助（連名・協会等から全額支給される場合は除く。） |  |
| ・ 団体として参加する場合：10 万円                                                    |  |
| ・ 個人として参加する場合：3 万円                                                     |  |
| ② 上記大会への参加費及び参加のための事務費（用具運搬費等）に対する援助                                   |  |
| ・ 必要経費（上限 10 万円）                                                       |  |
| 2) 奨励援助                                                                |  |
| ① 体育系の課外活動における大会へ参加し、一定の成績を収めた団体                                       |  |
| ② 文化系の課外活動における大会・コンクールへ参加し、一定の成績を収めた団体                                 |  |
| ③ 活動が顕著であり、今後の活躍が期待できる団体                                               |  |
| ・ 団体：5 万円（10 団体 上限 50 万円）                                              |  |
| 3. 選考等について                                                             |  |
| 1) 遠征援助については、課外活動団体等からの申請に基づき、学生生活協議会において審議決定する。                       |  |
| 2) 奨励費援助については、前年度の活動実績に基づき、学生生活協議会において審議決定する。                          |  |

出典：学生支援課作成資料

中期計画【17】「留学生を含め、本学学生に対する宿舎を整備・充実する。」に係る状況

22年度に、全学的組織である21世紀の個性輝く東京工業大学検討委員会の下に、部会を新たに設置した。この部会では、教職員に対しアンケートを実施するなど、宿舎の整備・充実について検討を行い、24年度に部会報告を取りまとめた。

報告を受け、新たに委員会を設置し、本学の寮及び宿舎整備について取組を行った（資料17-1）。

22年度に部会において、すずかけ台地区における留学生寄宿舍等の整備について検討の結果、すずかけ台ハウスの一部（南つくし野ハウス）は取得するに値する妥当な物件であるとの答申を行った。その後、整備計画及び懸案事項について検討を行い、宿舎整備を進め、24年4月に南つくし野ハウスを設置した。

24年度には、委員会において、本学の寮及び宿舎整備について、年度の改修計画に基づき、職員宿舎である大岡山宿舎の一部を、モデルケースとして学生寮に改修工事を行うこととした。

26年度には、民間の宿舎である梶ヶ谷国際寮との提携を行い、日本人及び留学生の受入可能人数の増加に取組んだ。

また、27年9月に賃貸借契約老朽化により契約が終了した洗足池国際交流ハウスは、当該建物所有者と覚書を締結し、新しく建て直した新築物件を東工大学生寮として、新たに賃貸借契約を交わす準備を進めた。

（資料17-1）学生寮に係る整備状況

17-1 学生寮に係る整備状況（根拠資料）

平成23年度  
増設なし

平成24年度  
南つくし野ハウス（すずかけ台ハウス（仮称）平成23年7月時点）の設置  
入居対象：学生、研究員、その他責任者が適当と認める者  
定 員：36名（1ユニット（3名）×12ユニット）

平成25年度  
増設なし

平成26年度  
すずかけ台ハウスの増設  
定 員：15ユニット（45室）から18ユニット（54室）へ増設（3ユニット（9名）増設）

東京工業大学梶ヶ谷国際寮の設置※  
入居対象：日本人学生及び外国人留学生  
定 員：60名（内訳：男子12名、女子18名）

平成27年度  
増設なし

※東京工業大学梶ヶ谷国際寮は、他の学生寮と異なり、本学が所有しないし借上げている物件ではなく、（株）共立メンテナンスが所有・管理運営する学生寮に「東工大」の名を付した提携寮である。本学の経費負担は一切なく、（株）共立メンテナンスが企業活動の一環として独自に運営を行っている。

出典：学生支援課作成資料

中期計画【18】「ハラスメント・メンタルヘルス対策を強化するための相談体制を充実するとともに、学生・教職員への啓発活動を継続的に実施する。」に係る状況

相談体制の充実、啓発活動の実施について、23 年度に学生支援センターに係る体制整備について検討した結果、全学的な相談窓口の中核となるカウンセリング・ハラスメント対策企画委員会（以下委員会）（資料 15－7，P172）を学生支援センター相談部門に設置し、全学での現状の把握・分析を行い、検討結果を各相談窓口での実践と連携、体制整備に活かしている（資料 15－11，P213）。

相談体制の充実に向けては、委員会の下に置く WG で各相談窓口における体制や相談の特性の調査・分析を行い、また、委員会において、望ましいサポートシステムや施策について整理・提言を行うとともに、各相談窓口の活動実績の収集や課題分析を行った。

このことにより、各相談窓口が協力して広報や啓発に努め、相互に紹介・連携を展開してきた結果、相談体制の中でも相対的に比重の大きいカウンセリング、メンタルヘルス、キャリア相談、電話相談デスクについて、着実に相談件数の増加が見受けられた（資料 18－1，2）。

ハラスメント対策については、学勢調査に基づくハラスメントの現状を各研究科・専攻等に周知し、対応策の情報収集を行った。メンタルヘルス対策に関しては、監事監査報告書の回答となる「自殺防止対策の基本方針と具体的施策」をまとめ、ハイリスク群の特徴と総合的な対策について提言を行った（資料 18－3，4）。これをもとに保健管理センターと学生支援センターが協力して「教職員のための学生サポート・ガイドブック：新訂版」の分冊第 1 号「自殺防止のために／学生支援の基本から」を発行・配布した（資料 18－5）。

学生・教職員への啓発活動では、全学的に参加を呼びかけているカウンセリング懇談会、新採用教員セミナー／新採用職員研修／部局長研修等の各層のニーズに適合した研修、各部局 FD での講演依頼に応じて実施される研修、相談員役割を担う教職員への研修等、多様な対象に対して多彩な啓発活動を展開しており、毎年、内容や方法に工夫を加えて一層の充実を図っている。また、継続的实施については、委員会において年度ごとに実施状況を集約し、課題と改善策について検討を行っている（資料 18－6～9）。

26 年度からは、学生への啓発プログラムの充実を図って、新入生オリエンテーション等に加え、公認サークル代表者研修会、大学院新入留学生オリエンテーション、学部新入留学生オリエンテーションにおいてもガイダンスを新たに開始した。

（資料 18－1）学生支援関係窓口一覧（大岡山）

| <b>学生支援関係窓口一覧（大岡山）</b><br><b>Guidance of Student Support in Okayama</b>                       |                                                                                                          |
|-----------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 受付時間 8:30～17:15（土日・祝日・年末年始を除く） ただし、下記において個別受付時間が記載されている場合を除く                                  |                                                                                                          |
| 経済支援 Financial Support                                                                        |                                                                                                          |
| 授業料免除 Tuition Exemption<br>入学料免除 Entrance Fee Exemption<br>奨学金 Scholarship                    | ■担当 学生支援課経済支援グループ ■ 03-5734-3014<br>■E-mail gak.kei@jim.titech.ac.jp ■場所 西8号館1階                          |
| 各種相談 Consultations                                                                            |                                                                                                          |
| 学生相談室 Student Guidance Room                                                                   | ■ 03-5734-2060 ■E-mail gakusei.soudan1@jim.titech.ac.jp<br>■場所 本館地下1階 B-44号室 ■受付時間 10:00～17:00           |
| 診療・相談 About Medical Care                                                                      | ■ 03-5734-2057 03-5734-2065 ■場所 保健管理センター                                                                 |
| カウンセラー相談 By Counselors                                                                        | ■ 03-5734-2057 03-5734-2065 ■場所 保健管理センター                                                                 |
| 電話相談デスク By Phone                                                                              | ■ 03-5734-2134 ■E-mail denwa.soudan@jim.titech.ac.jp                                                     |
| キャリア支援 Career Support                                                                         |                                                                                                          |
| キャリアアドバイス Career Advice                                                                       | ■担当 学生支援課支援企画グループ<br>■ 03-5734-3011, 03-5734-3012<br>■E-mail career2@jim.titech.ac.jp ■場所 東工大蔵前会館（TTF）3階 |
| 就職資料室 Career Information Room                                                                 | ■場所 東工大蔵前会館（TTF）3階 ■受付時間 10:15～17:15                                                                     |
| キャンパスライフ支援 Campus Life Support                                                                |                                                                                                          |
| 保険 Insurance<br>サークル Club Activity<br>体育施設 Sports Facilities                                  | ■担当 学生支援課生活支援グループ ■ 03-5734-3015<br>■E-mail gak.sei@jim.titech.ac.jp ■場所 西8号館1階                          |
| アルバイト Part-time Job                                                                           | ■担当 学生支援課支援企画グループ ■ 03-5734-3011, 03-5734-3012<br>■E-mail gak.sie@jim.titech.ac.jp ■場所 西8号館1階            |
| 家庭教師 Private Teacher                                                                          | ■ 03-5734-2060 ■E-mail gakusei.soudan1@jim.titech.ac.jp<br>■場所 本館地下1階 B-44号室 ■受付時間 10:00～17:00           |
| 学生寮 Dormitories                                                                               |                                                                                                          |
| 松風学舎・松風留学生会館・<br>梅が丘留学生会館・駒場留学生会館・<br>Nagatsuta House・Aobadai House・<br>大岡山国際交流ハウス            | ■担当 学生支援課生活支援グループ ■ 03-5734-3013, 03-5734-7648<br>■E-mail gak.sei@jim.titech.ac.jp ■場所 西8号館1階            |
| 留学生支援 Support for International Students                                                      |                                                                                                          |
| 国費留学生 MEXT Scholarship<br>在留期限更新 Extension of Period of Stay<br>VISA コンサルティング Visa Consulting | ■担当 学生支援課生活支援グループ ■ 03-5734-3013, 03-5734-3015<br>■E-mail gak.sei@jim.titech.ac.jp ■西8号館1階               |

出典：学生支援課作成資料

## （資料 18-2）学生相談活動・体制に関する現状と課題

2015.1.19.

平成 25～26 年度における学生相談活動・体制に関する  
現状及び充実に向けての課題分析

## 学生支援センター相談部門：カウンセリング・ハラスメント対策企画委員会

## &lt;前提&gt;

＊相談活動：学生の個別ニーズに応える＝学生支援の土台／大学教育・環境を映す鏡

＊相談の 3 本柱（ガイダンス・カウンセリング・メンタルヘルス）を出発点に &lt;＊註&gt;

⇒ 多彩な相談窓口の設置とネットワーク化（図 1 参照）

（以下、「サポート窓口における現状」、「課題の整理」、「対策案」の順にまとめる。）

&lt;＊註：順に[教職員による学生相談室での相談],[心理カウンセラーによる相談],[精神科医による相談]をさす&gt;

## 1. サポート窓口における現状

## 1-1 ガイダンス（教員が対応）

学生相談室

相談件数 622 [大：228、す：394]（H25年度）（延べ人数）

相談件数 454 [大：200、す：254]（H26年度）（12月現在延べ人数）

- ① 室長、副室長に相談が集中しがち。
- ② 相談員の資質と研修に関する課題（選出プロセス／適切な対応スキルの習得）
- ③ 受付&インテーク機能の重要性（連携の出発点：学内に通じた受付事務の方）を考慮して。  
⇒ 全国的に見ても機能している（教職員にとっても、支援意識を高める貴重な機会）  
⇒ 相談システム全体の総合窓口としても機能 “迷った場合はまず学生相談室へ”

## 1-2 カウンセリング（心理カウンセラーが対応）

保健管理センター

相談件数 4,240 [大：3,381、す：859]（H25年度）

3,384 [大：2,792、す：592]（H26年度4月～12月）

- ① 量的課題：全国平均を大幅に上回る担当件数：専任1名＋准専任2名（特任教授&講師）＋非常勤5名
- ② 質的課題：困難事例（事件性／引きこもり系／自殺関連）ゆえの長期化・深刻化、ハラスメント相談への関わり（危機管理、責任体制、心理的負担～非常勤依存率が高い中での）
- ③ 運営上の課題：専任1名が学生支援全体でも実質唯一ゆえ、業務負担が過剰、非常勤と相互連携をとる時間的余裕がない。発達障害的な学生の支援、留学生への英語対応も課題に。  
⇒ 量的・質的にはさらに厳しい状況。将来的には、准専任が完全な専任として雇用されることが必須。（とくにすずかけ台）。また、平成24年12月より附属科学技術高校（田町）におけるスクールカウンセリングも開始。

（資料 18－3）カウンセリング・ハラスメント対策企画委員会策定 自殺防止要約

2014.1.30.

『自殺防止対策の基本方針と具体的施策（要約）』

学生支援センタ・相談部門：カウンセリング・ハラスメント対策企画委員会

＜基本方針＞

- ・ 監事報告を受けて：最も避けたい案件、限りなくゼロへ（どこでも起きうること（問責ではなく））
- ・ 学生支援の根幹：学生たちの育ちと学びを支える／教育・研究環境を点検・整備しつつ  
⇒ 持続的かつ多様な施策のコンディショニングから（決定的な単一の処方箋はない）

I. 現状分析

- 1) 全国的な動向 ～ 20才代・学生層の自殺率増加 ← 全世代では漸く減少傾向（3万人を切る）
- 2) 本学の傾向 ～ 2年続けて5～6名生じる場合が ← かつては、数名/年の後は1～2名/年
  - ・ 学部生（1～3年）が過半の年も ← 圧倒的に院生（修1・2,博3）&4年生
  - ～ハイリスク群＝ a) 過年度生（約半数）、b) 休学・復学した学生
  - c) 孤立学生（学部生/精神疾患も）、d) 将来不安（院生＋4年）、
  - e) 身近に自殺案件
  - ・ 時期的には、3月～5月、8月、10月、12月（～2月）に多い
  - ～ハイリスク期＝ a) 環境変化の時期、b) 学業・論文が押し迫る時期
- 3) 教育改革への留意 ～ 未知・変化への不安、プライドの傷つき（ex. 以前の改革時に連続発生）

II. 情報と意識の共有

＜課題＞ ＊最重要かつ危急のテーマでありながら、一部の教職員しか現状を把握していない。

【施策①】上層部（評議会／部局長会議等）で統計結果を公表

- ・ 教育機関として把握してしかるべき重要情報であり“そっとしておくこと”は適切でない
- ⇒ 年度始めに1年分を、危急の事案については適宜

【施策②】相談ネットワークにおける情報共有

- ・ 情報集約のルートを確認（学生支援課長&主任 Co・主任 Dr） ← 学科・専攻ごとにまちまち
- ・ 委員会で全体傾向と事案ごとの経緯と対応経験をファイル化・集積（事故死・病死とされた事案も）
- ⇒ ①と②で必要に応じて意見交換、全学的なメッセージを発信することも検討（ex. 連続発生時）

III. 危機対応／事後対応

＜課題＞ ＊既に一定水準の対応がなされているが、速やかに動揺・影響の広がりを含める措置は重要

【施策③】対応の基本方針とチャートの明確化

- ・ [相談窓口] 自殺念慮・自殺企図を把握した場合、守秘義務を越えた対応の確認
- ・ [事務窓口] 自殺関連情報は、すみやかに学生支援課&本委員会へ（各相談窓口で待機）
- ・ [事態把握のステーション] 本委員会（主任 Co・主任 Dr・支援課長）中心、対応方針と上層部報告

【施策④】ポストベンションの充実化

- ・ 心理ケアの一環（調査ではなく）として本委員会で事情を慎重に収集、聴取してファイル化、
- ← 指導教員や周囲の学生は最大のハイリスク群、親・家族へのフォロー、建物の安全チェック

（以下省略）

（資料 18－4）カウンセリング・ハラスメント対策企画委員会策定 自殺防止説明版

**『自殺防止対策の基本方針と具体的施策』  
＜説明版＞**

学生支援センター相談部門  
カウンセリング・ハラスメント対策企画委員会

（以下省略）

出典：学生支援課作成資料

（資料 18－5）教職員のための『学生サポート・ガイドブック』

教職員のための

**『学生サポート・ガイドブック新訂版』**

**【分冊第 1 号】**

テーマ 自殺防止のために / 学生支援の基本から

作成：東京工業大学 保健管理センター

協力：東京工業大学 学生支援センター相談部門 カウ  
ンセリング・ハラスメント対策企画委員会

（以下省略）

出典：学生支援課作成資料

## (資料 18－ 6) 教職員研修の実施状況（平成 23 年度）

表1 学生支援に係る教職員研修の実施状況(平成23年度)

| 名称                                                                                                             | タイトル                                                   | 主催             | 開催日                          | 時間      | 講師                                      | 参加人数    | 内容(備考)                            |
|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------|----------------|------------------------------|---------|-----------------------------------------|---------|-----------------------------------|
| 《全学的に参加を呼びかけているもの》                                                                                             |                                                        |                |                              |         |                                         |         |                                   |
| ・第58回カウンセリング懇談会                                                                                                | カウンセリング活動状況、学生と大学の諸相(大岡山)                              | 保健／学支セ         | 7月14日                        | 2時間     | カウンセラー／医師                               | 約40名    | 相談現場から報告／意見交換(震災の影響、自殺問題等)        |
| ・第59回カウンセリング懇談会                                                                                                | (同上)                                                   | (すずかけ台) 保健／学支セ | 3月予定                         | 2時間     | カウンセラー／医師                               | (約30名)  | (同上)                              |
| (・ハラスメント防止講習会)                                                                                                 | (ハラスメントの理解と対策(制度、教育的な学生対応など) ハラスメント対応委員会)              |                | 延期                           | 1日      | 副学長／相談室長／カウンセラー等                        | 約300名x2 | 様々な立場から報告／意見交換(大岡山、すずかけ台、双方で予定)   |
| 《全学FDの中で実施されたもの》                                                                                               |                                                        |                |                              |         |                                         |         |                                   |
| ・平成23年度新採用教員セミナー(FD研)                                                                                          | ・東工大生の心理と実態に基づいた学生対応と研究室運営 教育推進室                       |                | 4月5日                         | 40分     | カウンセラー                                  | 約60名    | 教員としての関わり方(同日に大学院／キャリア／国際化の話題提供も) |
| ・平成23年度学部・大学院FD研修                                                                                              | ・学生、ボススタッフ支援等の各種取組から見た東工大の現状 教育推進室                     |                | 11月22日                       | 40分＋懇談会 | 学生キャリアアドバイザー／学支セ等                       | 約80名    | 話題提供4題／ボススタッフセッション(キャリア支援、アジア人材等) |
| ・同上                                                                                                            | ・学生のいま／教職員のこれから<br>～こころの成長とハラスメント防止～                   | 同上             | 11月23日                       | 70分     | カウンセラー                                  | 約80名    | カウンセリングに基づく学生増援と関わり方／ハラスメント問題の留意点 |
| 《人事的な側面からの研修》                                                                                                  |                                                        |                |                              |         |                                         |         |                                   |
| ・平成23年度新採用教員セミナー                                                                                               | ・ハラスメントの防止について                                         | 人事課            | 4月5日                         | 30分     | カウンセラー                                  | 数十名     | 教育研究上のハラスメント問題の現状と注意点など           |
| ・平成23年度新採用職員研修                                                                                                 | ・健康管理について／ハラスメント防止について                                 | 人事課            | 4月11日、6月3日                   | 90分     | カウンセラー                                  | 数名ずつ    | 職場内のハラスメント／学生対応の工夫など              |
| ・平成23年度グループ長研修                                                                                                 | ・職場のメンタルヘルス<br>～自分だけがチームを壊さず～                          | 人事課            | 9月27日                        | 60分     | カウンセラー                                  | 数名      | 職員自身の心身健康／職場環境への留意とハラスメント防止       |
| ・平成23年度中間管理職研修                                                                                                 | ・職場で起きやすいメンタルヘルスの問題とそれへの対応                             | 人事課            | 12月8日                        | 60分     | カウンセラー                                  | 数十名     | 職場環境とハラスメント防止および介入など(東京海洋大学と合同)   |
| 《各部局のFDとして実施されたもの》                                                                                             |                                                        |                |                              |         |                                         |         |                                   |
| ・総合理工学研究科教員FD研修                                                                                                | ・学生相談室相談状況について<br>～学生相談室からのお願い～                        | 総理工教援会         | 5月26日                        | 15分     | 学生相談室長                                  | 数十名     | 相談状況や学習調査等をもとに、教育研究環境の点検          |
| ・生命理工学研究科教員FD研修                                                                                                | 同上                                                     | 生命理工教援会        | 5月26日                        | 15分     | 学生相談室長                                  | 数十名     | 同上                                |
| ・資源化学研究所安全衛生講習会                                                                                                | ・メンタルヘルスケアについて                                         | 資源化学研究科        | 10月19日                       | 90分     | 医師                                      | 数十名     | メンタルヘルスの基本知識とストレスチェック結果からみた本学の状況  |
| ・生命理工学研究科教員FD研修                                                                                                | ・ハラスメント問題の実態と対応の留意点                                    | 生命理工教援会        | 11月16日                       | 60分     | カウンセラー／医師                               | 数十名     | キャンパスや研究環境の特性に鑑みた現状紹介と留意点の提示      |
| 《相談員役割を担う教職員に対する研修》                                                                                            |                                                        |                |                              |         |                                         |         |                                   |
| ・第1回学生相談室委員会                                                                                                   | ・相談室接手の手順と留意点                                          | 学生相談室          | 4月26日                        | 約30分    | カウンセラー                                  | 約20名    | 日常の教育指導との相違／学内サポート体制、等            |
| ・学生相談室相談員情報交換会(勉強会)                                                                                            | (相談事例に基づく相互研修／時にレクチャー)                                 | 学生相談室          | (大)6/14、11/9<br>(す)5/30、10/3 | 約60分    | 相談室長・相談員／カウンセラー／医師                      | 10名前後   | 対応の工夫など意見交換が中心／発達障害者なども           |
| ・ハラスメント相談員連絡会議                                                                                                 | ・ハラスメント相談への対応について                                      | 人事課            | 12月20日                       | 約30分    | カウンセラー                                  | 約20名    | ハラスメント相談の留意点／事例集をもとに              |
| 《全国的な研修会への関わり》                                                                                                 |                                                        |                |                              |         |                                         |         |                                   |
| ・東京地区メンタルヘルス研究協議会                                                                                              | ・地域テーマ 時代のニーズに応えるメンタルヘルス支援をめざして 支援機構／医師6月17日～18日 計約8時間 | 医師／カウンセラー      |                              |         | 2名(80名中、講演(危機管理／発達障害)、分科会(学生対応、ハラスメント等) |         |                                   |
| (・その他、全国学生相談研修会(11月28日～30日)、学生相談インテーカーセミナー(12月16日)、スチューデントコンサルタント基礎研修講座等でも、カウンセラーも医師が講師・企画運営など／ただし本学からの参加者はなし) |                                                        |                |                              |         |                                         |         |                                   |

出典：学生支援課作成資料

## (資料 18－ 7) 学生支援関係教職員研修一覧表（平成 24 年度）

| 名称                                                                                                             | タイトル                                                   | 主催             | 開催日                          | 時間      | 講師                                      | 参加人数    | 内容(備考)                            |
|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------|----------------|------------------------------|---------|-----------------------------------------|---------|-----------------------------------|
| 《全学的に参加を呼びかけているもの》                                                                                             |                                                        |                |                              |         |                                         |         |                                   |
| ・第58回カウンセリング懇談会                                                                                                | カウンセリング活動状況、学生と大学の諸相(大岡山)                              | 保健／学支セ         | 7月14日                        | 2時間     | カウンセラー／医師                               | 約40名    | 相談現場から報告／意見交換(震災の影響、自殺問題等)        |
| ・第59回カウンセリング懇談会                                                                                                | (同上)                                                   | (すずかけ台) 保健／学支セ | 3月予定                         | 2時間     | カウンセラー／医師                               | (約30名)  | (同上)                              |
| (・ハラスメント防止講習会)                                                                                                 | (ハラスメントの理解と対策(制度、教育的な学生対応など) ハラスメント対応委員会)              |                | 延期                           | 1日      | 副学長／相談室長／カウンセラー等                        | 約300名x2 | 様々な立場から報告／意見交換(大岡山、すずかけ台、双方で予定)   |
| 《全学的に参加を呼びかけているもの》                                                                                             |                                                        |                |                              |         |                                         |         |                                   |
| ・平成23年度新採用教員セミナー(FD研)                                                                                          | ・東工大生の心理と実態に基づいた学生対応と研究室運営 教育推進室                       |                | 4月5日                         | 40分     | カウンセラー                                  | 約60名    | 教員としての関わり方(同日に大学院／キャリア／国際化の話題提供も) |
| ・平成23年度学部・大学院FD研修                                                                                              | ・学生、ボススタッフ支援等の各種取組から見た東工大の現状 教育推進室                     |                | 11月22日                       | 40分＋懇談会 | 学生キャリアアドバイザー／学支セ等                       | 約80名    | 話題提供4題／ボススタッフセッション(キャリア支援、アジア人材等) |
| ・同上                                                                                                            | ・学生のいま／教職員のこれから<br>～こころの成長とハラスメント防止～                   | 同上             | 11月23日                       | 70分     | カウンセラー                                  | 約80名    | カウンセリングに基づく学生増援と関わり方／ハラスメント問題の留意点 |
| 《人事的な側面からの研修》                                                                                                  |                                                        |                |                              |         |                                         |         |                                   |
| ・平成23年度新採用教員セミナー                                                                                               | ・ハラスメントの防止について                                         | 人事課            | 4月5日                         | 30分     | カウンセラー                                  | 数十名     | 教育研究上のハラスメント問題の現状と注意点など           |
| ・平成23年度新採用職員研修                                                                                                 | ・健康管理について／ハラスメント防止について                                 | 人事課            | 4月11日、6月3日                   | 90分     | カウンセラー                                  | 数名ずつ    | 職場内のハラスメント／学生対応の工夫など              |
| ・平成23年度グループ長研修                                                                                                 | ・職場のメンタルヘルス<br>～自分だけがチームを壊さず～                          | 人事課            | 9月27日                        | 60分     | カウンセラー                                  | 数名      | 職員自身の心身健康／職場環境への留意とハラスメント防止       |
| ・平成23年度中間管理職研修                                                                                                 | ・職場で起きやすいメンタルヘルスの問題とそれへの対応                             | 人事課            | 12月8日                        | 60分     | カウンセラー                                  | 数十名     | 職場環境とハラスメント防止および介入など(東京海洋大学と合同)   |
| 《各部局のFDとして実施されたもの》                                                                                             |                                                        |                |                              |         |                                         |         |                                   |
| ・総合理工学研究科教員FD研修                                                                                                | ・学生相談室相談状況について<br>～学生相談室からのお願い～                        | 総理工教援会         | 5月26日                        | 15分     | 学生相談室長                                  | 数十名     | 相談状況や学習調査等をもとに、教育研究環境の点検          |
| ・生命理工学研究科教員FD研修                                                                                                | 同上                                                     | 生命理工教援会        | 5月26日                        | 15分     | 学生相談室長                                  | 数十名     | 同上                                |
| ・資源化学研究所安全衛生講習会                                                                                                | ・メンタルヘルスケアについて                                         | 資源化学研究科        | 10月19日                       | 90分     | 医師                                      | 数十名     | メンタルヘルスの基本知識とストレスチェック結果からみた本学の状況  |
| ・生命理工学研究科教員FD研修                                                                                                | ・ハラスメント問題の実態と対応の留意点                                    | 生命理工教援会        | 11月16日                       | 60分     | カウンセラー／医師                               | 数十名     | キャンパスや研究環境の特性に鑑みた現状紹介と留意点の提示      |
| 《相談員役割を担う教職員に対する研修》                                                                                            |                                                        |                |                              |         |                                         |         |                                   |
| ・第1回学生相談室委員会                                                                                                   | ・相談室接手の手順と留意点                                          | 学生相談室          | 4月26日                        | 約30分    | カウンセラー                                  | 約20名    | 日常の教育指導との相違／学内サポート体制、等            |
| ・学生相談室相談員情報交換会(勉強会)                                                                                            | (相談事例に基づく相互研修／時にレクチャー)                                 | 学生相談室          | (大)6/14、11/9<br>(す)5/30、10/3 | 約60分    | 相談室長・相談員／カウンセラー／医師                      | 10名前後   | 対応の工夫など意見交換が中心／発達障害者なども           |
| ・ハラスメント相談員連絡会議                                                                                                 | ・ハラスメント相談への対応について                                      | 人事課            | 12月20日                       | 約30分    | カウンセラー                                  | 約20名    | ハラスメント相談の留意点／事例集をもとに              |
| 《全国的な研修会への関わり》                                                                                                 |                                                        |                |                              |         |                                         |         |                                   |
| ・東京地区メンタルヘルス研究協議会                                                                                              | ・地域テーマ 時代のニーズに応えるメンタルヘルス支援をめざして 支援機構／医師6月17日～18日 計約8時間 | 医師／カウンセラー      |                              |         | 2名(80名中、講演(危機管理／発達障害)、分科会(学生対応、ハラスメント等) |         |                                   |
| (・その他、全国学生相談研修会(11月28日～30日)、学生相談インテーカーセミナー(12月16日)、スチューデントコンサルタント基礎研修講座等でも、カウンセラーも医師が講師・企画運営など／ただし本学からの参加者はなし) |                                                        |                |                              |         |                                         |         |                                   |

出典：学生支援課作成資料

[illegible]

(資料 18-9) 啓発活動提言 (Co H-WG 平 24 年度版)

学生支援を発展させるためには、学生への直接的な対応を質的／量的に充実させていくとともに、広く大学構成員に対して、その意義と留意点を伝えていくことが重要である。

本稿では、平成24年度の学生支援に係る啓発活動の実態を見渡すとともに、相談活動から何える諸課題（※）を検討した結果も加味して、現在行っている啓発活動に対しての改善策・見直し案を提示する。

※註：学生支援センター連委員会にて報告予定

1. 学生支援に係る研修の準必修化：いつもの増強  
＝全学FDでの位置づけ／各部局で年1回以上／新入教員に基礎必須＝
2. 出席率の向上：専攻ごとの開催も要検討  
＝半ば義務化（出席確認）／喫緊の課題に関して（ハラスメント等）＝
3. 研修体制の整備・確立に向けて  
＝教育推進室⇔学生支援セ／学ぶべき全体像／講師の多様性／教材（DVD等）

(以下省略)

179

中期計画【19】「学勢調査の内容及び実施体制を充実し、学生の意見を大学運営に反映する。」に係る状況

学勢調査の実施のためWGを置き、学生支援課の協力の下、学生スタッフが主導となって調査を実施する運営体制を構築した。25年度からは、WGの業務の明確化のため、学生支援センター自律支援部門の下に置くこととし、22、24、26年度と隔年で調査を実施した。調査は、学生の有志が質問項目の検討、調査結果の集計・分析を行い、学生のニーズの動向等について特に重要と思われる項目について提言書としてまとめ、提言書を学長に直接手渡した。WGの教職員は、学生スタッフに対して適宜アドバイスを行った（資料19－1）。

さらに、実施体制の充実として、学生モニター制度（仮称）の導入を学勢調査2010の提言に盛り込み、28年度から実施すべく準備を行っている。学生モニターとは、各学科・専攻から抽出された複数名の学生達によって構成されるグループで、①調査の結果を踏まえた大学の取組みを、学科・専攻の学生に伝達する、②学生側の意見を集める、などの役割を持つ（資料19－2）。

調査・提言内容については、学勢調査2010までの調査内容をベースに、学勢調査2012では東日本大震災を受けて防災関連事項について、学勢調査2014では教育改革に関連する事項について新たに盛り込み、大学の情勢に対応した内容となるよう検討がされている（資料19－3）。

23、25、27年度には、それぞれの前年度に行った調査の提言を受け、学生の意見を大学運営に反映すべく対応を行い、その対応内容は、ホームページに掲載している（資料19－4）。

## （資料 19－1）学勢調査提言書



# 学勢調査

学生支援センター自律支援部門室

**学勢調査について：**

「東工大をこうしたい！あれがやりたい！でも・・・」「もう少し、こうなってくれればいいのに・・・」学生の『声』を表現し、実現する『形』へと学生自らがつなげる場、それがこの『学勢調査』です。

教育改善や施設づくりに学生の意見を取り入れ、本学をより良くしてゆくために、『学勢調査』と名付けた全学生対象の大規模なアンケート調査を平成16年度から開始しました。「勢」という漢字には「ありさま」「かたむき」そして「さかんな力」という意味があり、学生の状況＝「ありさま」を見きわめ、学生の意見や希望＝「かたむき」を受けとめることで、学生たち自身の「さかんな力」がよりのびやかに開花するようにとの願いをこめて実施しています。

この調査のユニークな点は、調査結果の集計、解析、提案を、公募に応じたサポーター学生が主導で実施していることです。学生の視点でアンケート結果を読み解き、建設的な提案がおこなわれています。膨大なアンケート結果や提案等は学長を中心とする役員会でも紹介され、議論がなされています。

学生からの意見や提案とアンケート結果は大学にフィードバックされ、各部署でできる限りの対応に取り組んでいます。このHPでは、大学がおこなった対応を順次開示します。提案の中には、慎重な検討を要するもの、大きな予算を伴うものなどもあり、対応するには時間がかかるものもあります。

本学はもとより、全国でも例を見ないこの試みをたしかな成果に結び付けてゆくために、今後も学勢調査を継続してゆきます。

学勢調査2016 WG主査 沖野晃俊

## 学勢調査 2014

- 提言書を見る ([PDF版\(4MB\)](#))



学勢調査2014  
Student Survey 2014



2015年3月  
学勢調査スタッフ一同

## 学勢調査 2012

- 提言書を見る ([PDF版\(8MB\)](#))
  - [1.概要](#)
  - [2.重要な提言](#)
  - [3.サービス](#)
  - [4.施設](#)
  - [5.学習](#)
  - [6.ハラスメント](#)
  - [7.図書館](#)
  - [8.生協](#)
  - [9.防災](#)
  - [10.調査関連](#)
  - [11.調査資料集](#)
  - [アンケート項目](#)
  - [WGメンバー](#)
- 大学の対応 new!



学勢調査2012提言書

2013年3月  
学勢調査スタッフ一同

## 学勢調査 2010

- 提言書を見る ([PDF版\(4MB\)](#))
- [調査結果を見る](#)
- English  
([Abstract/University's Response](#))
- 大学の対応
- [アンケート項目](#)
- [WGメンバー](#)



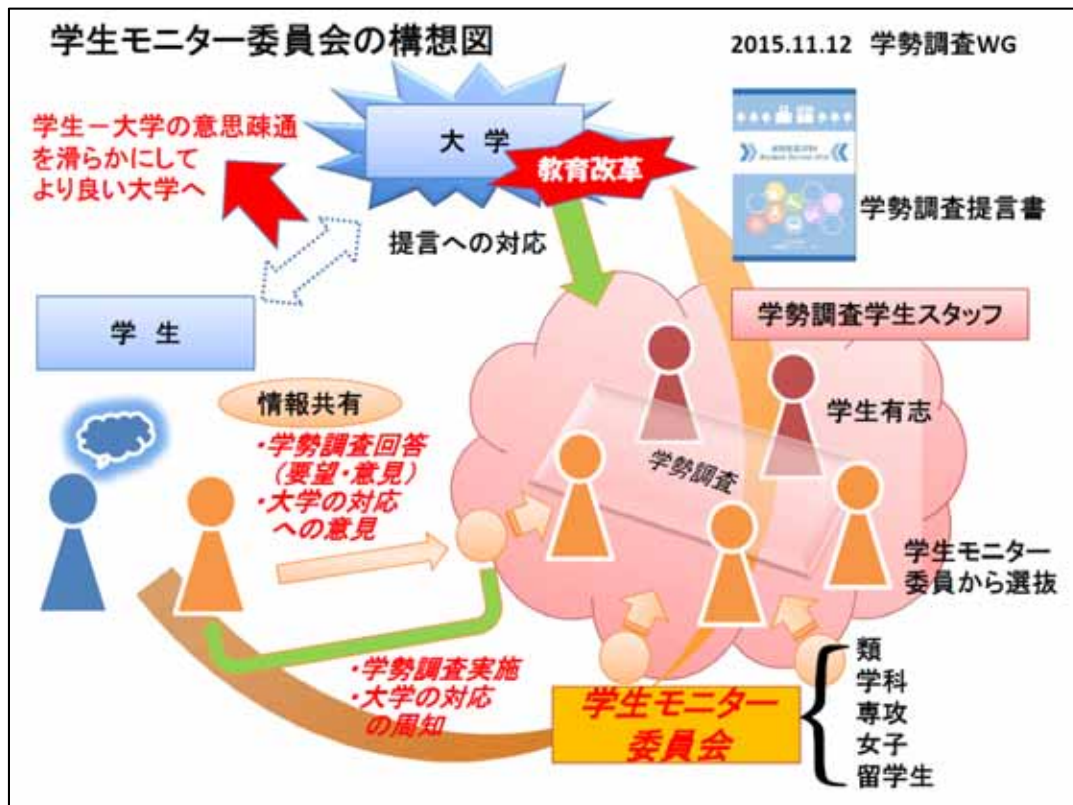
学勢調査 2010 提言書

2011年3月  
学勢調査スタッフ一同

出典：学生支援センター自立支援部門ホームページ

<http://www.sicngp.titech.ac.jp/gakuseichousa/>

（資料 19－2）学生モニター制度



出典：学勢調査WG作成資料

（資料 19－3）提言内容（学生調査 2014 抜粋）

## 2.1. 提言概要・提言要約

## 2. 全学を通して重要な提言

## 2.1. 提言概要・提言要約

2016 年 4 月から始まる教育改革に向け、本学は大きく変わりつつあります。教育改革についての検討は2012年10月の三島学長就任直後から始まりました。その議論は、三島学長を中心とした大学改革推進本部を母体に行われており、学生の目線からも考えられている事が多く見受けられました。しかし、理想の教育へより近づかせるためには、学生の状況・価値観を照らし合わせることは必要不可欠ではないでしょうか。学生も本学を構成する重要な一員であり、本学勢調査にて得られたデータをもとに、教育改革について考える必要があると考えられます。そこで本章では、教育改革および学生の本学への帰属意識について提言します。

本提言書の作成過程を簡略にまとめると、以下の図 2.1.1 のようになります。学勢調査の調査項目は、選択式質問と自由記述式質問の 2 種類があります。選択式質問結果から、学生の実態がわかり、自由記述式質問結果から、学生の意見がわかります。その学生の意見をまとめ、問題点を提起した上で仮説を作成します。その仮説を論理基盤として、調査結果を加味して、提起された問題点に対する解決策（理想像）を提案します。その解決策が真に問題解決可能かどうか、様々な情報を収集しつつ学勢調査スタッフ同士や、東工大の部署との打ち合わせ（キャンパスミーティング）をして議論したのち、提言の再検討を経て提言が完成されます。

第 2 章の全体提言の作成過程は、第 3 章～第 5 章の提言とは少々異なり、問題点提起よりも、キャンパスミーティングが先でした。教育改革を視野に入れ、本学と学生を繋ぎ、より理想的な教育環境を実現するため、三島学長や水本副学長（教育運営担当）とキャンパスミーティングを実施した際、教育改革の内容を伺いました。「2.2 現状分析—教育改革に向けた学生の傾向分析」「2.3 現状分析—傾向分析結果に基づく教育改革の内容検討」にて、本学勢調査の結果から、仮説を立てて、教育改革の内容検討をします。「2.4 現状分析—学生の意識改革と帰属意識」「2.5 具体的提言」で、より理想的な教育環境にするためには、どうすべきかをまとめました。



図 2.1.1 提言の作成過程

出典：学生調査 2014

（資料 19－4）提言に対する大学の対応

## 学勢調査 2012 大学の対応

### 3.1 事務について

#### 提言

事務職員の対応は、CS（顧客満足度）研修（サービスの向上を図り、顧客を満足させるための研修）などを継続的に実施し、引き続き改善をお願いします。

#### 対応策・実施方法

平成 25 年度には、学務部等の窓口業務に従事している職員を対象に CS（顧客満足度）研修（サービスの向上を図り、顧客を満足させるための研修）を実施しました。

引き続き、職場マナーの向上に努めていきます。

### 3.4 奨学金について

#### 提言

現状としては、いまだ経済的に困窮している学生が多いため、更なる奨学金の拡充を求めます。また、今ある奨学金でも、学生の経済状況が把握されるように面接等の機会を増やしてはいかがでしょうか。

#### 対応策・実施方法

本学への寄付金である東工大基金の一部を活用し、手島精一記念奨学金をはじめとした本学独自の奨学金制度（東工大基金奨学金）が新設されました。今後も、本基金を財源とした多様な奨学金制度の新設を検討して参ります。また、学生支援課、すずかけ台学務課の奨学金等担当窓口では、経済状況により適切な支援を受けることができるよう随時ご相談を受け付けています。

### 3.5 就職活動について

#### 提言

よりいっそう本学学生の就職へのニーズ合う情報を提供し、更なる進路・就職情報の充実を希望します。

#### 対応策・実施方法

平成 25 年 4 月にイノベーション人材養成機構を設置して、全学的なキャリア教育や就職ガイダンス、各種セミナー、キャリア相談など各種の就職支援に取り組んでいます。

また、平成 25 年 12 月には同窓会組織である蔵前工業会と連携して学内で企業説明会を実施し、多くの学生の参加を得ました。

### 3.7 OCW,OCW-iについて

#### 提言

「3.6 掲示板について」でも言及したように、PC やスマートフォンの普及率、使用頻度が増加傾向にあることから、OCW、OCW-i、教務 Web の継続的な改善に取り組むようにお願いいたします。

#### 対応策・実施方法

予算等可能な範囲にて継続的に機能改善に取り組んでいます。平成 24 年度においては、学生向けお知らせ機能の強化や、休講登録配信機能の強化等を行っています。今後も同様に

（以下省略）

出典：学勢調査 2012WG 作成資料

中期計画【20】「キャンパスガイド、広報サポート、ピアサポート等、広い視野を養う機会となる場を積極的に提供し、学生による活動を大学運営に活用する。」に係る状況

キャンパスガイド、広報サポート、ピアサポート等、広い視野を養う機会となる場を積極的に提供するため、学生サポーターを支援する仕組みを整備・強化する必要があるとの認識の下、サポーター制度の支援体制に関する検討を行い、従来の一律に支援する在り方を改め、学生支援センター運営委員会において、支援体制の改善策を策定した（資料 20－1～4）。

各種学生サポートの内容についても精査し、それぞれの担当部署を決定し、サポーター制度の支援と活用を実施した（資料 20－5～9）。学生による各種サポーター活動については、（資料 20－10）のように大学運営に活用している。

27 年度においては新たに、教育革新センターにおける MOOCs のコンテンツの制作に学生が TA として協働することが始まり、28 年度以降さらに学生同士の相互学修を充実させる予定である（資料 20－11）。

## （資料 20－1）学生サポーター制度支援体制

## ＊学生サポーター制度の現状と支援体制について（中期計画 20 番）

学生支援GP実施チーム(チーフ：齋藤)

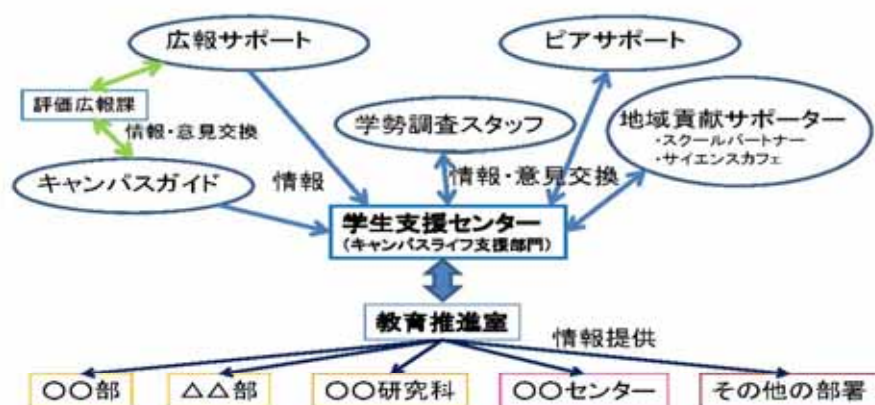
## ＊中期計画【20】

「キャンパスガイド、広報サポート、ピアサポート等、広い視野を養う機会となる場を積極的に提供し、学生による活動を大学運営に活用する。」

## 1. 理念

- i) 成長促進型支援のさらなる展開（ことづくりから描く学生支援の将来像）  
＝問題解決型支援（相談体制の整備）との循環から  
cf. カウンセリングハラスメント体制検討WG
- ii) 大学運営／社会貢献への学生参画を促進  
＝大学構成員としての自覚、そして若い世代の知見とパワーを活用

## 2. 期待される機能（学生サポーターの活躍＋教職員による支援体制によって）



学生による活動を活用するための概念図

## 1) 「情報収集・伝達機能（ネットワークづくり）」

各活動で得られた成果を収集し、活用できる情報をしかるべき適切な部署へ伝達する。学勢調査や広報サポーター等で既に実績があるが、学生視点からの情報は本学にとって非常に貴重である。

## ii) 「窓口機能（成長のきっかけづくり）」

何か新しい活動を始めたい学生が、常駐スタッフとコミュニケーションをとりながら、様々なアドバイスをもとに考えを煮詰め、新たな仲間と出会い、協力してくれる教職員を見つけ出す窓口。

## iii) 「立案機能（新しいしくみづくり）」

学生支援を多角的かつ有機的に行う仕組みについて、常に目配せし、意見交換を行ない、適宜提案・提示することができるよう体制を整え、「成長支援的」な学生支援の統括と司令塔的な役割を担う。

（以下省略）

出典：学生支援課作成資料

## （資料 20－2）学生サポーター制度の改善と活用方策

2012. 2. 10.

**学生サポーター制度及び活動支援体制の改善と  
学生による各活動を活用するための方策  
（中期計画【20】）**

**学生支援G P実施チーム**

学生サポーター制度は、学生たちの自主性や社会性を涵養し、視野を広げていく機能を有しており、当初「ジュニアTA」としてスタートした広報サポート・キャンパスガイド・ピアサポートに加え、文部科学省による学生支援G P（新たな社会的ニーズに対応した学生支援プログラム：平成 19 年度～22 年度）に採択された「3 相の〈ことづくり〉で社会へ架橋する一問題解決型支援から成長促進型支援へ」の展開によって、いっそう多彩な活動が展開するようになっている。（別表 1：活動一覧を参照されたい）。

一方、これらの活動群からは、学生の成長や適応を図るという側面のみならず、キャンパスライフの改善さらには広く本学の教育・研究の環境整備に役立つ情報や知見がしばしば提示されてきた。すなわち、学生サポーター制度は大学運営にも資するところが大きいものであり、その活用の必要性は中期計画【20】においても明確に記されているとおりである。

本資料では、本WGが昨年度に行った現状分析と活用方策についての検討を踏まえて、「学生サポーター制度及び活動支援体制の改善策」と「学生による各活動を活用するための方策」を提案する。

**【提案 1. 学生サポーター制度及び活動支援体制の改善】**

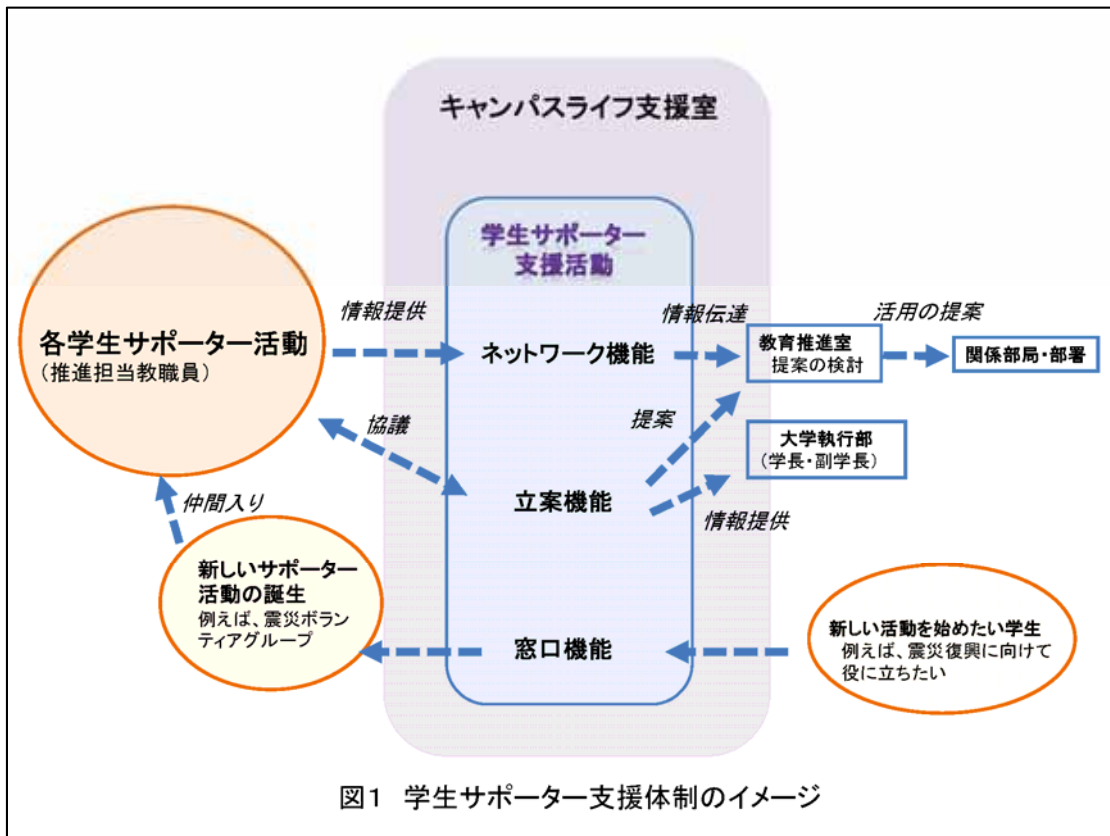
現行のサポーター活動は“すでにその活動が大学運営に活用されているもの”、“学生自身の成長には役立っているが、活動から得られる知見を大学運営に活用するための体制が整っていないもの”、“活動が始まったばかりで活動の体制そのものがまだ十分整っていないもの”など、その成熟度合いはさまざまである。また“何か新しい活動を始めたい（たとえば、東工大（の学生）としてチームを組んで震災復興に何かしたい）という学生たちが、どこに相談に行ったらいいかわからない”という現状も見受けられる。

そこで「学生支援G P室」（文科省による補助期間が終了したため「キャンパスライフ支援室」：仮称（略称CLASP）として活動している）が中心となって、学生サポーターを支援する仕組みを整備・強化することを提案する。具体的には、大きく分けて「ネットワーク機能」、「窓口機能」、「立案機能」の 3 つの機能を持たせる。（以下、便宜的に、この仕組みに関わる教職員を「支援スタッフ」と称する。）

（以下省略）

出典：学生支援課作成資料

(資料 20-3) 学生サポーター制度支援体制のイメージ



出典：学生支援課作成資料

(資料 20-4) サポーター活動一覧

| 表1: 学生サポーター活動一覧                                             |                                                                                                                                     |                                                 |                                                  | 2012.02.10. |
|-------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------|--------------------------------------------------|-------------|
| 学生サポーターとは、本学が実施する活動に参画する、あるいは活動の補助をする、または社会貢献を目的とした活動を行う学生。 |                                                                                                                                     |                                                 |                                                  |             |
| サポーター名称                                                     | 活動内容                                                                                                                                | 担当部署、協力部署                                       | 今後の取り組み                                          |             |
| キャンパスガイド*                                                   | 高校生や中学生などの見学者に、キャンパス内を案内する。見学希望先との調整や、案内を開始する前には学生が自らの経験を交えながら、自作の資料を用いて学生生活を説明することも行う。                                             | 学生支援センター                                        | 評価(謝金の支給)すべきであり、サポーター情報は学生支援センターも管理              |             |
| 広報サポーター*                                                    | ITech Techへてく〜の学生企画室のコーナーやイラストキャンパスマップなど、大学の広報媒体の制作に参加し、本学の魅力を学生の視点からアピールする。また、テレビ・雑誌等の単発の取材対応などにも協力している。                           | 評価・広報課<br>学生支援センター                              | 支援すべきであり、サポーター情報は学生支援センターも管理                     |             |
| ピアサポート                                                      | 研修を受けた2年生以上の学生が、おもに新入生のために相談・授業内を行う。ピアサポーター同士の情報交換会では、教職員では気がつきにくい教務や学生支援の改善に関する協議や提言が行われている。                                       | 学生支援センター                                        | 支援すべき                                            |             |
| 学勢調査スタッフ                                                    | 学勢調査の調査項目の検討、結果の集計・分析、提言書作成を行う。学生視点でアンケート結果を読み解き、いくつかの部署とミーティングを行い、提言には実情も考慮する。提言作成後は、学内の対応について、追跡調査を行う。                            | 学生支援センター                                        | 支援すべき                                            |             |
| 地域貢献サポーター<br>(スクールパートナー)                                    | 本学の近くにある、小学校・中学校で授業や補習教室の補助を行う。また、ものづくり教室、科学教室、音楽教室、ロボット教室、国際交流会の開催や、運動会、学芸会、夏季水泳教室、校外学習など学校行事の補助も行う。                               | 学生支援センター                                        | 支援すべき                                            |             |
| 地域貢献サポーター<br>(サイエンスカフェ)                                     | 一般の人や子供に、本学から最先端の科学技術情報を発信し、それをテーマに議論をするサイエンスカフェイベントを企画し実施する。企画・運営、外部機関との交渉、当日のトークやファンレター送付等を学生が分担して行う。                             | 学生支援センター<br>留学生センター                             | 支援すべき                                            |             |
| SAGE(国際交流学生会)*                                              | 本学における最大の留学生と日本人学生のネットワーク。新入留学生歓迎パーティの企画やスポーツ祭りなど、国際理解と交流のための活動を行う。                                                                 | 学生支援センター<br>国際室<br>留学生センター<br>蔵前工業会<br>学生支援センター | 支援すべきであるが、国際室との調整が必要<br>サポーター活動に相当する活動については支援すべき |             |
| TISA(東工大留学生会)*                                              | 本学における最大の留学生と日本人学生のネットワーク。新入留学生歓迎パーティの企画やスポーツ祭りなど、国際理解と交流のための活動を行う。                                                                 | 学生支援センター<br>留学生センター<br>蔵前工業会<br>学生支援センター        | 支援すべきであるが、国際室との調整が必要<br>サポーター活動に相当する活動については支援すべき |             |
| 図書館サポーター*                                                   | カウンター対応の補助、書架の整理、広報活動、展示等の企画の提案、広報資料の外国語訳の補助、留学生を含む学生からの学習相談への対応、利用者の館内見学への対応など本学におけるエネルギー使用の合理化を図るために、建物等の調査、見回りをし、状況報告及び意見等を提出する。 | 附属図書館                                           | 支援すべきであり、サポーター情報は学生支援センターも管理                     |             |
| 省エネサポーター*                                                   | 本学の省エネサポーターに関する活動及び、環境・安全衛生問題について対策を提案するなどの調査支援活動等に参画する。                                                                            | 施設総合企画課                                         | 支援すべきであり、サポーター情報は学生支援センターも管理                     |             |
| 環境安全サポーター*                                                  | 本学の環境安全サポーターに関する活動及び、環境・安全衛生問題について対策を提案するなどの調査支援活動等に参画する。                                                                           | 施設運営部施設安全企画課                                    | 支援すべきであり、サポーター情報は学生支援センターも管理                     |             |
| 電子掲示板サポーター                                                  | 電子掲示板システム(プラスマディスプレイ)の運用について、学生視点からの意見等を提出する。                                                                                       | 学生支援センター                                        | 必要に応じて応募し、支援する                                   |             |
| デザイナーズカフェ(学生デザイナー)                                          | 大学行事等の広報データの作成を行う。たとえば、行事のロゴマーク、パンフレット、ポスターなど。                                                                                      | 学生支援センター                                        | 必要に応じて応募し、支援する                                   |             |
| 学生カメラマン                                                     | 大学行事、近隣小中学校での行事等で、写真および動画撮影を行う。                                                                                                     | 学生支援センター                                        | 必要に応じて応募し、支援する                                   |             |
| コラムランド                                                      | Webを活用した匿名ディスカッションという独自の方法を用いて、参加者が文章を通じて相互啓発できるよう工夫された文章道場。                                                                        | 学生支援センター                                        | 授業のTA的側面が強い                                      |             |
| ゲームコンテスト                                                    | 「ゲーム理論」をベースとして、学生間の交流を促進しつつ、さまざまな社会現象・問題にコンピュータシミュレーションを用いてアプローチしていくという試み。                                                          | 学生支援センター                                        | 授業のTA的側面が強い                                      |             |
| 障がい学生サポーター                                                  |                                                                                                                                     | 学生支援センター                                        | 今後必要と見込まれる活動                                     |             |
| 地域貢献サポーター<br>(在留外国人サポート)                                    |                                                                                                                                     | 学生支援センター                                        | 今後必要と見込まれる活動                                     |             |

\*: 担当部署が学生支援センターと異なる活動。  
学生支援課や学生支援GPも学生支援センターに含めています。

出典：学生支援課作成資料

（資料 20－5）各種学生サポートの担当部署

- （1）学生支援課：学勢調査
- （2）学生支援センター：ピアサポート、地域貢献サポート、学生ボランティアサポート
- （3）広報センター：キャンパスガイド、広報サポート
- （4）附属図書館：図書館サポーター
- （5）施設総合企画課：省エネサポーター

出典：学生支援課作成資料

（資料 20－6）ピアサポート制度

東京工業大学本部＞学生支援センター＞学習支援部門＞ピアサポートサービス

|                                                                                                                                                                                                  |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                       |
|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>● ピアサポートサービス</li> <li>● 学生相談室</li> <li>● カウンセリング</li> <li>● その他相談窓口</li> <li>● 授業・シラバス等情報</li> <li>● 海外留学情報</li> <li>● 進学情報</li> <li>● よくあるご質問</li> </ul> | <p>ピアサポートサービス</p> <p>Q1：どんなときに利用できるの？</p> <p>A1：どんなことでも気軽に相談してください。<br/>授業の履修で迷ってしまって・・・<br/>サークル活動について聞いてみたいな<br/>〇〇したいとき、どうすればいいんだろう？<br/>こんなとき、先輩はどうしたんだろう？<br/>★授業や学科所属に関する資料を用意して対応します。</p> <p>Q2：いつ利用できるの？</p> <p>A2：4月は、毎週月・水・金に待機しています。<br/>時間・待機サポーターは決まり次第HPに掲載します。<br/>●平成24年4月のピアサポートを開始します。<br/>百年記念館で12時から17時まで待機しています。<br/>待機日：4/9(月)、4/11(水)、4/13(金)、4/16(月)、4/18(水)、4/20(金)、4/23(月)、4/25(水)、4/27(金)<br/>最新ピアサポートシフト表 ←先輩の待機状況が確認できます。<br/>(一部、12時～17時まで開催していない日がありますが、ご了承ください。)</p> <p>☆10月にも毎週水曜日に待機を予定しています。</p> <p>4月、10月以外の月にピアサポーターに相談したいときは、希望日時をメールでご連絡ください。個別にピアサポートの相談を日時を設定してご連絡します(匿名でOKです)<br/>ピアサポート専用アドレス: <a href="mailto:peer@jim.titech.ac.jp">peer@jim.titech.ac.jp</a></p> <p>Q3：どんな相談ができるの？</p> <p>A3：「履修申告、先輩はどうやって履修科目を決めたんだろう？」<br/>「初めてのテスト、どうやって勉強しよう？」、「留学してみたいけど、先輩の体験談を聞きたいな・・・」。<br/>「転学科ってどうしたらいいの？」などなど、同じ経験をしている先輩たちに、気軽に相談できます。</p> <p>Q4：どんな人が相談にのってくれるの？</p> <p>A4：東京工業大学学部の先輩が、交代で待機しています。<br/>先輩の所属学科や4大学連合(東京工業大学複合領域コース)経験等は最新ピアサポートシフト表で確認してください。<br/>★ピアサポートメンバーで資料を共有しているので、ピアサポーターの所属類・学科に関係なくある程度対応できます。</p> <p>Q5：どこへ行けばいいの？</p> <p>A5：大岡山キャンパス<br/>4月・10月：百年記念館ロビー</p> |
|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

(以下省略)

出典：学生支援センターホームページ

(資料 20-7) 図書館サポーター、キャンパスガイド、広報サポート制度

東京工業大学  
Tokyo Institute of Technology

日本語 English 文字サイズ 標準 大

検索 Google カスタム検索

新着入試情報 アクセス 資料請求 お問い合わせ

ホーム 東工大について 教育 研究 社会連携 国際交流

トップページ 在学生の方 海外活動・アルバイト 学内でできるお仕事

在学生の方

東工大ニュース  
お知らせ  
カレンダー  
学務関連印刷情報 品  
授業・講義  
学位取得  
学費・奨学金  
留学案内  
進路サポート  
相談窓口  
キャリア・就職支援  
証明書・選抜  
海外活動・アルバイト

サークル活動  
ボランティア情報  
学務部  
アルバイト  
寄附金等

学内でできるお仕事

キャンパスガイド・広報サポーター  
ピアサポーター 募集

学務関連  
施設利用  
サービス利用

学内でできるお仕事

## 学内でできるお仕事

- 図書館サポーター
- キャンパスガイド
- 広報サポート
- ピアサポーター
- 学内ワークスタディ

### 図書館サポーター

附属図書館では、資料の配架や整理、広報、展示等の企画、学習相談、館内見学の対応などをしてくれる本学の学生を募集しています。

附属図書館の「利用者からは見えない仕事」や「附属図書館職員しか知らない秘密の作業」を体験できます。図書館自体や図書館での仕事に興味のある方、自分の力で図書館をより良くしたいと思っている方におすすめです。

ぜひ附属図書館の魅力を体感し、さらに、周りのみなさんに伝えてください。

【募集期間】 例年3月下旬～4月上旬頃  
詳しくはこちらをご覧ください。

### キャンパスガイド

広報センターでは、大学の広報活動に積極的に参加してくれる本学の学生を募集しています。

『キャンパスガイド』とは、見学者(主に高校生)の希望に応じて、見学ルートを設定したり、受験勉強や学生生活に関する質問に答えたりするお仕事です。

皆さんのアイデアと工夫で、東工大の魅力を紹介してください。

【募集期間】 常に募集  
詳しくはこちらをご覧ください。

### 広報サポート

広報センターでは、大学の広報活動に積極的に参加してくれる本学の学生を募集しています。

『広報サポート』とは、高校生向け広報誌「てくてく」のコンテンツ「学生企画室」や、イラストキャンパスマップを制作するお仕事です。

東工大の真髄、東工大スピリットをあなたの言葉で表現してみませんか？

【募集期間】 常に募集  
詳しくはこちらをご覧ください。

(以下省略)

出典：本学ホームページ

[http://www.titech.ac.jp/enrolled/extracurricular/jobs\\_campus/index.html](http://www.titech.ac.jp/enrolled/extracurricular/jobs_campus/index.html)

## （資料 20－8）学生ボランティアサポーター制度

## ボランティア活動(写真洗浄プロジェクト)の紹介



2011年3月11日に発生した東日本大震災。特に東北沿岸部は津波による甚大な被害を受けました。震災発生直後より被災地で復興支援ボランティア活動に携わった学生もいるなか、被災地の皆さまのお役に立てることを何かしたいと思いながらもなかなか行動に移せないでいた学生もいました。

そこで、東京工業大学のキャンパス内でできる復興支援活動として、学生支援GP (Good Practice) の主導により、2011年9月から「東京工業大学写真洗浄プロジェクト」を開始しました。被災地から被災写真をお預かりし、学内で洗浄して、持ち主の方にお返しする活動です。本プロジェクト開始にあたっては、富士フイルム株式会社、ハートプロジェクトにご協力を仰ぎ必要な資材や情報をご提供いただきました。なお、東日本大震災後に学生間で芽生えていた「東工大学生ボランティアグループ」の活動はこのプロジェクト参加を通して機運が高まりより結実していくこととなりました。

宮城県名取市関上(ゆりあげ)、岩手県山田町から写真をお預かりし、2011年9月から2012年12月までの間に56回の活動を行いました。アルバム1,152冊、その他1枚ずつバラになっている写真約1,000枚を洗浄させていただきました。これまでの参加者数は延べ943名。活動参加者は東工大生が中心ですが、東京大学、東京医科歯科大学、首都大学東京、駒澤大学、芝浦工業大学、中央大学、法政大学、早稲田大学などの他大学の学生や社会人の方々も活動に参加しました。

(以下省略)

出典：学生支援センターホームページ

## （資料 20－9）地域貢献サポーター（スクールパートナー）

## スクールパートナー募集

「募集中」と記してあるもののみが、現在募集中です

## ■ 大田区立清水窪小学校

大岡山駅北側に位置する清水窪小学校での活動に参加希望の学生さんを募集しています。小学校へは、東工大の正門から徒歩で5分程度です。

## 【 教育支援 】

## 「算数の補習」 募集中です

小学校3年生～6年生の算数の補習を担当します。  
補習教室は、授業時間内ではなく放課後に実施されています。  
月曜：14:40～15:40、水曜：13:30～14:30(14:20～15:20)、土曜：10:00～11:00  
(時間は、小学校の行事等の都合で変更になる場合があります。)  
すべての曜日ではなく、ご希望の曜日を担当していただきます。

## 「理科」

理科の授業で実施する実験の準備を担当します。  
授業が始まる前までに、実験に必要な材料や用具を準備したりしていただきます。  
担当していただく曜日や時間は特に決まっておらず、その都度、小学校側と調整して決めます。

\* 大田区立清水窪小学校  
<http://academic2.plala.or.jp/smzks/>



(以下省略)

出典：学生支援センターホームページ

（資料 20－10） 学生による各種サポーター活動の活用事例

（1）学勢調査

調査・結果のまとめ、大学への提言、大学からのフィードバックを継続して行っている。

（2）ピアサポート

新入生への履修相談、課外活動相談等に対して先輩学生からの視点でアドバイスを行っている。また、オープンキャンパスにおいて、高校生への進路相談や学習相談に対してアドバイスを行っており、また地域貢献サポートは、平成 27 年度は本学から 7 名の学生が大田区内の中学校の指導補助を実施した。さらに学生ボランティアサポートについては、ホームカミングデーと工大祭での被災地（山田町）の物産展の出展、防災訓練の学生への広報と個別訓練の協力、大岡山駅前花壇メンテナンスにおいて地元自治会への協力を行い、学内行事や地元への貢献を行った（資料 20－12～14）。

（3）キャンパスガイド

本学を志望する高校生に対し、案内を行い、志願者の定着に取り組んでいる。また、広報サポートにより受験生向けの大学広報誌の記事更新をウェブサイト上で行っている。また、学内イベントや雑誌記者の対応を行い、広報活動を推進している（資料 20－15，16）。

（4）図書館サポーター

図書館の広報や図書館利用者の支援等で図書館の活動の活性化に寄与している（資料 20-17）。

（5）省エネサポーター

学内の建物のエネルギーの使用の調査を通じて、学内の省エネ意識の向上に貢献している（資料 20-18）。

出典：学生支援課作成資料

(資料 20-11) MOOCs コンテンツ制作 TA 実績

## 世界配信のオンライン講義を学生と創る

 いいね! 65  
 ツイート



MOOCというオンライン教育の新しい流れをご存知ですか。東工大も、教育システムを国際的な視野で刷新する取り組みの一貫として、2015年から世界中の学習者にインターネットを通じた講義の配信を始めています。この取り組みは、東工大にとって初のMOOCによる講義配信ということだけでなく、教員と学生が一緒になって制作するMOOCとして、国内外の大学からも注目されています。



大規模オンライン講座「MOOC(s)」のコンソーシアム「edX」の東工大ページ(2015年10月)

### 東工大の学びをネットで世界へ

2015年10月7日から、東工大初のMOOCによる講義「Introduction to Deep Earth Science-Part1 (GeoS101x)」の配信が始まりました。文部科学省から世界トップレベル研究拠点プログラムとして採択されている地球生命研究所(ELSI)の廣瀬敬所長・教授による、地球内部の構造についての英語の講義です。世界150か国から数千名に及ぶ学生がインターネット上で、講義ビデオや東工大の学生達が作ったテキストなどを使って、この講義で学んでいます。

出典：本学ホームページ

[http://www.titech.ac.jp/education/stories/online\\_lectures.html](http://www.titech.ac.jp/education/stories/online_lectures.html)

\*以降（資料 20－12～18）は、学生による活動を大学運営に活用するその他の事例に関する資料

（資料 20－12）ピアサポーター取組実績

| <ピアサポートサービス利用者数> |       |     |     |      |       |       |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |
|------------------|-------|-----|-----|------|-------|-------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|
|                  | 22 年度 |     |     | 23年度 |       |       | 24年度 |      |      | 25年度 |      |      | 26年度 |      |      | 27年度 |      |      |
|                  | 開催日数  | 件数  | 人数  | 開催日数 | 件数    | 人数    | 開催日数 | 件数   | 人数   | 開催日数 | 件数   | 人数   | 開催日数 | 件数   | 人数   | 開催日数 | 件数   | 人数   |
| 4月               | 8     | 42  | 59  | 8    | 32    | 42    | 9    | 26   | 37   | 9    | 24   | 33   | 10   | 7    | 7    | 13   | 35   | 57   |
| 5月               | -     | -   | -   | -    | 1     | 3     | -    | -    | -    | -    | -    | -    | -    | -    | -    | -    | -    | -    |
| 6月               | -     | -   | -   | (1)  | (44)  | (58)  | -    | -    | -    | -    | -    | -    | -    | -    | -    | -    | -    | -    |
| 7月               | -     | -   | -   | -    | -     | -     | (1)  | (52) | (61) | (1)  | (27) | (36) | -    | -    | -    | -    | -    | -    |
| 8月               | -     | -   | -   | -    | -     | -     | -    | -    | -    | -    | -    | -    | (1)  | (43) | (52) | (1)  | (59) | (85) |
| 9月               | -     | -   | -   | -    | -     | -     | -    | -    | -    | -    | -    | -    | -    | -    | -    | -    | -    | -    |
| 10月              | 7     | 5   | 9   | 7(2) | 3(40) | 3(59) | 4(2) | (36) | (55) | (2)  | (60) | (64) | 7    | 0    | 0    | 8    | 0    | 0    |
| 11月              | -     | -   | -   | -    | -     | -     | -    | -    | -    | -    | -    | -    | -    | -    | -    | -    | -    | -    |
| 12月              | -     | -   | -   | -    | -     | -     | -    | -    | -    | -    | -    | -    | -    | -    | -    | -    | -    | -    |
| 1月               | -     | -   | -   | -    | -     | -     | -    | -    | -    | -    | -    | -    | -    | -    | -    | -    | -    | -    |
| 2月               | -     | -   | -   | -    | -     | -     | -    | -    | -    | -    | -    | -    | -    | -    | -    | -    | -    | -    |
| 3月               | -     | -   | -   | -    | -     | -     | -    | -    | -    | -    | -    | -    | -    | -    | -    | -    | -    | -    |
| 計                | 15    | 47  | 68  | 18   | 120   | 165   | 9    | 114  | 153  | 12   | 111  | 133  | 18   | 50   | 59   | 22   | 94   | 142  |
|                  | 日     | 件   | 名   | 日    | 件     | 名     | 日    | 件    | 名    | 日    | 件    | 名    | 日    | 件    | 名    | 日    | 件    | 名    |
| <ピアサポーター登録人数>    |       |     |     |      |       |       |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |
| H22              | H23   | H24 | H25 | H26  | H27   |       |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |
| 15               | 10    | 19  | 16  | 17   | 15    |       |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |

出典：学生支援課作成資料

（資料 20－13）地域貢献サポート

| 平成 27 年度 大田区内 地域貢献サポーター指導補助実績   |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
|---------------------------------|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|
| 【区立石川台中学校】                      |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| 学 部 3 年 生 2 名 男子学生              |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| 大学院修士課程 1 年生 1 名 男子学生           |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| 【区立大森第六中学校】                     |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| 学 部 2 年 生 2 名 男子学生 1 名 女子学生 1 名 |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| 学 部 3 年 生 1 名 男子学生              |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| 大学院修士課程 1 年生 1 名 女子学生           |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| 以 上                             |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| 出典：学生支援センター自律支援部門作成資料           |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |

（資料 20－14）平成 27 年度の VG 活動報告（ボランティアサポート）

### 平成 27 年度の VG 活動報告（ボランティアサポーター）

代表：栗林純平

5/23 ホームカミングデー・・・岩手県山田町物産展（8 人）



8/22,9/13 花壇メンテナンス・・・大岡山駅前花壇メンテナンス（3～4 人）

8/30 目黒区防災訓練・・・避難補助訓練 / 消火訓練（5 人）

10/10,11 工大祭・・・岩手県山田町物産展及び ATTEST 活動報告（9 人）



11/11 防災訓練・・・広報 / 各種個別訓練協力（10 人）



今後は、東工大 VG の HP 作成（活動報告兼ボランティア情報をまとめる）や、ホームカミングデー2016 の準備を行う予定。

出典：学生支援課作成資料

## (資料 20-15) キャンパスガイド取組実績

| < キャンパスツアー実施状況 > |         |         |         |         |         |         |
|------------------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|
|                  | 22年度(回) | 23年度(回) | 24年度(回) | 25年度(回) | 26年度(回) | 27年度(回) |
| 4月               | 1       | 0       | 3       | 2       | 3       | 0       |
| 5月               | 8       | 2       | 5       | 1       | 4       | 1       |
| 6月               | 5       | 3       | 3       | 2       | 7       | 4       |
| 7月               | 12      | 9       | 7       | 7       | 9       | 7       |
| 8月               | 8       | 4       | 7       | 8       | 5       | 3       |
| 9月               | 2       | 4       | 4       | 2       | 3       | 3       |
| 10月              | 8       | 7       | 8       | 10      | 9       | 6       |
| 11月              | 5       | 7       | 8       | 6       | 4       | 4       |
| 12月              | 1       | 3       | 1       | 3       | 6       | 5       |
| 1月               | 2       | 2       | 1       | 0       | 2       |         |
| 2月               | 3       | 4       | 0       | 0       | 0       |         |
| 3月               | 2       | 5       | 2       | 5       | 3       |         |
| 計                | 57      | 50      | 49      | 46      | 55      | 33      |
| < キャンパスガイド登録人数 > |         |         |         |         |         |         |
|                  | 22年度(人) | 23年度(人) | 24年度(人) | 25年度(人) | 26年度(人) | 27年度(人) |
|                  | 50      | 55      | 75      | 118     | 109     | 117     |

出典：学生支援課作成資料

## (資料 20-16) 広報サポート活動実績

広報センター 広報サポート活動実績

|          |                       |                             |
|----------|-----------------------|-----------------------------|
| 年度       | TechTech              | 学生企画ページ テーマ                 |
| 平成 22 年度 | 18 号（平成 22 年 9 月発行）   | あなたはどんな東工大生になる？<br>ー近未来予想図ー |
|          | 19 号（平成 23 年 3 月発行）   | 東工大スゴいっ!?男子たち               |
| 平成 23 年度 | 20 号（平成 23 年 9 月発行）   | 東工大の「つくる」授業                 |
|          | 21 号（平成 24 年 3 月発行）   | No.1 place in 東工大           |
| 平成 24 年度 | 22 号（平成 24 年 9 月発行）   | タイプ別東工大生の 1 日大公開！           |
|          | 23 号（平成 25 年 3 月発行）   | 東工大生の行動 MAP                 |
| 平成 25 年度 | 24 号（平成 25 年 9 月発行）   | 1 年生実験が知りたい！                |
|          | 25 号（平成 26 年 3 月発行）   | キャンパスライフすごく                 |
| 平成 26 年度 | 26 号（平成 26 年 9 月発行）   | 起こせ！出会いの化学反応                |
|          | 27 号（平成 27 年 3 月発行）   | Night Tech                  |
| 平成 27 年度 | 28 号（平成 27 年 9 月発行）   | 東工大生の出没エリア MAP              |
|          | 29 号（平成 28 年 3 月発行予定） | 東工大生の 7 類道具                 |

登録者数

|      |          |          |          |          |          |          |
|------|----------|----------|----------|----------|----------|----------|
| 年度   | 平成 22 年度 | 平成 23 年度 | 平成 24 年度 | 平成 25 年度 | 平成 26 年度 | 平成 27 年度 |
| 登録者数 | 38       | 62       | 41       | 46       | 47       | 45       |

出典：学生支援課作成資料

## (資料 20-17) 図書館サポーター活動実績

| 図書館サポーターの活動について                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                         |                          | 2016.1.20<br>情報図書館課 |
|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------|---------------------|
| ○図書館サポーター人数                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                             |                          |                     |
| 平成 22 年<br>度                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                            | 19 名（大岡山 14 名、すずかけ台 5 名） |                     |
| 平成 23 年<br>度                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                            | 26 名（大岡山 21 名、すずかけ台 5 名） |                     |
| 平成 24 年<br>度                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                            | 25 名（大岡山 22 名、すずかけ台 3 名） |                     |
| 平成 25 年<br>度                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                            | 25 名（大岡山 22 名、すずかけ台 3 名） |                     |
| 平成 26 年<br>度                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                            | 25 名（大岡山 22 名、すずかけ台 3 名） |                     |
| 平成 27 年<br>度                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                            | 27 名（大岡山 23 名、すずかけ台 4 名） |                     |
| ○図書館サポーター活動項目                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                           |                          |                     |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・図書装備</li> <li>・返本、書架整理</li> <li>・カウンター業務、開館準備、図書館利用案内</li> <li>・蔵書点検のための図書バーコード読み取り作業</li> <li>・図書館見学ツアーガイド：高校生、卒業生、ホームカミングデイ、オープンキャンパス、工大祭</li> <li>・新入生向け図書館見学ツアーガイド</li> <li>・企画展示：テーマの検討・展示資料の推薦・紹介文の作成・広報物（展示ポスター・配布用リスト・紹介 POP）の作成</li> <li>・ペリパトス文庫関係：選書・ラウンジ展示（装備・紹介 POP 作成・図書入替・巡回）・文庫内ミニ展示（企画・紹介 POP 作成・展示の紹介文作成）</li> <li>・授業・オリエンテーション補助</li> <li>・コンピュータリテラシ授業の資料作成への協力</li> <li>・本館 2 階学習スペース相談員（業務内容は以下の通り） <ul style="list-style-type: none"> <li>1) サービスの利用案内：図書館サービスの利用案内および学内の各相談室の案内</li> </ul> </li> </ul> |                          |                     |

(以下省略)

出典：学生支援課作成資料

(資料 20－18) 省エネサポーター取組実績

| <省エネサポーター取組人員と活動時間：H22～H27年度12月末> |             |            |             |            |             |            |             |            |             |            |             |            |
|-----------------------------------|-------------|------------|-------------|------------|-------------|------------|-------------|------------|-------------|------------|-------------|------------|
|                                   | 22年度        |            | 23年度        |            | 24年度        |            | 25年度        |            | 26年度        |            | 27年度12月     |            |
|                                   | 取組人員<br>(名) | 活動<br>(時間) | 取組人員<br>(名) | 活動<br>(時間) | 取組人員<br>(名) | 活動<br>(時間) | 取組人員<br>(名) | 活動<br>(時間) | 取組人員<br>(名) | 活動<br>(時間) | 取組人員<br>(名) | 活動<br>(時間) |
| 4月                                | 17          | 50         | 15          | 30         | 35          | 92         | 27          | 52         | 38          | 72         | 35          | 66         |
| 5月                                | 37          | 96         | 40          | 77         | 49          | 176        | 29          | 93         | 47          | 166        | 41          | 114        |
| 6月                                | 35          | 93         | 45          | 94         | 61          | 324        | 38          | 153        | 53          | 214        | 44          | 176        |
| 7月                                | 30          | 98         | 44          | 150        | 52          | 330        | 36          | 188        | 56          | 371        | 43          | 277        |
| 8月                                | 26          | 86         | 40          | 101        | 48          | 254        | 29          | 110        | 47          | 217        | 33          | 176        |
| 9月                                | 30          | 81         | 38          | 77         | 52          | 254        | 27          | 84         | 42          | 115        | 30          | 110        |
| 10月                               | 29          | 80         | 37          | 83         | 47          | 272        | 25          | 83         | 45          | 86         | 32          | 90         |
| 11月                               | 28          | 79         | 39          | 101        | 45          | 140        | 25          | 99         | 37          | 71         | 35          | 98         |
| 12月                               | 25          | 62         | 35          | 83         | 42          | 119        | 25          | 160        | 42          | 119        | 30          | 175        |
| 1月                                | 21          | 59         | 34          | 83         | 42          | 111        | 22          | 152        | 37          | 144        | 活動中         |            |
| 2月                                | 17          | 44         | 35          | 87         | 38          | 92         | 19          | 119        | 36          | 139        |             |            |
| 3月                                | 14          | 22         | 29          | 38         | 28          | 43         | 11          | 13         |             |            |             |            |
| 計                                 | 309         | 850        | 431         | 1,004      | 539         | 2,207      | 313         | 1,306      | 480         | 1,714      | 323         | 1,282      |
| <省エネサポーター登録人数>                    |             |            |             |            |             |            |             |            |             |            |             |            |
| H22                               | H23         | H24        | H25         | H26        | H27         |            |             |            |             |            |             |            |
| 53                                | 58          | 73         | 49          | 66         | 53          |            |             |            |             |            |             |            |

(以下省略)

出典：学生支援課作成資料

中期計画【39】「科学技術創造立国に貢献する人材育成を目的とする高大連携教育システムについて、不断の検証を実施し、改善を行う。」に係る状況

科学技術系の専門高校として附属科学技術高等学校が先導的役割を果たすことを目的として、附属科学技術高等学校と大学が連携して教育研究活動及び学校運営の改善を図るとともに、高大連携教育の内容を精査し、オンキャンパスでの訪問授業、高大連携サマーチャレンジ、サマーレクチャー、課題研究、さきがけ教育を平成22～27 年度に渡って実施した。さらに平成23 年度には高大連携特別選抜学生の追跡調査を継続して実施し、その結果を中間報告としてまとめた。調査の結果、平均的な成績評価は一般学生の平均を上回っているという分析結果を得た。専門知識・理解力・コミュニケーション能力・熱意等の成績以外の面について行った指導教員による10 項目にわたる評価において、修士学生では有意な差はないものの全項目で一般学生を上回り、学部学生でも概ね一般学生より高い評価を得ているとの結果が得られた。

この結果を受けて、平成23 年度から新たに高大連携サマーチャレンジに本学附属高校以外の高校生を見学者として招き、新しい高大連携教育に向けて検証する取り組みを試行した。また本学附属高校以外の高校生を対象としてウインターレクチャー、さきがけ教育を実施した。これらの結果を踏まえて、高大連携教育の新しい実施内容・方法を検討し、平成25 年度には10 校を超える高校教員による評価を受けた。これらをもとに、平成24

年度からはお茶の水女子大学附属高等学校を，平成27 年度からは東京学芸大学附属高等学校を対象校に加えて高大連携特別選抜を実施するとともに，将来の望ましい高大連携教育の内容・方法について，より広い視点での検討を行った。

以上のことから，科学技術創造立国に貢献する人材育成を目的とする高大連携教育システムについて，不断の検証を実施し，その改善を行うという中期計画は，附属高校との高大連携教育の継続的实施と内容検討による質の向上，附属高校外高校生への敷衍及び在学生評価，外部高校教員による教育内容評価を実施することで十分に達成された。